SONY

4-207-597-**09** (1)

HD ビジュアル コミュニケーション システム

取扱説明書（バージョン 2.4）

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA

MEMORY STICK ™

PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/ XA80/XA55

© 2010 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

10 ～ 14 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。
点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

・煙が出たら
・異常な音、においがしたら
・内部に水、異物が入ったら
・製品を落としたりキャビネットを破損したときは

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

目次

警告 10
注意 11
電池についての安全上のご注意 14
本機の性能を維持するために 14

1 章　設置と準備

この取扱説明書の使いかた 15
本機の特長 16
システムの構成 20
　基本システムを構成する機器 20
　別売機器の一覧 26
　HD カメラユニットの特長 28
システムの構成例 29
　構成例（LAN 接続） 29
　構成例（ISDN 接続） 30
　構成例（SIP 接続） 31
　構成例（2 本の LAN を使った接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 32
　構成例―多地点接続（LAN 接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 33
　構成例―多地点接続（ISDN 接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 34
　構成例―多地点接続（LAN と ISDN の混在接続）
　　（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 35
　構成例（エコーキャンセリングマイクを使用した接続）
　　（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 36
システムの接続 38
　接続例（LAN 接続）―PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合 39
　接続例（ISDN 接続）―PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合 40
　接続例（SIP 接続）―PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合 41
　接続例（LAN 接続）―PCS-XA80/XA55 の場合 42
　カメラユニット PCSA-CXG80 を三脚に取り付ける 43
システムの準備 44
　リモコンに乾電池を入れる 44
　リモコンとカメラのペアリングを行う 46
電源を入れる / 切る 49
　レンズカバーを開ける－ HD カメラユニット PCSA-CXA55 を
　　お使いの場合 49

電源を入れる 49
スタンバイモードについて 52
システムをスタンバイ状態にする 52
電源を切る 53
モニター用テレビの音量を調節する 53
設置直後の設定－初期設定ウィザード 55
メニューの基本操作 58
ホームメニューの見かた 58
メニューを操作する 65
リモコンで文字や数字を入力する 68
ソフトキーボードで文字や数字を入力する 70

2章　登録と設定 － 管理者用

システムを設定する 72
設定メニューを表示する 72
通信回線設定メニュー 76
発信設定メニュー 76
着信設定メニュー 77
多地点設定メニュー（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 78
通信モード設定メニュー 79
音声設定メニュー 83
映像設定メニュー 88
LAN 設定メニュー 91
QoS 設定メニュー 96
TOS 設定メニュー 97
SIP 設定メニュー 98
ISDN 設定メニュー 99
アノテーション設定メニュー 99
カメラ設定メニュー 100
一般設定メニュー 100
ホーム画面設定メニュー 103
管理者設定メニュー 105
暗号化設定メニュー 112
共有アドレス帳設定メニュー 113
機器状態を表示する 114

機器状態を表示する 114
端末の情報 116
周辺機器の状態 116
通信モードの状態 117
LAN 回線の状態 118
ネットワーク導通確認 118
LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 119
IPv6 使用時の制限 120
ネットワーク構成ごとの設定方法 121
LAN―DHCP を使用しての接続（LAN1/LAN2） 121
LAN―ルーターを介しての接続（LAN1/LAN2） 122
LAN―ゲートキーパーを介しての接続（LAN1 のみ） 123
LAN―NAT 環境での接続（LAN1 のみ） 124
LAN―H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続（LAN1 のみ） 125
LAN―PPPoE による接続（LAN1/LAN2） 127
ISDN による接続 128
ネットワーク導通確認について 130

3 章　基本的な接続

自分側から接続を始める 131
電源を入れる 132
接続メニューで相手を呼び出す 132
直接、相手の番号を入力して呼び出す（ダイレクトダイヤル） 134
ワンタッチダイヤルボタンから相手を呼び出す 135
通信履歴から相手を呼び出す 136
アドレス帳に登録している相手を呼び出す 138
アドレス帳に登録していない相手を呼び出す 140
相手から接続される 144
呼び出しの受け方（手動着信 / 自動着信） 144
相手から呼び出される 144
接続を終了する 146
アドレス帳に相手を登録する 147
新しい相手を登録する 147
アドレス帳を編集する 151

アドレス帳を１件コピーする 151
登録した相手を削除する 152
アドレス帳にグループを作る（グループ編集） 152
プライベートアドレス帳を作成する 155
共有アドレス帳を使用する 157
音声を調節する 159
受信音量を調節する 159
音声の送信を一時的にカットする－マイクミュート機能 159
着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ 160
送信する映像と音声の時間差を調整する－リップシンク機能 160
エコーを軽減する－エコーキャンセラー 160
カメラを調節する 162
アングルとズームを調整する 162
画像の明るさ（輝度）を調整する 164
プリセット機能を使う 165
カメラ機能の詳細を設定する 169
映像と音声を切り換える 171
相手側と自分側の映像を切り換える 171
入力される映像を切り換える 171
リモコンのファンクションボタン（F1 ～ F4）で
入力映像を切り換える 172
相手側に送る音声を切り換える 172
映像と音声を同時に切り換える 172
相手側の映像を切り換える 173
モニター映像を切り換える 174
画像をキャプチャーする 176

４章　いろいろな機器を使った接続

ツールメニューを使う 178
コンピューターの画像をプレゼンテーションに使う 181
コンピューターを接続する 181
プレゼンテーションを行う 181
ストリーミング配信する 184
レコーディングする 186
アノテーション機能を使う 188

ペンタブレットを接続する 188
通信中にアノテーションを使う 189
マイクを使う 193
エコーキャンセリングマイクを使う（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） 196
HD カメラユニットに内蔵のマイクを使う（PCS-XA80/XA55 のみ） 200
セカンドカメラを使う 201
コミュニケーションを記録する 203
外部映像機器からの映像・音声を使う 204
モニターやプロジェクターに映像を出力する 207
音声のみのコミュニケーションをする－ボイスミーティング 209
トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信 210
外部から本機にアクセスする 211
Web ブラウザを使用する 211
Telnet を使用する 211
SSH を使用する 211

5 章　暗号化接続

暗号化接続の準備 213
暗号化接続を始める 215

6 章　多地点接続

多地点接続の例 219
LAN 接続の場合（最大 6 地点） 219
LAN カスケード接続の場合（最大 10 地点） 220
ISDN 接続の場合 221
LAN と ISDN 混在の場合 223
LAN カスケードと ISDN 混在の場合 224
MCU ソフトウェアをインストールする 225
MCU ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには 226
多地点接続の設定をする 227
多地点接続の設定をする 227
多地点接続の相手をマルチポイント接続リストに登録する 228
多地点接続を始める 232
相手を呼び出す 232

相手から呼び出しを受ける 236
画面制御を行う 237
放送モードの種類 237
放送モードと画面表示 240
通信中に放送モードを切り換える 241
他の端末から送信要求を受ける 243
多地点接続を終了する 244
二次端末の取り扱い 245
マルチポイントの属性表 246

7章 Web 機能

Web ページへのアクセス方法 249
認証ページの入力方法 250
メニューの選択 252
Home メニューの使いかた 253
Download メニューの使いかた 254
Remote Commander メニューの使いかた 255
機能ボタンの選択 256
KIOSK Mode の設定方法 257
Version Up ページの使いかた 259
Streaming ページの使いかた 260
Monitor ページの使いかた 261

付録

各部の名称と働き 262
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S/XG55S 262
HD カメラユニット PCSA-CXG80（PCS-XG80/XG55 に付属） 264
HD カメラユニット PCSA-CXA55（PCS-XA80/XA55 に付属） 265
RF リモコン PCS-RF1（付属） 266
ISDN ユニット PCSA-B384S（別売） 268
ISDN ユニット PCSA-B768S（別売） 269
インジケーター一覧 270
メッセージ一覧 273
故障かな？ 276

目次

仕様 281
HD ビジュアルコミュニケーションシステム
PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 281
リモコン PCS-RF1
（PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 に付属） 282
AC アダプター VGP-AC19V45 282
AC アダプター VGP-AC19V15 283
HD カメラユニット PCSA-CXG80（PCS-XG80/XG55 に付属） 283
HD カメラユニット PCSA-CXA55（PCS-XA80/XA55 に付属） 283
マイクロホン PCS-A1（PCS-XG80 に 2 個 /PCS-XG55 に 1 個付属） 284
マイクロホン PCSA-A3（別売） 284
マイクロホン PCSA-A7P4（別売） 284
ISDN ユニット PCSA-B384S（別売） 284
ISDN ユニット PCSA-B768S（別売） 285
HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売） 285
RGB 入出力仕様 287
VIDEO IN（YPbPr）入力仕様 287
端子のピン配列 288
別売機器の端子のピン配列 290
PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 使用ポート一覧 292
ミーティングスペースのレイアウト 294
“メモリースティック”についてのご注意 295
CMOS 特有の現象 296
保証書とアフターサービス 297
保証書 297
アフターサービス 297
用語解説 297
メニューの構成 302

“IPELA”および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。

⚠警告

火災　感電

下記の注意を守らないと、**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながることがあります。

水にぬれる場所で使用しない

水ぬれ禁止

水ぬれすると、漏電による感電発火の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

分解や改造をしない

分解禁止

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

ファンが止まったままの状態で使用しない

禁止

ファンモーターが故障すると、火災の原因となることがあります。
交換は、本機を購入された販売店にご依頼ください。

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

設置は専門の工事業者に依頼する

設置については、必ずお買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。
壁面や天井などへの設置は、本機と取り付け金具を含む重量に十分耐えられる強度があることをお確かめください。充分な強度がないと、落下して、大けがの原因となります。
また、一年に一度は、取り付けがゆるんでないことを点検してください。

雨のあたる場所や、油煙、湯気、ほこりの多い場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。

不安定な場所に設置しない

次のような場所に設置すると、倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上
- 傾いたところ
- 振動や衝撃のかかるところ

また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

通気孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。
- 壁から 10cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

指定された電源ケーブル、接続ケーブルを使う

この取扱説明書に記されている電源ケーブル、接続ケーブルを使わないと、火災や故障の原因となることがあります。

付属の電源コードを使う

付属の電源コードを使わないと、感電や故障の原因になることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
十分注意して接続・配置してください。

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけない

禁止

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、コードが傷んだら、ソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

内部に水や異物を入れない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

運搬時には、接続ケーブルを取り外す

指示

本機を運搬する際には、電源コードおよび接続ケーブルを必ず取り外してください。接続ケーブルに引っ掛かると、転倒や落下の原因となることがあります。

RF リモコンを使用するときは、心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離して使用する

指示

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

医療用電気機器の近くでは RF リモコンを使用しない

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機内では RF リモコンを使用しない

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、RF リモコンの使用を中止する

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

・火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
・充電しない。
・指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

・＋と－の向きを正しく入れる。
・電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
・新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機の性能を維持するために

取り扱い上のご注意

使用・保管場所

次のような場所での使用および保管は避けてください。
・極端に寒いところや暑いところ。
・湿気、ほこりの多いところ。
・激しく振動するところ。
・強い磁気を発生するものの近く。
・強力な電波を発生する機器やラジオの送信所の近く。
・雑音が多いところ。

お手入れ

キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふきとってください。
汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

レーザービームについてのご注意
レーザービームはCMOS撮像素子に損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CMOS撮像素子表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。

1章
設置と準備

この取扱説明書の使いかた

各章には以下の内容を記載しています。必要に応じてお読みください。

1章　設置と準備

システムの構成や接続、設置のしかたをはじめ、電源の入れかたやメニューの基本操作など、はじめてお使いになる前に必要な情報を記載しています。システムの全体を把握するためにお読みください。

2章　登録と設定－管理者用

本機のメニューを使った登録や設定をすべて説明しています。システムを管理する方がお読みください。

3章　基本的な接続

日常のコミュニケーションをするための基本的な操作や設定を記載しています。この章を読むだけで、接続を始めるところから終わるところまでがわかります。コミュニケーションを行う方がお読みください。

4章　いろいろな機器を使った接続

別売の機器やストリーミング、レコーディング、プレゼンテーション、アノテーションなどの機能を使った様々なコミュニケーションのしかたを紹介しています。

5章　暗号化接続

映像、音声データを暗号化して接続を行う方法を説明しています。

6章　多地点接続

多地点に接続する方法を説明しています。

多地点接続には、別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 が必要です。

ご注意

PCSA-MCG80 は、PCS-XG55/XG55S/XA55 にはインストールできません。

7章　Web 機能

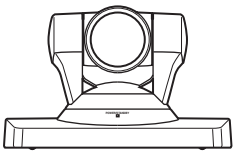
Web 経由で本機の操作、設定をする方法を説明しています。

付録

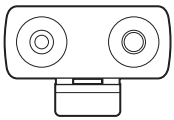
システムの各機器の各部の名称やメッセージ一覧、故障かな？、主な仕様、用語集などを記載しています。困ったときにお読みください。

カメラユニットについて

PCS-XG80/XG55 では、同梱の HD カメラユニット PCSA-CXG80 を使用します。
PCS-XA80/XA55 では、同梱の HD カメラユニット PCSA-CXA55 を使用します。
PCS-XG80S/XG55S では、上記の 2 つのカメラユニットのどちらでもお使いいただけます。



PCSA-CXG80



PCSA-CXA55

この取扱説明書のシステム構成図などでは、カメラユニットとして、PCSA-CXG80 のイラストを使用しています。

本機の特長

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 は、離れたところにいるグループを LAN（ローカルエリアネットワーク）や ISDN（デジタル公衆通信網）で結び、映像と音声を送受信することにより、相手側と同席しているかのようにコミュニケーションができるシステムです。

世界標準方式を採用

WTSC（世界電気通信標準化会議）が定めた ITU-T 勧告に準拠、日本国内だけでなく、海外とも簡単に接続することができます。

HD（ハイディフィニション）映像の送受信が可能

ITU-T H.264 Baseline Profile および High Profile 映像符号化方式に対応し、インターレース形式の解像度 1920 × 1080 または 1280 × 720 の映像を毎秒 60 フィールドで送受信できます。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55/XA80 は、インターレース形式の解像度 1920 × 1080 の映像には対応しておりません。

広帯域ステレオ音声の送受信が可能

音声圧縮方式は、MPEG4 AAC（Advanced Audio Coding）ステレオ / モノラル 22 kHz に対応し、高音質の音声送受信が可能です。

また、内蔵のエコーキャンセラーは16 kHz まで対応しています。

データを使ったコミュニケーションに対応

コンピューターの出力画面を送信できます。

高速、高画質の送受信が可能

LAN による通信ビットレートは、最大10 Mbps（PCS-XG55/XG55S/XA55 は最大 4 Mbps）まで対応しています。また、ISDN 回線の場合、別売の ISDN ユニット PCSA-B384S を使うと最大で ISDN3 回線、6B チャンネル、PCSA-B768S を使うと、最大で ISDN6 回線、12B チャンネルの使用が可能です。

ご注意

PCS-XG80/XG80S/XA80 とほかの機種との接続時には、通信ビットレートは最大 4 Mbps となります。

幅広い映像圧縮方式・音声圧縮方式に対応

映像圧縮方式は、H.264、H.263+、H.261、MPEG4* 方式に対応、音声圧縮方式は、MPEG4 AAC**、G.722、G.728、G.711 方式に対応しています。

* MPEG4 は SIP 接続の場合のみ対応。

** MPEG4 AAC は IP 接続と ISDN 接続の場合のみ対応。

アノテーションが可能

別売のペンタブレットを使って、コミュニケーション中の映像に文字や画を描き加えたり、ポインターで指し示したりして送信できます。

カメラにブライトフェイス機能を搭載

付属の HD カメラユニット PCSA-CXG80 では、同一撮影シーン内の暗い部分と明るい部分を判断し、暗い部分を明るくし、かつ、明るい部分の白とびも抑えます。

ご注意

HD カメラユニット PCSA-CXA55 は、ブライトフェイス機能を搭載しておりません。

100 地点までのカメラ位置をプリセット登録可能

カメラのアングルとズーム位置を最大 100 地点までプリセット登録できます。プリセット登録を呼び出すことにより、簡単にカメラの撮影範囲を切り換えることができます。

RF（無線）リモコンを採用

付属のリモコンは、無線方式（2.4 GHz 帯）でコミュニケーションシステムをコントロールします。システム本体、またはカメラとリモコンは 1 対 1 の関係で認識されるように設定でき、近くに別のシステムやカメラがあっても混信が防げます。

ソフトキーボード

モニター画面上に表示するソフトキーボードを使って入力が可能です。画面

を見ながら視線を動かさずに入力することができます。

ネットワークの状態に応じて最適化できる QoS（Quality of Service）機能搭載

パケット再送要求機能、最適レート制御機能および前方誤り訂正機能を搭載。ネットワークの状況に応じてこれらの機能をハイブリッドに使用し、常に高品質な通信を確保できます。

コンパクトサイズ

さまざまなレイアウトでの設置に柔軟に対応できます。

エコーキャンセリングマイク

別売のエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 は、高音質で、マイクをカスケード接続しても音質劣化がありません。PCSA-A7 は、ひとつのポートに 40 個までカスケード接続できます。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、使用できません。

HDMI 端子を搭載

HDMI 対応のディスプレイ機器との接続が容易です。

メモリースティックスロットを装備

メモリースティックスロットを装備しており、“メモリースティック”にプライベートアドレス帳の作成や設定の保存が可能です。

レコーディングが可能

映像と音声を“メモリースティック”にレコーディングし、後にコンピューターで見ることができます。

ストリーミングが可能

映像と音声をストリーミングできます。これにより、参加していない人でも、コンピューターを使って Web 上でコミュニケーションの様子を見ることができます。
映像と音声を配信するか、音声のみを配信するかを選べます。

SIP 対応

IP 電話などの端末と SIP（Session Initiation Protocol）を使った接続ができます。

ご注意

SIP 接続時には、通信ビットレートは最大 4 Mbps となります。

暗号化接続に対応

本機は、ITU-T で規定された H.233、H.234、H.235 に準拠した標準暗号化方式に対応しており、機密性の高い通信を行うことが可能です。

多地点接続に対応

別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールすると、LAN および ISDN 回線を介して多地点間のコミュニケーションが可能です。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 には、インストールできません。

KIOSK Mode に対応

ワンタッチダイヤルからの発信のみのシンプルな操作にすることができます。

システムの構成

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 は、コミュニケーションをするために必要な基本システムと、より充実したコミュニケーションを行うための別売機器で構成されます。

基本システムを構成する機器

ご注意

この説明書では、以下の機器について説明しています。

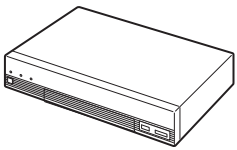
・PCS-XG80
システム本体に HD カメラユニット PCSA-CXG80 を 1 台とマイクロホン PCS-A1 を 2 個パッケージした HD ビジュアルコミュニケーションシステムパッケージ

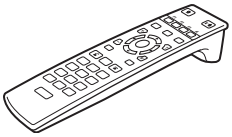
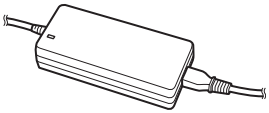
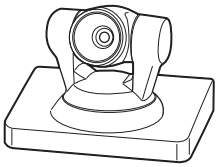
・PCS-XG55
システム本体に HD カメラユニット PCSA-CXG80 を 1 台とマイクロホン PCS-A1 を 1 個パッケージした HD ビジュアルコミュニケーションシステムパッケージ

・PCS-XG80S/XG55S
システム本体のみ

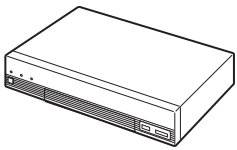
・PCS-XA80/XA55
システム本体に HD カメラユニット PCSA-CXA55 を 1 台パッケージした HD ビジュアルコミュニケーションパッケージ

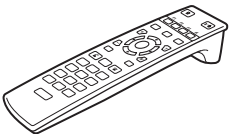
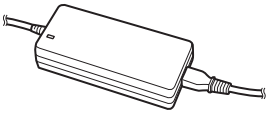
PCS-XG80 の同梱品

機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。

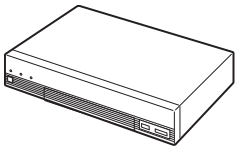
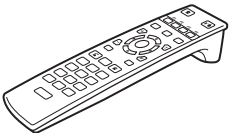
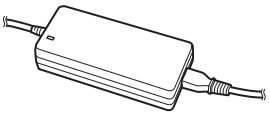
機器	説明
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムまたは HD カメラユニットとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。
HD カメラユニット PCSA-CXG80 	高精細なハイビジョン映像を撮影できるカメラです。
マイクロホン PCS-A1 	どの方向からの音でも拾える無指向性のマイクです。静かな部屋でのコミュニケーションにおすすめします。(2 個付属)

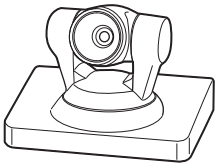
PCS-XG80S の同梱品

機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。

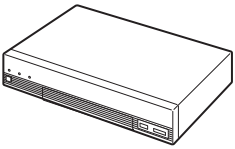
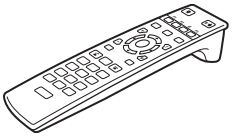
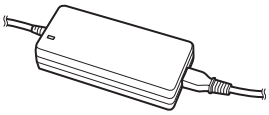
機器	説明
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムまたは HD カメラユニットとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。

PCS-XG55 の同梱品

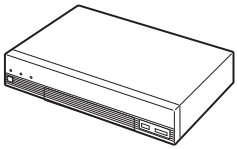
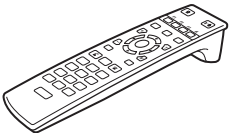
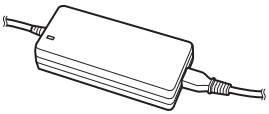
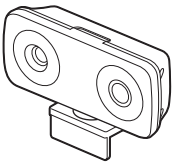
機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG55S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムまたは HD カメラユニットとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。

機器	説明
HD カメラユニット PCSA-CXG80 	高精細なハイビジョン映像を撮影できるカメラです。
マイクロホン PCS-A1 	どの方向からの音でも拾える無指向性のマイクです。静かな部屋でのコミュニケーションにおすすめします。(1 個付属)

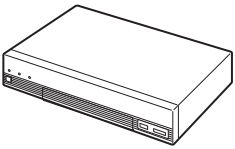
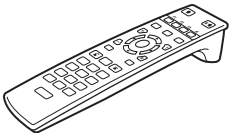
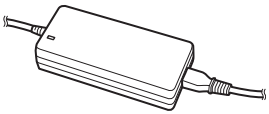
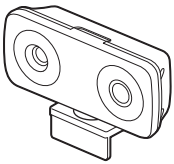
PCS-XG55S の同梱品

機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG55S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムまたは HD カメラユニットとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。

PCS-XA80 の同梱品

機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。
HD カメラユニット PCSA-CXA55 	マイク内蔵、省スペースタイプのカメラです。高精細なハイビジョン映像を撮影できます。

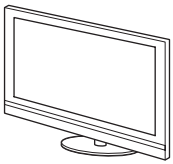
PCS-XA55 の同梱品

機器	説明
HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG55S 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
リモコン PCS-RF1 	HD ビジュアルコミュニケーションシステムとペアリングしてシステムをコントロールします。
AC アダプター VGP-AC19V45/VGP-AC19V15 	コミュニケーションシステムに電源を供給します。
HD カメラユニット PCSA-CXA55 	マイク内蔵、省スペースタイプのカメラです。高精細なハイビジョン映像を撮影できます。

別売機器の一覧

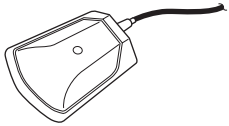
テレビ

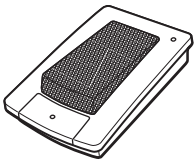
映像モニター用のテレビが必要です。

機器	説明
映像モニター用テレビ、プロジェクターなど 	映像モニター、スピーカーとして使用します。コミュニケーションシステムの HDMI 端子に接続すれば、ハイビジョン映像を見ることができます。 **ご注意** 1080i 対応品のみ使用可能です。

専用別売機器

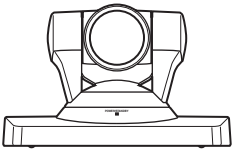
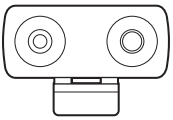
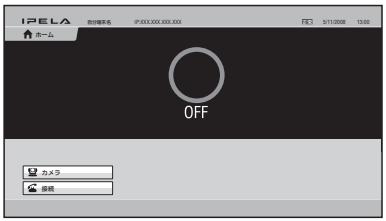
以下の別売機器が用意されています。

機器	説明
ISDN ユニット PCSA-B384S 	ISDN 回線に接続します。最大 3 回線、6B チャンネルでの接続が可能です。
ISDN ユニット PCSA-B768S 	ISDN 回線に接続します。最大 6 回線、12B チャンネルでの接続が可能です。
マイクロホン PCSA-A3 	指向性のマイクです。 マイクに向き合った人の音声だけを拾いたい場合におすすめします。

機器	説明
エコーキャンセリング マイク PCSA-A7P4 	指向性のマイクです。(4 個パック 1 セットで販売) モノラルエコーキャンセラーを内蔵しており、高音質です。また、音質劣化なしに多数のマイクをカスケード接続できます。マイクを多数使用する場合におすすめします。 **ご注意** PCS-XG55/XG55S/XA55 では、使用できません。
HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80	LAN や ISDN 回線を使って多地点接続をするためのソフトウェアです。 **ご注意** PCS-XG55/XG55S/XA55 には、インストールできません。

HD カメラユニットの特長

HD ビジュアルコミュニケーションシステムで使用できる 2 種類のカメラユニットには、それぞれ次の特長があります。

HD カメラユニット PCSA-CXG80	HD カメラユニット PCSA-CXA55
 ・リモコンによるパン･チルトでカメラアングルの調整可能 ・同一撮影シーン内の暗い部分を明るくするブライトフェイス機能搭載 ・画像ノイズを低減するノイズリダクション･フィルター搭載 ・ハイビジョン放送で使用されている Full HD (1080i) の撮影可能	 ・マイク内蔵、省スペース ・モニター用テレビの上に設置して使用 ◆設置のしかたについては、PCSA-CXA55 の取扱説明書をご覧ください。 ・撮影不要時にレンズを覆うレンズカバー **レンズカバーが閉まっているときのホーム画面** ◆レンズカバーの使いかたについては、PCSA-CXA55 の取扱説明書をご覧ください。 ・以下のホーム画面で、カメラユニットへの電源供給がとだえていることを表示  ・手動パン･チルトによるカメラアングル調整

システムの構成例

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 は、基本システムと別売機器の組み合わせにより、さまざまなシステムを構成できます。ここでは、代表的な例をあげて、システムの構成に必要な機器とそのシステムでどんなことができるかを説明します。

ご注意

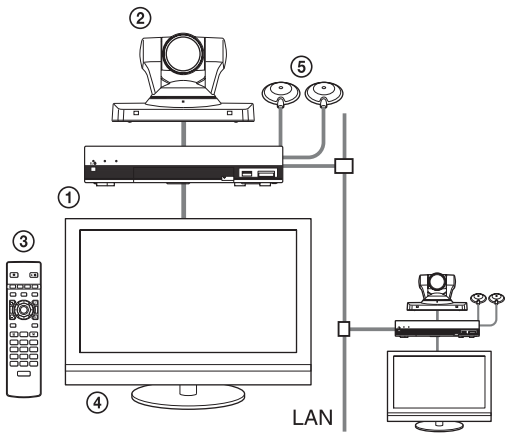
- システム構成図にはマイクロホン PCS-A1 が 2 個描かれていますが、PCS-XG55 には 1 個のみ同梱されます。また、PCS-XG80S/XG55S/XA80/XA55 には同梱されません。
- システム構成図は、PCS-XG80/XG80S/XG-55/XG55S の場合です。

構成例（LAN 接続）

このシステムでできること

- LAN を介した 2 地点間の HD ビジュアルコミュニケーションができます。
- 外部マイクを 2 本接続して、音声をステレオで収音することができます。

システム構成図



① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S/XG55S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ マイクロホン PCS-A1

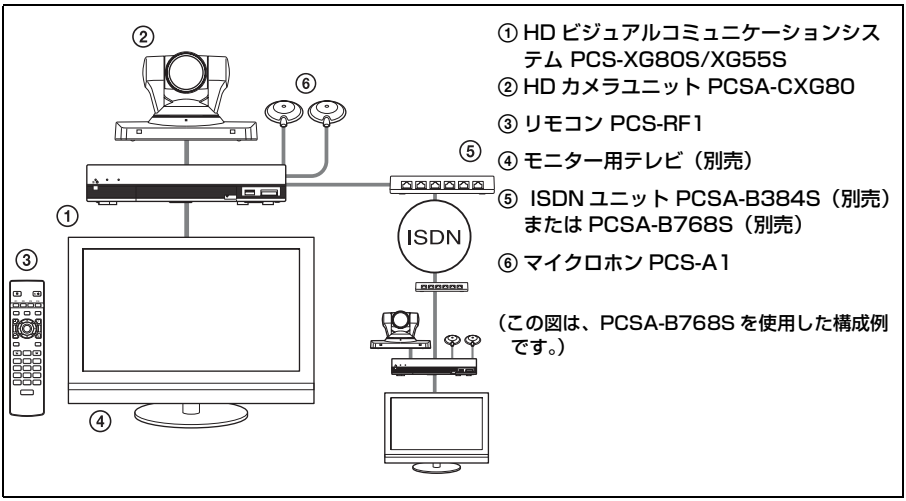
構成例（ISDN 接続）

ISDN 回線に接続するには、専用別売機器の ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S が必要です。

このシステムでできること

・ISDN 回線を介した 2 地点間の HD ビジュアルコミュニケーションができます。
・外部マイクを 2 本接続して、音声をステレオで収音することができます。
・PCSA-B384S 使用時は ISDN 回線を最大 3 回線、PCSA-B768S 使用時は最大 6 回線で接続して高速・高画質のコミュニケーションができます。

システム構成図



ISDN の回線数と B チャンネルについて

本機は、PCSA-B384S を介して最大 3 回線（6B チャンネル）、PCSA-B768S を介して最大 6 回線（12B チャンネル）の ISDN 回線を使用することができます。同一の通信に使うチャンネル数が多い程、高速・高画質の通信ができます。

ご注意

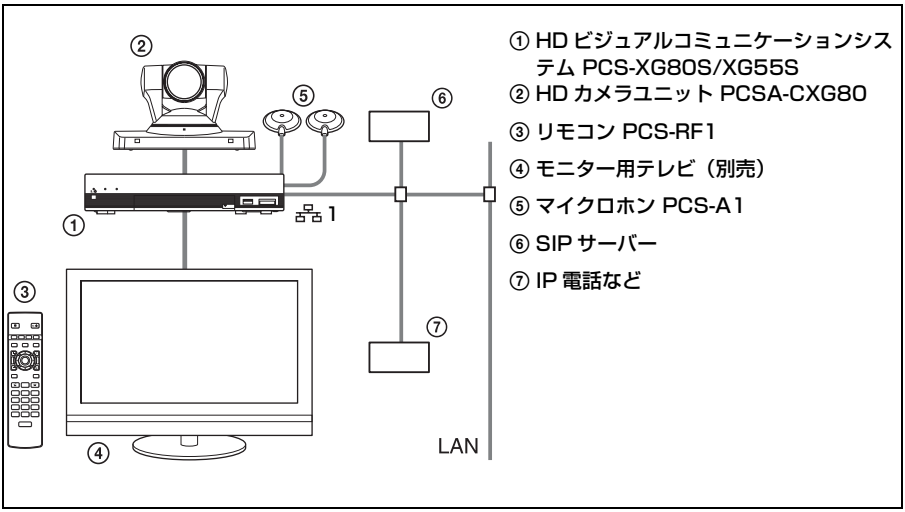
ISDN ユニットのポートは、番号が若い順に使用してください。
○：1、2、3・・・
×：1、6、5・・・

構成例（SIP 接続）

このシステムでできること

・SIP サーバーを介して IP 電話などの端末と HD ビジュアルコミュニケーションができます。

・外部マイクを 2 本接続して、音声をステレオで収音することができます。



ご注意

SIP 接続をする場合は、本機の 1（LAN1）端子（PCS-XG55/XG55S では （LAN）端子）をご使用ください。2（LAN2）端子へ接続すると SIP サーバーはご使用になれません。

構成例（2 本の LAN を使った接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

このシステムでできること

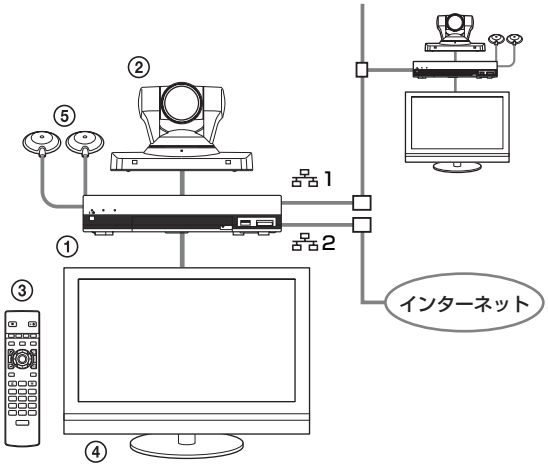
品1（LAN1）端子と品2（LAN2）端子を使って 2 本の LAN を本機に接続しておくことができます。
品1 端子を社内のネットワークなどへの接続、品2 端子をインターネットなど社外への接続にご使用ください。

ご注意

- PCS-XG55S には、品2 端子はありません。
- 品2 端子へ接続した場合、SIP サーバー、ゲートキーパー、Telnet、Web アクセスなど、ネットワークを使用しての本機の機能が一部使用できません。LAN を 1 本だけ使用する場合は、品1 端子へ接続してください。

◆詳しくは、「LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（119 ページ）をご覧ください。

システム構成図



① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ マイクロホン PCS-A1

構成例―多地点接続（LAN 接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 が必要です。

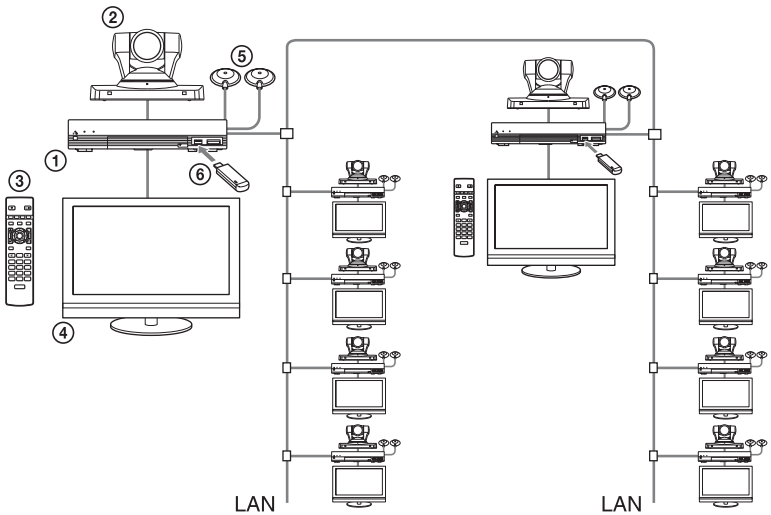
ご注意

PCS-XG55S/XA55 には、インストールできません。

このシステムでできること

LAN を介した最大 10 地点間の HD ビジュアルコミュニケーションができます。

システム構成図



① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ マイクロホン PCS-A1
⑥ HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）

構成例―多地点接続（ISDN 接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

ISDN 回線接続用に、専用別売機器の ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S が必要です。さらに、多地点接続用に、別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 が必要です。

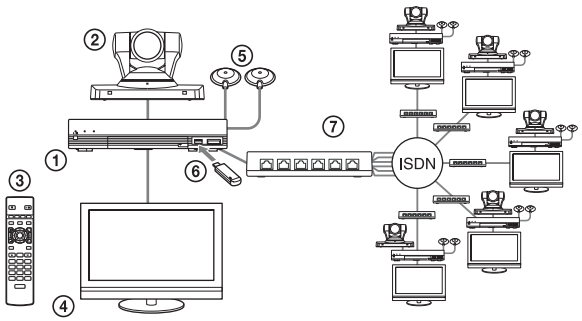
ご注意

PCS-XG55S/XA55 には、インストールできません。

このシステムでできること

ISDN 回線を介して最大 6 地点間の HD ビジュアルコミュニケーションができます。

システム構成図



（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ マイクロホン PCS-A1
⑥ HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）
⑦ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売）または PCSA-B768S（別売）

構成例―多地点接続（LAN と ISDN の混在接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 を 2 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S にインストールすることにより、LAN および ISDN 回線が混在した最大 10 地点間の多地点接続が可能です。

ご注意

PCS-XG55S/XA55 には、インストールできません。

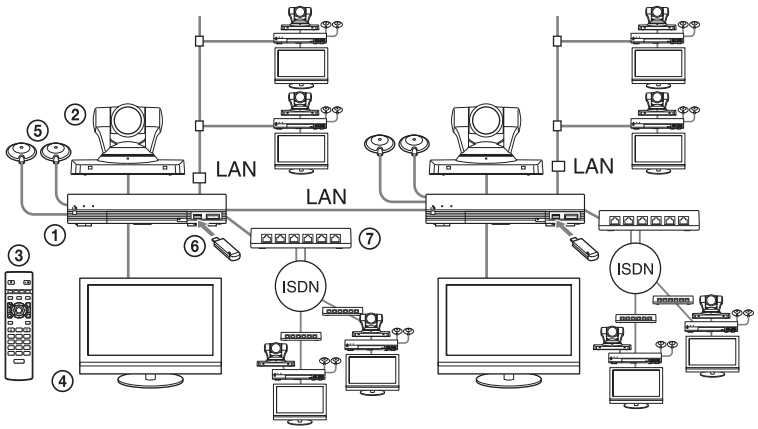
このシステムでできること

LAN および ISDN 回線を介した最大 10 地点間の HD ビジュアルコミュニケーションができます。

ご注意

HD MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションシステムは、必ず LAN を介して接続してください。

システム構成図



（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ マイクロホン PCS-A1
⑥ HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）
⑦ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売）または PCSA-B768S（別売）

構成例（エコーキャンセリングマイクを使用した接続）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

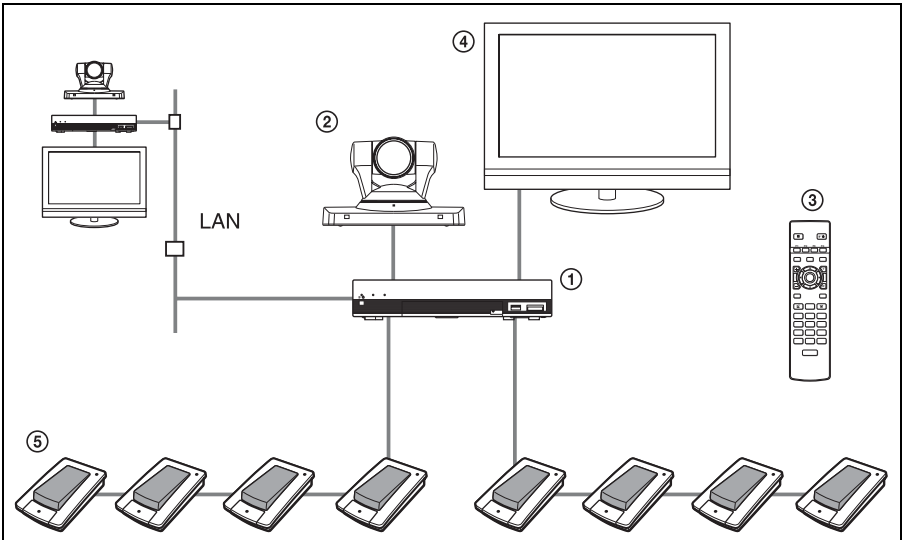
このシステムでできること

・エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 は、1 つの EC-MIC 端子に 40 個までカスケード接続できます。高音質で、多数接続しても音質劣化がないので、多人数での HD ビジュアルコミュニケーションに対応できます。
・使用中にマイクを追加できます。

ご注意

PCS-XG55S/XA55 では、使用できません。

システム構成図



① HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S
② HD カメラユニット PCSA-CXG80
③ リモコン PCS-RF1
④ モニター用テレビ（別売）
⑤ エコーキャンセリングマイク PCSA-A7（PCSA-A7P4：4個パック 2セット、別売）

ご注意

・参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
・スピーカーを使用する場合は、マイクの前方に設置しないでください。

・エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 はモノラルのみに対応しています。ステレオ音声を収音することはできません。

◆エコーキャンセリングマイクについては「エコーキャンセリングマイクを使う （PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（196 ページ）をご覧ください。

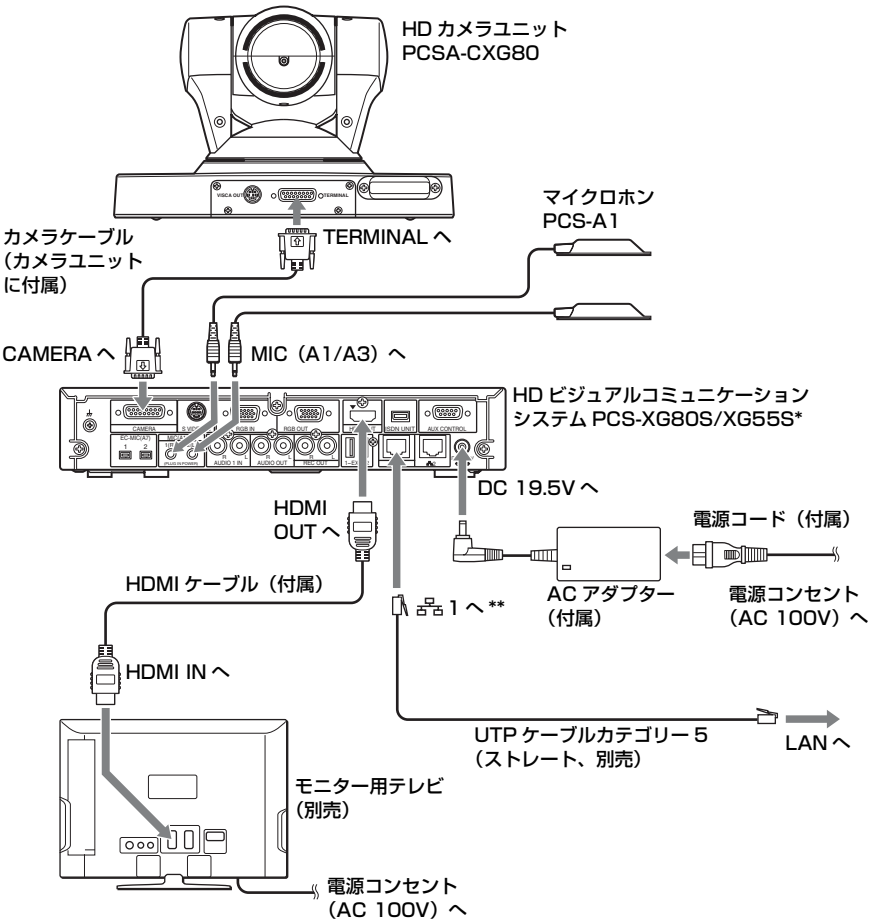
システムの接続

ここでは、代表的なシステムの接続のしかたを説明します。

⚠注意

・接続するときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
・カメラユニットやシステム本体、ISDN ユニットが壊れますので、電源を入れたままカメラケーブルやインターフェースケーブル、ペンタブレットを抜き差ししないでください。
・安全のために、100BASE-TX/10BASE-T 端子を過電圧が加わるおそれのあるネットワークなどに接続しないでください。
・**カメラユニットや ISDN ユニットを初めてシステムに接続して使用するとき**、システムが自動的に接続した機器のソフトウェアをバージョンアップすることがあります。モニター画面のメッセージに従ってバージョンアップを行ってください。なお、バージョンアップ中は故障の原因となりますので、絶対に電源を切ったりケーブルを抜いたりしないでください。

接続例（LAN 接続）—PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合



* PCS-XG55S には、S VIDEO IN 端子、EC-MIC（A7）1/2 端子、AUDIO 1 IN 端子、EXT 1/2 端子、2 端子はありません。

** PCS-XG55S では、端子です。

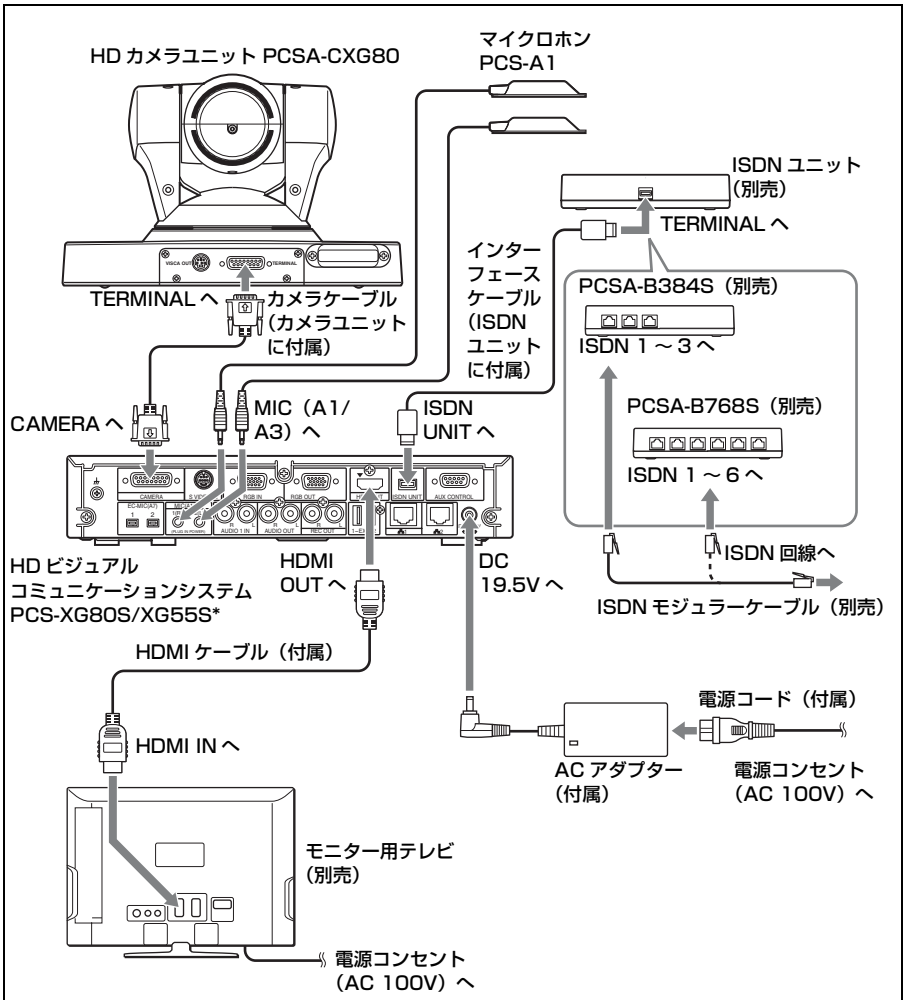
ご注意

・UTP ケーブルは、通常は1 端子（緑の表示）へ接続してください。2 端子へ接続した場合、本機の機能が一部制限されます。

◆詳しくは、「LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（119 ページ）をご覧ください。

・REC OUT 端子は、議事録として音声を録音するときなどに使用します。通常は使用しません。

接続例（ISDN 接続）—PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合

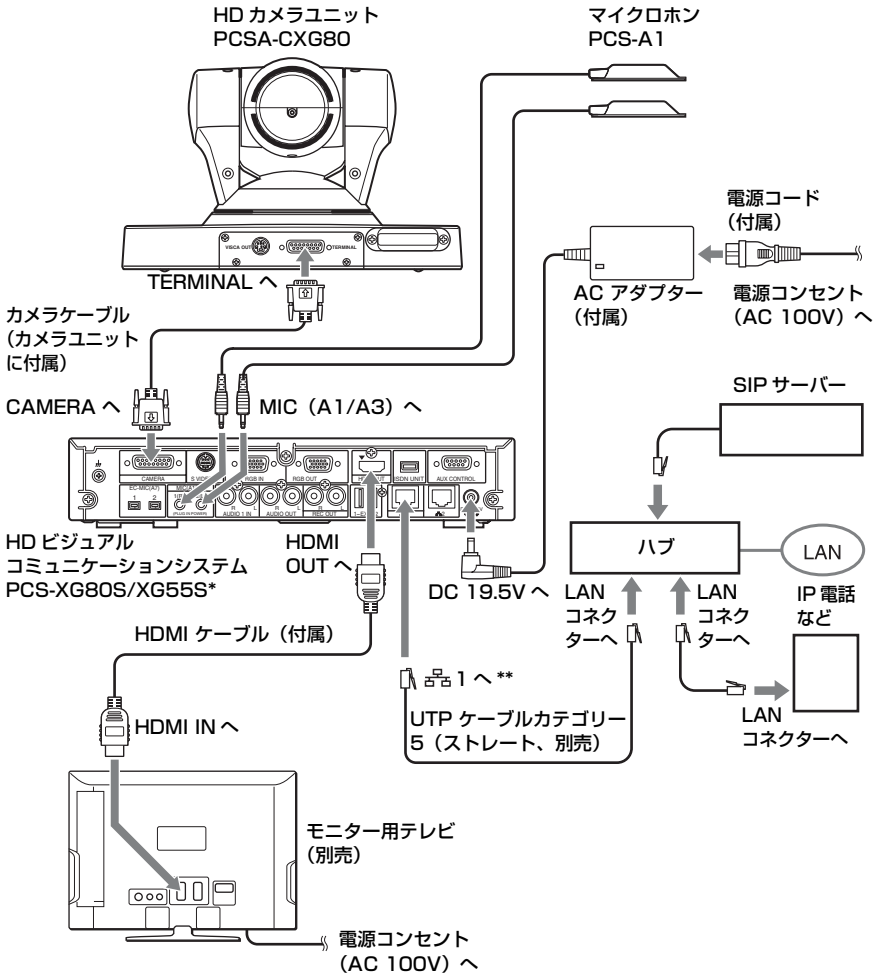


* PCS-XG55S には、S VIDEO IN 端子、EC-MIC（A7）1/2 端子、AUDIO 1 IN 端子、EXT 1/2 端子、品2 端子はありません。

ご注意

REC OUT 端子は、議事録として音声を録音するときなどに使用します。通常は使用しません。

接続例（SIP 接続）—PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S の場合



* PCS-XG55S には、S VIDEO IN 端子、EC-MIC（A7）1/2 端子、AUDIO 1 IN 端子、EXT 1/2 端子、2 端子はありません。

** PCS-XG55S では、端子です。

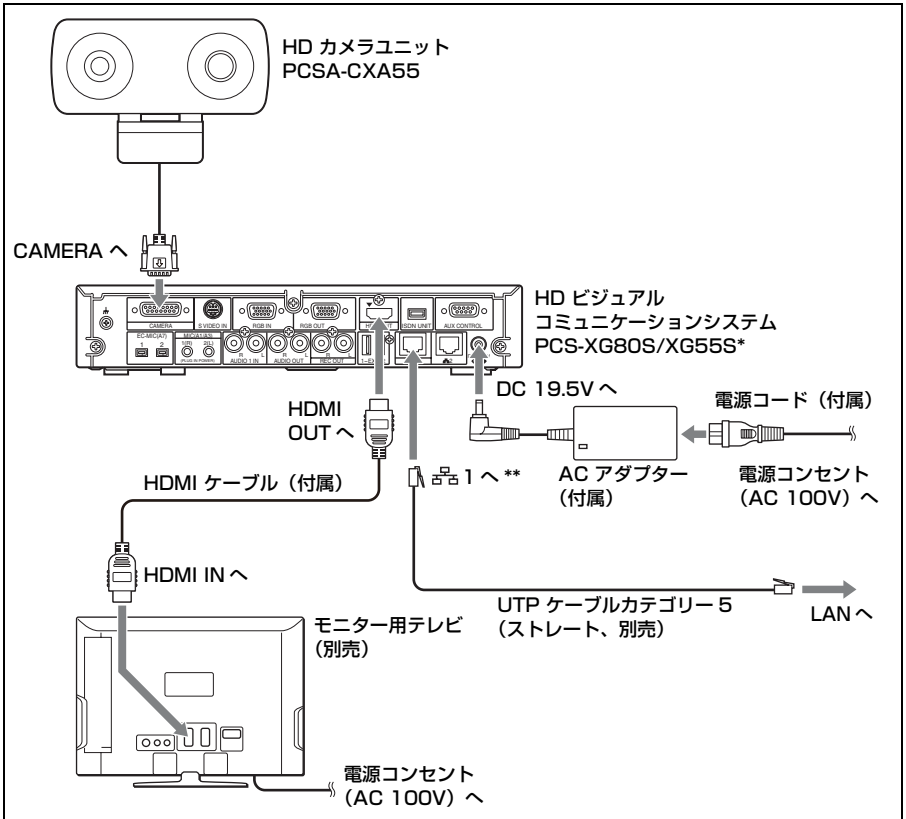
ご注意

・UTP ケーブルは、通常は1 端子（緑の表示）へ接続してください。2 端子へ接続した場合、本機の機能が一部制限されます。

◆詳しくは、「LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（119 ページ）をご覧ください。

・REC OUT 端子は、議事録として音声を録音するときなどに使用します。通常は使用しません。

接続例（LAN 接続）—PCS-XA80/XA55 の場合



* PCS-XG55S には、S VIDEO IN 端子、EC-MIC（A7）1/2 端子、AUDIO 1 IN 端子、EXT 1/2 端子、2 端子はありません。

** PCS-XG55S では、端子です。

ご注意

・UTP ケーブルは、通常は1 端子（緑の表示）へ接続してください。2 端子へ接続した場合、本機の機能が一部制限されます。

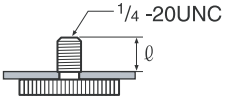
◆詳しくは、「LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（119 ページ）をご覧ください。

・REC OUT 端子は、議事録として音声を録音するときなどに使用します。通常は使用しません。

カメラユニット PCSA-CXG80 を三脚に取り付ける

三脚に取り付けるには

底面の三脚取り付け用ネジ穴に三脚を取り付けます。
三脚は、段差のない平面に取り付け、手でしっかり締め付けてください。
三脚取り付け用のネジは、次の規格のものを使用してください。



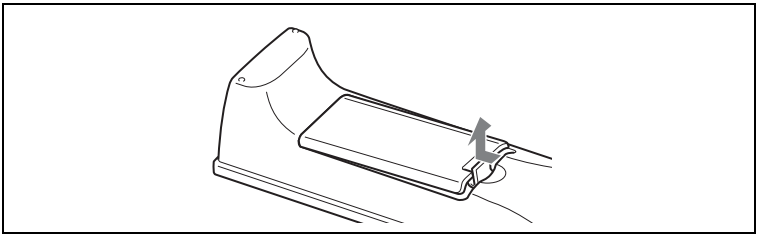
ℓ = 4.5 ～ 6 mm
ℓ = 0.18 ～ 0.24 インチ

システムの準備

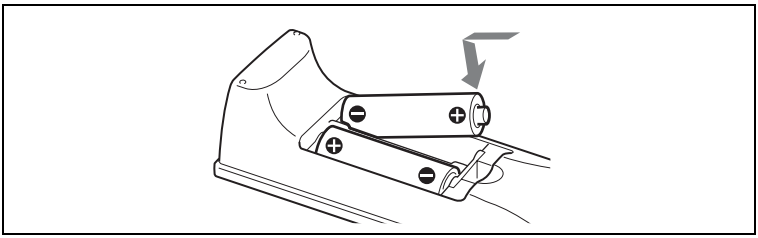
リモコンに乾電池を入れる

HD ビジュアルコミュニケーションシステムでは、操作のほとんどを付属のリモコンで行います。ここでは、リモコンへの電池の入れかたを説明します。

1 電池ぶたを取りはずす。



2 単 3 形乾電池（付属）を 2 本、⊕ ⊖ の向きを正しく入れる。



⚠注意

リモコンに乾電池を入れるときは、⊖ 極側から入れてください。⊕ 極側から乱暴に入れようとすると、乾電池の絶縁被膜が破れてショートすることがあります。

3 電池ぶたを取り付ける。

⚠注意

乾電池の寿命

乾電池が消耗すると、リモコンのボタンを押しても LED が点滅せず、リモコンで操作ができなくなります。この場合、2 本とも新しい乾電池と交換してください。

⚠注意

乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

・⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
・新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
・乾電池は充電できません。
・長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。
・液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。

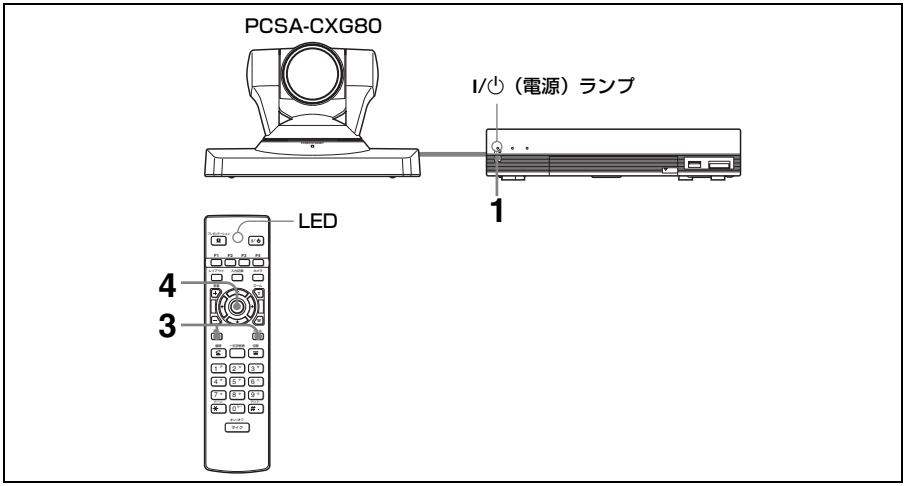
リモコンとカメラのペアリングを行う

付属のリモコンは、無線方式（2.4 GHz 帯）で HD ビジュアルコミュニケーションシステムをコントロールします。リモコンとシステム本体は、1 対 1 の関係として認識され（ペアリング）、別のリモコンや別のシステムとの混信を防いでいます。
リモコンとシステム本体は出荷時にペアリング済みです。ただし、システム本体が机の下やラックの中など、見えない場所に設置された場合は、リモコンの電波の状況により、動作しないことがあります。この場合は、HD カメラユニット PCSA-CXG80 とペアリングし直してご使用ください。

ご注意

- 近くに複数台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムや HD カメラユニットがある場合は、ペアリングの対象でない機器の電源を切ってください。複数の機器の電源が入っていると、希望の機器以外とペアリングされてしまう場合があります。
- HD カメラユニット PCSA-CXA55 では、ペアリングはできません。

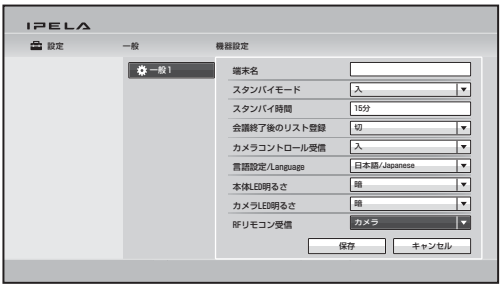
リモコンとカメラをペアリングするには



1 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。

システム本体の I/⏻（電源）ランプが点滅を始めます。電源が入るとランプの点滅が緑色の点灯に変わります。

2 システム本体の設定メニューで「RF リモコン受信」を「カメラ」に設定する。



◆詳しくは、一般設定メニューの「機器設定」ページ、「RF リモコン受信」(101 ページ) をご覧ください。

◆メニューの操作のしかたは、「設定メニューを表示する」(72 ページ) をご覧ください。

3 電源が入ってから 3 分以内に、リモコンをカメラの裏面の受信部にできるだけ近づけ、戻るボタンとツールボタンを同時に押す。

ペアリングモードに入り、リモコンの LED が早く点滅します。

4 リモコンの決定ボタンを押す。

リモコンの LED の点滅が遅くなれば、リモコンとカメラのペアリングが成功です。

システム本体とリモコンのペアリングは解除されます。

ペアリングに失敗すると

リモコンの LED は早く点滅したままです。この場合は、再度リモコンの決定ボタンを押してください。

途中でペアリングを中止するときは

システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押してください。

ヒント

- リモコンのボタンを押しても LED がまったく点滅しない場合は、リモコンの乾電池が寿命の可能性があります。新しい乾電池と交換してみてください。
- いったんペアリングが成功すると、リモコンの乾電池を交換してもペアリングは解消されません。

・リモコンの操作範囲は約 10 m です。条件により、それ以上の距離でも操作可能な場合があります。

リモコンとシステム本体を再度ペアリングするには

次の方法でリモコンとカメラのペアリングを解除し、システム本体に再度ペアリングさせることができます。

1 システム本体の電源を入れる。

2 一般設定メニューの「機器設定」ページ、「RF リモコン受信」（101 ページ）を「本体」に設定する。

3 電源が入ってから 3 分以内に、リモコンをシステム本体にできるだけ近づけ、戻るボタンとツールボタンを同時に押す。

リモコンの LED が早く点滅します。

4 リモコンの決定ボタンを押す。

リモコンの LED の点滅が遅くなれば、リモコンとシステム本体のペアリングが成功です。

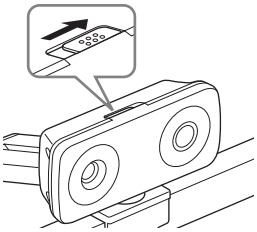
カメラとリモコンのペアリングは解除されます。

電源を入れる / 切る

ここでは、HD ビジュアルコミュニケーションシステムの電源を入れる手順や切る手順など、電源に関する説明をします。

レンズカバーを開ける－ HD カメラユニット PCSA-CXA55 をお使いの場合

PCSA-CXA55 には、レンズを隠すためのレンズカバーがついています。ビデオ会議を始める前に、カメラユニット上部のレンズカバー開閉レバーを右にスライドさせ、必ずレンズカバーを開けてください。レンズカバーが閉まったままでは、自分側の映像が相手に見えません。



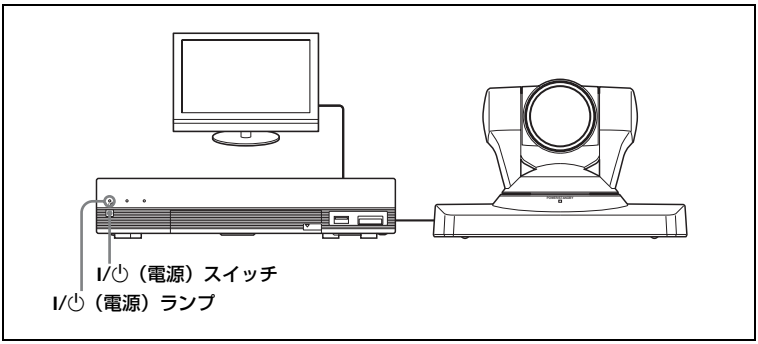
電源を入れる

システムの電源を入れる手順は以下のとおりです。

1 モニター用テレビの電源を入れる。

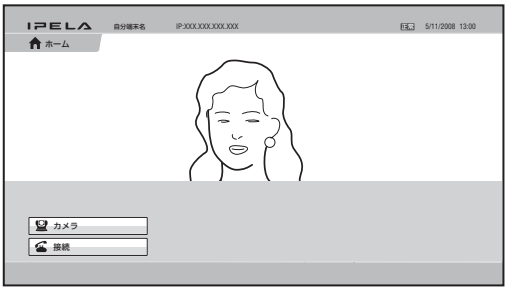
2 使用するその他の機器の電源を入れる。

3 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。



システム本体の I/⏻（電源）ランプが点滅を始めます。電源が入るとランプの点滅が緑色の点灯に変わります。
モニター用テレビにはホームメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ホームメニュー

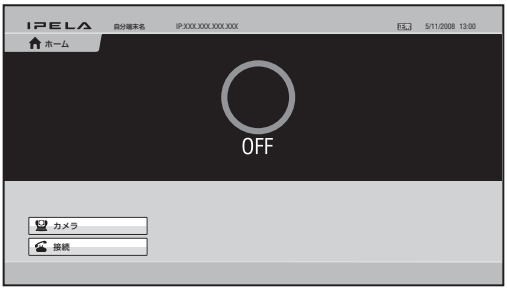


ご注意

・HD カメラユニット PCSA-CXA55 の場合、レンズカバーが閉まっていると、ホーム画面が次のように表示されます。

レンズカバーが閉まっているときに会議を行うと、相手側には黒画面が表示されます。

・HD カメラユニット PCSA-CXA55 の場合、カメラユニットへの電源供給がとだえると、ホーム画面が次のように表示されます。



リモコン操作を行うと、再びカメラユニットに電源が供給されます。

◆ホームメニューについて詳しくは、「ホームメニューの見かた」（58 ページ）をご覧ください。

ご注意

・電源が入ると、カメラが動作テストを行います。指を挟まないようにしてください。

・カメラが移動中に無理に動きをさえぎると、カメラの動きが止まり、カメラの映像が出なくなります。この場合は、システムの電源を入れ直してください。

ヒント

・設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終了すると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って設定を行ってください。

◆ウィザードを使った設定については、「設置直後の設定－初期設定ウィザード」（55 ページ）をご覧ください。

・カメラユニットや ISDN ユニットなど別売の専用機器を初めてシステムに接続して使用するとき、システムが接続した機器のソフトウェアを自動的にバージョンアップすることがあります。モニター画面のメッセージに従ってバージョンアップを行ってください。なお、バージョンアップ中は故障の原因となりますので、絶対に電源を切ったりケーブルを抜いたりしないでください。また、バージョンアップ中に停電などでシステムの電源がオフになった場合も正常に動作しないことがあります。電源がオフになり、再び電源が入ったあと、カメラユニットや ISDN ユニットなどが認識されない場合は、サービス窓口にご連絡ください。

・システムのバージョンや接続されている専用別売機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを機器状態メニュー画面で確認できます。

◆機器状態メニューについて詳しくは、「機器状態を表示する」（114 ページ）をご覧ください。

スタンバイモードについて

一定時間システムを操作しないと、システムは節電のため、スタンバイモードに入ります。スタンバイモードに入ると、システム本体の I/⏻ ランプはオレンジ色に点灯します。
完全に電源を切らずスタンバイモードにしておくと、リモコンのボタンで電源を入れることができます。
相手から呼び出しを受けると、スタンバイモードは解除されます。

システムをスタンバイ状態にする

1 ホームメニューを表示し、リモコンの I/⏻ ボタンを押す。

モニター画面に「電源を切りますか?」という確認のメッセージが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「スタンバイ」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの I/⏻ ボタンを押す。

システムがスタンバイモードになり、システム本体の I/⏻ ランプがオレンジ色に点灯します。

スタンバイモードにするのを中止するには

手順 2 でリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

スタンバイモードを解除するには

リモコンのボタンを押してください。

スタンバイモードに入るまでの時間を設定するには

一般設定メニューの「機器設定」ページ、「スタンバイ時間」でスタンバイモードに入るまでの時間（1 ～ 99 分）を設定してください。
スタンバイモードにしたくないときは、同じページの「スタンバイモード」を「切」に設定してください。

◆設定については、一般設定メニューの「スタンバイモード」と「スタンバイ時間」（100 ページ）をご覧ください。

電源を切る

1 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押す。

モニター画面に「電源を切りますか？」と表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「電源オフ」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの I/⏻ ボタンを押す。

システムの電源が切れます。

3 使用したその他の機器の電源を切る。

ご注意

・長期間システムを使わないときは、電源を切ってください。ただし、電源が切れていると、相手から呼び出しが受けられません。
・電源コードは、電源を完全に切ってからコンセントから抜いてください。
・電源コードをコンセントから抜いたまま放置すると、約 10 日後に日時設定がリセットされます。この場合、一般設定メニューの「日時設定」ページで日時を再設定してください。

モニター用テレビの音量を調節する

音量の調節のしかたは、システムの設置時と通信時とで異なります。システムの設置時にはモニター用テレビ側、通信時にはシステム側で音量の調節を行います。

システム設置時の音量調節

システム側で主音量を調節してから、モニター用テレビ側で音量調節してください。

1 リモコンの音量＋ / －ボタンを押して、モニター画面の音量調節バーが真ん中になるようにする。

2 モニター用テレビの音量を相手の声がよく聞きとれる音量に調節する。

ご注意

接続しているモニター用テレビのサラウンド機能などは使用しないでください。システムのエコーキャンセラーが正しく動作しなくなり、音がおかしくなります。

通信中の音量調節

通信中は、リモコンの音量＋ / －ボタンを押して、システム側で音量を調節してください。

設置直後の設定－初期設定ウィザード

設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終わると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って登録を行ってください。
ここで設定した項目は、あとで設定メニューを使って変更することもできます。

ご注意

システムを設置後に ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S を新たに取り付けた場合にも初期設定用ウィザードが表示されます。この場合も登録を行ってください。

表示言語を選ぶ

1 ウィザード画面でリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「言語を選ぶ」を選び、決定ボタンを押す。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してメニューやメッセージの言語を選ぶ。

英語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、イタリア語、簡体中国語、ポルトガル語、繁体中国語、韓国語、オランダ語、デンマーク語、スウェーデン語、フィンランド語、ポーランド語、ロシア語、アラビア語、タイ語、トルコ語、ノルウェー語、ウェールズ語、チェコ語、ハンガリー語から選択します。

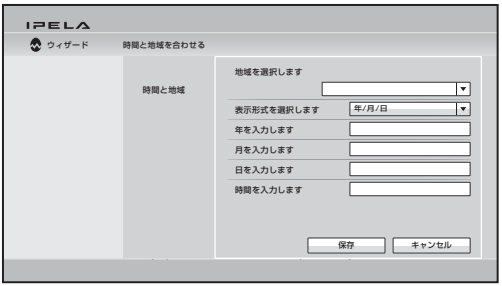
3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

ウィザード画面に戻ります。

時間と地域を設定する

1 ウィザード画面でリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「時間と地域を合わせる」を選び、決定ボタンを押す。

2 時間と地域に関する設定をする。



地域を選択します：本機を使う国／地域を選びます。
表示形式を選択します：年、月、日の表示形式を選びます。
年、月、日、時間を入力します：リモコンの数字キーを使って入力します。

◆リモコンを使った入力方法は、「リモコンで文字や数字を入力する」（68ページ）をご覧ください。

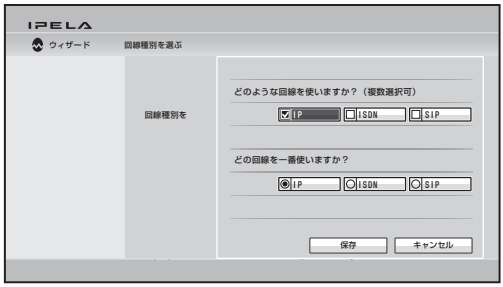
3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

ウィザード画面に戻ります。

通信回線を設定する

1 ウィザード画面でリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「回線種別を選ぶ」を選び、決定ボタンを押す。

2 使用する回線を設定する。



どのような回線を使いますか？：IP、ISDN、SIP から選択できます。
どの回線を一番使いますか？：「どのような回線を使いますか？」で複数の回線を選んだ場合は、ここで一番よく使う回線を選択します。IP、ISDN、SIP から選択できます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

ウィザード画面に戻ります。

LAN を設定する

ウィザード画面で「LAN 設定の設定を行う」を選び、LAN 接続のための設定を行います。

ISDN を設定する

ウィザード画面で「ISDN の設定を行う」を選び、ISDN 接続のための設定を行います。

SIP を設定する

ウィザード画面で「SIP の設定を行う」を選び、SIP 接続のための設定を行います。

メニューの基本操作

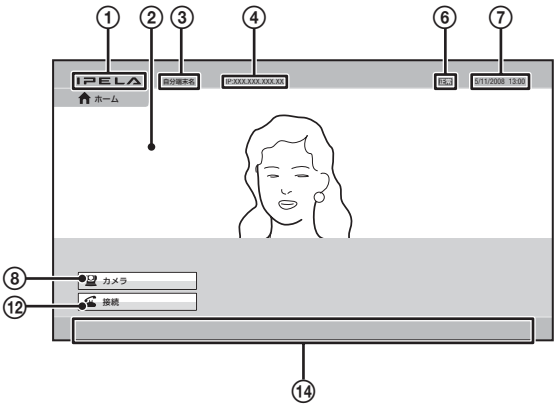
本機では、モニター画面に表示されるメニューを使って各種調整や設定を行います。ここではメニューの基本的な操作のしかたと表示されるメニューの種類を簡単に説明します。

ホームメニューの見かた

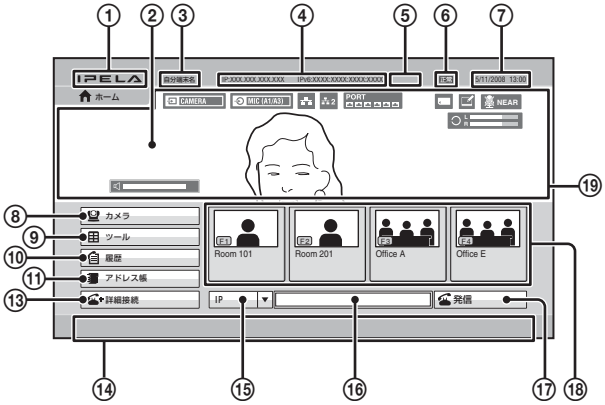
電源を入れたときなど通信中でないときは、通常、ホームメニューが画面に表示されます。ホームメニューには、自分側のカメラの映像や自分の端末名、日時、メニュー操作用のボタンなどが表示できます。
ホームメニューに表示させる項目は、ホーム画面設定メニューの「ホーム画面 1」～「ホーム画面 3」ページで選択できます。
出荷時と最大表示時のホームメニューを例に、ホームメニューに表示される項目を説明します。

◆ホーム画面設定メニューについて詳しくは、103 ページをご覧ください。

出荷時のホームメニュー



最大表示時のホームメニュー



① IPELA ロゴ

② 背景

カメラの映像が表示されます。

③ 自端末名

設定してある自分の端末名が表示されます。

④ 自分の IP アドレス

自分の端末の IP アドレスが表示されます。
管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4/IPv6」に設定されている場合は、IPv6 の IP アドレスも表示されます。

ご注意

IPv6 の IP アドレスの上位数桁は表示されません。

一般設定メニューの「ホーム画面 1」ページ、「番号表示」（103 ページ）の設定により、IP アドレスの代わりに、ゲートキーパーのユーザー名やユーザー番号、NAT アドレスなどを表示することもできます。

⑤ ISDN 回線番号

自分の端末の ISDN 回線番号が表示されます。

⑥ 端末状態

自分の端末の状態が表示されます。

⑦ 日時表示

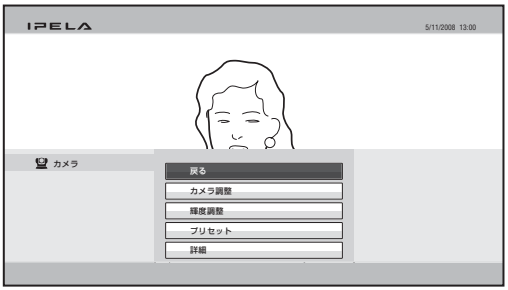
現在の日時が表示されます。

⑧ カメラボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、カメラメニューが表示されます。

カメラメニューは、カメラのアングル調整や輝度調整、カメラ調整状態のプリセット登録、プリセット移動などをするときに使います。

カメラメニュー



◆カメラメニューについて詳しくは、162 ページをご覧ください。

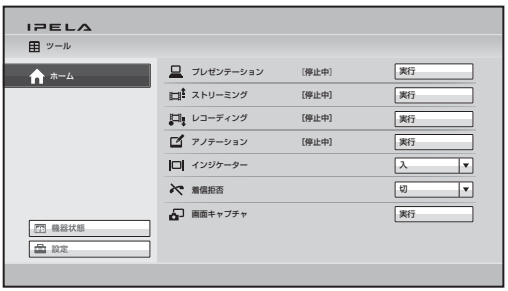
⑨ ツールボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、ツールメニューが表示されます。

ツールメニューは、プレゼンテーションやストリーミング、レコーディング、アノテーションなどの操作を実行するときに使います。

また、ツールメニューから、機器状態メニューや設定メニューを表示させることができます。

ツールメニュー



◆ツールメニューについて詳しくは、178 ページをご覧ください。

◆機器状態メニューについて詳しくは、114 ページをご覧ください。

◆設定メニューについて詳しくは、72 ページをご覧ください。

⑩ 履歴ボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、履歴メニューが表示されます。

履歴メニューは、今までのコミュニケーションの履歴を確認したり、履歴から相手を呼び出すときに使います。

履歴メニュー

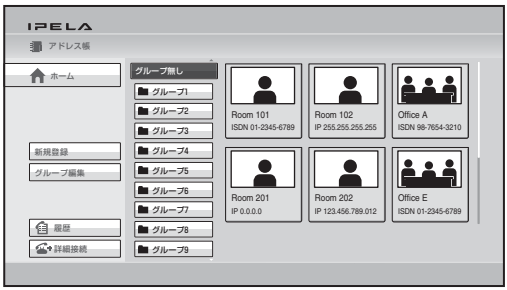
◆履歴メニューについて詳しくは、136 ページをご覧ください。

⑪ アドレス帳ボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、アドレス帳が表示されます。

アドレス帳は、相手を登録したり、登録した相手を呼び出すときに使います。

アドレス帳



◆アドレス帳について詳しくは、147 ページをご覧ください。

⑫ 接続ボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、接続メニューが表示されます。

接続メニューは、相手を呼び出すときに使います。

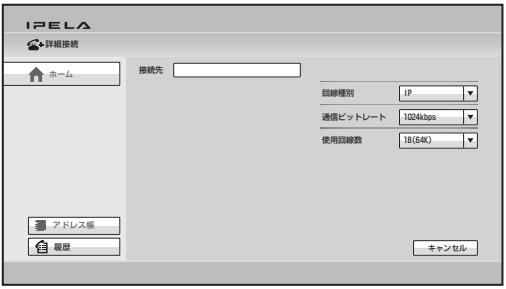
接続メニュー

◆接続メニューについて詳しくは、132 ページをご覧ください。

⑬ 詳細接続ボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、詳細接続メニューが表示され、相手先への接続方法を詳細に設定して呼び出すことができます。

詳細接続メニュー



◆詳細接続メニューについて詳しくは、140 ページをご覧ください。

⑭ ガイダンス

ホームメニューの操作説明などが表示されます。

⑮ 回線種別選択ボタン

このボタンを選択して決定ボタンを押すと、回線種別の選択項目が表示されます。使用する回線を選び、決定ボタンを押します。

⑯ 番号入力欄

アドレス帳に登録されていない相手を呼び出すとき、この欄を選択し、相手の IP アドレスやドメイン名、ISDN 回線番号などを入力します。

⑰ 発信ボタン

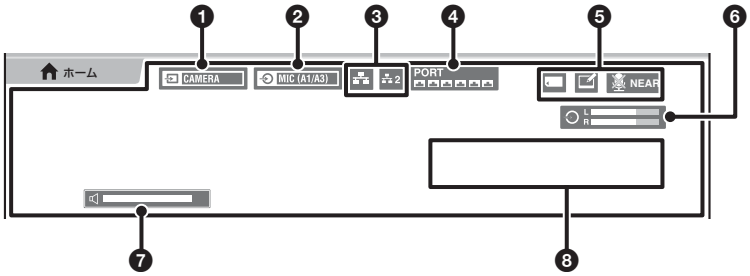
このボタンを選択して決定ボタンを押すと、番号入力欄に入力した相手を呼び出します。

⑱ ワンタッチダイヤルボタン

呼び出したい相手のボタンを選択して決定ボタンを押すと、サブメニューが表示されます。サブメニューから相手を呼び出すことができます。

リモコンの F1 ～ F4 ボタンを押してもワンタッチダイヤルボタンに登録した相手を呼び出すことができます。

⑲ 表示部



❶ ビデオ入力表示

現在選択されているビデオ入力が表示されます。

表示されるビデオ入力名は、映像設定メニューの「ビデオ入力選択名」で設定した名前です。

❷ オーディオ入力表示

現在選択されているオーディオ入力が表示されます。

❸ LAN 状態表示

LAN の状態が表示されます。LAN が使用可能の場合は白く表示され、使用不可能の場合は灰色で表示されます。

❹ ISDN 状態表示

ISDN ユニットのポートの状態が表示されます。使用可能なポートは白く表示され、使用不可能なポートは灰色で表示されます。

❺ インジケーター表示

マイクオフ、“メモリースティック”挿入、タブレット接続、ストリーミング中、レコーディング中などの状態が表示されます。

❻ オーディオレベルメーター

現在のオーディオ入力レベルが表示されます。

❼ ボリューム表示

音量調節をしたとき、一定時間表示されます。

❽ 異常時メッセージ

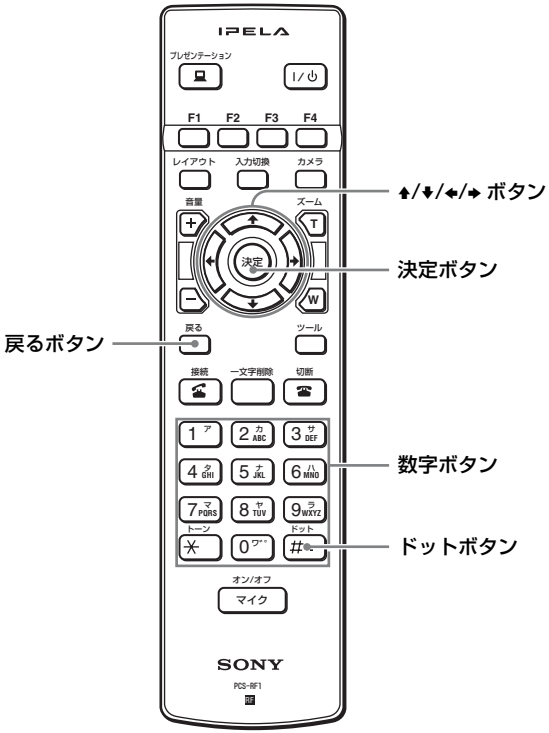
システムに異常があったとき、警告やガイダンスなどが表示されます。

メニューを操作する

ホームメニューからカメラメニューを呼び出して、手動で輝度調整を行う場合を例として、メニューの基本操作を説明します。

メニュー操作に使うボタン

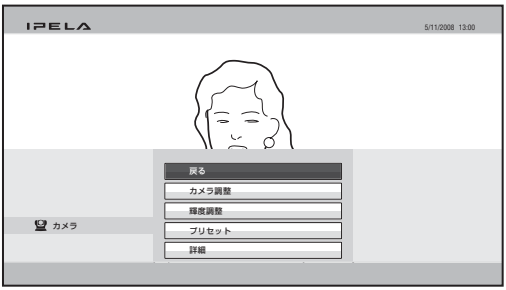
メニュー操作には、リモコンの次のボタンを使います。



1 ホームメニューを表示する。

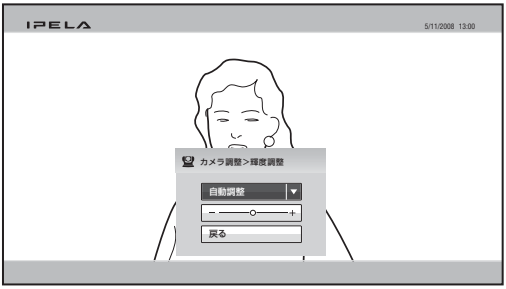
2 ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ」を選び、決定ボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。



3 ↑/↓/←/→ ボタンで「輝度調整」を選び、決定ボタンを押す。

輝度調整メニューが表示されます。

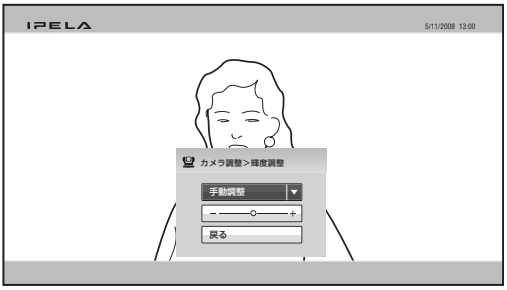


4 決定ボタンを押す。

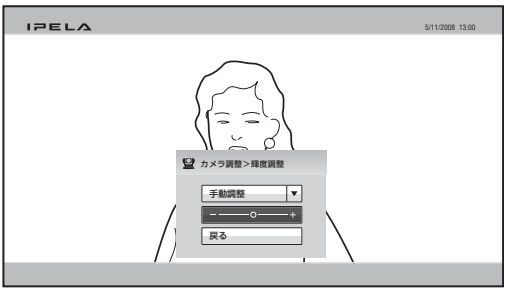
輝度調整の調整モードを選択できるようになります。

5 **↑/↓/←/→ ボタンでドロップダウンリストから設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。**

「手動調整」モードになります。



6 **↑/↓/←/→ ボタンで輝度調整バーを選び、決定ボタンを押す。**



7 **↑/↓/←/→ ボタンで映像の明るさを調整し、決定ボタンを押す。**

8 **調整が終わったら、↑/↓/←/→ ボタンで「戻る」を選び、決定ボタンを押す。または、リモコンの戻るボタンを押す。**

輝度調整メニューに戻ります。

9 **↑/↓/←/→ ボタンで「戻る」を選び、決定ボタンを押す。または、リモコンの戻るボタンを押す。**

カメラメニューに戻ります。

メニュー画面に「登録」や「保存」があるときは

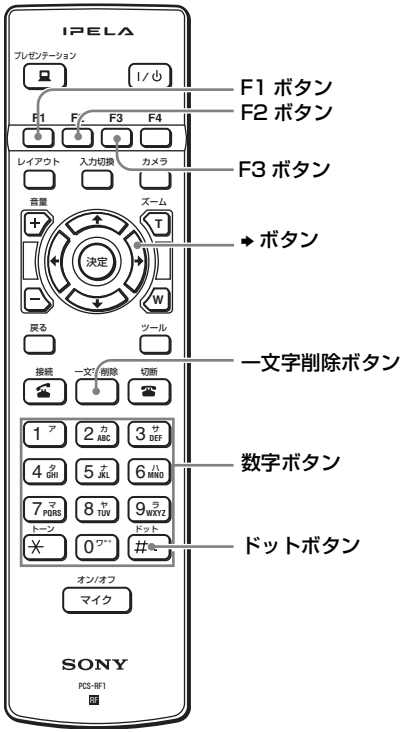
設定や調整後に ↑/↓/←/→ ボタンで「登録」や「保存」を選び、決定ボタンを押してください。これで新しい設定や調整が有効になります。

メニュー画面に「キャンセル」があるときは

↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押すと、新しい設定や調整がキャンセルされ、元の状態に戻ります。

リモコンで文字や数字を入力する

リモコンを使ってメニュー上に文字や数字などを入力する方法を説明します。



文字や数字を入力するには

1 **F1 ボタンを繰り返し押して入力モードを切り換える。**

カナ、英、数が選べます。

2 **数字ボタンを押して、文字や数字を入力する。**

カナのとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示された行のカタカナ文字が選べます。

英のとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示されたアルファベットが選べます。

数のとき：ボタンに表示された数字が選べます。

記号を入力するには

F2 ボタンを繰り返し押して、入力したい記号を選びます。
「−」と「゛」、「゜」の記号は 0 ボタンを押しても入力できます。
また、入力モードが「英」のときは 0 ボタンを繰り返し押して記号を入力することもできます。

IP アドレス入力時にドットを入力するには

➡ ボタン、またはドットボタンを押します。

ご注意

管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv6」または「IPv4/IPv6」に設定されている場合は、「:」（コロン）が入力できます。
「IPv4/IPv6」に設定されている場合、➡ ボタンで入力できるのはコロンのみです。「IPv4/IPv6」に設定されていて IPv4 で発信する場合は、ドットを入力する際にドットボタンを 2 回押してください。

入力をまちがえたら

一文字削除ボタンを押します。最後に入力した文字や数字、記号が消えます。

入力中の文字をすべて削除するには

F3 ボタンを押します。何も入力されていない状態に戻ります。

ソフトキーボードで文字や数字を入力する

画面に表示されるソフトキーボードを使って、メニュー上に文字や数字を入力する方法を説明します。

一般設定メニューの「メニュー画面」ページ、「ソフトキーボード表示」（102 ページ）を「入」に設定すると、入力する必要があるとき、画面にソフトキーボードが自動的に表示されます。

ヒント

ソフトキーボードが表示された状態でもリモコンからの入力は可能です。

文字や数字を入力するには

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでソフトキーボードの数、英、カナボタンを選択し、決定ボタンを押す。

数ボタン：数字を入力するとき。

英ボタン：アルファベットを入力するとき。

カナボタン：カタカナを入力するとき。(カタカナが入力できる場合のみ表示されます。)

2 ↑/↓/←/→ ボタンで入力したい文字（カナのときは文字行）が表示されたボタンを選び、決定ボタンを押す。

数のとき：選んだ数字が画面上に入力されます。

英またはカナのとき：入力できる文字が画面に表示されますので、希望の文字を選び、決定ボタンを押します。選んだ文字が画面上に入力されます。

3 手順 2 を繰り返し、入力する。

4 入力が終わったら「完了」を選び、決定ボタンを押す。

記号を入力するには

1 キーボードの記号ボタンを選択し、決定ボタンを押す。
入力できる記号が表示されます。

2 ↑/↓/←/→ ボタンで希望の記号を選び、決定ボタンを押す。
選んだ記号が入力されます。

3 手順 1、2 を繰り返し、入力する。

4 入力が終わったら「完了」を選び、決定ボタンを押す。

IP アドレス入力時にドットを入力するには

→ ボタン、またはドットボタンを選んで決定ボタンを押します。

1 文字分のあきを作るには

空白ボタンを選んで決定ボタンを押します。

入力をまちがえたら

最後に入力した文字や数字を消すには、一文字削除ボタンを選んで決定ボタンを押します。

入力した文字をすべて消すには

中止ボタンを選んで決定ボタンを押します。
リモコンの F3 ボタンを押しても、すべての文字を消すことができます。

2章 登録と設定 ー 管理者用

この章では、システムの管理者が行う登録と設定の全般について説明しています。管理者の方がお読みください。

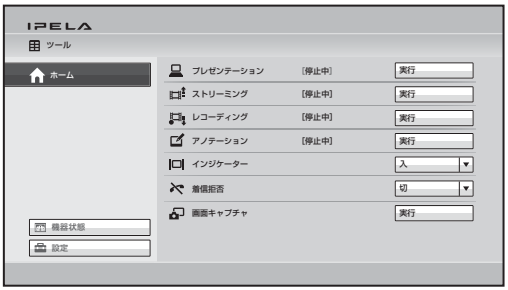
システムを設定する

接続をする前に、設定メニューを使って自分側の端末をあらかじめ設定しておいてください。
ここでは、設定メニューの表示のしかたと、どんなメニューがあるかを紹介します。

設定メニューを表示する

1 リモコンのツールボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「ツール」を選び、決定ボタンを押す。

ツールメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「設定」を選び、決定ボタンを押す。

設定メニューが表示されます。

設定メニューから選べるメニュー

設定メニューは、設定内容により、以下のような設定メニューに分類されています。設定項目が多いメニューは、複数のページに分かれている場合もあります。該当するメニューボタンを選んで設定を行ってください。

工場出荷時は、よく使われる設定のメニューボタンが表示されています。リモコンの F4 ボタンを押すとすべての設定メニューボタンが表示されます。もう一度 F4 ボタンを押すと、よく使われる設定の表示に戻ります。

各設定メニューの説明は、以下のページをご覧ください。

通信回線設定メニュー（76 ページ）
発信設定メニュー（76 ページ）
着信設定メニュー（77 ページ）
多地点設定メニュー（78 ページ）
通信モード設定メニュー（79 ページ）
音声設定メニュー（83 ページ）
映像設定メニュー（88 ページ）
LAN 設定メニュー（91 ページ）
QoS 設定メニュー（96 ページ）
TOS 設定メニュー（97 ページ）
SIP 設定メニュー（98 ページ）
ISDN 設定メニュー（99 ページ）
アノテーション設定メニュー（99 ページ）
カメラ設定メニュー（100 ページ）

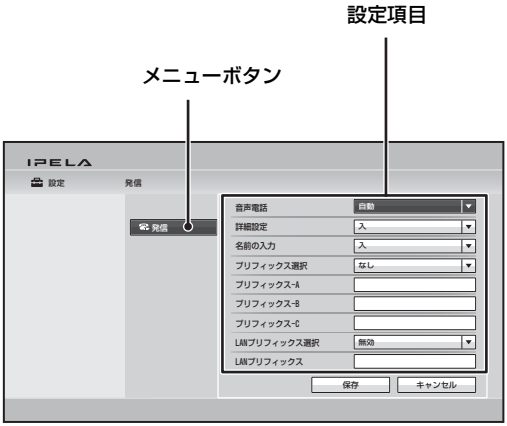
一般設定メニュー（100 ページ）
ホーム画面設定メニュー（103 ページ）
管理者設定メニュー（105 ページ）
暗号化設定メニュー（112 ページ）
共有アドレス帳設定メニュー（113 ページ）

ご注意

多地点設定メニューは HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールしているときのみ表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで設定したいメニューボタンを選び、決定ボタンまたは → ボタンを押す。

選んだメニューの設定ができるようになります。



4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押す。

5 リストから項目を選択する、または入力欄に入力する。

◆各設定項目については、76 ページ～ 113 ページをご覧ください。

6 選択または入力が終わったら、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定が保存され、設定メニューに戻ります。

設定を中止するには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。または、リモコンの戻るボタンを押してください。

左側の階層に戻るには

リモコンの ← ボタン、または戻るボタンを押してください。

通信回線設定メニュー

相手との接続に使用する回線インターフェースを設定します。

通信回線　通信回線

通信回線

使用する回線インターフェースを IP、ISDN、SIP から選びます。複数の回線インターフェースを選択できます。

主に使用する回線

主に使用する回線インターフェースを 1 つ、IP、ISDN、SIP から選びます。

LAN2 を使用する（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

システム本体裏面の品2（LAN2）端子を使用するかどうかを選びます。

切：品2 端子を使用しない場合。

入：品2 端子を使用する場合。

ご注意

「LAN2 を使用する」を「入」に設定すると、品2 端子を使った本機の機能が一部制限されます。

◆詳しくは、「LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（119 ページ）をご覧ください。

発信設定メニュー

発信時の属性などを設定します。

発信　発信

音声電話

ボイスミーティングのとき、電話と通信する音声圧縮方式を選びます。

自動：自動的に選ぶ場合。

G.711 μ-law：G.711 μ-law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

G.711A-law：G.711A-law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

詳細設定

アドレス帳のリスト編集メニューに「詳細設定」ボタンを表示するかどうかを選びます。

「詳細設定」ボタンを選択すると、リスト編集メニューから発信の詳細を設定することができます。

切：「詳細設定」ボタンを表示しない場合。

入：「詳細設定」ボタンを表示する場合。

名前の入力

接続を始めるときに、使用者の名前を通信ログに記録するかどうかを選びます。

切：使用者の名前を記録しない場合。

入：使用者の名前を記録する場合。発信するたびに名前入力用のメニューが表示されます。

プリフィックス選択

通常使用するプリフィックス（回線番号の前につける発信番号）の設定を選びます。

なし：プリフィックスを使用しない場合。

プリフィックス -A：「プリフィックス -A」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -B：「プリフィックス -B」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -C：「プリフィックス -C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -A

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -A」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

プリフィックス -B

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -B」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

プリフィックス -C

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -C」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

ご注意

0（ゼロ）発信の場合は、「0」と入力してください。

LAN プリフィックス選択

IP 接続による発信時に LAN プリフィックスを有効にするか無効にするかを選びます。

無効：プリフィックスを無効にします。

有効：プリフィックスを有効にします。

LAN プリフィックス

IP 接続による発信時に、この欄に入力した内容が IP アドレスの前に付加されます。LAN プリフィックス選択の設定で使用するかしないかを選択します。

着信設定メニュー

着信時の設定をします。

着信 **着信**

自動着信

自動着信するかどうかを選びます。

入：自動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、自動的に回線がつながります。

切：手動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。「応答しますか？」のメッセージ画面で「OK」を選ぶと、回線がつながります。

ISDN ダイヤルイン

複数加入者番号を使用しているかどうかを選びます。

切：複数加入者番号を使用していないとき。

入：複数加入者番号を使用しているとき。

着信時マイク

相手から呼び出しを受けて接続したとき、相手にこちらの音声を送信するかどうかを選びます。

入：着信時、こちらの音声を送信する場合。

切：着信時、こちらの音声を送信しない場合。

通信中の着信拒否（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

通信中に他の端末からの呼び出しを受けたときに、接続するかどうかを選びます。

入：接続しない場合。

切：接続する場合。

◆詳しくは、「着信時の音声の送信をカットする―着信時マイクオフ」（160 ページ）をご覧ください。

多地点設定メニュー（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

自端末が親機になったときの多地点接続の設定をします。

このメニューは HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールしている場合のみ表示されます。

◆PCSA-MCG80 のインストールのしかたは、225 ページをご覧ください。

ご注意

本機を親機として PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55/XL55 以外の子機と接続する場合、最大使用帯域は 4 Mbps に制限されます。

多地点　多地点

マルチポイントモード

自動：対向接続（1 対 1 の接続）から多地点接続へと、自動的に移行する場合。

入：常に多地点接続を行う場合。

放送モード

放送モードを選びます。

分割：接続している各端末の映像を分割した画面に映す場合。

音声検出：接続中のすべての端末の中で音量の一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末へ自動的に送信する場合。

音声検出（720P）：音声検出モード時に、H.264、720p（1280 × 720 画素）の映像方式での送信を可能にする場合。

ご注意

・「音声検出（720P）」は ISDN 接続や SIP 接続には使用できません。また、IP 接続の場合でも、H.264 映像方式に対応していない相手端末とは接続できません。

・「音声検出（720P）」を選択した場合、通信中に放送モードを切り換えることができません。通信を始める前に放送モードを設定してください。

画面分割

多地点接続中は、自分側の映像と接続している端末の映像が 1 台のモニターに分割して表示されます。分割する方法を選びます。

自動分割：接続している端末数が 2 か 3 のときは 4 分割、接続している端末数が 4 か 5 のときは 6 分割で表示する場合。

6 分割固定：接続している端末の数に関わりなく 6 分割で表示する場合。

ご注意

接続している端末数が 1 の場合は、設定にかかわらず、全画面表示になります。

通信モード設定メニュー

通信モードの設定をします。

ご注意

通信モード設定メニューで設定できる項目は、通信回線設定メニューの回線インターフェースの設定や、通信モード設定メニューの「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」の設定によって異なります。設定できる項目のみが画面に表示されます。
また、「通信モード 2」ページ以降のページ数も、設定項目の増減に伴って変化します。

通信モード　IP

IP 接続時の通信モードを設定します。

送信／受信　個別設定

送信時と受信時の IP 接続の設定を個別にするかどうかを選びます。

切：送信時、受信時とも同じ設定で通信する場合。

入：送信／受信のそれぞれに異なる設定をする場合。

対向／多地点　個別設定（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

対向接続（1 対 1 の接続）と多地点接続で、IP 接続の設定を個別にするかどうかを選びます。

切：対向接続時、多地点接続時とも同じ設定で通信する場合。

入：対向接続と多地点接続のそれぞれに異なる設定をする場合。

ご注意

このページの「個別設定」の設定に応じて、「IP：モード」設定ページの設定項目とページ数が変わります。

通信モード　IP：モード

全使用帯域（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

システムが使用する全体の帯域を選択します。
多地点接続時は全地点合計のビットレートになります。
128Kbps、384Kbps、512Kbps、768Kbps、1Mbps、2Mbps、3Mbps、4Mbps、5Mbps、6Mbps、7Mbps、8Mpbs、9Mbps、10Mbps、その他を選択できます。

ご注意

多地点接続時、各地点との実際の通信ビットレートは「全使用帯域」を超えないように自動調整されます。

通信ビットレート

1 地点あたりの通信ビットレートを選択します。
IP の「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、送信／受信、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。
128Kbps、384Kbps、512Kbps、768Kbps、1Mbps、2Mbps、3Mbps、4Mbps、5Mbps、6Mbps、7Mbps、8Mpbs、9Mbps、10Mbps、その他を選択できます。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「5Mbps」、「6Mbps」、「7Mbps」、「8Mbps」、「9Mbps」、「10Mbps」は選択できません。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。

IP の「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、送信／受信、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。
G.711、G.722、G.728、MPEG4（MPEG4 AAC）から複数の方式を選択できます。

ご注意

相手側のシステムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。
IP の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。
入：双方のカメラを操作したい場合。通常は「入」にしておきます。
切：相手に自分側のカメラを操作されたくない場合。

H.239

H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用すると、カメラ映像とプレゼンテーション用データを同時に送信できます。
H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用するかどうかを選びます。
入：H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用する場合。
切：H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用しない場合。

H.239 レート割合

本機で H.239 プレゼンテーション送信をする際は、カメラ映像と H.239 プレゼンテーションデータで送信に使用する帯域幅を分け合っています。この項目では、全帯域幅のうち、H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する帯域の割合を選びます。
2/3：全帯域幅のうち、2/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。
1/2：全帯域幅のうち、1/2 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。
1/3：全帯域幅のうち、1/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

映像サイズ

送受信する映像サイズを選択します。
IP の「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、送信／受信、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。
720、W4CIF、W432P、WCIF、4CIF、CIF、QCIF、自動が選択できます。

映像方式

送受信する映像の圧縮方式を選びます。
IP の「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、送信／受信、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。
H.261、H.263+、H.264 を選択できます。

映像フレーム数

送受信する映像のフレーム数を選びます。
IP の「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、送信／受信、対向／多

地点のそれぞれに異なった設定ができます。

15fps：最大 15 フレーム／秒で送信する場合。

30fps：最大 30 フレーム／秒で送信する場合。

60fps：最大 60 フレーム／秒で送信する場合。

自動：自動的にフレーム数を切り換える場合。

通信モード　**ISDN**

ISDN 接続時の通信モードを設定します。

対向／多地点　個別設定（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

対向接続（1 対 1 の接続）と多地点接続で、ISDN 接続の設定を個別にするかどうかを選びます。

切：対向接続時、多地点接続時とも同じ設定で通信する場合。

入：対向接続と多地点接続のそれぞれに異なる設定をする場合。

ご注意

このページの「個別設定」の設定に応じて、「ISDN：モード」設定ページの設定項目とページ数が変わります。

通信モード　**ISDN：モード**

ISDN 使用帯域（発信）

発信時に使用する ISDN 回線の本数を選択します。

ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

1B（64K）、2B（128K）、3B（192K）、4B（256K）、5B（320K）、6B（384K）、8B（512K）、12B（768K）を選択できます。

ISDN 使用帯域（着信）

着信時に使用する ISDN 回線の本数を選択します。

ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

1B（64K）、2B（128K）、3B（192K）、4B（256K）、5B（320K）、6B（384K）、8B（512K）、12B（768K）を選択できます。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。

ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

G.711、G.722、G.728、MPEG4（MPEG4 AAC）を選択できます。

ご注意

相手側のシステムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。

ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

入：双方のカメラを操作したい場合。通常は「入」にしておきます。

切：相手側のカメラを操作しない場合。

H.239

H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用するかどうかを選びます。

入：H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用する場合。

切：H.239 に準拠したプレゼンテーションモードを使用しない場合。

H.239 レート割合

本機で H.239 プレゼンテーション送信をする際は、カメラ映像と H.239 プレゼンテーションデータで送信に使用する帯域幅を分け合っています。この項目では、全帯域幅のうち、H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する帯域の割合を選びます。

2/3：全帯域幅のうち、2/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

1/2：全帯域幅のうち、1/2 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

1/3：全帯域幅のうち、1/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

制限網

ISDN 通信網速度を選びます。

自動：通常の ISDN 回線を使用して、相手と接続する場合。

56K：ISDN 回線の通信速度が 56 Kbps の国や地域と接続する場合。

ご注意

出荷時の設定では ISDN 回線に 64 Kbps で接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDN の通信速度として 64 Kbps と 56 Kbps の 2 種類が使用されています。このような国、地域の相手と 64 Kbps でコミュニケーションを開始しようとするとうまくつながらないことがあります。この場合は、「制限網」を「56K」に切り換えてください。

映像サイズ

送受信する映像サイズを選択します。ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

W4CIF、W432P、WCIF、4CIF、CIF、自動が選択できます。

映像方式

送受信する映像の圧縮方式を選びます。ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

H.261、H.263+、H.264 を選択できます。

映像フレーム数

送受信する映像のフレーム数を選びます。

ISDN の「対向／多地点　個別設定」を「入」にしてあるときは、対向／多地点のそれぞれに異なった設定ができます。

15fps：最大 15 フレーム／秒で送信する場合。

30fps：最大 30 フレーム／秒で送信する場合。

自動：自動的にフレーム数を切り換える場合。

通信モード　SIP：モード

SIP 接続時の通信モードを設定します。

通信ビットレート

1 地点あたりの通信ビットレートを選択します。
128Kbps、384Kbps、512Kbps、768Kbps、1Mbps、2Mbps、3Mbps、4Mbps、5Mbps、6Mbps、7Mbps、8Mpbs、9Mbps、10Mbps、その他を選択できます。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「5Mbps」、「6Mbps」、「7Mbps」、「8Mbps」、「9Mbps」、「10Mbps」は選択できません。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。
G.728、G.722、G.711 を選択できます。

ご注意

相手側のシステムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。
入：双方のカメラを操作したい場合。
　通常は「入」にしておきます。
切：相手側のカメラを操作しない場合。

映像サイズ

送受信する映像サイズを選択します。
720、W4CIF、W432P、WCIF、4CIF、CIF、QCIF、自動が選択できます。

映像方式

送受信する映像の圧縮方式を選びます。
H.261、H.263+、H.264、MPEG4 を選択できます。

映像フレーム数

送受信する映像のフレーム数を選びます。
15fps：最大 15 フレーム／秒で送信する場合。
30fps：最大 30 フレーム／秒で送信する場合。
60fps：最大 60 フレーム／秒で送信する場合。
自動：自動的にフレーム数を切り換える場合。

音声設定メニュー

音声に関する設定をします。

音声1　基本設定 1

音声入力

どこから音声を入力するかを選びます。
MIC：マイクの音声を入力する場合。
AUX：外部機器の音声を入力する場合。
MIC ＋ AUX：マイクと外部機器の両方の音声を入力する場合。

ご注意

映像設定メニューの「オーディオ入力とのリンク」が「入」のときは、「音声入力」と「入力選択（MIC 系）」、「入力選択（AUX 系）」は設定できません。

入力選択（MIC 系）／
入力選択（AUX 系）

入力するマイクや外部機器を選びます。

PCS-XG80/XG80S の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、4 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO 1」か「AUDIO 2」を選べます。

「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（A1/A3)」、「EC-MIC（A7)」、「AUDIO 1」、「AUDIO 2」から 1 つと、AUX 系として「AUDIO 1」または「AUDIO 2」のどちらか 1 つを選択できます。

MIC（A1/A3）：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

EC-MIC（A7）：EC-MIC（A7）端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7（別売）を使用する場合。

AUDIO 1：AUDIO 1 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

AUDIO 2：AUDIO 2 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

「MIC（A1/A3)」、「EC-MIC（A7)」を同時に使用することはできません。

PCS-XG55/XG55S の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、2 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO」になります。「MIC+AUX」のときは、MIC 系が「MIC（A1/A3)」、AUX 系が「AUDIO」になります。

MIC（A1/A3）：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

AUDIO：AUDIO IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S では、エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 は使用できません。

PCS-XA80 の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、5 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO 1」か「AUDIO 2」を選べます。

「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（カメラ)」「MIC（A1/A3)」、「EC-MIC（A7)」、「AUDIO 1」、「AUDIO 2」から 1 つと、AUX 系として「AUDIO 1」または「AUDIO 2」のどちらか 1 つを選択できます。

MIC（カメラ）：HD カメラユニット PCSA-CXA55 に内蔵のマイクを使用する場合。

MIC（A1/A3）：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

EC-MIC（A7）：EC-MIC（A7）端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7（別売）を使用する場合。

AUDIO 1：AUDIO 1 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

AUDIO 2：AUDIO 2 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

「MIC（カメラ）」「MIC（A1/A3）」、「EC-MIC（A7）」を同時に使用することはできません。

PCS-XA55 の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。
「MIC」のときは、3 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO」になります。「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（カメラ）」「MIC（A1/A3）」からひとつを選択します。AUX 系は「AUDIO」になります。

MIC（カメラ）：HD カメラユニット PCSA-CXA55 に内蔵のマイクを使用する場合。

MIC（A1/A3）：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

AUDIO：AUDIO IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

PCS-XA55 では、エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 は使用できません。

エコーキャンセラー

内部のエコーキャンセラーを使用するかどうかを選びます。

入：内部のエコーキャンセラーを使用する場合。

切：内部のエコーキャンセラーを使用しない場合。

ご注意

「音声入力」が「AUX」のときは、エコーキャンセラーは機能しません。

リップシンク

発言者の唇の動きと音声を同期させるリップシンク機能を使用するかどうかを選びます。

自動：リップシンク機能を使用する場合。

切：リップシンク機能を使用しない場合。

ご注意

- QoS 設定メニューの「最適レート制御（ARC）」、「パケット再送要求（ARQ）」または「前方誤り訂正（FEC）」が「入」のときは、「リップシンク」を「切」にできません。
- 「リップシンク」が「切」のときは、QoS 設定メニューの「最適レート制御（ARC）」、「パケット再送要求（ARQ）」または「前方誤り訂正（FEC）」は切り換えができません。

録音ミュート

AUDIO 1 IN または AUDIO 2 IN 端子と REC OUT 端子に 1 台の録音機器を接続し、その録音機器で音声を録音するときに、本機能を使用することにより録音機器内部でのループバックが原因で音が異常発振するのを防ぎます（録音ミュート）。

切：録音ミュートを使用しない場合。

入：録音ミュートを使用する場合。

ご注意

- 録音ミュートを「入」にした場合にミュートされるのは外部機器からの信号のみです。マイクからの信号および

相手側からの信号はミュートされません。したがって、「音声入力」が「AUX」または「MIC + AUX」のときのみ録音ミュートが機能します。

・AUDIO 1 IN または AUDIO 2 IN 端子と REC OUT 端子に 1 台の録音機器を接続したとき、録音ミュートして録音機器からの音だけを録音するか自分側の音声も録音したい場合には、録音機器とは別にマイク入力機器をご使用ください。

・PCS-XG55/XG55S/XA55 には、AUDIO 1 IN 端子はありません。また、AUDIO 2 IN 端子の名称は AUDIO IN 端子です。

入力モード

音声入力の入力モードを選びます。

ステレオ：それぞれの音声入力端子の R 端子と L 端子に入力する音声を、ステレオ音声の右、左として入力する場合。

モノラル：それぞれの音声入力端子の R 端子と L 端子に入力する音声を、モノラル音声として入力する場合。

出力モード

音声出力の出力モードを選びます。

ステレオ：AUDIO OUT 端子および HDMI OUT 端子の R 端子と L 端子から出力する音声を、ステレオ音声の右、左として出力する場合。

モノラル：AUDIO OUT 端子の R 端子と L 端子から出力する音声を、2 チャンネルのモノラル音声として出力する場合。

音声2

基本設定 2

AUX 入力のローカルモニター出力

AUDIO 1 IN または AUDIO 2 IN 端子から入力した音声を、システムの音声出力から出力するかどうかを選びます。

入：音声出力から出力する場合。

切：音声出力から出力しない場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 には、AUDIO 1 IN 端子はありません。また、AUDIO 2 IN 端子の名称は AUDIO IN 端子です。

MIC 入力左右反転

マイク入力した音声を左右反転して相手に送信するかどうかを選びます。左右反転すると、カメラ映像と音声の左右を合わせることが可能です。

切：音声を左右反転しないで送信する場合。

入：音声を左右反転して送信する場合。

音声入力遅延設定

映像と音声を合わせるために音声入力の遅延量を設定します。

既定値－ 100ms：デフォルト－ 100ms の遅延量を使用する場合。

既定値－ 50ms：デフォルト－ 50ms の遅延量を使用する場合。

既定値：デフォルトの遅延量を使用する場合。

既定値＋ 50ms：デフォルト＋ 50ms の遅延量を使用する場合。

既定値＋ 100ms：デフォルト＋ 100ms の遅延量を使用する場合。

ユーザー設定：ユーザーが設定した遅延量を使用する場合。

音声入力遅延量

「音声入力遅延設定」が「ユーザー設定」のとき、映像と音声を合わせるために音声入力の遅延量を設定します。

音声出力遅延設定

映像と音声を合わせるために音声出力の遅延量を設定します。

既定値－ 100ms：デフォルト－ 100ms の遅延量を使用する場合。

既定値－ 50ms：デフォルト－ 50ms の遅延量を使用する場合。

既定値：デフォルトの遅延量を使用する場合。

既定値＋ 50ms：デフォルト＋ 50ms の遅延量を使用する場合。

既定値＋ 100ms：デフォルト＋ 100ms の遅延量を使用する場合。

ユーザー設定：ユーザーが設定した遅延量を使用する場合。

音声出力遅延量

「音声出力遅延設定」が「ユーザー設定」のとき、映像と音声を合わせるために音声出力の遅延量を設定します。

REC OUT（録音出力）モード

ステレオ：REC OUT 端子の R 端子と L 端子から出力する音声を、ステレオのまま、相手側と自分側の音声をミックスして出力する場合。

モノラル 2ch：REC OUT 端子の R 端子と L 端子から出力する音声を、相手側の音声と自分側の音声を独立させて出力する場合。

レンズカバーマイクオン / オフ機能

レンズカバーの開閉とマイクのオン / オフを連動させるかどうかを選びます。

オン：レンズカバーを閉じるとマイクがオフになります。

オフ：レンズカバーを開閉してもマイクのオン / オフには影響しません。

ご注意

PCS-XA80/XA55 でのみ使用できます。

音声3

効果音

ビープ音

リモコンのボタンを押したときに出るビープ音の音量と、ビープ音を出力するかどうかを選びます。

大、中、小、切から選択できます。

効果音

システム起動時や接続開始時または切断時に出る効果音の音量と、効果音を出力するかどうかを選びます。

大、中、小、切から選択できます。

発信音

発信時のリングバックトーンや話し中のビジートーンの音量と、これらを出力するかどうかを選びます。

大、中、小、切から選択できます。

着信音

着信時のリンガートーンの音量と、リンガートーンを出力するかどうかを選びます。

大、中、小、切から選択できます。

映像設定メニュー

映像の入出力に関する設定をします。

映像1 基本設定

ビデオ入力

入力する映像を選びます。

カメラ：CAMERA 端子に接続したカメラの映像を入力する場合。

RGB：RGB IN 端子に接続した外部機器の映像を入力する場合。

YPbPr：VIDEO IN YPbPr 端子に接続した外部機器の映像を入力する場合。

S VIDEO：S VIDEO IN 端子に接続した外部機器の映像を入力する場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

プレゼンテーション画面

プレゼンテーション画面の画面パターンを選びます。

「プレゼンテーション画面」の設定は、「H.239」が OFF で接続されている場合に有効になります。

1 画面：RGB IN 端子に接続した外部機器からの映像（コンピューター画像）を全画面送信する場合。

PandP：RGB IN 端子に接続した外部機器からの映像（コンピューター画像など）と選択されている入力映像（カメラ映像など）を PandP モードで送信する場合。

サイド バイ サイド：RGB IN 端子に接続した外部機器からの映像（コンピューター画像など）と選択されている入力映像（カメラ映像など）を 2 画面（サイド バイ サイド）モードで送信する場合。

モニター出力

システムから出力する映像を選びます。

HDMI：HDMI OUT 端子に接続した外部機器に映像を出力する場合。

RGB：RGB OUT 端子に接続した外部機器に映像を出力する場合。

HDMI+RGB：HDMI OUT 端子と RGB OUT 端子の両方に接続した外部機器に映像を出力する場合。

ご注意

「モニター出力」で「HDMI+RGB」を選択したとき HDMI モニターが接続されていないと、メニューを見ることができません。必ず HDMI モニターを接続してください。

ヒント

「モニター出力」を誤って設定すると、モニターに映像が表示されなくなります。この場合は、本体の電源スイッチとリモコンのボタンを使って正しい「モニター出力」に設定し直してください。

本体の I/⏻（電源）ランプが点灯していることを確認後、

1 本体の I/⏻（電源）スイッチを押す。

2 5 秒以内に、設定したい「モニター出力」に応じ、リモコンのボタンを次のように押す。

HDMI：入力切換ボタン（1 回）→ 3 ボタン（3 回）

RGB：入力切換ボタン（1 回）→ 4 ボタン（3 回）

HDMI + RGB：入力切換ボタン（1 回）→ 5 ボタン（3 回）

これで設定が変更され、本機に接続されたモニターに映像が表示されます。

RGB モニター出力フォーマット

RGB OUT 端子から出力する映像信号のフォーマットを選びます。

SXGA：SXGA 信号を出力する場合。

XGA：XGA 信号を出力する場合。

WXGA：WXGA 信号を出力する場合。

ブランキング時間

HDMI OUT 端子へ接続したモニターを使用時、映像入力を切り換えたときに一時的に生ずるブラックアウト期間の長さを選択します。

大、中、小を選択できます。

周波数

映像入出力の周波数「50 Hz」または「60 Hz」を選びます。

ご注意

工場出荷時は、「周波数」は「60Hz」に設定されています。映像入出力機器が「50Hz」の周波数に対応していない場合に「50Hz」に設定すると、映像が出力されなかったり、モニターにメニューが表示されなくなりますのでご注意ください。

ヒント

「周波数」の設定を変更すると本機が再起動します。誤って設定すると、再起動後、モニターに映像が表示されなくなります。この場合は、本体の電源スイッチとリモコンのボタンを使って正しい「周波数」に設定し直してください。

本機の再起動が完了し、本体の **I**/⏻（電源）ランプが点滅から点灯に変わったら、

1 本体の **I**/⏻（電源）スイッチを押す。

2 5 秒以内に、設定したい「周波数」に応じ、リモコンのボタンを次のように押す。

60 Hz：入力切換ボタン（1 回）→ 1 ボタン（3 回）

50 Hz：入力切換ボタン（1 回）→ 2 ボタン（3 回）

これで設定が変更され、本機が再起動します。

映像2 ビデオ入力選択名

選択したビデオ入力を表わす名前を 12 文字以内で設定します。

ビデオ入力選択名（カメラ）

「ビデオ入力」で「カメラ」を選択した場合の名前。

ビデオ入力選択名（RGB）

「ビデオ入力」で「RGB」を選択した場合の名前。

ビデオ入力選択名（YPbPr）

「ビデオ入力」で「YPbPr」を選択した場合の名前。

ビデオ入力選択名（S VIDEO）(PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ)

「ビデオ入力」で「S VIDEO」を選択した場合の名前。

映像3 音声とのリンク

映像と音声のリンクを設定します。

オーディオ入力とのリンク

それぞれのビデオ入力を特定のマイク入力やその他のオーディオ入力とリンクさせ、ビデオ入力を切り換えると同

時にオーディオ入力を切り換えることができます。

切：ビデオ入力とマイク入力やその他のオーディオ入力を別々に切り換える場合。

入：ビデオ入力とマイク入力やその他のオーディオ入力の切り換えをリンクさせる場合。

ご注意

「オーディオ入力とのリンク」を「入」に設定した場合、音声設定メニューの「基本設定 1」ページ、「音声入力」と「入力選択（MIC 系）」、「入力選択（AUX 系）」は選択できません。

ビデオ入力

入力する映像を選びます。

カメラ：CAMERA 端子に接続したカメラの映像を選ぶ場合。

S VIDEO：S VIDEO IN 端子に接続した外部機器の映像を選ぶ場合。

RGB：RGB IN 端子に接続した外部機器の映像を選ぶ場合。

YPbPr：VIDEO IN YPbPr 端子に接続接続した外部機器の映像を選ぶ場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

音声入力

「オーディオ入力とのリンク」を「入」にしたとき、「ビデオ入力」で選択されている映像入力とリンクさせる音声入力を選びます。

MIC：マイクの音声を入力する場合。

AUX：外部機器の音声を入力する場合。

MIC ＋ AUX：マイクと外部機器の両方の音声を入力する場合。

入力選択（MIC 系）／入力選択（AUX 系）

「オーディオ入力とのリンク」を「入」にしたとき、入力するマイクや外部入力の音声を選びます。

PCS-XG80/XG80S の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、4 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO 1」か「AUDIO 2」を選べます。

「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（A1/A3）」、「EC-MIC（A7）」、「AUDIO 1」、「AUDIO 2」から 1 つと、AUX 系として「AUDIO 1」または「AUDIO 2」のどちらか 1 つを選択できます。

MIC（A1/A3）：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

EC-MIC（A7）：EC-MIC（A7）端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7（別売）を使用する場合。

AUDIO 1：AUDIO 1 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

AUDIO 2：AUDIO 2 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

「MIC（A1/A3）」、「EC-MIC（A7）」を同時に使用することはできません。

PCS-XG55/XG55S の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、2 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO」

になります。「MIC+AUX」のときは、MIC 系が「MIC（A1/A3)」、AUX 系が「AUDIO」になります。

MIC（A1/A3)：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

AUDIO：AUDIO IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S では、エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 は使用できません。

PCS-XA80 の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、5 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO 1」か「AUDIO 2」を選べます。

「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（カメラ)」「MIC（A1/A3)」、「EC-MIC（A7)」、「AUDIO 1」、「AUDIO 2」から 1 つと、AUX 系として「AUDIO 1」または「AUDIO 2」のどちらか 1 つを選択できます。

MIC（カメラ)：HD カメラユニット PCSA-CXA55 に内蔵のマイクを使用する場合。

MIC（A1/A3)：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

EC-MIC（A7)：EC-MIC（A7）端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7（別売）を使用する場合。

AUDIO 1：AUDIO 1 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

AUDIO 2：AUDIO 2 IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

ご注意

「MIC（カメラ)」「MIC（A1/A3)」、「EC-MIC（A7)」を同時に使用することはできません。

PCS-XA55 の場合

「音声入力」の設定により、選択できる項目が変わります。

「MIC」のときは、3 項目のうち 1 つを選べます。「AUX」のときは「AUDIO」になります。「MIC+AUX」のときは、MIC 系として「MIC（カメラ)」「MIC（A1/A3)」からひとつを選択します。AUX 系は「AUDIO」になります。

MIC（カメラ)：HD カメラユニット PCSA-CXA55 に内蔵のマイクを使用する場合。

MIC（A1/A3)：MIC（A1/A3）端子に接続したマイク PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）または PCSA-A3（別売）を使用する場合。

AUDIO：AUDIO IN 端子に接続した外部機器の音声を入力する場合。

LAN 設定メニュー

LAN に関する設定をします。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

ご注意

・LAN 設定メニューで設定できる項目は、通信回線設定メニューの「LAN2 を使用する」の設定や管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」の設定に

よって異なります。
また、「LAN2」ページ以降のページ数は、設定項目の増減に伴って変化します。
・メニューなどの表記で「LAN1」となっている箇所は、PCS-XG55/XG55S/XA55では「LAN」となります。

LAN 基本設定：

LAN1

ホストネーム
ホスト名を30文字以内で入力します。

DHCPモード
DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を使用するかどうかを設定します。

自動：IPアドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを自動的に取得する場合。

切：DHCPを「切」に設定する場合。この場合は、IPアドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを入力してください。

プレフィックス長
IPv6のIPアドレスのプレフィックス長を0～128の範囲で設定します。

IPアドレス
IPアドレスを入力します。

ネットワークマスク
ネットワークマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス
デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNSプライマリ
DNS（Domain Name System）プライマリサーバーのアドレスを入力します。

DNSセカンダリ
DNSセカンダリサーバーのアドレスを入力します。

LANモード
LAN接続時のインターフェースのタイプと通信モードを選びます。

自動：インターフェースのタイプと通信モードを自動的に認識させる場合。

100Mbps Full Duplex：100BASE-TX、全二重モードで接続する場合。

100Mbps Half Duplex：100BASE-TX、半二重モードで接続する場合。

10Mbps Full Duplex：10BASE-T、全二重モードで接続する場合。

10Mbps Half Duplex：10BASE-T、半二重モードで接続する場合。

LAN 基本設定：

LAN1：IPv6

ご注意

管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4/IPv6」に設定されている場合には、IPv6用の設定画面が表示されます。この場合、LANモードはIPv6の設定画面で設定してください。

DHCPモード
DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を使用するかどうかを設定します。

自動：IPアドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを自動的に取得する場合。

切：DHCP を「切」に設定する場合。この場合は、IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

プレフィックス長

IPv6 の IP アドレスのプレフィックス長を 0 ～ 128 の範囲で設定します。

IP アドレス

IP アドレスを入力します。

ゲートウェイアドレス

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS プライマリ

DNS（Domain Name System）プライマリサーバーのアドレスを入力します。

DNS セカンダリ

DNS セカンダリサーバーのアドレスを入力します。

LAN モード

LAN 接続時のインターフェースのタイプと通信モードを選びます。

自動：インターフェースのタイプと通信モードを自動的に認識させる場合。

100Mbps Full Duplex：100BASE-TX、全二重モードで接続する場合。

100Mbps Half Duplex：100BASE-TX、半二重モードで接続する場合。

10Mbps Full Duplex：10BASE-T、全二重モードで接続する場合。

10Mbps Half Duplex：10BASE-T、半二重モードで接続する場合。

LAN PPPoE

PPPoE

PPPoE を使用して LAN 接続するかどうかを選択します。

PPPoE を使用すると、フレッツ* ADSL または B フレッツ回線をルーターを接続せずに利用できます。

切：PPPoE を使用しない場合。

LAN1：PPPoE を使用して🖧1（LAN1）端子（PCS-XG55/XG55S では🖧（LAN）端子）経由で LAN 接続をする場合。

LAN2：PPPoE を使用して🖧2（LAN2）端子経由で LAN 接続をする場合。

ご注意

- PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「LAN1」ではなく「入」となります。
- PCS-XG55/XG55S では、「LAN2」は選択できません。
- PPPoE は、NTT のフレッツ ADSL およびB フレッツサービスのみ動作保証を行っています。
- 各ページの画面下部に PPPoE の登録状況が表示されます。

*「フレッツ」は、NTT 東日本・NTT 西日本のサービス名であり、登録商標です。

ユーザー名

PPPoE を使用して LAN 接続するときのユーザー名を入力します。

パスワード

PPPoE を使用して LAN 接続するときのパスワードを入力します。

固定 IP

固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続するかどうかを選択します。

切：固定 IP アドレスを使用しない場合。

入：固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続する場合。

固定 IP アドレス

「固定 IP」が「入」のとき、固定 IP アドレスを入力します。

DNS

PPPoE 接続する場合、DNS サーバーを自分で設定するか自動取得するかを選びます。

自動取得：DNS サーバーを自動取得する場合。

設定する：DNS サーバーを自分で設定する場合。

DNS プライマリ

DNS プライマリアドレスを入力します。

DNS セカンダリ

DNS セカンダリアドレスを入力します。

LAN　NAT 設定

NAT モード

LAN 上の複数のコンピューターがひとつの IP アドレスを共有できる NAT（Network Address Translation）を使用したローカルネットワークに本機を接続するかどうかを選びます。

自動：NAT を使用しているかどうかを自動判別して設定を自動で行う場合。UPnP ルーターを使用している場合のみ有効です。

入：NAT のネットワークで使用する場合。

切：NAT を使用しない場合。

WAN IP アドレス

WAN（Wide Area Network）の IP アドレスを入力します。

LAN　ゲートキーパー

ご注意

管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4/IPv6」に設定されている場合には、「ゲートキーパー：IPv6」画面で設定を行ってください。

使用

アクセスをコントロールするゲートキーパーを使用するかどうかを設定します。ゲートキーパーを使用すると、IP アドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。

自動：自動的にゲートキーパーを探し、使用する場合。

入：ゲートキーパーを使用する場合。

切：ゲートキーパーを使用しない場合。

ゲートキーパーアドレス

「ゲートキーパー使用」を「入」にしたときに使用するゲートキーパーのアドレスを入力します。

ユーザー名

ゲートキーパーに登録するユーザー名（H.323 エイリアス）を入力します。

ユーザー番号

ゲートキーパーに登録するユーザー番号（E.164 ナンバー）を入力します。

H.460

H.460 を使用してファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末と接続するかどうかを選びます。

入：H.460 に準拠したファイアウォールを越える接続を行う場合。

切：ファイアウォールを越える接続を行わない場合。

LAN ゲートキーパー：IPv6

ご注意

管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4/IPv6」に設定されている場合に表示されます。

使用

アクセスをコントロールするゲートキーパーを使用するかどうかを設定します。ゲートキーパーを使用すると、IP アドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。

自動：自動的にゲートキーパーを探し、使用する場合。

入：ゲートキーパーを使用する場合。

切：ゲートキーパーを使用しない場合。

ゲートキーパーアドレス

「ゲートキーパー使用」を「入」にしたときに使用するゲートキーパーのアドレスを入力します。

ユーザー名

ゲートキーパーに登録するユーザー名（H.323 エイリアス）を入力します。

ユーザー番号

ゲートキーパーに登録するユーザー番号（E.164 ナンバー）を入力します。

LAN 使用ポート番号、RTP/RTCP 設定

Q.931

Q.931 ポート番号を入力します。

H.245

H.245 ポート番号を入力します。

RTP/RTCP

RTP/RTCP ポート番号を入力します。

MTU サイズ

MTU のサイズを入力します。

LAN SNMP

SNMP サービス

SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントのサービスを有効にするかどうかを設定します。

入：SNMP エージェントのサービスを有効にする場合。

切：SNMP エージェントのサービスを無効にする場合。

トラップ送信先

トラップを送信する SNMP マネージャーのアドレスを入力します。

コミュニティ名

SNMP マネージャーが管理するコミュニティ名を 24 文字以内の英数字と記号で入力します。デフォルトでは、「 public 」と入力されています。

機器の説明

この機器についての説明を入力します。デフォルトでは、「Videoconference Device」と入力されています。この項目は変更できません。

設置場所

この機器を設置している場所を 30 文字以内の英数字と記号で入力します。

管理者名

この機器の管理者についての情報を 30 文字以内で入力します。

QoS 設定メニュー

通信の状態を最適に保つための機能を設定します。

ご注意

- 音声設定メニューの「リップシンク」が「切」に設定されているときは、QoS 設定メニューの「最適レート制御（ARC）」、「パケット再送要求（ARQ）」、「前方誤り訂正（FEC）」は切り換えができません。
- QoS 設定メニューの「最適レート制御（ARC）」、「パケット再送要求（ARQ）」、「前方誤り訂正（FEC）」のいずれかが「入」のときは、音声設定メニューの「リップシンク」を「切」にできません。

QoS QoS1 **基本設定**

最適レート制御（ARC）

LAN の使用帯域を常に最適化するかどうかを選びます。

入：最適化する場合。

切：最適化しない場合。

自動帯域検出

自動帯域検出機能を使用するかどうかを選びます。

入：自動帯域検出機能を使用する場合。

切：自動帯域検出機能を使用しない場合。

TCP ポート番号

固定で使用する TCP ポート番号を入力します。

UDP ポート番号

固定で使用する UDP ポート番号を入力します。

◆使用ポート番号について詳しくは、「PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 使用ポート一覧」（292 ページ）をご覧ください。

パケット再送要求（ARQ）

通信中にパケットをロスした場合に、再送要求するかどうかを選びます。

入：パケット再送を要求する場合。

切：パケット再送を要求しない場合。

ご注意

「パケット再送要求（ARQ）」が「入」のとき、多地点接続で 6 地点接続する場合の最大使用帯域は 7 Mbps に制限されます。

ARQ バッファリング時間

パケット再送要求（ARQ）に使用するバッファのサイズを設定します。

300ms、150ms、80ms、自動、指定値を選択できます。

「指定値」を選択すると、任意のバッファリング時間を入力できます。

ARQ バッファリング時間

「ARQ バッファリング時間」で「指定値」を選択したとき、任意のバッファ

リング時間（50ms ～ 999ms）を入力します。

前方誤り訂正（FEC）

誤り訂正符号をつけるかどうかを選びます。

入：誤り訂正符号をつける場合。

切：誤り訂正符号をつけない場合。

ご注意

「前方誤り訂正（FEC）」が「入」のとき、最大使用帯域は 8 Mbps に制限されます。

前方誤り訂正冗長度

前方誤り訂正（FEC）時に使用するパケットの冗長度を設定します。

8、4、2、自動を選択できます。

「自動」以外を設定した場合、通信レートが守られないことがあります。

音声２重送信

ネットワークの状況により音声が途切れた場合に、自動的に音声を二重送信するかどうかを選びます。

入：音声二重送信する場合。

切：音声二重送信をしない場合。

QoS QoS2　**リオーダー・シェーピング**

リオーダー

パケットロスの原因となるリオーダー（パケット着順不正）を補正するかどうかを選びます。リオーダーを補正するとなめらかな映像・音声が得られます。

入：リオーダーを補正する場合。

切：リオーダーを補正しない場合。

リオーダー・バッファ

リオーダー・バッファを設定します。自動、1、2、指定値を選択できます。

リオーダー・バッファ値

リオーダー・バッファの値を入力します。1 ～ 5 の値を指定できます。

シェーピング

IP パケットの転送速度を調整するシェーピングを使用するかどうかを選びます。

入：シェーピングを使用する場合。

切：シェーピングを使用しない場合。

TOS 設定メニュー

TOS TOS　**TOS**

TOS 種別

TOS（Type of Service）Field の設定を行うデータの種類を選びます。

ビデオ：映像データの TOS Field を設定する場合。

オーディオ：音声データの TOS Field を設定する場合。

データ：カメラコントロール信号などの TOS Field を設定する場合。

プレゼンテーション：プレゼンテーション用の RGB データの TOS Field を設定する場合。

TOS

「TOS 種別」で選択したデータの TOS（Type of Service）Field の定義方法を選びます。

切：TOS Field の定義をしない場合。

IP Precedence：TOS Field を IP Precedence に定義する場合。

DSCP：TOS Field を DSCP（Differentiated Services Code Point）に定義する場合。

0 ～ 63 を入力します。

Precedence

IP Precedence 値（0 ～ 7）を入力します。

遅延

TOS Field の Low Delay のビットを指定するかどうかを選択します。

入：TOS Field の Low Delay のビットを指定する場合。

切：TOS Field の Low Delay のビットを指定しない場合。

スループット

TOS Field の High Throughput のビットを指定するかどうかを選択します。

入：TOS Field の High Throughput のビットを指定する場合。

切：TOS Field の High Throughput のビットを指定しない場合。

信頼性

TOS Field の Reliability のビットを指定するかどうかを選択します。

入：TOS Field の Reliability のビットを指定する場合。

切：TOS Field の Reliability のビットを指定しない場合。

コスト

TOS Field の Minimum Cost のビットを指定するかどうかを選択します。

入：TOS Field の Minimum Cost のビットを指定する場合。

切：TOS Field の Minimum Cost のビットを指定しない場合。

DSCP

DSCP 値を入力します。

「TOS」が「DSCP」の場合のみ表示されます。

SIP 設定メニュー

IP 電話などを接続し、SIP（Session Initiation Protocol）を利用して接続を行うときに設定します。

SIP 基本設定

SIP サーバー使用

SIP サーバーを使用するかどうかを選びます。

入：SIP サーバーを使用する場合。

切：SIP サーバーを使用しない場合。

トランスポートプロトコル

SIP で使用するプロトコルを選択します。

TCP：TCP（Transmission Control Protocol）を使用する場合。

UDP：UDP（User Datagram Protocol）を使用する場合。工場出荷時はこちらが選択されています。

ポート番号

SIP で使用するポート番号を入力します。

SIP ドメイン

SIP ドメイン名を入力します。

登録ユーザー名

SIP サーバーに登録する端末のユーザー名を 39 文字以内で入力します。

パスワード

SIP サーバーに登録する端末のパスワードを 39 文字以内で入力します。

SIP サーバーアドレス

SIP サーバーのアドレスを入力します。

SIP サーバーポート

SIP サーバーと通信するときに使用するポート番号を入力します。

ISDN 設定メニュー

ISDN 回線の設定に関するメニューです。

ISDN1 基本設定

国 / 地域名

システムを使用する国 / 地域を選びます。（日本国内で使用する場合は、「Japan」を選んでください。）

プロトコル

使用する ISDN 回線のプロトコルを選びます。（日本国内で使用する場合は、「NTT」を選んでください。）

ISDN2 番号

ISDN ユニットのポート番号と対応している欄に、市外局番号、市内番号をそれぞれ入力してください。
ISDN ユニットのポート番号と、入力欄の対応は以下のとおりです。

A1：ISDN ユニットのポート 1
A2：ISDN ユニットのポート 1
B1：ISDN ユニットのポート 2
B2：ISDN ユニットのポート 2
C1：ISDN ユニットのポート 3
C2：ISDN ユニットのポート 3

市外局番号

使用する ISDN 回線の市外局番号を入力します。市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

市内番号

使用する ISDN 回線の回線番号（市内番号）を入力します。

ご注意

ISDN ユニット PCSA-B768S の場合は「ISDN3」ボタンを選択すると D1 ～ F2 欄が表示されます。使用する回線に応じて D1 ～ F2 欄にも入力してください。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1 つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

ISDN4 サブアドレス

A1 ～ C2（または A1 ～ F2）入力欄が表示されます。

サブアドレス

サブアドレスを登録する場合、サブアドレスを入力します。サブアドレスは数字のみ有効です。

アノテーション設定メニュー

ペンタブレットを使って画面に文字や絵を描くアノテーション機能に関する設定を行います。

アノテーション アノテーション

利用

アノテーション機能を利用するかどうかを選びます。

入：アノテーション機能を利用する場合。
切：アノテーション機能を利用しない場合。

色

タブレットペンで描く色を選びます。
黒、赤、青、緑、黄、橙、紫、白から選択できます。

太さ

タブレットペンで描く線の太さを選びます。
太、中、細から選択できます。

カメラ設定メニュー

カメラ　**カメラ**

フェードイン

カメラがプリセット位置に移動するとき、移動先の映像をフェードインしながら表示するかどうかを選びます。
入：フェードインする場合。
切：フェードインしない場合。

ご注意

PCS-XA80/XA55 ではフェードインは使用できません。

2nd カメラ入力

2 台目のカメラを接続するシステム本体の端子を選択します。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、2 台目のカメラは使用できません。

RGB：RGB IN 端子に 2 台目のカメラを接続する場合。
YPbPr：VIDEO IN YPbPr 端子に 2 台目のカメラを接続する場合。
S VIDEO：S VIDEO IN 端子に 2 台目のカメラを接続する場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

一般設定メニュー

一般1　**機器設定**

端末名

相手に通知する本機の名前を 30 文字以内で入力します。

スタンバイモード

一定時間操作しないときにシステムをスタンバイモードにするかどうかを選びます。
入：スタンバイモードにする場合。
切：スタンバイモードにしない場合。

スタンバイ時間

スタンバイモードに入るまでの時間を設定します。1 ～ 99 分の間で設定できます。

◆スタンバイモードについて詳しくは、「スタンバイモードについて」（52 ページ）をご覧ください。

会議終了後のリスト登録

コミュニケーション終了後に相手をアドレス帳に登録するかどうかを選びます。
切：アドレス帳に登録しない場合。
入：コミュニケーション終了後、相手がアドレス帳に登録されていなければ、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示され、「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

カメラコントロール受信

通信モード設定メニューの「遠隔カメラ制御」が「入」になっているとき、一時的に相手側からのカメラコントロールコマンドを拒否することができます。

入：カメラコントロールコマンドを受信する場合。

切：カメラコントロールコマンドを拒否する場合。

言語設定 /Language

画面に表示されるメッセージの言語を選びます。以下の言語が選べます。

日本語 /Japanese、英語 /English、フランス語 /French、ドイツ語 /German、スペイン語 /Spanish、イタリア語 /Italian、簡体中国語 /Chinese、ポルトガル語 /PORT、繁体中国語 /Chinese、韓国語 /Korean、オランダ語 /Dutch、デンマーク語 /Danish、スウェーデン語 /Swed、フィンランド語 /Finn、ポーランド語 /Polish、ロシア語 /Russian、アラビア語 /Arabic、タイ語 /Thai、ノルウェー語 /Norwegian、トルコ語 /Turkish、ウェールズ語 /Welsh、チェコ語／ Czech、ハンガリー語／ Hungarian

本体 LED 明るさ（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

システム本体の LED の明るさを選びます。

明、切、暗から選択できます。

カメラ LED 明るさ

HD カメラユニット PCSA-CXG80 の LED の明るさを選びます。

明、切、暗から選択できます。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、この項目は使用できません。

RF リモコン受信

付属のリモコン PCS-RF1 からのワイヤレス信号の受信部を選びます。

本体：システム本体の受信部で受信する場合。

カメラ：HD カメラユニット PCSA-CXG80 の受信部で受信する場合。

ご注意

HD カメラユニット PCSA-CXA55 では受信できません。

一般2　日時設定

NTP

NTP により、サーバーから時刻情報を取得する場合は「入」にします。

入：サーバーから時刻情報を取得する場合。

切：サーバーから時刻情報を取得しない場合。

プライマリー NTP サーバー

時刻情報を取得するプライマリー NTP サーバーのアドレスを入力します。

セカンダリー NTP サーバー

時刻情報を取得するセカンダリー NTP サーバーのアドレスを入力します。

タイムゾーン

システムを使用する国／地域を選びます。

日時表示形式

モニター画面に表示する日時表示の形式を選びます。

「年 / 月 / 日」、「月 / 日 / 年」、「日 / 月 / 年」、「年 - 月 - 日」、「日 . 月 . 年」のいずれかを選びます。

年月日

現在の年月日を入力します。

時間

現在の時刻を入力します。

時刻更新

「NTP」が「入」のとき、「実行」ボタンを選んで決定ボタンを押すと、現在時刻が更新されます。

一般3 メニュー画面

ツールメニュー、設定メニューの画面に表示させる項目を設定します。

通信中時間表示

切：通信経過時間も現在時刻も表示させない場合。

経過時間：通信中、通信経過時間を表示させる場合。

現在時刻：通信中も現在時刻を表示させる場合。

端末名表示

切：端末名を表示しない場合。

常時表示：常に端末名を表示する場合。

一定時間表示：一定時間、接続地点の端末名を表示する場合。

ガイダンス表示

入：ガイダンス（操作説明）を表示する場合。

切：ガイダンス（操作説明）を表示しない場合。

インジケーター表示

入：メモリースティック、タブレットなどのインジケーターを表示する場合。

切：インジケーターを表示しない場合。

接続時の通信モード表示

入：接続時の通信モードを表示する場合。

切：接続時の通信モードを表示しない場合。

ソフトキーボード表示

入：ソフトキーボードを表示する場合。

切：ソフトキーボードを表示しない場合。

◆ソフトキーボードについては、「ソフトキーボードで文字や数字を入力する」（70ページ）をご覧ください。

メニュー透過度

背景の映像や画像の上に重なるメニューの透過度を設定します。

高、中、低から選択できます。

一般4 通信中のファンクションキー

リモコンのファンクションボタン１つで映像を切り換えるための設定です。各ファンクションボタンに割り当てる機能を設定します。

ご注意

・通信中に「通信中のファンクションキー」を設定することはできません。通信を始める前に設定してください。

・PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

F1

F1 ボタンを押したときに切り換わる映像入力を選びます。
「相手／自分」、「カメラ」、「S VIDEO」、「RGB」、「YPbPr」、「何もしない」から選択できます。
出荷時は「相手／自分」に設定されています。この設定では、通信中に F1 ボタンで相手のカメラと自分のカメラを切り換えて操作できます。

ご注意

「F1」を「相手／自分」以外に設定しても、「ビデオ入力」メニューや「レイアウト」メニューが表示されている間は F1 ボタンの機能は「相手／自分」に固定されます。その他、操作に便利なように F1 ～ F4 ボタンの機能が自動的に固定される場合があります。この場合には、ガイダンス欄に表示されます。

F2

F2 ボタンを押したときに切り換わる映像入力を選びます。
「カメラ」、「S VIDEO」、「RGB」、「YPbPr」、「何もしない」から選択できます。

F3

F3 ボタンを押したときに切り換わる映像入力を選びます。
「カメラ」、「S VIDEO」、「RGB」、「YPbPr」、「ズーム（RGB)」、「何もしない」から選択できます。
「ズーム（RGB)」を選択すると、映像が縦横比 4 : 3 の場合、拡大されて表示されます。

F4

F4 ボタンを押したときに切り換わる映像入力を選びます。
「カメラ」、「S VIDEO」、「RGB」、「YPbPr」、「何もしない」から選択できます。

ホーム画面設定メニュー

ホーム画面1 **ホーム画面 1**

ホームメニューに表示させる項目を選びます。

ご注意

通信中は、設定できない項目もあります。

日時表示

入：ホームメニューに現在の日時を表示する場合。
切：現在の日時を表示しない場合。

自端末名

入：ホームメニューに自分側の端末名を表示する場合。
切：自分側の端末名を表示しない場合。

番号表示

ホームメニューに表示する、自分側の IP やユーザー番号を選びます。
SIP：ユーザー名：SIP サーバーに登録したユーザー名を表示する場合。
SIP：アドレス：SIP アドレスを表示する場合。
GK：ユーザー名：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー名を表示する場合。

GK：ユーザー番号：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー番号を表示する場合。
NAT：アドレス：NAT を使用したネットワークに接続しているとき、NAT アドレスを表示する場合。
IP：アドレス：IP アドレスを表示する場合。
表示しない：IP やユーザー番号を何も表示しない場合。

端末状態

入：ホームメニューに自分側の端末状態を表示する場合。
切：自分側の端末状態を表示しない場合。

異常時メッセージ

入：ホームメニューに異常時のメッセージを表示する場合。
切：異常時のメッセージを表示しない場合。

ホーム画面2

ホーム画面 2

ホームメニューに表示させるメニューボタンを選びます。

接続ボタン表示

ホームメニューに表示させる接続用のボタンを選びます。
かんたん表示：「接続」ボタンのみを表示する場合。
個別表示：「アドレス帳」ボタン、「履歴」ボタン、「詳細接続」ボタンをそれぞれの入 / 切の設定に応じて表示 / 非表示する場合。
切：接続用のボタンを表示しない場合。

アドレス帳ボタン

入：「アドレス帳」ボタンを表示する場合。
切：「アドレス帳」ボタンを表示しない場合。

履歴ボタン

入：「履歴」ボタンを表示する場合。
切：「履歴」ボタンを表示しない場合。

詳細接続ボタン

入：「詳細接続」ボタンを表示する場合。
切：「詳細接続」ボタンを表示しない場合。

カメラボタン

入：「カメラ」ボタンを表示する場合。
切：「カメラ」ボタンを表示しない場合。

ツールボタン

切：「ツール」ボタンを表示しない場合。
入：「ツール」ボタンを表示する場合。

ワンタッチダイヤル

入：ワンタッチダイヤルボタンを表示する場合。
切：ワンタッチダイヤルボタンを表示しない場合。

ダイレクトダイヤル

切：ダイレクトダイヤル用の番号入力欄と「発信」ボタンを表示しない場合。
入：ダイレクトダイヤル用の番号入力欄と「発信」ボタンを表示する場合。

ホーム画面3

ホーム画面 3

ホームメニューに表示させるインジケーター（状態表示）を選びます。

ビデオ入力表示

入：現在選択されているビデオ入力名を表示する場合。
切：ビデオ入力名を表示しない場合。

オーディオ入力表示

入：現在選択されているオーディオ入力を表示する場合。
切：オーディオ入力を表示しない場合。

オーディオレベルメーター

入：オーディオレベルメーター（現在のオーディオ入力レベル）を表示する場合。
切：オーディオレベルメーターを表示しない場合。

ボリューム

入：音量調節をしたとき、一定時間、ボリューム（音量）を表示する場合。
切：ボリューム（音量）を表示しない場合。

LAN 状態表示

入：現在の LAN の状態を表示する場合。
切：LAN の状態を表示しない場合。

ISDN 状態表示

入：ISDN ユニットのポートの現在の状態を表示する場合。
切：ISDN ユニットのポートの状態を表示しない場合。

管理者設定メニュー

システムの管理者が使用するメニューです。

管理者1

パスワード

このメニューでパスワードを登録することで、システムおよび Web ページから設定メニューやアドレス帳を変更するためにアクセスできるユーザーを制限することができます。

ご注意

未設定のパスワードがあると、だれでもそのユーザー名でアクセスすることができます。ネットワーク上の意図せぬ第三者からのアクセスを防ぐにはすべてのパスワードを設定してください。

◆Web ページの認証で各パスワードを使用した場合について詳しくは、「7 章 Web 機能」をご覧ください。

管理者用パスワード

管理者用のパスワードを 8 文字以内の半角英数字と記号で登録します。
管理者用パスワードを登録すると、管理者用設定メニューにアクセスするときにパスワードの入力を求められます。また、複数のパスワードが登録されているときは、上位パスワードとして使用できます。例えば、アドレス帳変更パスワード、設定保存パスワード、管理者用パスワードを登録しているときは、アドレス帳や設定の変更をするときに管理者用パスワードを使用することもできます。

ご注意

・設定またはアドレス帳の変更時に、管理者用パスワードを一度入力すると、

設定メニューまたはアドレス帳から別の画面に移動しない限り、パスワードを再入力せずに設定を変更できます。また、設定メニューまたはアドレス帳から HOME 画面に戻っても、約 2 分間は、パスワードを再入力せずに設定を変更できる状態が継続します。管理者用設定メニューにアクセスした場合も同様です。

- 管理者用パスワードを登録しただけでは、設定変更やアドレス帳変更についてはパスワードで保護されません。必ず管理者用パスワードとともにアドレス帳変更パスワードや設定保存パスワードも登録してください。
- ほかのパスワードを登録しても、管理者用パスワードが空白のままだと、パスワードの入力なしで Web ページからの変更や接続ができます。ご注意ください。
- 管理者用パスワードは必ず控えてください。万一、管理者用パスワードを忘れた場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。この場合、本機を初期化して修理することになり、本機に保存されていたアドレス帳や履歴、各種設定データは失われます。

アドレス帳変更パスワード

アドレス帳を変更するときのパスワードを 8 文字以内の半角英数字と記号で登録します。

ご注意

アドレス帳の変更時に、アドレス帳変更パスワードを一度入力すると、アドレス帳から別の画面に移動しない限り、パスワードを再入力せずに設定を変更できます。また、アドレス帳から HOME 画面に戻っても、約 2 分間は、パスワードを再入力せずに設定を変更できる状態が継続します。

設定保存パスワード

設定を保存するときのパスワードを 8 文字以内の半角英数字と記号で登録します。

ご注意

設定の変更時に、設定保存パスワードを一度入力すると、設定メニューから別の画面に移動しない限り、パスワードを再入力せずに設定を変更できます。また、設定メニューから HOME 画面に戻っても、約 2 分間は、パスワードを再入力せずに設定を変更できる状態が継続します。

リモートアクセス・パスワード

Web ページにアクセスするときのパスワードを 8 文字以内の半角英数字と記号で登録します。

ストリーミング・パスワード

PCS 端末がストリーミング配信した映像・音声を、Web ページから受信、閲覧するときのパスワードを 8 文字以内の半角英数字と記号で登録します。

管理者2 **設定許可 1**

それぞれの設定を保存するときに「設定保存」パスワードが必要かどうかを選びます。

通信回線

有効：通信回線設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：通信回線設定をパスワードなしで保存する場合。

発信

有効：発信設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求する場合。

無効：発信設定をパスワードなしで保存する場合。

着信

有効：着信設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求する場合。

無効：着信設定をパスワードなしで保存する場合。

多地点（PCS-XG80/XG80S/XA80のみ）

有効：多地点設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：多地点設定をパスワードなしで保存する場合。

IP 通信モード

有効：IP 通信モード設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：IP 通信モード設定をパスワードなしで保存する場合。

SIP 通信モード

有効：SIP 通信モード設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：SIP 通信モード設定をパスワードなしで保存する場合。

ISDN 通信モード

有効：ISDN 通信モード設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：ISDN 通信モード設定をパスワードなしで保存する場合。

管理者3　設定許可 2

音声

有効：音声設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：音声設定をパスワードなしで保存する場合。

映像

有効：映像設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：映像設定をパスワードなしで保存する場合。

LAN

有効：LAN 設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：LAN 設定をパスワードなしで保存する場合。

QoS

有効：QoS 設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：QoS 設定をパスワードなしで保存する場合。

TOS

有効：TOS 設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：TOS 設定をパスワードなしで保存する場合。

SIP

有効：SIP 設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：SIP 設定をパスワードなしで保存する場合。

ISDN

有効：ISDN 設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：ISDN 設定をパスワードなしで保存する場合。

管理者4 **設定許可 3**

一般

有効：一般設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：一般設定をパスワードなしで保存する場合。

ホーム画面

有効：ホーム画面設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：ホーム画面設定をパスワードなしで保存する場合。

管理者

有効：管理者設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：管理者設定をパスワードなしで保存する場合。

アノテーション

有効：アノテーション設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：アノテーション設定をパスワードなしで保存する場合。

カメラ

有効：カメラ設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：カメラ設定をパスワードなしで保存する場合。

暗号化

有効：暗号化設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：暗号化設定をパスワードなしで保存する場合。

共有アドレス帳

有効：共有アドレス帳設定を保存するときに「設定保存」パスワードを要求する場合。

無効：共有アドレス帳設定をパスワードなしで保存する場合。

管理者5 **ストリーミング / レコーディング**

ストリーミング

映像・音声のストリーミング配信を許可するかどうかを選びます。

許可：ストリーミングを許可する場合。

禁止：ストリーミングを許可しない場合。

レコーディング

映像・音声の“メモリースティック”へのレコーディングを許可するかどうかを選びます。

許可：レコーディングを許可する場合。

禁止：レコーディングを許可しない場合。

ビデオ

ストリーミング、レコーディングのビデオのレートを選びます。

切：ビデオのストリーミング、レコーディングをしない場合。

64Kbps：64Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。
128Kbps：128Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。
384Kbps：384Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。
512Kbps：512Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。

ご注意

「切」を選んだ場合は、オーディオのみのストリーミング、レコーディングができます。

マルチキャストアドレス

ストリーミング配信するマルチキャストアドレスを入力します。

ヒント

ここにユニキャストアドレスを設定することもできます。ユニキャストアドレスを設定した場合、ストリーミング配信用の「オーディオポート番号」と「ビデオポート番号」には 2 以上離れた数字を指定してください。

オーディオポート番号

ストリーミング配信するオーディオのポート番号を入力します。

ビデオポート番号

ストリーミング配信するビデオのポート番号を入力します。

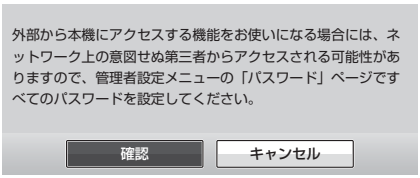
ホップ数

ストリーミング配信のホップ数を 0 ～ 255 の間で入力します。

管理者6　アクセス許可

ご注意

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性があります。「Web モニター」、「Web アクセス」、「Telnet アクセス」、「SSH アクセス」を「入」または「許可」の設定に変更すると、以下の確認画面が表示されます。



設定を変更するには、「確認」を選択して管理者設定メニューの「パスワード」ページ（105 ページ）ですべてのパスワードを設定してください。「キャンセル」を選択すると、設定は変更されません。

Web モニター

Web からの通信状態監視機能（JPEG 画像の自動更新）を許可するかどうかを選びます。
入：Web からの通信状態監視機能を許可する場合。
切：Web からの通信状態監視機能を許可しない場合。

Web アクセス

Web から本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。
許可：Web からのアクセスを許可する場合。
禁止：Web からのアクセスを許可しない場合。

Telnet アクセス

Telnet から本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。

許可：Telnet からのアクセスを許可する場合。

禁止：Telnet からのアクセスを許可しない場合。

SSH アクセス

SSH（Secure Shell）から本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。

許可：SSH からのアクセスを許可する場合。

禁止：SSH からのアクセスを許可しない場合。

画像反転機能 1st カメラ

1台目のカメラを天井などに設置したとき、映像を正視するために上下反転させるかどうかを選びます。

上下反転：映像を上下反転させる場合。

切：映像を上下反転させない場合。

画像反転機能 2nd カメラ

2台目のカメラを天井などに設置したとき、映像を正視するために上下反転させるかどうかを選びます。

上下反転：映像を上下反転させる場合。

切：映像を上下反転させない場合。

ご注意

- 画像反転機能の設定は、システムの再起動後に有効になります。
- 画像反転機能は、HD カメラユニット PCSA-CXG80/CXA55 では使用できません。
- PCS-XA80/XA55 では、2台目のカメラは使用できません。

管理者7

その他

履歴の利用

通信履歴を表示して発信などに利用するかどうかを選びます。

入：履歴を表示する場合。

切：履歴を表示しない場合。

設定の保存

各種設定のデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”の各種設定のデータは上書きされます。

ご注意

アドレス帳、履歴のデータは保存されません。

設定のロード

各種設定のデータを“メモリースティック”からロードします。本体の各種設定のデータは上書きされます。

ご注意

設定の保存およびロードは、元のデータを保存した端末とバージョンが同じ場合に使用してください。保存した端末とロードした端末のバージョンが異なる場合は、正常に認識されないことがあります。

AMX デバイスディスカバリー

AMX デバイスディスカバリー情報を定期的にネットワーク上に送出するかどうかを選びます。

切：本機能を無効にする場合。

入：本機能を有効にする場合。

なお、AMX が本機とシリアル接続されている場合、AMX デバイスディスカバリー情報はシリアルにて出力されます。

AMX は本システムを管理できる外部コントロールシステムです。本機から送出された AMX デバイスディスカバリー情報を受けとると、自動的に本機をシステムの管理下におきます。

ホップ数

送出するデータのホップ数を 0 ～ 255 の間で入力します。

1080 モード（PCS-XG80/XG80S のみ）

映像を 1080i/p ビデオフォーマットで送受信するかどうかを選びます。
1080i/p ビデオフォーマットでの送受信は、IP 接続時のみ可能です。また、1080 モードは、ワンタッチダイヤルからのみ発信できます。

切：1080i/p ビデオフォーマットで送受信しない場合。

入：1080i/p ビデオフォーマットで送受信する場合。
「入」に変更すると、システムが自動的に再起動します。

ご注意

- 1080 モードは、S VIDEO 入力と RGB 入力には対応していません。
- 「1080 モード」を「入」にした場合、プレゼンテーションや PinP、PandP、サイドバイサイド表示はできません。
- 自分側と相手側の端末ともに、映像設定メニューの「モニター出力」が「HDMI+RGB」に設定されている場合のみ、プレゼンテーション機能を使用できます。
- 1080 モードを「入」にした場合、アノテーション機能は使用できません。
- 1080 モードを「入」にした場合、管理者設定メニューの「Web アクセス」を「許可」にしてあっても Web 機能は使用できません。
- 1080 モードでは多地点接続機能は使用できません。

停電後の自動起動

停電からの復旧時に自動的にシステムの電源を入れるかどうかを選びます。

入：自動的に電源を入れる場合。

切：電源を入れない場合。

インターネットプロトコル

IPv4：現在一般的に使用されているインターネットプロトコル IPv4（Internet Protocol Version 4）を使用する場合。

IPv6：次世代のインターネットプロトコル IPv6 を使用する場合。

IPv4/IPv6：IPv4 と IPv6 を併用する場合。

ご注意

- 「インターネットプロトコル」の設定は、LAN1 と LAN2 に共通です。
- 「インターネットプロトコル」を「IPv6」または「IPv4/IPv6」に設定した場合、本機の機能が一部制限されます。また、管理者設定メニューも一部分表示されなくなります。

◆詳しくは、「IPv6 使用時の制限」（120 ページ）をご覧ください。

管理者8 **アドレス帳**

アドレス帳の保存

アドレス帳のデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”のデータは上書きされます。

アドレス帳のロード

アドレス帳のデータを“メモリースティック”からロードします。本体のアドレス帳のデータは上書きされます。

ご注意

アドレス帳の保存およびロードは、元のデータを保存した端末とバージョンが同じ場合に使用してください。保存した端末とロードした端末のバージョンが異なる場合は、正常に認識されないことがあります。

アドレス帳の消去

本体のアドレス帳を消去します。

自動発信

“メモリースティック”を挿入したときに、“メモリースティック”に作成したプライベートアドレス帳の指定した相手に自動発信するかどうかを選びます。

入：自動発信する場合。

切：自動発信しない場合。

◆詳しくは「プライベートアドレス帳の相手の1つに自動発信するには」（156ページ）をご覧ください。

プライベートアドレス帳の作成

“メモリースティック”に、空のプライベートアドレス帳のフォルダとファイルを作成します。

◆詳しくは、「プライベートアドレス帳を作成する」（155ページ）をご覧ください。

プライベートアドレス帳の削除

“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳を削除します。

プライベートアドレス帳への複製

本機に登録してあるアドレス帳のデータを“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳にコピーします。

暗号化設定メニュー

暗号化機能を使った接続を行うときに設定します。

暗号化機能を使うと、機密性の高い接続を行うことが可能です。

◆暗号化接続について詳しくは、5章をご覧ください。

ご注意

暗号化接続の場合、最大使用帯域は6 Mbpsに制限されます。

暗号化 **暗号化**

暗号化モード

暗号化機能を使用するかどうかを選びます。

切：暗号化機能を使用しない場合。

接続性優先：標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない相手、または標準暗号化機能がオフになっている相手とは、暗号化せずに接続します。

暗号化優先：標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。

共有アドレス帳設定メニュー

サーバー上にある共有アドレス帳を使用する場合に設定します。

◆共有アドレス帳について詳しくは、「共有アドレス帳を使用する」（157 ページ）をご覧ください。

共有アドレス帳　共有アドレス帳

SPB モード

共有アドレス帳を管理するサーバーを使用するかどうかを選択します。

入：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用する場合。

切：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用しない場合。

SPB サーバ・アドレス

共有アドレス帳を管理するサーバーの IP アドレスを入力します。

SPB サーバ・パスワード

共有アドレス帳を管理するサーバーのパスワードを入力します。

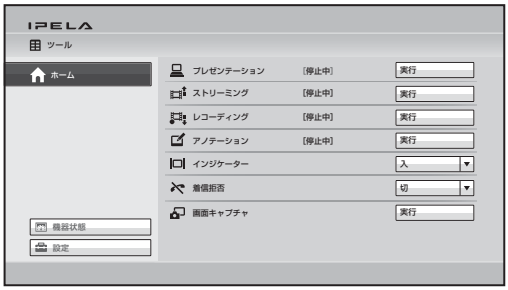
機器状態を表示する

機器状態メニューを使って、システムや接続機器のバージョン、通信モード、回線品質などさまざまな情報を表示することができます。

機器状態を表示する

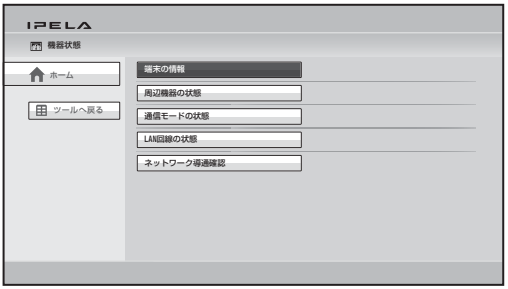
1 リモコンのツールボタンを押す、または ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「ツール」を選び、決定ボタンを押す。

ツールメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「機器状態」を選び、決定ボタンを押す。

機器状態メニューが表示されます。



機器状態メニューから表示できる情報画面

端末の情報（116 ページ）
周辺機器の状態（116 ページ）
通信モードの状態（117 ページ）
LAN 回線の状態（118 ページ）
ネットワーク導通確認（118 ページ）

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで表示したい情報を選び、決定ボタンを押す。

選んだ情報画面が表示されます。

端末の情報

HD ビジュアルコミュニケーションシステムのバージョンや接続されている専用別売機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを表示します。

ホストバージョン

HD ビジュアルコミュニケーションシステムのソフトウェアバージョンを表示します。

ソフトウェアオプション

インストールされているオプションのソフトウェアの種類を表示します。

なし：ソフトウェアがインストールされていません。

プレゼンテーション：本機では、標準で HD データソリューションソフトウェアがインストールされています。

マルチポイント：HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 がインストールされています。

オプション I/F

接続されている別売機器を表示します。

なし：別売機器は接続されていません。

ISDN（B768）：ISDN ユニット PCSA-B768S が接続されています。

ISDN（B384）：ISDN ユニット PCSA-B384S が接続されています。

タブレット：タブレット（Wacom 社製 Bamboo small CTH-470/K0）が接続されています。

ホストネーム

ホスト名を表示します。

IP アドレス

LAN1（PCS-XG55/XG55S では LAN）の IP アドレスを表示します。

ご注意

管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4/IPv6」に設定されている場合は、IPv4、IPv6 それぞれの IP アドレスが表示されます。

IP アドレス (LAN2)（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

LAN2 の IP アドレスを表示します。

MAC アドレス

LAN1（PCS-XG55/XG55S/XA55 では LAN）の MAC アドレスを表示します。

MAC アドレス (LAN2)（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

LAN2 の MAC アドレスを表示します。

シリアルナンバー

シリアル番号を表示します。

機器バージョン

「端末の情報」画面で「次へ」を選択すると、コーデックなどのバージョンが表示されます。

周辺機器の状態

ビデオ入力

入力ビデオ名を表示します。

音声入力（MIC 系）

MIC 系の入力オーディオ名を表示します。

音声入力（AUX 系）

AUX 系の入力オーディオ名を表示します。

ビデオ出力

「1080 モード」の入 / 切、および「周波数」の 50Hz/60Hz の設定を表示します。

音声出力

本機に装備されている音声出力を表示します。

LAN モード (LAN1)

LAN1（PCS-XG55/XG55S/XA55 では LAN）の LAN モードを表示します。

LAN モード (LAN2)（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

LAN2 の LAN モードを表示します。

ゲートキーパー

ゲートキーパーの状態を表示します。ゲートキーパー要求、ゲートキーパー確認、ゲートキーパー拒否、登録要求、登録成功、登録失敗、登録拒否、登録タイムアウト、登録解除要求、登録解除確認

1st カメラ

1 台目のカメラ名を表示します。

2nd カメラ

2 台目のカメラ名を表示します。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、2 台目のカメラは使用できません。

通信モードの状態

通信中は現在の通信状態、非通信時は前回通信時の通信状態を表示します。使用している回線インターフェースに応じて、ISDN 回線状態、LAN 回線状態、LAN 通信状態も表示されます。

通信モードの状態

現在の通信状態を表示します。2 地点以上接続されている場合は、画面下部の「次へ」を選択すると次のページが表示されます。
送信欄と受信欄に分かれている項目では（送信）欄には、自分側が設定している状態が、（受信）欄には自分側が受信している状態が表示されます。

相手端末名

相手の端末名を表示します。

相手アドレス

相手のアドレスを表示します。

音声符号化方式

現在の音声符号化方式を表示します。

映像符号化方式

現在の映像符号化方式を表示します。H.264 High Profile での通信時には「H.264 HP」と表示され、H.264 Baseline Profile での通信時には「H.264」と表示されます。ただし、1080 モードの場合は除きます。

ご注意

実際の通信に使用される音声符号化方式と映像符号化方式は、接続先のシステムの状態により、本機で設定した方式と異なる場合があります。

映像フレームレート
動画のフレームレートをリアルタイムで表示します。

回線レート
接続されている回線の数と通信中の伝送レートをリアルタイムで表示します。

回線 I/F
使用している回線インターフェースを表示します。

遠隔カメラ制御
双方のカメラを操作できる状態になっているかどうかを表示します。

H239
H.239 プレゼンテーションが使える状態になっているかどうかを表示します。

チェックコード
暗号化チェックコードを表示します。

LAN 回線の状態

接続されている地点ごとに 1 ページずつ、LAN 回線の状態を表示します。接続地点は左上に表示されます。画面下部の「次へ」を選択すると次のページが表示されます。

ビットレート―送信
送信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

ビットレート―受信
受信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数―ロスパケット数
相手からの伝送中にネットワーク上で欠落したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数―復元パケット数
ロスパケット数のうち本機の QoS 機能で復元されたパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数―受信パケット数
通信中に受信したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

ネットワーク導通確認

ネットワークの導通確認を行い、その結果を表示します。
画面下部の「測定開始」を選ぶと導通確認を始めます。

◆詳しくは、「ネットワーク導通確認について」（130 ページ）をご覧ください。

相手の IP アドレス
ネットワークの導通を確認したい相手の IP アドレスを入力します。

回線種別
LAN1：🖧1 端子（PCS-XG55/XG55S/XA55 では 🖧 端子）に接続したネットワークの導通確認をする場合。

LAN2：品2 端子に接続したネットワークの導通確認をする場合。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「LAN2」は選択できません。

ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイの確認結果を表示します。

ping

到達性の確認結果および、パケットロス率、RTT（往復遅延時間）、H.323 通信（H.323 での通信が可能かどうか）の確認結果を表示します。

トレースルート

ホップ数（相手に到達するまでに経由するルーター数）、Total RTT（往復遅延時間）の確認結果を表示します。

測定開始

この項目を選ぶと、ネットワーク導通確認が始まります。

戻る

この項目を選ぶと、機器状態メニューへ戻ります。

LAN2 使用時の制限（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

本機に 2 本の LAN を接続する場合は、品1（LAN1）端子を社内のネットワーク用、品2（LAN2）端子をインターネットなど社外への接続用にご使用ください。

LAN2 端子を介したネットワークでは、次のように本機の機能が制限されます。

ご注意

- 万一、品1（LAN1）端子をインターネットなど社外への接続用にご使用になる場合は、必ず、管理者設定メニューの「アクセス許可」ページ（109 ページ）で「Web アクセス」、「Telnet アクセス」、「SSH アクセス」を「禁止」に設定してください。
- 品2（LAN2）端子のみを使用することはできません。

LAN2 で設定できない項目

- NAT 設定
- ゲートキーパー
- SNMP
- SIP
- NTP
- 共有アドレス帳
- AMX デバイスディスカバリー
- H.460
- DNS サーバー
- ストリーミング
- IPv6

・Web アクセス、Telnet アクセス、SSH アクセス

LAN1 または LAN2 のどちらか一方で設定できる項目

・PPPoE

LAN1 と LAN2 に個別に設定する項目

・DHCP モード
・IP アドレス
・ネットワークマスク
・ゲートウェイアドレス
・LAN モード

LAN1 と LAN2 に共通の設定項目

・使用ポート番号（TCP、UDP）
・QoS
・TOS
・自動着信
・通信中の着信拒否

ご注意

LAN1 と LAN2 は、同じサブネットには設定しないでください。

IPv6 使用時の制限

インターネットプロトコル IPv6 を使う場合、および IPv4/IPv6 を併用する場合は、次のように本機の機能が制限されます。

IPv6 で使えない機能

・SNMP*
・NTP
・共有アドレス帳 *
・TOS*
・ネットワーク導通確認 *
・AMX デバイスディスカバリー *
・LAN2
・PPPoE
・ストリーミング
・NAT
・SIP

* IPv4/IPv6 を併用している場合、IPv4 では使用できます。

ネットワーク構成ごとの設定方法

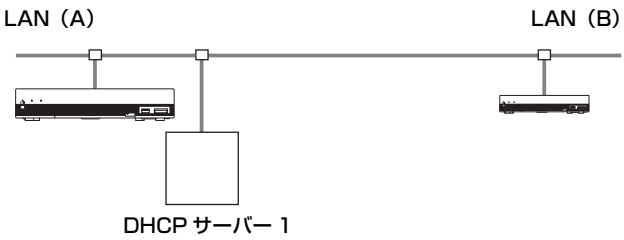
ここでは、さまざまなネットワークで使用する際の本機の設定方法を、使用するネットワーク構成ごとに説明します。

◆LAN 設定メニューについて詳しくは、「LAN 設定メニュー」（91 ページ）をご覧ください。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

LAN—DHCP を使用しての接続（LAN1/LAN2）

構成例



LAN 設定メニューの「基本設定」ページで「DHCP モード」を「自動」にします。

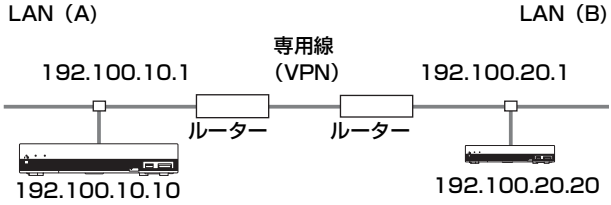
IP アドレスがホームメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

接続するには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN―ルーターを介しての接続（LAN1/LAN2）

構成例



LAN 設定メニューの「基本設定」ページで「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力します。

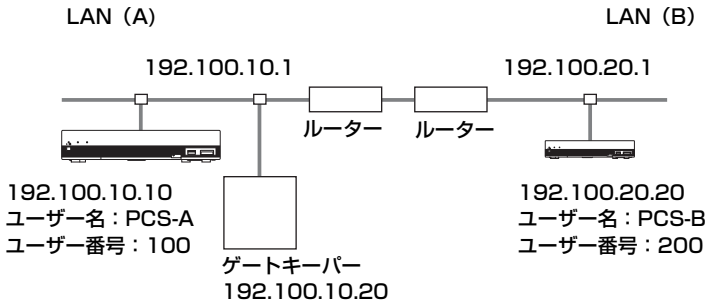
設定した IP アドレスが、ホームメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

接続するには

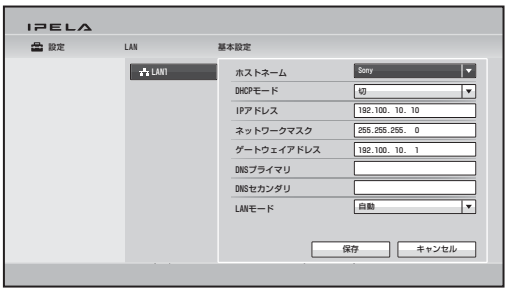
「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN―ゲートキーパーを介しての接続（LAN1 のみ）

構成例



1 LAN 設定メニューの「基本設定」ページで「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。



2 LAN 設定メニューの「ゲートキーパー」ページで「使用」を「入」にし、「ゲートキーパーアドレス」、「ユーザー名」、「ユーザー番号」にそれぞれ適切な値を入力する。

設定した IP アドレスがホームメニューに表示されます。

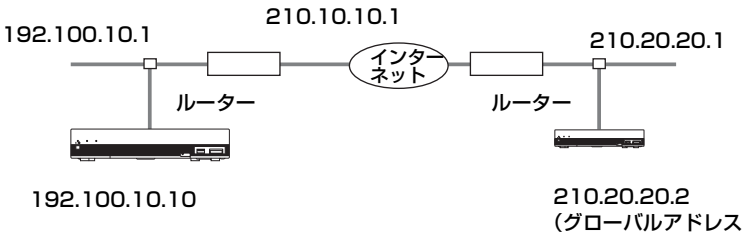
接続するには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側で設定した「ユーザー名」または「ユーザー番号」を入力して、ダイヤルします。

LAN—NAT 環境での接続（LAN1 のみ）

NAT を使用すると、LAN 上の複数のコンピューターが 1 つの IP アドレスを共有できます。ここでは、NAT 環境とグローバル IP 環境とのビジュアルコミュニケーションのための設定を説明します。

構成例



1 LAN 設定メニューの「基本設定」ページで「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。

2 LAN 設定メニューの「NAT 設定」ページで「NAT モード」を「入」、「WAN IP アドレス」に適切な値を入力する。

ホームメニューに設定した WAN IP アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。
ホームメニューに NAT アドレスを表示させるには、ホーム画面設定メニューの「ホーム画面 1」ページ（103 ページ）で「番号表示」を「NAT：アドレス」に設定する必要があります。

3 相手側で、LAN 設定メニューの「基本設定」ページと同様に設定する。

ご注意

相手側は NAT 環境ではないので、LAN 設定メニューの「NAT 設定」ページと同じ設定を行う必要はありません。

接続するには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

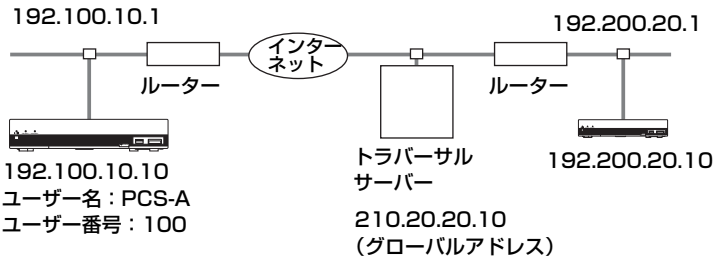
ご注意

NAT 環境で本機を使用する場合、本機から相手側（グローバル IP）への発信は可能ですが、相手側から本機への発信はルーターの設定を行う必要があります。ルーターの設定について詳しくは、ネットワーク担当者などにご相談ください。

LAN—H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続（LAN1 のみ）

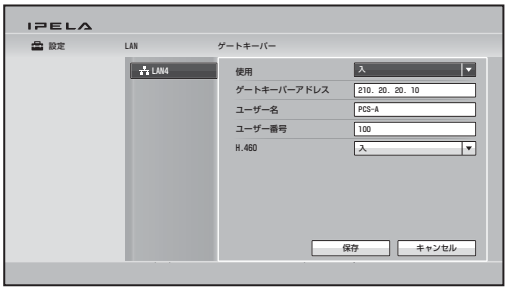
H.460 を使用すると、ファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末と接続することができます。

構成例



1 LAN 設定メニューの「基本設定」ページで「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。

2 LAN 設定メニューの「ゲートキーパー」ページで「H.460」を「入」に設定する。また、「使用」を「入」にし、「ゲートキーパーアドレス」に適切な値を入力する。



設定した IP アドレスがホームメニューに表示されます。

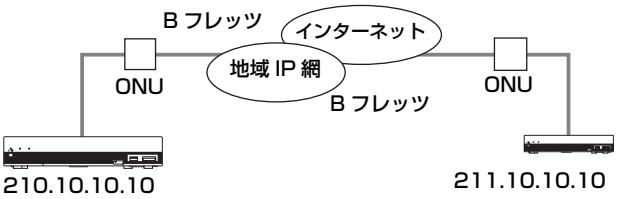
接続するには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN—PPPoE による接続（LAN1/LAN2）

PPPoE を使用すると、ルーターを使用せずに、フレッツ ADSL またはB フレッツを利用できます。
フレッツ ADSL の場合、モデム（ブリッジモードで使用）が必要になります。

構成例



1 LAN 設定メニューの「PPPoE」ページで「PPPoE」を「LAN1」または「LAN2」にし、「ユーザー名」、「パスワード」にそれぞれプロバイダーから取得したものを入力する。

ご注意

・PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「LAN1」ではなく「入」となります。
・PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「LAN2」は選択できません。

2 プロバイダーから固定 IP を取得している場合は、「固定 IP」を「入」にし、「固定 IP アドレス」に取得した IP アドレスを入力する。

ホームメニューに設定した IP アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

プロバイダーによって固定の DNS サーバアドレスが指定されている場合は、「DNS」を「設定する」にし、指定されたアドレスを「DNS プライマリ」、「DNS セカンダリ」に入力してください。

3 相手側も同様に設定する。

接続するには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

ISDN による接続

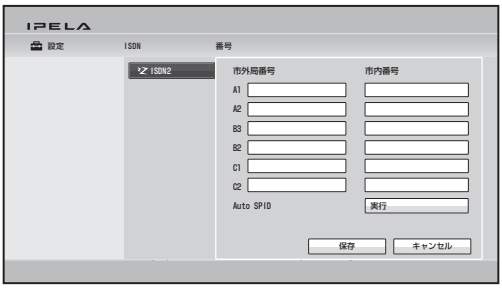
1 ISDN 設定メニューの「番号」ページで「市外局番号」、「市内局番号」にそれぞれ適切な値を入力する。

ご注意

「市外局番号」の冒頭が「0」の場合は、冒頭の「0」は入力しないでください。

◆ISDN 設定メニューについて詳しくは、「ISDN 設定メニュー」（99 ページ）をご覧ください。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。



ホームメニューに設定した回線番号が表示されていれば、正しく設定できています。

2 相手側も同様に設定する。

ご注意

ISDN ユニットのポートは、番号が若い順に使用してください。

○：1、2、3・・・

×：1、6、5・・・

接続するには

「回線種別」で「ISDN」を選択し、相手側の回線番号を入力して、ダイヤルします。

◆ビジュアルコミュニケーションの始めかたについて詳しくは、「自分側から接続を始める」（131 ページ）をご覧ください。

ネットワーク導通確認について

相手と接続する前に、通信がスムーズにできるようにあらかじめネットワークの導通を確認しておくことができます。

◆ネットワーク導通確認にはネットワークに関する知識が必要です。ネットワーク担当者またはお買い上げ店にご相談ください。

◆確認結果について不明な点は、ネットワーク担当者またはお買い上げ店にご相談ください。

ネットワーク導通確認を始めるには

本機側（導通確認を行う側）の機器状態メニューの「ネットワーク導通確認」メニューを表示し、各項目を設定します。
「測定開始」を選ぶと、ネットワーク導通確認が始まります。

◆「ネットワーク導通確認」メニューの表示のしかたは、「機器状態を表示する」（114 ページ）をご覧ください。

ご注意

ネットワーク導通確認中は、通信を含む他の機能は使用できません。確認が終わると「ネットワーク導通確認」メニューに結果が表示されます。

3章
基本的な接続

この章では、管理者が2章のシステムの登録と設定をすませていることを前提に、基本的な接続のしかたを説明します。
この章では、LANまたはISDN回線（別売のISDNユニットPCSA-B384SまたはPCSA-B768S使用）、SIPを使って接続する2地点間のコミュニケーションのしかたを説明します。

◆別売の機器を使った接続を行うには、4章をご覧ください。

◆暗号化接続を行うには、5章をご覧ください。

◆多地点接続を行うには、6章をご覧ください。

自分側から接続を始める

自分側から接続するときは、接続する相手にダイヤルします。相手とつながると、通常の電話で音声による会話を行うのと同じように、映像と音声によるコミュニケーションが始まります。
まず、相手を呼び出す方法を説明します。
次の方法で相手を呼び出すことができます。ホームメニューの設定や接続する状況によって便利な方法をご利用ください。

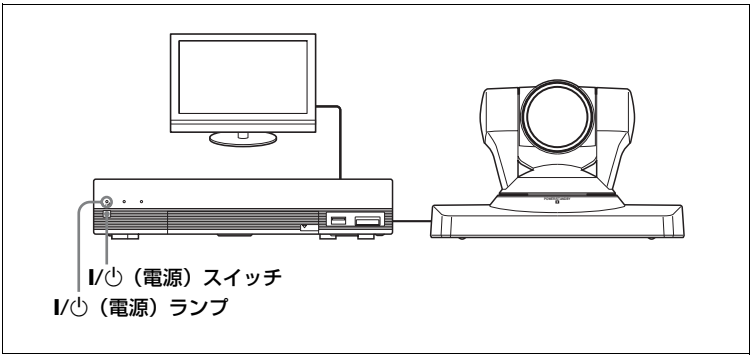
・接続メニューで相手を呼び出す（132ページ）
・直接、相手の番号を入力して呼び出す（ダイレクトダイヤル）（134ページ）
・ワンタッチダイヤルボタンから相手を呼び出す（135ページ）
・通信履歴から相手を呼び出す（136ページ）
・アドレス帳に登録している相手を呼び出す（138ページ）
・詳細接続メニューを設定して、アドレス帳に登録していない相手を呼び出す（140ページ）

電源を入れる

1 モニター用テレビの電源を入れる。

2 使用するその他の機器の電源を入れる。

3 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。



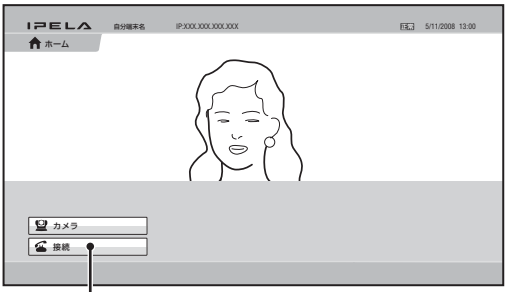
システム本体の I/⏻（電源）ランプが点滅を始めます。電源が入るとランプの点滅が緑色の点灯に変わります。
モニター用テレビにはホームメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ご注意

- 電源が入ると、カメラが動作テストを行います。指を挟まないようにご注意ください。
- PCS-XA80/XA55 の場合、カメラのレンズカバーが開いていることを確認してください。閉じている場合は上部のレンズカバー開閉レバーを右にスライドさせて開いてください。

接続メニューで相手を呼び出す

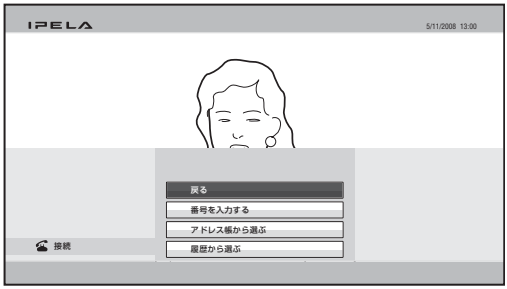
ホームメニューで「接続」ボタンが表示されているときにこの方法が利用できます。



接続ボタン

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「接続」を選び、決定ボタンを押す。

接続メニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで相手の呼び出し方を選び、決定ボタンを押す。

選んだ呼び出し方に応じて、画面が切り替わります。

番号を入力する：詳細接続メニューが画面に表示されます。

◆引き続き、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（140 ページ）をご覧ください。

アドレス帳から選ぶ：アドレス帳が画面に表示されます。

◆引き続き、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（138 ページ）をご覧ください。

履歴から選ぶ：通信履歴が画面に表示されます。

◆引き続き、「通信履歴から相手を呼び出す」（136 ページ）をご覧ください。

直接、相手の番号を入力して呼び出す（ダイレクトダイヤル）

ホーム画面設定メニューの「ダイレクトダイヤル」が「入」に設定してあるとき、ホームメニューにダイレクトダイヤル用の番号入力欄や「発信」ボタンが表示され、ダイレクトダイヤル機能を使うことができます。

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「回線種別」を選び、決定ボタンを押す。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで回線の種類を選び、決定ボタンを押す。

IP：品1（LAN1）端子（PCS-XG55/XG55S では 品（LAN）端子）に接続した LAN を介して接続する場合。

ISDN：ISDN 回線で接続する場合。

TEL：ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合に選びます。（ボイスミーティング）。

ご注意

- 通信回線設定メニューの「通信回線」で「SIP」にチェックマークをつけているときは、回線種別で「SIP」が選択できます。
- 通信回線設定メニューの「LAN2 を使用する」が「入」のときは、回線種別で「IP(2)」も選択できます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで番号入力欄を選び、決定ボタンを押す。

4 リモコンの数字ボタンで相手の IP アドレスまたは回線番号を入力し、決定ボタンを押す。

ヒント

SIP の場合、相手を指定するときのアドレスには以下のような形式があります。

・ 4000（SIP サーバーから割り当てられた番号）
・ 4000@sip.com
・ 192.168.1.1（IP アドレス、SIP サーバーを使用しない場合）

5 リモコンの接続（☎）ボタンを押す。またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「発信」を選び、決定ボタンを押す。

手順 4 で入力した IP アドレスまたは回線番号への接続が始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。相手側とつながると「接続しました」と表示され、相手側の映像がモニター画面に表示されます。これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの切断（☎）ボタン、または、リモコンの決定ボタンを押してください。

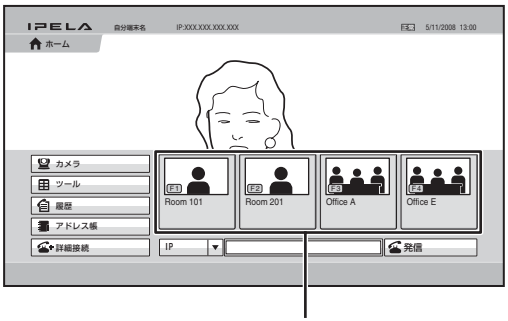
ワンタッチダイヤルボタンから相手を呼び出す

ホーム画面設定メニューの「ワンタッチダイヤル」が「入」に設定してあるとき、ホームメニューにワンタッチダイヤルボタンが表示され、ワンタッチダイヤル機能を使うことができます。

◆ワンタッチダイヤルの登録のしかたは、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

1 ホームメニューを表示する。

2 リモコンのF1 ～ F4 ボタン（ファンクションボタン）で、呼び出したい相手が登録されてワンタッチダイヤルボタンの番号を選ぶ。または、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューのワンタッチダイヤルボタンを選択し、決定ボタンを押す。表示されるサブメニューから ↑/↓/←/→ ボタンを使って「接続」を選び、決定ボタンを押す。



ワンタッチダイヤルボタン

選んだ相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。相手側とつながると「接続しました」と表示され、相手側の映像がモニター画面に表示されます。これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの切断（☎）ボタン、または、リモコンの決定ボタンを押してください。

通信履歴から相手を呼び出す

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「履歴」を選び、決定ボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンと決定ボタンでホームメニューの「接続」ボタンを選び、表示される接続メニューの「履歴から選ぶ」を選ぶ。

履歴メニューが表示されます。

ヒント

履歴メニューは、アドレス帳や詳細接続メニューの「履歴」を選んで表示することもできます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「発信」（発信履歴）、「着信」（着信履歴）、「不在着信」（不在時の着信履歴）のいずれかを選び、決定ボタンまたは → ボタンを押す。

選んだ履歴が表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出したい相手を選ぶ。

4 リモコンの接続（ ☎ ）ボタンを押す。または決定ボタンを押し、表示されるサブメニューから ↑/↓/←/→ ボタンを使って「接続」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。相手側とつながると「接続しました」と表示され、相手側の映像がモニター画面に表示されます。これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの切断（☎）ボタン、または、リモコンの決定ボタンを押してください。

ヒント

履歴のサブメニューでは次の操作ができます。

「キャンセル」：履歴の選択を中止します。

「編集」：アドレス帳のリスト編集メニューが表示されます。

「削除」：選択した履歴を 1 件、削除します。

アドレス帳に登録している相手を呼び出す

◆アドレス帳への登録のしかたは、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

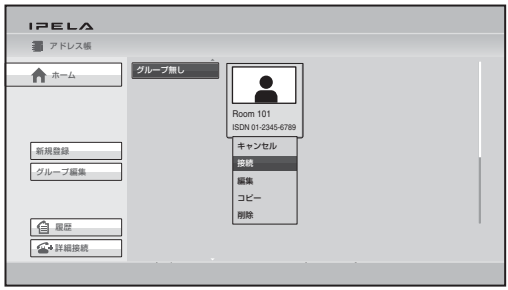
1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンと決定ボタンでホームメニューの「接続」ボタンを選び、表示される接続メニューの「アドレス帳から選ぶ」を選ぶ。

アドレス帳が表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出したい相手が登録されているグループを選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出したい相手を選ぶ。

4 リモコンの接続（☎）ボタンを押す。または決定ボタンを押し、表示されるサブメニューから ↑/↓/←/→ ボタンで「接続」を選び、決定ボタンを押す。



選んだ相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。相手側とつながると「接続しました」と表示され、相手側の映像がモニター画面に表示されます。これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの切断（☎）ボタン、またはリモコンの決定ボタンを押してください。

アドレス帳の表示方法を切り換えるには

リモコンの F1 ボタンを押すたびに、サムネイル表示と一覧表示に交互に切り替わります。

アドレス帳の表示順を切り換えるには

リモコンの F2 ボタンを押すたびに、相手の名前がアスキーコード（アルファベット）順と逆順に交互に切り替わります。

通信中にアドレス帳を表示するには

通信中にリモコンの # ボタンを押すと、アドレス帳が表示されます。

プライベートアドレス帳から相手を呼び出すには

1 プライベートアドレス帳が作成されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

アドレス帳の内容がプライベートアドレス帳に切り換わります。

2 ホームメニューの「プライベートアドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでプライベートアドレス帳から呼び出したい相手を選ぶ。

4 リモコンの接続（ ）ボタンを押す。または決定ボタンを押し、表示されるサブメニューから ↑/↓/←/→ ボタンで「接続」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手にダイヤルされます。

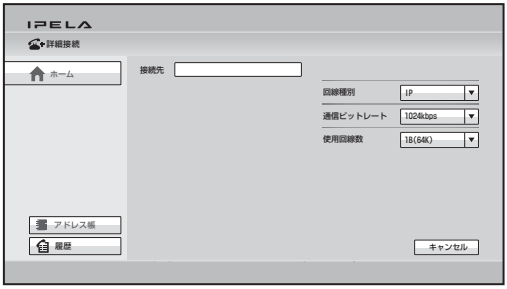
ヒント

プライベートアドレス帳の自動発信機能が「入」になっているときは、“メモリースティック”を差し込むだけで自動的にダイヤルが始まります。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出す

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「詳細接続」を選び、決定ボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンと決定ボタンでホームメニューの「接続」ボタンを選び、表示される接続メニューの「番号を入力する」を選ぶ。

詳細接続メニューが表示されます。



2 使用する回線種別を選ぶ。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「回線種別」ボタンを選び、決定ボタンを押すと、選択項目が表示されます。↑/↓/←/→ ボタンで使用する回線種別を選び、決定ボタンを押してください。

IP：LAN1（LAN1）端子（PCS-XG55/XG55S/XA55 では LAN（LAN）端子）に接続した LAN を介して接続する場合。

ISDN：ISDN 回線で接続する場合。

ISDN（2B）：ISDN 回線で、H.221 方式のシステムと 2B チャンネルで接続する場合。

TEL：ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

ご注意

・通信回線設定メニューの「通信回線」で「SIP」にチェックマークをつけているときは、回線種別で「SIP」が選択できます。
・通信回線設定メニューの「LAN2 を使用する」が「入」のときは、回線種別で「IP(2)」も選択できます。

3 使用する LAN、または ISDN 回線を設定する。

LAN を使用する場合

① IP アドレス入力欄に相手の IP アドレスを入力する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで IP アドレス入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンまたはソフトキーボードで IP アドレスを入力し、決定ボタンを押します。
DNS サーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時は相手側の LAN 設定メニューに登録してあるユーザー名やユーザー番号を IP アドレス入力欄に入力し、決定ボタンを押します。

ヒント

・管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv4」に設定されている場合は、→ ボタンまたはドットボタンで「.」（ドット）が入力できます。
・管理者設定メニューの「インターネットプロトコル」が「IPv6」または「IPv4/IPv6」に設定されている場合は、→ ボタンまたはドットボタンで「:」（コロン）が入力できます。
「IPv4/IPv6」に設定されている場合、→ ボタンで入力できるのはコロンのみです。「IPv4/IPv6」に設定されていて IPv4 で発信する場合は、ドットを入力する際にドットボタンを 2 回押してください。
・入力する文字を間違えたときは、一文字削除ボタンで最後に入力した文字を消します。
・入力した IP アドレスを消去したいときは、リモコンの戻るボタンを押すか、ソフトキーボードの中止ボタンを選んでリモコンの決定ボタンを押します。

② 通信ビットレートを選択する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「通信ビットレート」を選び、決定ボタンを押すと、選択項目が表示されます。↑/↓/←/→ ボタンで選択項目を選び、決定ボタンを押します。

ISDN 回線を使用する場合

① 電話番号入力欄 A に相手の回線番号を入力する。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンで電話番号入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンまたはソフトキーボードで回線番号を入力し、決定ボタンを押します。

ご注意

プリフィックスが設定してある場合は、電話番号入力欄には、0 発信などの発信番号（プリフィックス）を入力しないでください。「プリフィックス」の設定については、発信設定メニュー（76 ページ）をご覧ください。

ヒント

- ISDN を選んだときは、複数（2B（128K）以上）の「使用回線数」を選んでいても、相手側の ISDN 回線番号は 1 つ入力するだけで、使用回線数分を自動的に接続することができます。
- ISDN（2B）を選んだときは、電話番号入力欄 A1 と A2 が表示され、それぞれに別々の ISDN 回線番号を入力することができます。A2 が選ばれている状態でリモコンの決定ボタンを押すと、A1 に入力した電話番号を A2 にコピーすることができます。
- 入力する数字を間違えたときは、一文字削除ボタンで最後に入力した数字を消します。
- 入力した回線番号を消去したいときは、リモコンの戻るボタンを押すか、ソフトキーボードの中止ボタンを選んでリモコンの決定ボタンを押します。

② 発信時に使用する ISDN 回線の回線数を選ぶ。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンで「使用回線数」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。▲/▼/◀/▶ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。

ヒント

相手側の ISDN 回線番号をすべて指定して接続するには

相手のシステムがボンディング機能を持っていないとき、相手の ISDN 回線番号を 1 つだけ入力したのでは、複数の使用回線数分を接続することができません。

このような場合など相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続したいときは、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）を参照して、アドレス帳に ISDN 回線番号を使用回線数分登録してから、「アドレ

ス帳に登録している相手を呼び出す」（138 ページ）に従って接続してください。

4 リモコンの接続（☎）ボタンを押す。またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでメニュー下部の「接続」を選び、決定ボタンを押す。

手順 3 で入力した IP アドレスまたは回線番号にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。相手側とつながると「接続しました」と表示され、相手側の映像がモニター画面に表示されます。これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの切断（☎）ボタン、または、リモコンの決定ボタンを押してください。

入力した番号をアドレス帳に保存するには

IP アドレスや回線番号を入力すると、メニュー下部に「保存」ボタンが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押してください。リスト編集メニューが表示されるので、入力した番号をアドレス帳に保存してください。

◆リスト編集メニューについて詳しくは、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

リダイヤルするには

詳細接続メニューを使用してダイヤルすると、次に詳細接続メニューを表示したときに、前回ダイヤルした番号が IP アドレス入力欄または電話番号入力欄に入力された状態になっています。**（リダイヤル機能）**

ご注意

下記の場合は、リダイヤル機能は働きません。

・電源を切ったり、スタンバイ状態にしたとき。

・IP アドレスや回線番号を入力してもダイヤルしなかったとき。

相手から接続される

相手から呼び出しを受けたとき（着信）、手動着信に設定してあるか、自動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

ご注意

お買い上げ時には、手動着信に設定されています。

呼び出しの受け方（手動着信 / 自動着信）

手動着信

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。回線をつなぐ操作をすることにより接続が始まります。
接続してよいか確認をしてから相手とつなぐことができます。

自動着信

相手からの呼び出しを自動的に受け、接続を始めます。
いちいち操作をする手間が省けますが、自動的につながってしまうので、準備をしていないときでも、自分側の様子がすぐに相手側に伝わってしまいます。

ご注意

・システムの電源が入っていないと、着信できません。
・モニター用テレビの電源が入っていることも確認してください。

◆着信方法の設定については、着信設定メニューの「自動着信」（77 ページ）をご覧ください。

相手から呼び出される

手動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴り、モニター画面に「着信があります。応答しますか?」というメッセージが表示されます。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押してください。
回線の接続が始まります。

接続すると、相手の映像がモニター画面に映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
モニター画面には「接続しました」と表示されます。
これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

ヒント

通信中に音声やカメラを調節する方法は、159 ～ 170 ページをご覧ください。

回線をつなぎたくないときは

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。呼び出し音が止まります。

自動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴り、モニター画面に「着信中」と表示されます。
自動的に接続すると、相手の映像がモニター画面に映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
モニター画面には「接続しました」と表示されます。
これで相手とコミュニケーションを始めることができます。

ヒント

通信中に音声やカメラを調節する方法は、159 ～ 170 ページをご覧ください。

ISDN 回線が接続されなかったときは

何らかの理由で ISDN 回線がつながらなかったときは、「回線を完全につなぐことができません（ここに ISDN 理由コードとメッセージが現れます。）」と表示されます。

◆ISDN 理由コードとメッセージについては、「メッセージ一覧」（273 ページ）をご覧ください。

接続を終了する

1 リモコンの切断（☎）ボタンを押す。

モニター画面に「切断しますか？」と表示されます。

2 リモコンの切断（☎）ボタンをもう一度押す。またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

これで、回線が切れます。

ご注意

回線を切っても、システムの電源は入ったままです。

回線を切らないときは

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

接続していた相手をアドレス帳に登録するには

一般設定メニューの「機器設定」ページで「会議終了後のリスト登録」が「入」に設定されていれば、通信終了後に相手がアドレス帳に登録されていない場合、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示されます。「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

ご注意

「会議終了後のリスト登録」が「切」になっていると、このメッセージは表示されません。

◆詳しくは、一般設定メニューの「会議終了後のリスト登録」（100 ページ）をご覧ください。

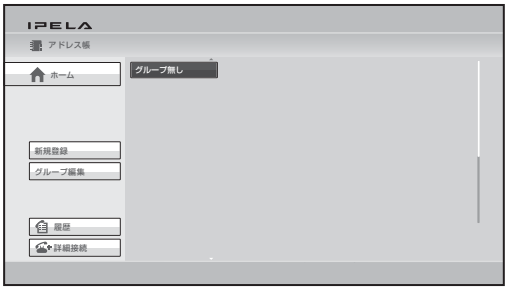
アドレス帳に相手を登録する

アドレス帳に相手の電話番号やIPアドレスなどを登録しておくと、簡単にダイヤルすることができます。本機のアドレス帳には1000件までの相手を登録できます。各リストに静止画（相手の写真など）を登録しておくこともできます。
また、本機のアドレス帳とは別に、“メモリースティック”にプライベートアドレス帳を作ることもできます。

新しい相手を登録する

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンと決定ボタンでホームメニューの「接続」ボタンを選び、表示される接続メニューの「アドレス帳から選ぶ」を選ぶ。

アドレス帳が表示されます。

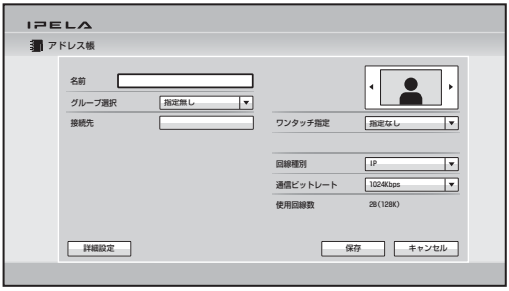


ヒント

アドレス帳は、履歴メニューや詳細接続メニューから「アドレス帳」を選んで表示することもできます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「新規登録」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。



3 リスト編集メニューの各項目を設定する。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンと決定ボタンで設定項目を選びます。
入力するときは、リモコンの数字ボタンまたはソフトキーボードを使って入力し、決定ボタンを押します。
選択するときは、▲/▼/◀/▶ ボタンで選択項目を選び、決定ボタンを押します。

名前

相手の名前を入力します。
半角 39 文字以内のカナ、英数字、記号で入力できます。

グループ選択

アドレス帳のグループを選びます。

接続先

「回線種別」の選択に応じ、相手の IP アドレスや回線番号を入力します。

回線種別で「IP」を選んだとき：相手の IP アドレスを入力します。DNS サーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時はユーザー名やユーザー番号（94 ページ）を入力してください。

回線種別で「ISDN」を選んだとき：相手の回線番号を入力します。サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「＊（アスタリスク）」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。発信設定メニューの「詳細設定」（76 ページ）を「入」に設定しているとき、回線番号欄は A1、A2、B1、B2、C1、C2 の 6 つ現れます。相手の ISDN 回線番号は A1 欄に入力してください。

回線種別で「TEL」を選んだとき：相手の音声電話番号を入力します。(例：0390123456)

回線種別で「SIP」を選んだとき：相手の IP アドレスや SIP サーバーから割り当てられた番号を入力します。

SIP で相手を指定するときのアドレスには以下のような形式があります。

・ 4000（SIP サーバーから割り当てられた番号）
・ 4000@sip.com
・ 192.168.1.1（IP アドレス、SIP サーバーを使用しない場合）

アイコン／画像

アドレス帳に表示するアイコンまたは“メモリースティック”の静止画を選びます。

ご注意

静止画が保存されている“メモリースティック”が本機に挿入されていないときは、静止画を選ぶことはできません。

ワンタッチ指定

ホームメニューにワンタッチダイヤルボタンを作成するかどうかを選びます。

ファンクションキーの番号を F1、F2、F3、F4 から選択します。

回線種別

相手との接続に使用する回線インターフェースを選びます。IP、ISDN、TEL、SIP から選択します。この設定により、リスト編集画面の設定項目が切り替わります。

ご注意

・ 通信回線設定メニューの「通信回線」で「SIP」にチェックマークをつけているときは、回線種別で「SIP」が選択できます。
・ 通信回線設定メニューの「LAN2 を使用する」が「入」のときは、回線種別で「IP(2)」も選択できます。

通信ビットレート

「回線種別」で「IP」を選択したとき、通信ビットレートを選びます。

使用回線数

「回線種別」で「ISDN」を選択したとき、ISDN 回線のチャンネル数を選びます。

自動発信

プライベートアドレス帳（155 ページ）のときのみ設定します。「入」にすると、“メモリースティック”を入れるだけでこのリストの相手に自動発信します。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定した内容が登録されます。

ご注意

アドレス帳に登録していない相手との接続終了時には、その相手をアドレス帳に登録できます。そのとき、「名前」には IP アドレスまたは回線番号が表示されますので、必要に応じて変更してください。

ボンディング機能を使わないで接続するには

相手のシステムがボンディング機能を持っていないとき、相手の ISDN 回線番号を 1 つだけ入力したのでは、複数の使用回線数分を接続できません。

このような場合など、相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続したいときは、ボンディング機能を使用しないで接続することができます。

発信設定メニューの「詳細設定」（76 ページ）を「入」にすると、リスト編集メニューに回線番号欄 A1、A2、B1、B2、C1、C2 が現れます。「使用回線数」で選んだ回線数分の相手の ISDN 回線番号を入力してください。

ヒント

使用回線数が 2B のときは、詳細接続メニューから回線種別で「ISDN（2B）」を選んで接続することもできます。

発信の詳細を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「入」に設定しているときは、リスト編集メニュー下部に「詳細設定」ボタンが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「詳細設定」を選び、決定ボタンを押すと、発信の詳細設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

ご注意

リスト編集メニューの「詳細設定」で設定した内容は発信設定メニューで設定した内容よりも優先されます。

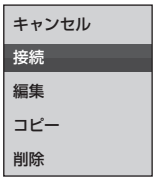
アドレス帳を編集する

アドレス帳に登録してある電話番号や IP アドレス、名前、設定を編集することができます。

1 アドレス帳を表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで修正したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。

4 電話番号や IP アドレス、名前、設定を修正する。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

登録内容の修正が完了します。

アドレス帳を 1 件コピーする

1 アドレス帳を表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでコピーしたい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「コピー」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手がコピーされ、元の名前のうしろに「-2」が追加されます。設定はすでにコピーされているので、変更したい項目だけ修正して使用することができます。

登録した相手を削除する

1 アドレス帳を表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで削除したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「削除」を選び、決定ボタンを押す。

「リストを削除しますか?」という確認のメッセージが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手が削除されます。

削除を中止するときは

手順4で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳にグループを作る（グループ編集）

アドレス帳にグループを作り、登録した相手をグループ分けすることができます。

新しいグループを登録するには

1 アドレス帳を表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「グループ編集」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳＞グループ編集メニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「新規登録」を選び、決定ボタンを押す。

グループ名入力メニューが表示されます。

4 リモコンの数字ボタンまたはソフトキーボードを使ってグループ名を入力し、決定ボタンを押す。

カタカナ、英数字、記号で入力できます。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

登録したグループのボタンが表示されます。

6 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「戻る」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳に戻ります。

グループ名を変更するには

1 アドレス帳>グループ編集メニューを表示し、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで名前を変更したいグループボタンを選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでサブメニューから「編集」を選び、決定ボタンを押す。

グループ名の入力メニューが表示されます。

3 リモコンの数字ボタンまたはソフトキーボードを使ってグループ名を変更し、決定ボタンを押す。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

グループ名が変更されたボタンがアドレス帳＞グループ編集メニューに表示されます。

ヒント

グループ編集のサブメニューでは、次の操作もできます。

「キャンセル」：グループボタンの選択を中止します。

「削除」：グループに1件も登録されていない場合、そのグループを削除します。

ご注意

相手が登録されているグループボタンは削除できません。

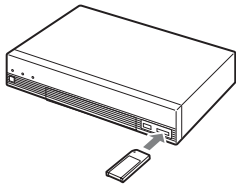
プライベートアドレス帳を作成する

“メモリースティック”に自分専用のアドレス帳（プライベートアドレス帳）を作成することができます。一度作成すると、本機に“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に切り換わります。また、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録した相手の1つに自動発信させることもできます。

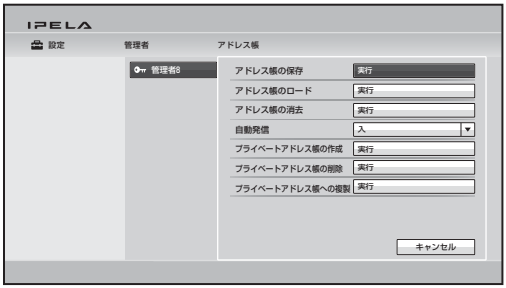
プライベートアドレス帳に相手を登録するには

1 プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



2 管理者設定メニューの「アドレス帳」ページを表示する。



◆メニューの表示のしかたは、「設定メニューを表示する」（72ページ）をご覧ください。

3 「プライベートアドレス帳の作成」を選ぶ。

“メモリースティック”に空の「プライベートアドレス帳」フォルダと空のファイルが作成されます。

4 相手を新規登録する。

登録のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。「新しい相手を登録する」（147 ページ）の手順 2 ～ 4 をご覧ください。

プライベートアドレス帳の編集のしかたや、プライベートアドレス帳に登録した相手を削除したり、アドレス帳を 1 件コピーしたりする方法も、本体のアドレス帳の場合と同じです。プライベートアドレス帳を画面に表示した状態で、151 ページの操作をしてください。

本体のアドレス帳をプライベートアドレス帳として複製するには

プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者設定メニューで「プライベートアドレス帳への複製」を選びます。本体に登録されているアドレス帳が“メモリースティック”に複製されます。

“メモリースティック”からプライベートアドレス帳を削除するには

削除したいプライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者設定メニューで「プライベートアドレス帳の削除」を選びます。プライベートアドレス帳が“メモリースティック”から削除されます。

プライベートアドレス帳の相手の 1 つに自動発信するには

管理者設定メニューで「自動発信」を「入」にして、リスト編集メニューで以下のように設定しておくと“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録した相手の 1 つに自動的に発信できます。

1 プライベートアドレス帳を表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで自動発信したい相手を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「自動発信」の「入」を選び、決定ボタンを押す。

設定が登録され、プライベートアドレス帳に「AUTO」と表示されます。

共有アドレス帳を使用する

共有アドレス帳機能を使用することで、サーバー上にあるアドレス帳を複数台のソニー製ビジュアルコミュニケーションシステムで使用できるようになります。

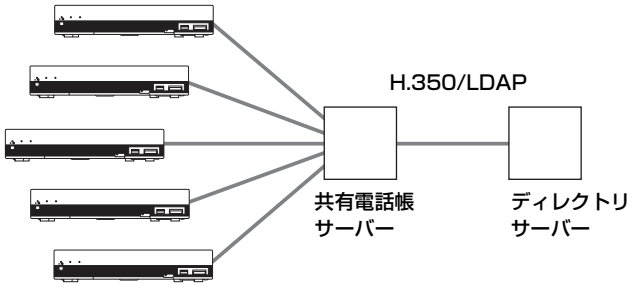
◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

ご注意

・共有アドレス帳に登録された相手には通常のアドレス帳と同様に発信ができますが、登録された相手がマルチポイント接続リストの場合は発信できません。
・共有アドレス帳へのリスト登録、変更、削除、および画像の貼り付けはできません。また、共有アドレス帳に登録された相手をプライベートアドレス帳にコピーすることはできません。

システム構成例

このシステム構成では、H.350 を使用したアドレス帳共有が可能になります。



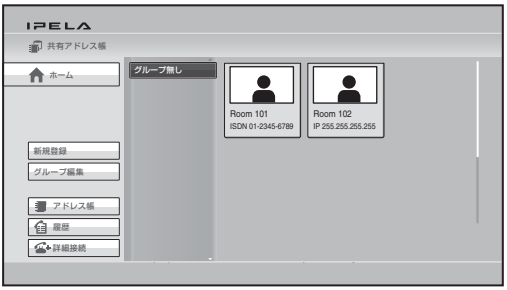
共有アドレス帳を使用するには

共有アドレス帳設定メニューで、「SPB モード」が「入」になっていることを確認し、「SPB サーバ・アドレス」、「SPB サーバ・パスワード」にそれぞれ適切な値を入力します。

「SPB モード」が「入」になっていると、メニュー画面に「共有アドレス帳」メニューボタンが表示されます。

共有アドレス帳を表示するには

アドレス帳メニュー画面の「共有アドレス帳」を選び、決定ボタンを押すと、共有アドレス帳に切り換わります。



共有アドレス帳からアドレス帳に切り換えるには、メニュー画面の「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押します。
共有アドレス帳に登録された相手への発信方法は、アドレス帳と同様です。発信方法について詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（138 ページ）をご覧ください。

音声を調節する

受信音量を調節する

相手から送られてくる音声の音量を調節することができます。
リモコンの音量＋ボタンを押すと音量が大きくなり、音量－ボタンを押すと小さくなります。
音量＋／－ボタンを押すと、モニター画面に音量調節バーが表示されます。一定時間操作しないと、音量調節バーはモニター画面から消えます。

ご注意

・あらかじめモニター側の主音量を設定しておいてください。
・音量を大きくしすぎると音がひずんだり、ハウリングが起こることがあります。その場合は音量を小さくしてください。

音声の送信を一時的にカットする－マイクミュート機能

通信中にこちらから相手に送る音声を一時的にカットすることができます。
リモコンのマイク オン／オフボタンを押します。
マイク オン／オフボタンを1回押すと、相手に送られる音声がカットされ、相手に聞こえなくなります。自分側のモニター画面に NEAR インジケーターが表示されます。
相手側のモニター画面には FAR インジケーターが表示され、音声が送信されていないことを示します。

音声の送信を再開するときは

もう1回マイク オン／オフボタンを押します。
自分側のモニター画面から NEAR インジケーター、相手側のモニター画面から FAR インジケーターが消えます。

着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ

相手から呼び出しを受けたとき、こちら側の音声が相手に送信されないように設定することができます。
着信設定メニューの「着信時マイク」を「切」に設定しておくと、着信時、映像のみ相手に送信されます。モニター画面に NEAR インジケーターが表示されます。

◆設定については、着信設定メニューの「着信時マイク」（77 ページ）をご覧ください。

相手に音声を送信するには

リモコンのマイクオン / オフボタンを押します。
モニター画面から NEAR インジケーターが消えます。

送信する映像と音声の時間差を調整する－リップシンク機能

コミュニケーションを行う際に、音だけが早く届き、その後で映像が届くことがあります。その結果、映像の口の動きと音声が一致せず、対話がスムーズに運ばなくなることがあります。
リップシンク機能を使うと、相手に届く映像と音声がほぼ一致するように自動的に調整されます。ただし、映像に合わせて音声も遅れて届くようになることがあります。
音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「リップシンク」を「自動」に設定しておくと、リップシンク機能が動作します。

◆設定については、音声設定メニューの「リップシンク」（85 ページ）をご覧ください。

ご注意

相手から送られてくる映像と音声にリップシンク機能による調整が必要な場合は、相手側に、リップシンク機能を使うよう依頼してください。

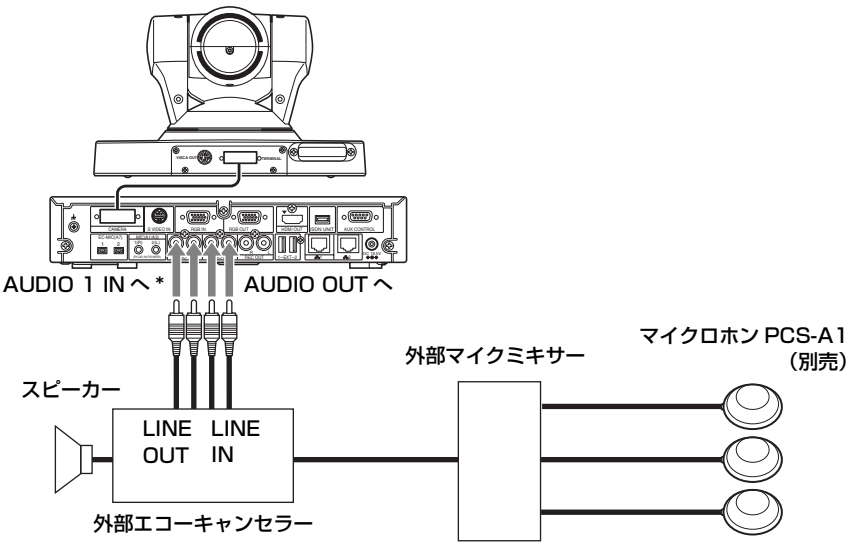
エコーを軽減する－エコーキャンセラー

システムには、音声の伝送時に発生するエコーを消すエコーキャンセラー機能があります。
音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「エコーキャンセラー」を「入」に設定しておくと、内蔵のエコーキャンセラーが動作します。

外部機器のエコーキャンセラーを使用する場合は、「エコーキャンセラー」を「切」に設定してください。

◆設定については、音声設定メニューの「エコーキャンセラー」(85 ページ)をご覧ください。

外部エコーキャンセラーを使用する場合の接続例



* PCS-XG55/XG55S/XA55 には、AUDIO 1 IN 端子はありません。前面の AUDIO IN 端子に接続してください。

◆外部エコーキャンセラーの接続のしかたについては、使用する外部エコーキャンセラーの取扱説明書をご覧ください。

カメラを調節する

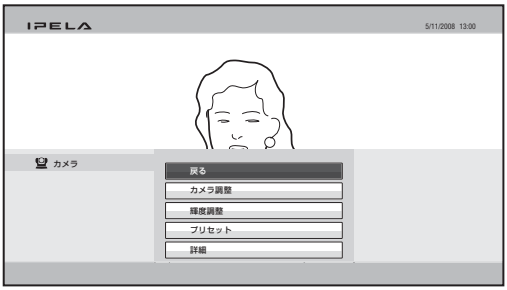
相手に送っている自分側のカメラの映像を希望の状態に調節することができます。
また、通信中に相手側のカメラを操作して、送られてくる映像を調節することもできます。

アングルとズームを調整する

カメラのアングルとズームを調整して、モニター画面に映す映像を決めます。

1 リモコンのカメラボタンを押す、またはリモコンの ↓/↑/←/→ ボタンでホームメニューの「カメラ」ボタンを選び、決定ボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。

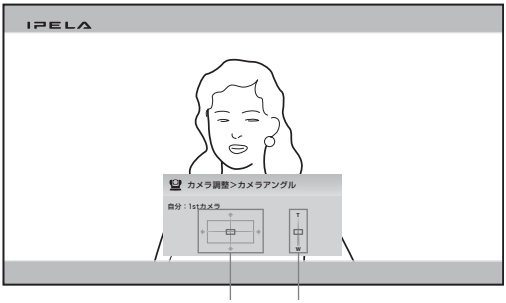


2 調整したいカメラを選ぶ。

通信中は、リモコンの F1 ボタンを押すたびに自分側カメラと相手側カメラが切り替わります。
カメラが 2 台接続されているときは、リモコンの F2 ボタンを押すたびに 1st カメラと 2nd カメラが切り替わります。
選んだカメラは、カメラメニューの最上部に表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ調整」を選び、決定ボタンを押す。

カメラ調整メニューが表示されます。



パン・チルト表示　ズーム表示

4 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで写したい部分がスクリーンに表示されるよう、カメラアングルを調整する。

選んだカメラがパン・チルトし、子画面またはフルスクリーンに調整された画像が映ります。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、リモコンによるカメラのパン･チルトはできません。

5 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調整する。

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

◆デジタルズームの設定について詳しくは、「デジタルズームを設定するには」（169 ページ）をご覧ください。

相手側カメラを操作するには

・相手側のカメラを操作するときは、自分側、相手側ともに通信モード設定メニューの「遠隔カメラ制御」（80 ページ）を「入」に設定してください。この設定が違っていると相手側のカメラは操作できません。
・通信中のカメラ遠隔操作方式が H.281 でない場合、相手側のカメラを操作することはできません。相手側のカメラを操作できない場合は、相手のカメラの遠隔操作方式をご確認ください。
・自分側と相手側から同時に同じカメラを操作すると、正常に動作しない場合があります。

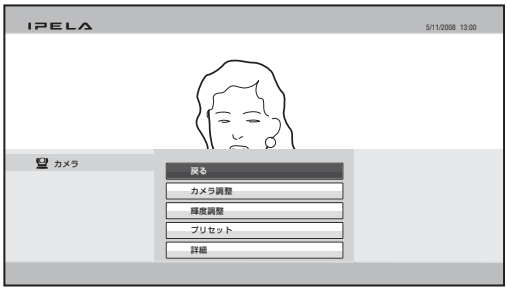
画像の明るさ（輝度）を調整する

通常、画像の明るさ（輝度）は、自動的に調整されますが、手動で調整することもできます。
通常は自動調整にしておいてください。最適な明るさが得られます。

輝度を手動調整するには

1 リモコンのカメラボタンを押す、またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「カメラ」ボタンを選び、決定ボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。



2 調整したいカメラを選ぶ。

通信中は、リモコンの F1 ボタンを押すたびに自分側カメラと相手側カメラが切り替わります。
カメラが 2 台接続されているときは、リモコンの F2 ボタンを押すたびに 1st カメラと 2nd カメラが切り替わります。
選んだカメラは、カメラメニューの最上部に表示されます。

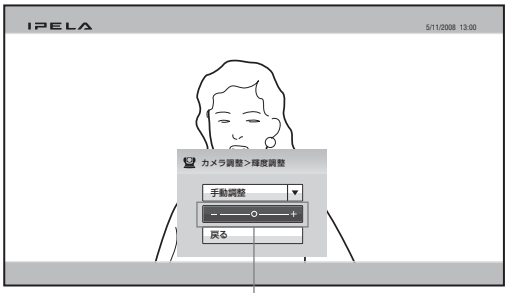
3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「輝度調整」を選び、決定ボタンを押す。

輝度調整メニューが表示されます。

4 決定ボタンを押す。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「手動調整」を選び、決定ボタンを押す。

輝度調整バーが選択されます。



輝度調整バー

6 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して、画面の明るさを調整する。

→ ボタンを押すと画面が明るくなり、← ボタンを押すと画面が暗くなります。

プリセット機能を使う

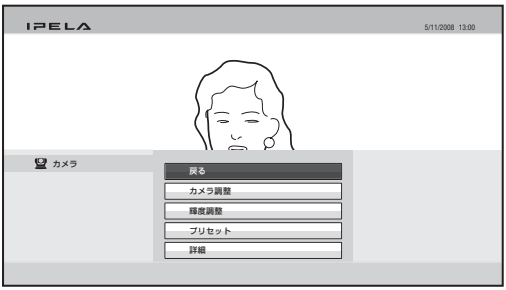
自分側カメラまたは相手側カメラのアングルとズームをプリセット登録できます。一度プリセット登録しておくと、その設定を簡単に呼び出してカメラを移動できます。

自分側カメラは 100 件、相手側カメラは 6 件までのプリセット登録ができます。

プリセット登録するには

1 リモコンのカメラボタンを押す、またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「カメラ」ボタンを選び、決定ボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。



2 アングルとズームをプリセットしたいカメラを選ぶ。

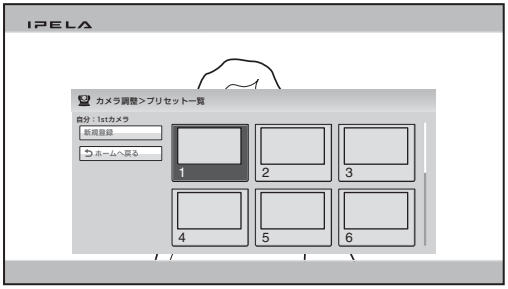
通信中は、リモコンの F1 ボタンを押すたびに自分側カメラと相手側カメラが切り替わります。

カメラが 2 台接続されているときは、リモコンの F2 ボタンを押すたびに 1st カメラと 2nd カメラが切り替わります。

選んだカメラは、カメラメニューの最上部に表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでカメラ調整メニューから「プリセット」を選び、決定ボタンを押す。

プリセット一覧メニューが表示されます。



4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「新規登録」を選び、決定ボタンを押す。

プリセット登録メニューが表示されます。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「プリセット番号」を選択し、リストから番号を選ぶ。

まだプリセット登録されていない番号だけが選択できます。

6 カメラのアングルとズームを調整したいときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラアングル」の「調整」を選び、決定ボタンを押す。

カメラ調整メニューが表示されますので、ズームとアングルを調整します。

◆調整のしかたは、「アングルとズームを調整する」(162 ページ) をご覧ください。

7 調整が終わったら、リモコンの戻るボタンまたは決定ボタンを押す。

プリセット登録メニューに戻ります。

8 サムネイルを登録したいときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「サムネイル画像」を選び、決定ボタンを押して「同時に登録する」にチェックマークをつける。

現在映っている画像が、サムネイルとして登録されます。

9 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「登録」を選び、決定ボタンを押す。

プリセット登録が完了し、プリセット一覧画面にプリセットした番号が表示されます。

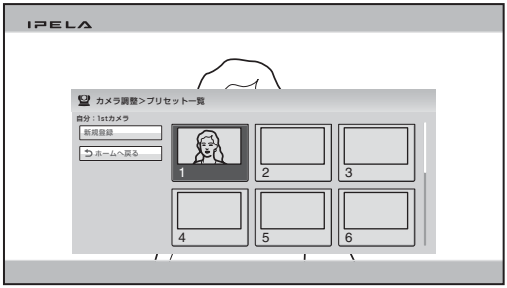
プリセットした位置にカメラを移動するには

1 リモコンのカメラボタンを押す、またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「カメラ」ボタンを選び、決定ボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでカメラメニューから「プリセット」を選び、決定ボタンを押す。

プリセット一覧メニューが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出したいプリセット番号を選び、決定ボタンを押す。

プリセット番号 1 ～ 6 を呼び出すときは、リモコンの数字ボタン 1 ～ 6 を押して呼び出すこともできます。

サブメニューが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「移動」を選び、決定ボタンを押す。

選んだプリセット位置にカメラが移動します。

ヒント

プリセット一覧メニューのサブメニューでは、次の操作もできます。

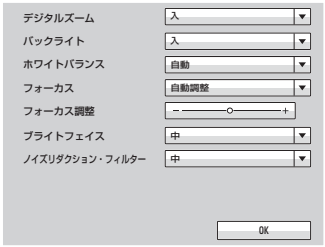
「キャンセル」：プリセット位置の選択を中止します。

「編集」：選択したプリセット位置を変更することができます。

「削除」：選択したプリセット位置を削除します。

カメラ機能の詳細を設定する

カメラ調整メニューの「詳細」を選択すると、「詳細」メニューが表示されます。ここでは、カメラのさまざまな機能を設定できます。



デジタルズームを設定するには

デジタルズーム機能を使うときは「デジタルズーム」を「入」にします。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、この項目は使用できません。

逆光補正（バックライト）機能を使うには

背景が明るすぎて被写体が暗めになるときは、「バックライト」を「入」にします。逆光補正機能が働き、明るく写ります。

ホワイトバランスを調整するには

「ホワイトバランス」で撮影場所に応じたホワイトバランス調整のしかたを設定します。

自動：自動的にホワイトバランスを調整するとき。

室内モード：室内撮影に適したホワイトバランスにするとき。

屋外モード：屋外で撮影するのに適したホワイトバランスにするとき。

ONE PUSH（ワン・プッシュ）：画面中央に白い被写体を置き、ホワイトバランスを調整するとき。

フォーカスを自動調整するには

「フォーカス」で「自動調整」を選択して、決定ボタンを押します。フォーカスが自動調整されます。

フォーカスを手動調整するには

1 「フォーカス」で「手動調整」を選択する。

2 「フォーカス調整」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでフォーカスを調整する。

遠くにフォーカスを合わせるときは、→ ボタンを押します。
近くにフォーカスを合わせるときは、← ボタンを押します。

ブライトフェイス機能を使うには

本システムでは、HD カメラユニット PCSA-CXG80 で撮影したシーンの暗い部分を明るく、しかも明るい部分も白とびせずはっきり見えるように輝度とコントラストを自動調整するブライトフェイス機能を搭載しています。
部屋が暗いときや、背景に窓やブラインドがある逆光の部屋などで撮影するときは、ブライトフェイス機能を使用すると人物の顔が明るく映ります。
ブライトフェイス機能を使用するときは、「ブライトフェイス」を「強」、「中」、「弱」に設定します。
ブライトフェイス機能を使用しないときは「切」にします。

ご注意

・ブライトフェイス機能は、PCSA-CXG80 以外のカメラには使用できません。
・PCS-XA80/XA55 には、ブライトフェイス機能はありません。

ノイズリダクション・フィルターを使うには

ノイズリダクション・フィルターを使うと、画像ノイズを低減できます。ノイズリダクション・フィルターの強さを「強」、「中」、「弱」から選択できます。ノイズリダクション・フィルターを使用しないときは「切」にします。

ご注意

PCS-XA80/XA55 では、この項目は使用できません。

映像と音声を切り換える

モニター画面に表示する映像や、入力される映像や音声を切り換えることができます。

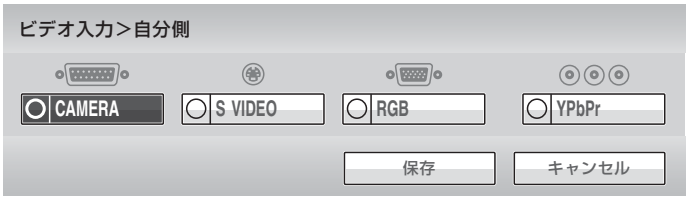
相手側と自分側の映像を切り換える

通信中、切り換えが可能なときは、リモコンのレイアウトボタンを押すと、モニター画面下部のガイダンス欄に「F1：相手と自分の画面を切り換える」と表示されます。
リモコンの F1 ボタンを押すたびに自分側と相手側の映像が切り替わります。

入力される映像を切り換える

1 リモコンの入力切換ボタンを押す。

ビデオ入力＞自分側メニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで、切り換えたい自分側システムの入力を選び、決定ボタンを押す。

選んだ機器の映像がモニター画面に映ります。

CAMERA：CAMERA 端子に接続したカメラの映像を選ぶとき
S VIDEO：S VIDEO IN 端子に接続した機器（2 台目のカメラなど）の映像を選ぶとき
RGB：RGB IN 端子に接続した機器の映像を選ぶとき
YPbPr：VIDEO IN YPbPr 端子に接続した機器の映像を選ぶとき

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

3 選んだ入力を記憶させたいときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

ビデオ入力メニューが消えます。

保存した入力切換情報は、システムの電源を切っても記憶されており、次に電源を入れたときにも選択されます。

ビデオ入力メニューに表示する名前を変更するには

映像設定メニューの「ビデオ入力選択名」ページで各入力にお好きな名前を設定することができます。上記の手順 2 で入力を切り換えるとき、ビデオ入力メニューに設定した名前が表示されます。

例：Camera1、Camera2、None など

◆詳しくは、映像設定メニューの「ビデオ入力選択名」（89 ページ）をご覧ください。

リモコンのファンクションボタン（F1 ～ F4）で入力映像を切り換える

一般設定メニューの「通信中のファンクションキー」でリモコンの F1 ～ F4 ボタンに映像入力（カメラ、S VIDEO、RGB または YPbPr）を割り当てておくと、F1 ～ F4 ボタンを押すだけで、すばやく映像入力を切り換えることができます。

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

◆詳しくは、一般設定メニューの「通信中のファンクションキー」（102 ページ）をご覧ください。

相手側に送る音声を切り換える

相手に送る音声をマイクか外部機器の音声に切り換えることができます。音声設定メニューの「音声入力」で設定します。

◆詳しくは、音声設定メニューの「音声入力」（83 ページ）をご覧ください。

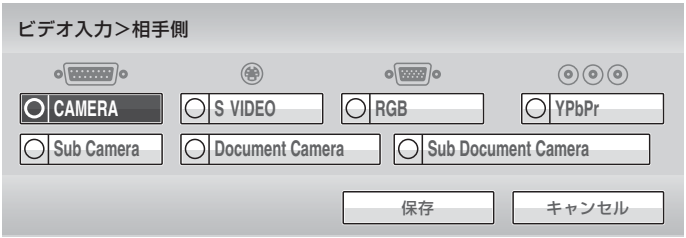
映像と音声を同時に切り換える

映像設定メニューの「音声とのリンク」ページで「オーディオ入力とのリンク」を「入」にしておくと、映像入力を切り換えたとき、その映像入力にリンクするように設定された音声入力に自動的に切り換えることができます。

◆詳しくは、映像設定メニューの「オーディオ入力とのリンク」(89 ページ)をご覧ください。

相手側の映像を切り換える

通信中、相手側システムから出力される映像を切り換えることができます。
リモコンの入力切換ボタンを押してから F1 ボタンを押すと、ビデオ入力＞相手側メニューが表示されます。



リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、相手側システムに接続されている機器の映像を選び、決定ボタンを押します。選んだ映像が自分側システムに入力され、モニター画面に映ります。

ご注意

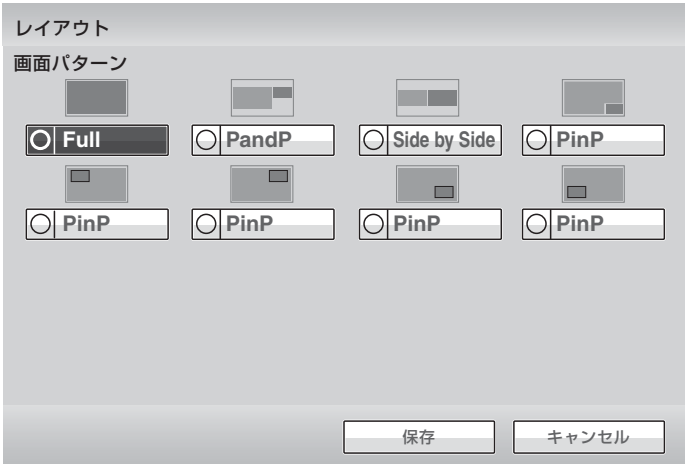
自分側システムから切り換えることができるのは、相手側システムから出力可能な映像のみです。

モニター映像を切り換える

自分側の映像と相手側の映像を同時にモニター画面に表示することができます。自分側の様子が相手のモニターにどのように映っているかを確認するときなどに便利です。

1 リモコンのレイアウトボタンを押す。

レイアウトメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで画面パターンを選び、決定ボタンを押す。

次の 8 つの画面パターンから選択できます。

Full：相手側の映像を全画面表示するとき。

PandP：左に相手側の映像を大きく表示し、右に自分側の映像を小さく表示するとき。

Side by Side：左に相手側の映像、右に自分側の映像を並べて表示するとき。

PinP：相手側の映像の中に自分側の映像を子画面で表示するとき。子画面の位置を 5 種類のパターンから選択できます。

3 選んだ画面パターンを記憶させたいときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

レイアウトメニューが消えます。

相手側の映像と自分側の映像の位置を入れ換えるには

通信中、切り換えが可能なときは、リモコンのレイアウトボタンを押すと、モニター画面下部のガイダンス欄に「F1：相手と自分の画面を切り換える」と表示されます。リモコンの F1 ボタンを押すたびに相手側の映像と自分側の映像の位置が入れ替わります。

RGB 画像の受信中に、相手映像に切り換えるには

相手からコンピューターの RGB 画像を受信中にリモコンのレイアウトボタンを押すと、モニター画面下部のガイダンス欄に「F2：画面を元に戻す」と表示されます。リモコンの F2 ボタンを押すと、相手映像に切り替わります。RGB 画像に戻すには、もう一度 F2 ボタンを押します。

ご注意

モニターを 2 台接続して映像設定メニューの「モニター出力」を「HDMI+RGB」に設定しているときは、F2 ボタンを使って RGB 画像に切り換えることができません。

画像をキャプチャーする

ツールメニューの「画面キャプチャ」を使うと、モニター画面に表示されている画像をキャプチャーしてアドレス帳に表示することができます。キャプチャーした画像は“メモリースティック”に保存されます。

自分側の画像をキャプチャーするには

1 キャプチャーした画像を保存する“メモリースティック”を、システム本体のメモリースティックスロットに差し込む。

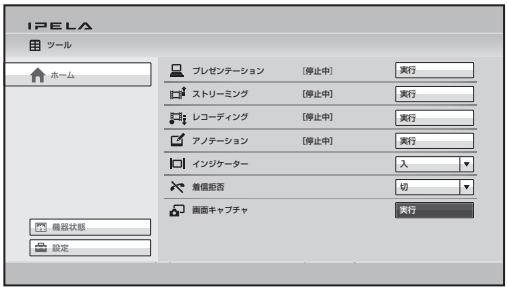
2 モニター画面にキャプチャーしたい画像を表示する。

◆カメラを調節する方法については、「カメラを調節する」（162 ページ）をご覧ください。

3 リモコンのツールボタンを押す、またはリモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでホームメニューの「ツール」を選び、決定ボタンを押す。

ツールメニューが表示されます。

4 リモコンの → ボタンを押し、↑/↓/←/→ ボタンで「画面キャプチャ」の「実行」を選び、決定ボタンを押す。



モニター画面に表示されている画像が“メモリースティック”に保存されます。

◆キャプチャーした画像をアドレス帳に表示する方法は、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

相手側の画像をキャプチャーするには

1 通信中、モニター画面にキャプチャーしたい相手側の画像を表示する。

◆通信中に相手のカメラを調節する方法については、「カメラを調節する」（162 ページ）をご覧ください。

2 リモコンのツールボタンを押してツールメニューを表示する。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「画面キャプチャ」の「実行」を選び、決定ボタンを押す。

相手側の画像が“メモリースティック”に保存されます。

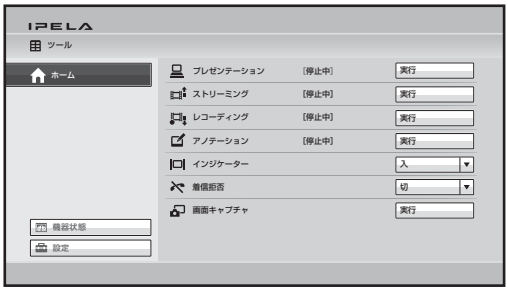
4章 いろいろな機器を使った接続

この章では、HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 に付属している構成機器以外に別売の機器をプラスしてできるいろいろな接続のしかたを説明します。

◆多地点接続を行うには、6 章をご覧ください。

ツールメニューを使う

リモコンのツールボタンを押すと、モニター画面にツールメニューが表示されます。
ツールメニューは、よく使う機能をワンタッチで実行できる便利なメニューです。



リモコンの ➡ ボタンを押してから、⬆/⬇/⬅/➡ ボタンでメニューの各項目を選び、決定ボタンを押すと、以下の機能が実行されます。

ご注意

「着信拒否」は、HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）がインストールされている場合のみ操作できます。

プレゼンテーション

リモコンの決定ボタンを押すと、本機に入力したコンピューターのRGB 画像を相手に送信します。送信中は [実行中] と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。「停止」を選んで決定ボタンを押すと、RGB 画像の送信が終了します。

◆プレゼンテーションについて詳しくは、「コンピューターの画像をプレゼンテーションに使う」(181 ページ) をご覧ください。

ストリーミング

リモコンの決定ボタンを押すと、進行中のビジュアルコミュニケーションがストリーミング配信され、参加していない人がコミュニケーションの様子を Web 経由で見ることができます。ストリーミング配信中は [実行中] と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。「停止」を選んで決定ボタンを押すと、ストリーミング配信が終了します。

◆ストリーミングについて詳しくは、「ストリーミング配信する」(184 ページ) をご覧ください。

レコーディング

リモコンの決定ボタンを押すと、進行中のビジュアルコミュニケーションの映像・音声を“メモリースティック”に保存します。保存中は [実行中] と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。「停止」を選んで決定ボタンを押すと、レコーディングが終了します。

◆レコーディングについて詳しくは、「レコーディングする」(186 ページ) をご覧ください。

アノテーション

リモコンの決定ボタンを押すと、アノテーション開始メニューが表示され、ペンタブレット（市販）を使って画面上に描いた文字や絵を映像に重ねて送信したり、ポインターを画面に表示したりすることができます（アノテーション機能)。アノテーション実行中は [実行中] と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。「停止」を選んで決定ボタンを押すと、アノテーションが終了します。

◆アノテーションについて詳しくは、「アノテーション機能を使う」(188 ページ) をご覧ください。

インジケーター

リモコンの決定ボタンを押して ↑/↓/←/→ ボタンで「入」を選ぶと、モニター画面にインジケーターが表示されます。「切」を選ぶとインジケーターが消えます。

着信拒否（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）

リモコンの決定ボタンを押して ↑/↓/←/→ ボタンで「入」を選ぶと、通信中に他の端末からの呼び出しを受けたときに、接続を拒否します。「切」を選ぶと、接続を許可します。

ご注意

「着信拒否」は、HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）がインストールされている場合のみ操作可能になります。

画面キャプチャ

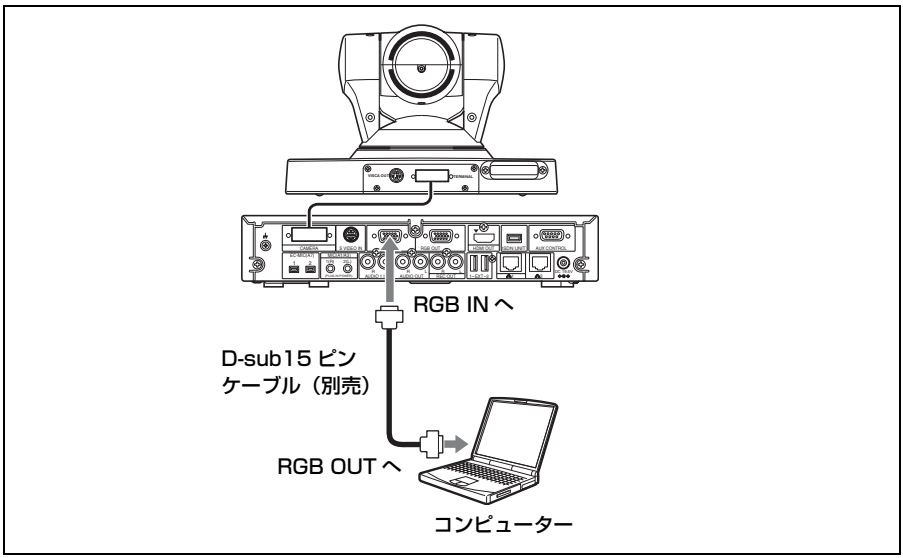
リモコンの決定ボタンを押すと、モニター画面の映像を“メモリースティック”に静止画として保存します（キャプチャー）。

◆キャプチャーににについて詳しくは、「画像をキャプチャーする」（176 ページ）をご覧ください。

コンピューターの画像をプレゼンテーションに使う

本機に入力したコンピューターなどの RGB 画像をカメラ映像などと同時に相手に送信できます。

コンピューターを接続する



プレゼンテーションを行う

プレゼンテーションモードを設定するには

本機に入力したコンピューターなどの RGB 画像とカメラ映像などを同時に送信し、相手側で送信した画像を同時に見ることを、“H.239 に準拠したプレゼンテーションモード”でプレゼンテーションを行うと言います。このモードを使用すると、カメラ映像とコンピューター画像を同時になめらかに再現できます。“H.239 に準拠したプレゼンテーションモード”でプレゼンテーションを行うには、送信側、受信側ともプレゼンテーションモードを「入」に設定しておく必要があります。どちらかが「切」に設定してあると、H.239 に準拠したプレゼンテーションを行うことはできません。

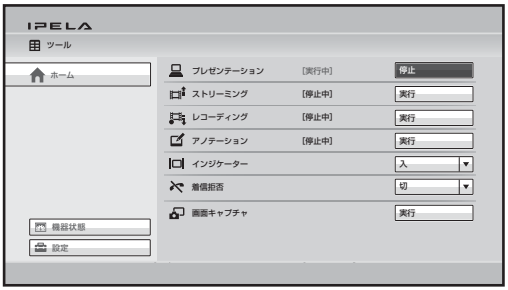
プレゼンテーションモードを設定するには、通信モード設定メニューの「IP：モード」ページの「H.239」（80 ページ）、または「ISDN：モード」ページの「H.239」（82 ページ）を「入」にしてください。

プレゼンテーションを開始するには

1 リモコンのツールボタンを押してツールメニューを表示する。

2 リモコンの ➡ ボタンを押し、⬆/⬇/⬅/➡ ボタンで「プレゼンテーション」の「実行」を選ぶ。

コンピューター画像が相手に送信されます。
プレゼンテーション中は、ツールメニューに「プレゼンテーション［実行中］」と表示されます。



ヒント

手順 1、2 の代わりに、リモコンのプレゼンテーションボタンを押しても、コンピューター画像が相手に送信されます。

H.239 が使用できない場合に画面パターンを変更するには

本機の映像設定メニューの「基本設定」ページ、「プレゼンテーション画面」（88 ページ）でプレゼンテーション時の画面パターンをあらかじめ設定してください。

1 画面：本機から送信されるコンピューター画像が全画面表示されます。

PandP：本機から送信されるコンピューター画像と選択されている入力映像（自分のカメラ映像など）が PandP モードで表示されます。

サイド バイ サイド：本機から送信されるコンピューター画像と選択されている入力映像（自分のカメラ映像など）がサイド バイ サイドモードで表示されます。

ご注意

本機側で「H.239」を「入」にしてあっても相手側で H.239 に対応していないと、コンピューター画像と入力映像（カメラ映像など）を 2 本のストリームとして送信することができません。

プレゼンテーションを停止するには

ツールメニューで「プレゼンテーション」の「停止」を選んで決定ボタンを押すと、コンピューター画像の送信が終了します。
または、リモコンのプレゼンテーションボタンを押しても、コンピューター画像の送信が終了します。

ストリーミング配信する

ビジュアルコミュニケーションをストリーミング配信し、参加していない人がコンピューターで Web からコミュニケーションの様子を見ることができます。
ストリーミング配信を行うには、あらかじめストリーミング許可の設定が必要です。

◆ストリーミング配信の見かたについては、7 章「Web 機能」をご覧ください。

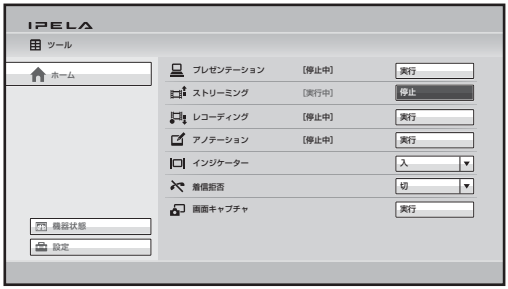
◆ストリーミングの設定については、管理者設定メニューの「ストリーミング / レコーディング」ページ（108 ページ）をご覧ください。

ストリーミング配信を開始するには

1 リモコンのツールボタンを押してツールメニューを表示する。

2 リモコンの → ボタンを押し、↑/↓/←/→ ボタンで「ストリーミング」の「実行」を選び、決定ボタンを押す。

ストリーミング配信が開始し、コンピューターで Web からビジュアルコミュニケーションを見られるようになります。
ストリーミング配信中は、ツールメニューに「ストリーミング［実行中］」と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。



ご注意

・接続をしていないときにストリーミングを開始すると、接続してからもストリーミング配信を続けます。
・ストリーミング受信は、Web でのアクセス制限により、10 端末程度で同時に利用できます。ただし、同時に利用できる端末数は、ご使用のシステムの環境によって異なります。

ストリーミング配信を停止するには

ツールメニューで「ストリーミング」の「停止」を選んで決定ボタンを押すと、ストリーミング配信が終了します。

ご注意

・ストリーミング配信中に接続を切っても、ストリーミング配信は終了しません。
・ストリーミング配信は、暗号化接続中は行うことができません。

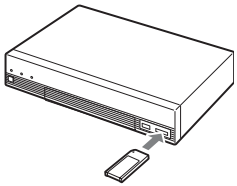
レコーディングする

ビジュアルコミュニケーションの映像・音声を “メモリースティック” に MPEG4 形式で保存することができます。保存したデータは、コンピューターで見ることができます。

◆レコーディングの設定については、管理者設定メニューの「ストリーミング / レコーディング」ページ（108 ページ）をご覧ください。

レコーディングを開始するには

1 “メモリースティック” をメモリースティックスロットに入れる。



2 リモコンのツールボタンを押してツールメニューを表示する。

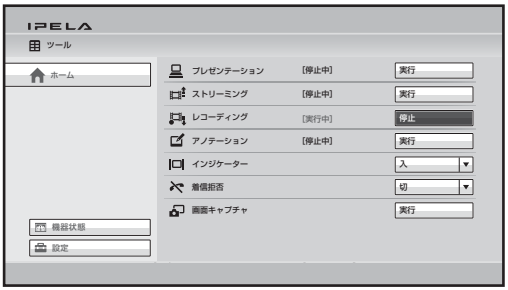
3 リモコンの → ボタンを押し、↑/↓/←/→ ボタンで「レコーディング」の「実行」を選び、決定ボタンを押す。

「レコーディングを開始しますか？」というメッセージが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

“メモリースティック” へのレコーディングを開始します。

レコーディング中は、ツールメニューに「レコーディング［実行中］」と表示され、メニュー項目が「停止」に変わります。



レコーディングを停止するには

1 ツールメニューで「レコーディング」の「停止」を選び、決定ボタンを押す。

「レコーディングを終了しますか？」というメッセージが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

“メモリースティック”へのレコーディングを停止します。

ご注意

- レコーディング中に“メモリースティック”の残量が少なくなり、保存できなくなった場合、レコーディングは自動的に終了し、メッセージが表示されます。
- レコーディングされた MPEG4 ファイルは、PSP などのメモリースティックビデオフォーマット対応製品で再生できる MPEG4 ファイルと同じファイル名ですが、これらの製品で認識するディレクトリにファイルを移動しても再生はできません。
- レコーディングは、暗号化接続中は行うことができません。

アノテーション機能を使う

相手と通信中、ペンタブレットを使って描いた文字や画をリアルタイムで送受信したり、カメラ映像やPC映像をポインターで指し示したりできます。この機能をアノテーションと呼びます。
アノテーション機能に使用できるペンタブレットは、Wacom社製のBamboo small CTH-470/K0* です。

* Wacom および Wacom ロゴ は、株式会社ワコムの登録商標です。Bamboo は商標です。

◆Bamboo small CTH-470/K0 について詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。

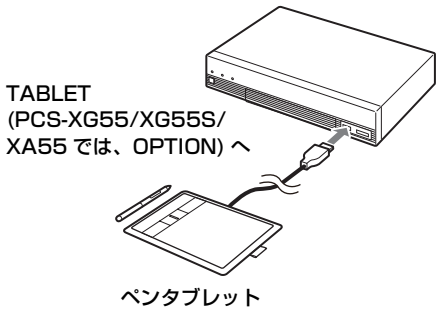
ご注意

ペンタブレットを使った通信ができるのは、PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55/XL55/G60/G60D/G60DP 同士の場合のみです。
ソニー製の他のビジュアルコミュニケーションシステムとの通信にはペンタブレットは使用できません。

ペンタブレットを接続する

1 システム本体の電源を切る。

2 システム前面の TABLET 端子（PCS-XG55/XG55S/XA55 では、OPTION 端子）にペンタブレットを接続する。



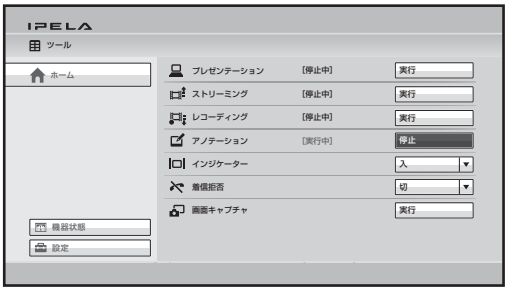
3 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押して、電源を入れる。

アノテーションを開始するには

1 通信を始める。

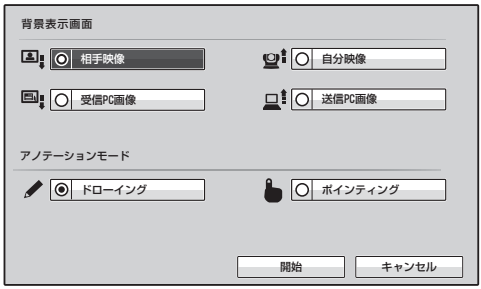
2 リモコンのツールボタンを押して、ツールメニューを表示する。

3 リモコンの → ボタンを押し、↑/↓/←/→ ボタンで「アノテーション」の「実行」を選び、決定ボタンを押す。



アノテーション開始メニューが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでアノテーションの「背景表示画面」を選び、決定ボタンを押す。



相手映像：相手側の映像を背景にする場合。

自分映像：自分側の映像を背景にする場合。

受信 PC 画像：受信した相手側のコンピューター画像を背景にする場合。

送信 PC 画像：自分側のコンピューター画像を背景にする場合。

ご注意

・「受信 PC 画像」は、相手側のコンピューター画像を受信中のみ選択できます。

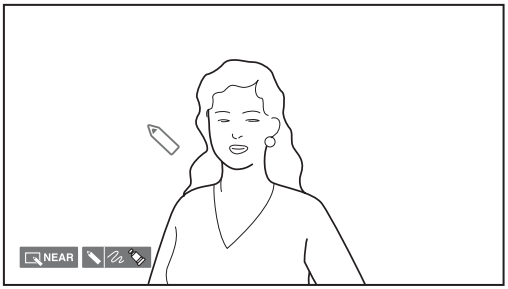
・「送信 PC 画像」は、自分側のコンピューター画像を送信中のみ選択できます。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「アノテーションモード」を選び、決定ボタンを押す。

ドローイング：画面上に画や文字を描く場合。
ポインティング：画面上にポインターを表示する場合。

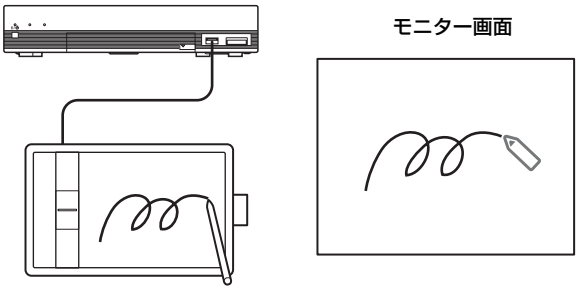
6 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「開始」を選び、決定ボタンを押す。

モニター画面の左下にアノテーションインジケーターと、NEAR（自分描画中）インジケーターが表示されます。
ドローイングモードのときは、（ペン）が、ポインティングモードのときは（ポインター）が画面上に現れます。



7 タブレットに付属のペンを使って、文字や画を描く、またはポインターを画面上で動かす。

描いた内容がリアルタイムでモニター画面に表示されます。



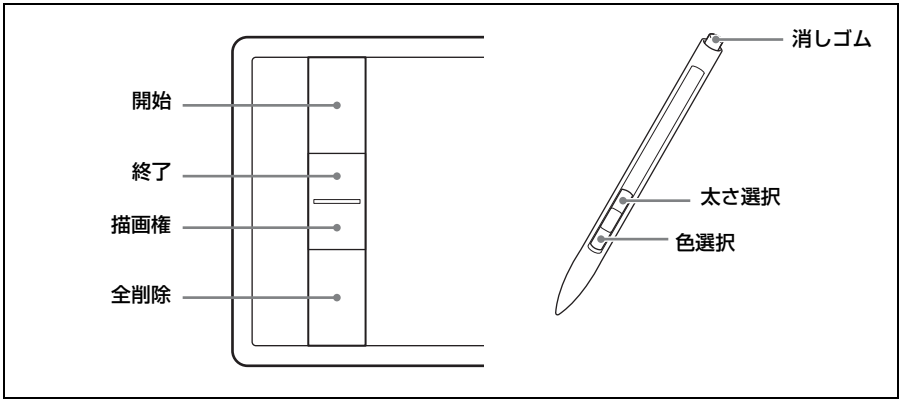
◆タブレットやペンの使いかたについて詳しくは、ペンタブレットに付属の説明書をご覧ください。

ポインティング中に使える機能

ポインティングモードのときは、ポインターで画面を指し示すことができます。ポインターで画や文字を描くことはできません。

ドローイング中に使える機能

タブレットのファンクションキーとペンのスイッチを使って操作します。



ドローイングを開始するには

タブレットの一番上のキーを押します。

ドローイングを終了するには

タブレットの上から2番目のキーを押します。

色を変更するには

ペンのサイドスイッチを押します。スイッチを押すたびに色が変わります。黒、赤、青、緑、黄、橙、紫、白が選択できます。

タッチ操作の場合は、1本目の指を操作面に置き、2本目の指でその右側をタップします。

線の太さを変更するには

ペンのセカンドサイドスイッチを押します。押すたびに線の太さが変わります。3種類の線の太さを選択できます。

タッチ操作の場合は、1本目の指を操作面に置き、2本目の指でその左側をタップします。

消しゴムで消すには

ペンのテールスイッチ（消しゴム）をタブレットにつけ、消したい文字や画の上で消す動作をします。ペンを動かした部分が消えます。
タッチ操作の場合は、2本の指の腹で操作します。

描いた文字や画をすべて消すには

タブレットの一番下のキーを押します。

描画権を取得するには

通常、アノテーションを開始した側に描画権があります。
相手側からアノテーションを開始した場合、自分側のモニター画面に「描画権取」ボタンが表示され、FAR（相手描画中）アイコンが表示されます。
描画権を自分に移したい場合は、タブレットの下から2番目のキーを押します。NEAR（自分描画中）インジケーターが表示され、自分側で文字や画を描くことができるようになります。

アノテーションで描いた内容を保存するには

1 アノテーションの内容を保存したい“メモリースティック”をシステムに挿入する。

2 リモコンのツールボタンを押してツールメニューを表示する。

3 ツールメニューで「画面キャプチャ」の「実行」を選ぶ。

モニター画面に表示されているアノテーション画像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

アノテーションを終了するには

1 リモコンのツールボタンを押して、ツールメニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「アノテーション」の「停止」を選び、決定ボタンを押す。

アノテーションが終了します。
アノテーションで描いた文字や画はコミュニケーション終了時に消去されます。

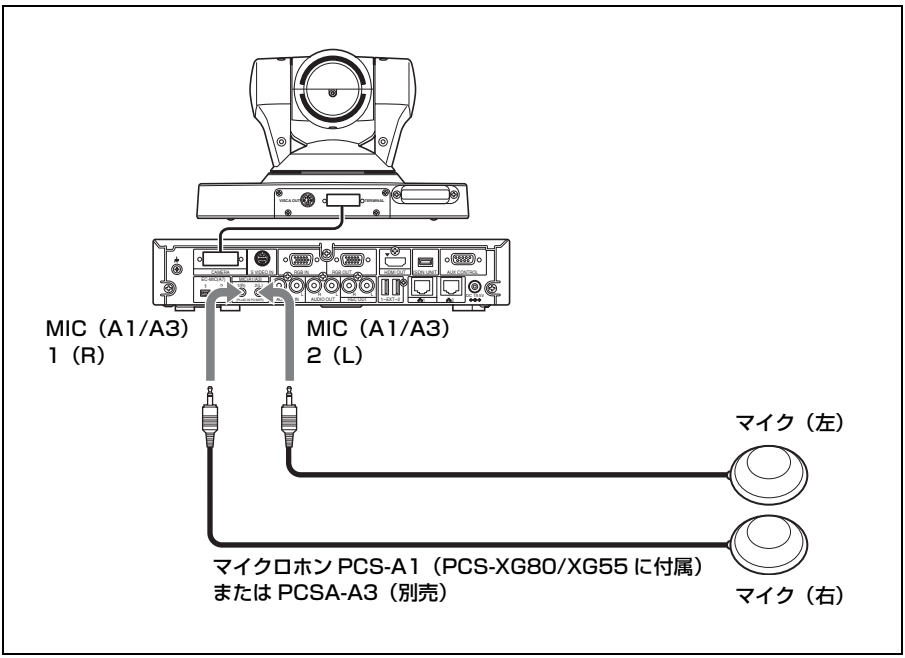
マイクを使う

マイクロホン PCS-A1（PCS-XG80 に 2 個 /PCS-XG55 に 1 個付属）や PCSA-A3（別売）を 2 本接続すると、音声をステレオで収音することができます。

◆エコーキャンセリングマイクを使用する場合は、「エコーキャンセリングマイクを使う （PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ）」（196 ページ）をご覧ください。

マイクを接続するには

システム本体の MIC（A1/A3）端子の 1（R）端子と 2（L）端子にマイクを接続します。マイクの電源は、システムより供給されます。



接続したマイクを使うには

音声設定メニューの「基本設定 1」ページ、「音声入力」で「MIC」を選択し、「入力選択（MIC 系）」で「MIC（A1/A3）」を選択してください。（83 ページ）

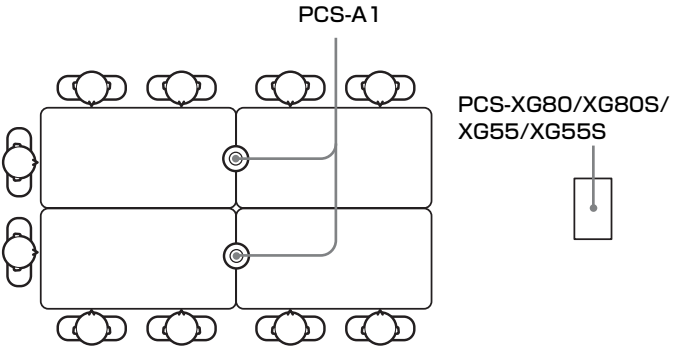
2 本のマイクをステレオマイクとして使用するときは、音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「入力モード」を「ステレオ」に設定してください。(86 ページ)
2 本のモノラルマイクとして使用するときは「モノラル」に設定します。

マイクロホン PCS-A1、PCSA-A3 を設置するときのご注意

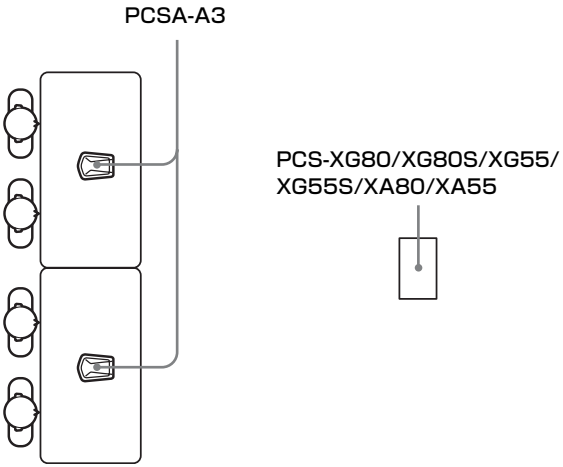
・参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
・できるだけ静かで、音が反響しにくい場所に設置してください。
・スピーカーは、マイクとの間に人が入らないように設置してください。
・ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
・マイクを紙などで覆ったり、マイクを手に持って動かしたりしないでください。ノイズとエコーが相手側へ一時的に大きく伝わることがあります。その場合は、エコーがおさまるまでしばらくお待ちください。
・ステレオの場合は、MIC（A1/A3）端子の 1（R）端子へ接続したマイクをカメラ側から見て右側に、2（L）端子へ接続したマイクをカメラ側から見て左側に設置してください。

マイクロホンの配置例

PCS-A1



PCSA-A3



エコーキャンセリングマイクを使う (PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ)

別売のエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 を複数接続することで、多人数での使用に対応できます。

PCSA-A7 には、以下の特長があります。

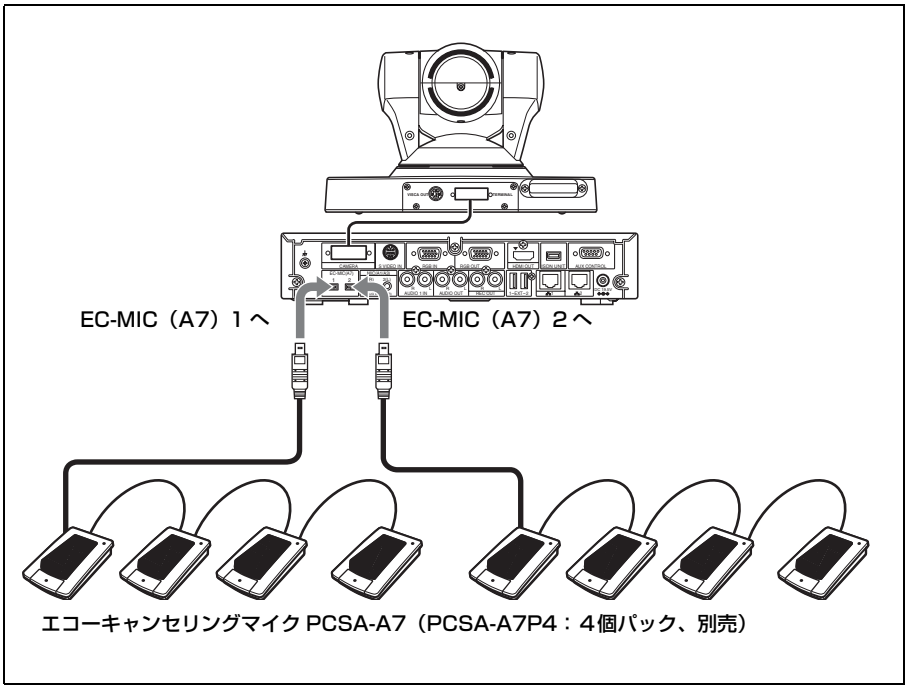
・エコーキャンセラー内蔵
・ノイズを効率的に低減
・高音質
・多数の PCSA-A7 をカスケード接続しても、音質劣化がない

ご注意

エコーキャンセリングマイク PCSA-A7 はモノラルのみに対応しています。ステレオ音声を拾うことはできません。

マイクを接続するには

システム本体の EC-MIC（A7）1 端子と EC-MIC（A7）2 端子にマイクを接続します。マイクの電源は、システムより供給されます。



接続したマイクを使うには

音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「音声入力」を「MIC」にし、「入力選択（MIC 系）」を「EC-MIC（A7）」に設定してください。（83 ページ）

マイクロホン PCSA-A7 を設置するときのご注意

・参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
・スピーカーを使用する場合は、マイクの前方に設置しないでください。また、できるだけマイクとスピーカーの間には人が入らないように設置してください。

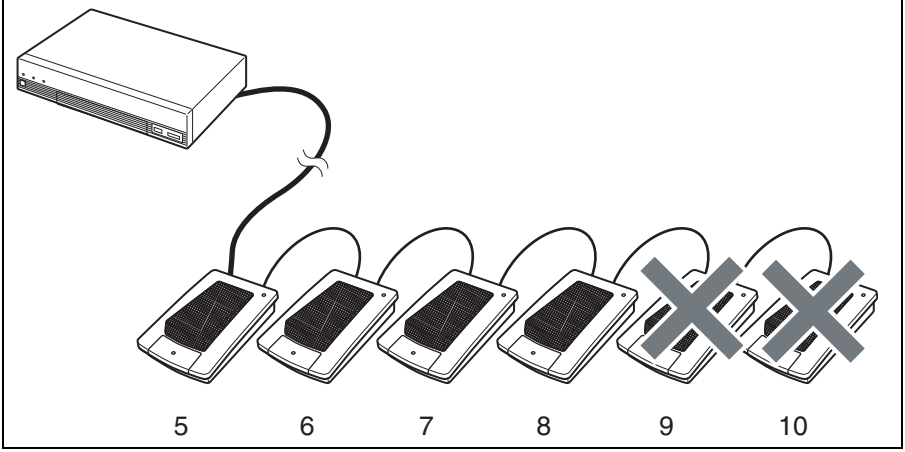
マイクロホンの接続例

システム本体、または AC アダプターに接続されたマイクは、カスケード接続されたものも含めて、最大 8 個に給電されます。ただし、マイクケーブル（8 m）を使用している場合には、4 台分接続しているものとして計算されます。
既定値を超えて接続されているマイクには給電されませんが、給電されていない最初のマイクに AC アダプターを接続することで、さらにマイクを追加することができます。

ご注意

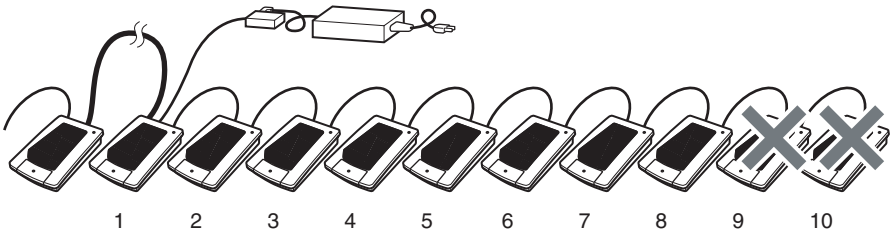
・PCSA-A7 は、ひとつのポートに 40 個までカスケード接続できます。
・給電されていないマイクは、POWER LED が消灯します。

接続例 1



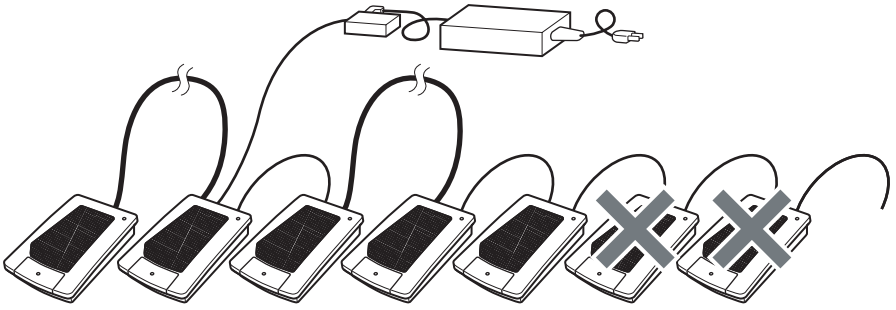
最初にマイクケーブル（8 m）を使用しているため、4 台分給電していると見なされ、4 台目まで給電されます。接続の途中にマイクケーブル（8 m）を使用しても同様です。

接続例 2



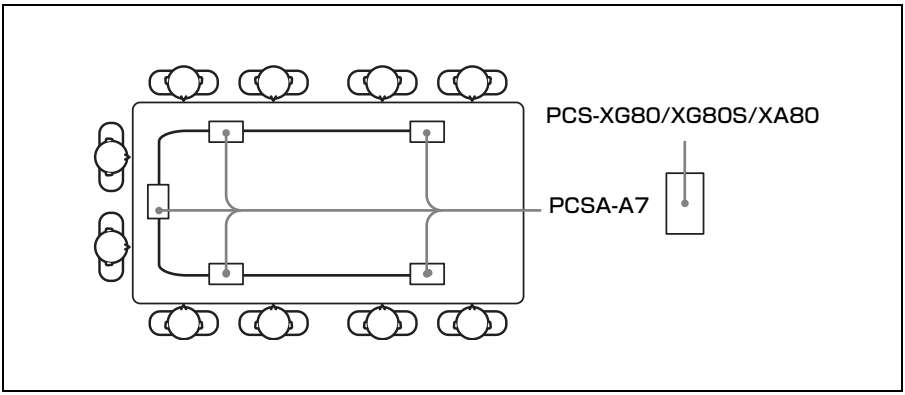
AC アダプターが接続されているマイクから数えて、8 台目まで給電されます。

接続例 3



接続の途中にマイクケーブル（8 m）を使用しているため、4 台分給電していると見なされます。AC アダプターが接続されているマイクから数えて、4 台目まで給電されます。

エコーキャンセリングマイクを使った配置例



HD カメラユニットに内蔵のマイクを使う（PCS-XA80/XA55 のみ）

PCS-XA80/XA55 では、付属の PSCA-CXA55 HD カメラユニットに内蔵のマイクを使うことができます。

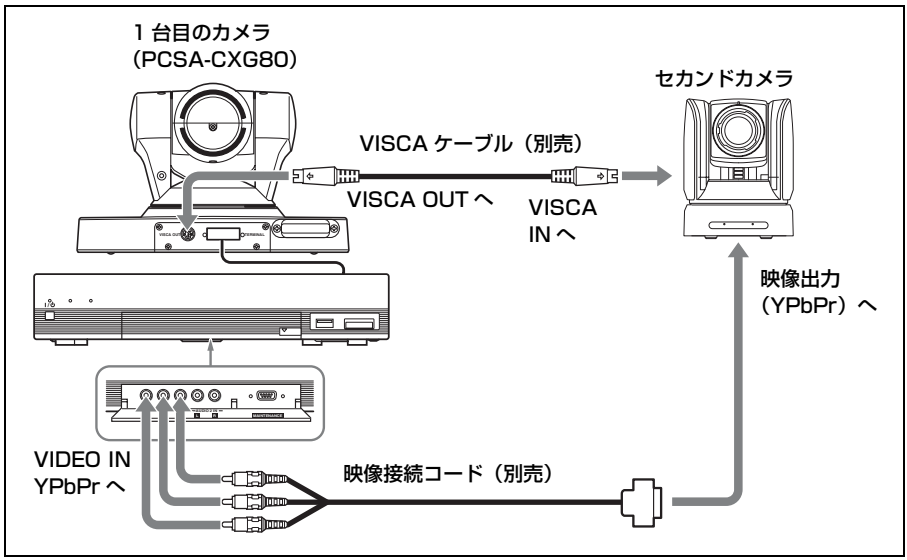
PCSA-CXA55 に内蔵のマイクを使うには

音声設定メニューの「基本設定 1 」ページ、「音声入力」で「MIC」を選択し、「入力選択（MIC 系）で「MIC（カメラ）」を選択してください。（83 ページ）

セカンドカメラを使う

カメラユニット（PCSA-CXG80）を介して、セカンドカメラを接続できます。

セカンドカメラの接続例



セカンドカメラの映像出力端子をシステム本体前面の VIDEO IN YPbPr 端子または裏面の S VIDEO IN 端子または RGB IN 端子へ接続します。

ご注意

PCS-XG55/XG55S には、S VIDEO IN 端子はありません。

カメラ設定メニューの「2nd カメラ入力」で、カメラを接続した端子に合わせて「RGB」、「YPbPr」または「S VIDEO」を選択します。（100 ページ）

ご注意

・PCS-XG55/XG55S では、「S VIDEO」は選択できません。
・PCS-XA80/XA55 では、セカンドカメラは使用できません。

2 台のカメラの映像を切り換えるには

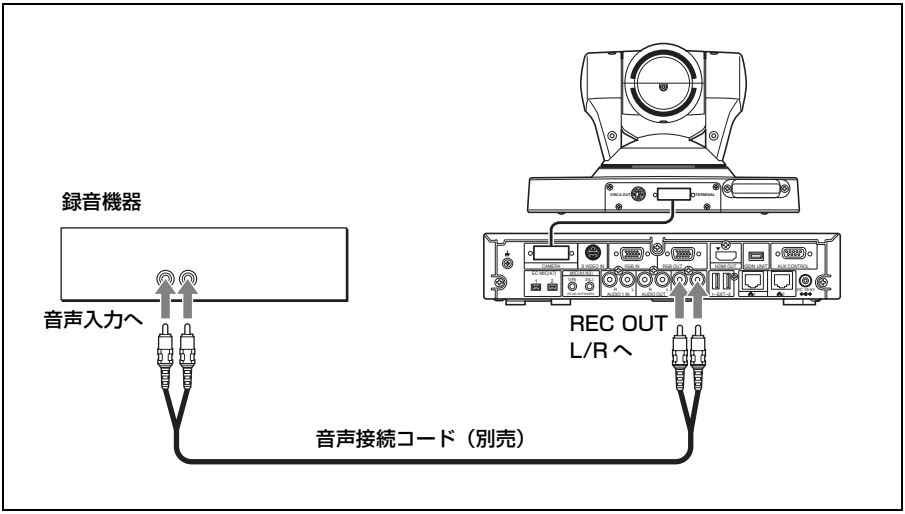
カメラメニューを表示すると、モニター画面のガイダンス表示部に「F2：1st カメラに切り換える」または「F2：2nd カメラに切り換える」と表示されます。リモコンの F2 ボタンを押すたびにカメラの映像が切り替わります。

◆カメラメニューの表示のしかたは、「カメラを調節する」（162 ページ）をご覧ください。

コミュニケーションを記録する

システム本体の REC OUT 端子に録音機器を接続すると、通信中、自分側と相手側の両方の音声を録音することができます。議事録を作るときに便利です。

録音機器を接続するには



録音機器で録音するときは

1 台の録音機器を AUDIO IN 端子と REC OUT 端子の両方に接続しているときは、相手側にエコーが返るのを防ぐため、音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「録音ミュート」を「入」に設定してください。(85 ページ)

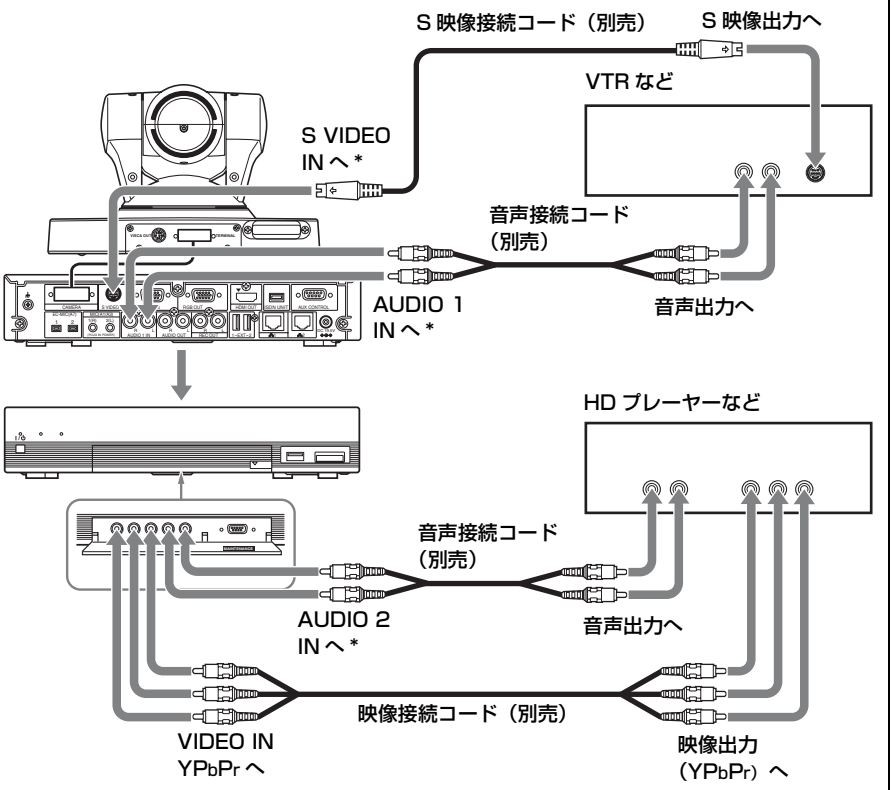
REC OUT R 端子と L 端子からの出力を 2 チャンネルのモノラル録音にしたいときは、音声設定メニューの「基本設定 2」ページで「REC OUT モード」を「モノラル 2ch」に設定してください。(87 ページ)

外部映像機器からの映像・音声を使う

システム本体に VTR などの外部映像機器を接続して、接続した機器からの映像や音声を相手に送信することができます。

入力用の外部映像機器を接続するには

システム本体には 2 系統の映像機器を接続できます。

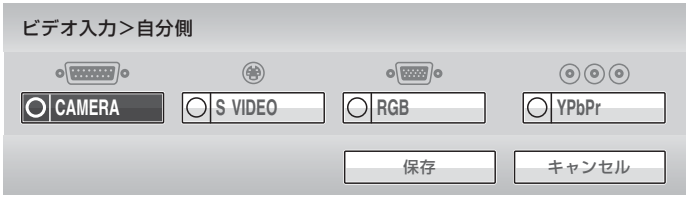


* PCS-XG55/XG55S/XA55 には、S VIDEO IN 端子、AUDIO 1 IN 端子はありません。また、AUDIO 2 IN 端子の名称は AUDIO IN 端子です。

外部映像機器からの映像・音声を入力するには

映像を入力するには

リモコンの入力切換ボタンを押してビデオ入力＞自分側メニューを表示し、映像を入力したい機器を選びます。



リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで、各端子に接続した外部機器を選び、決定ボタンを押します。選んだ機器の映像に切り替わります。

CAMERA：CAMERA 端子に接続したカメラの映像
S VIDEO：S VIDEO IN 端子に接続したカメラや映像機器の映像
RGB：RGB IN 端子に接続したコンピューターなどの映像
YPbPr：VIDEO IN YPbPr 端子に接続したカメラや映像機器の映像

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 では、「S VIDEO」は選択できません。

選択した入力を保存するときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押します。

音声を入力するには

音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「音声入力」を「AUX」または「MIC + AUX」に設定してください。(83 ページ)
「AUX」に設定すると、外部機器の音声だけが入力され、マイクは切れます。「MIC + AUX」に設定すると、マイクと外部機器の音声が両方入力されます。
また、AUDIO 1 IN 端子や AUDIO 2 IN 端子に接続した外部機器からの音声を選択するには、音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「入力選択（AUX 系）」を「AUDIO 1」または「AUDIO 2」に設定してください。(84 ページ)

ご注意

PCS-XG55/XG55S/XA55 には、AUDIO 1 IN 端子はありません。また、AUDIO 2 IN 端子の名称は AUDIO IN 端子です。

入力する映像と音声を同時に切り換えるには

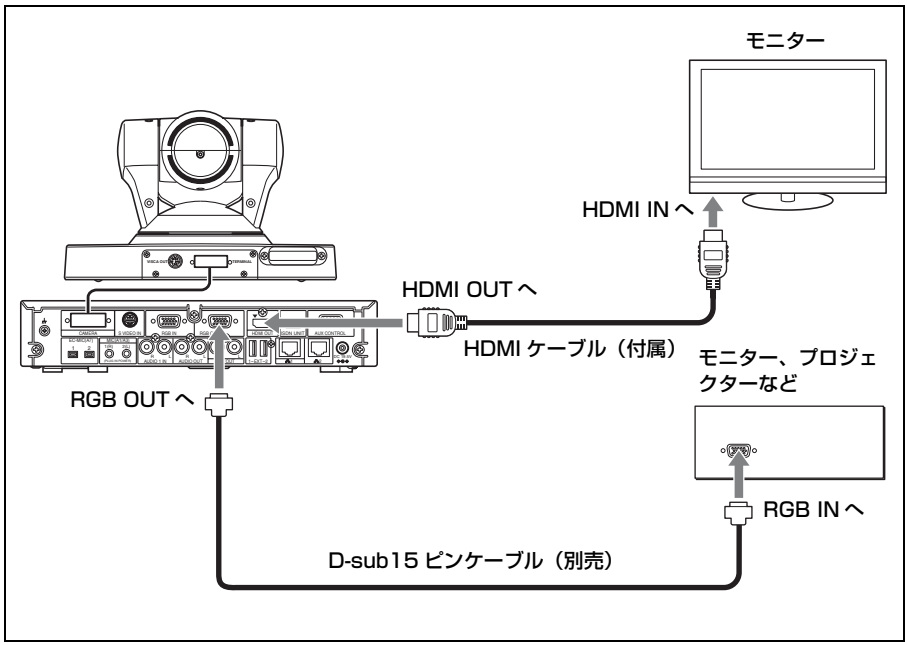
映像設定メニューの「音声とのリンク」ページで「オーディオ入力とのリンク」を「入」に設定し、映像入力と同時に切り換えたい音声をリンクさせておきます。(89 ページ)

映像入力を切り換えると、リンクさせた音声入力に自動的に切り換わります。

モニターやプロジェクターに映像を出力する

システム本体にモニターやプロジェクターなどのディスプレイ機器を接続して、映像を見ることができます。

モニターやプロジェクターを接続するには



接続したディスプレイ機器を使うには

HDMI OUT 端子へ接続したモニターと RGB OUT 端子へ接続したディスプレイ機器の両方に映像を出力する場合は、映像設定メニューの「基本設定」ページで「モニター出力」を「HDMI+RGB」に設定します。(88 ページ)

また、「RGB モニター出力フォーマット」で RGB OUT 端子から出力する映像信号のフォーマットを「SXGA」、「XGA」、「WXGA」から選択します。(89 ページ)

ご注意

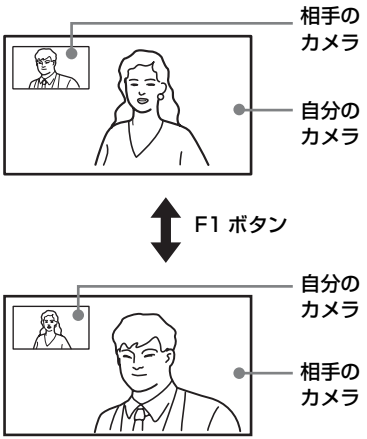
・HDMI 出力は、1080i 出力のみに対応しています。
・「モニター出力」で「HDMI+RGB」を選択したとき HDMI モニターが接続されていないと、メニューを見ることができません。必ず HDMI モニターを接続してください。

2台のモニターに表示される映像

通信中、2台のモニター画面には以下の映像が表示できます。

1 台目のモニター

HDMI OUT 端子へ接続した1台目のモニターには、自分側または相手側のカメラ映像 (動画) を表示できます。
自分側と相手側の映像を切り換えるには、リモコンのレイアウトボタンを押してから、F1 ボタンを押します。



2 台目のモニター

RGB OUT 端子へ接続した2台目のモニターには、自分側のカメラ映像や相手から受信したコンピューターの RGB 画像を表示できます。

音声のみのコミュニケーションをするーボイスミーティング

本システムは、ISDN 回線を経由して、通常の電話機と音声のみのコミュニケーションをすることができます。（ボイスミーティング）
基本的な接続の手順は、映像と音声のコミュニケーションを行うときと同じです。

ご注意

PCS-XA80/XA55 の場合、「レンズカバーマイクオン / オフ機能」を「オン」に設定している場合は、レンズカバーを閉じたときにマイクがオフになります。

アドレス帳に登録していない相手とボイスミーティングをするとき

詳細接続メニューの「回線種別」を「TEL」に設定してください。
ボイスミーティング中は、モニター画面に「Voice Only」インジケーターが表示されます。

◆「回線種別」の設定については、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（140 ページ）をご覧ください。

ボイスミーティングをする相手を登録するとき

アドレス帳のリスト編集メニューで「回線種別」を「TEL」に設定してください。

◆登録のしかたは、「アドレス帳に相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

音声圧縮方式を選ぶには

発信設定メニューの「音声電話」の設定を行ってください。
自分側からボイスミーティングを開始するときは、「音声電話」を「自動」に設定してください。（76 ページ）
「自動」を選ぶと、音声圧縮方式が自動的に「G.711 μ-law」に設定されます。
相手側からボイスミーティングを開始するときは、自分側の設定は必要ありません。

トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信

ダイヤル発信する際の各数字（0 ～ 9、＃、＊）に割り当てられているトーン信号（二重トーン多重周波数）を送信することにより、相手側に接続されているシステムを遠隔制御することができます。

1 通信中にリモコンのトーン（＊）ボタンを押す。

モニター画面に DTMF メニューが表示されます。

2 リモコンの数字ボタン（0 ～ 9、＃、＊）を押して、送信したい数字を選ぶ。

数字ボタンを押すと、トーン信号が相手に送られます。

3 終了するには、リモコンの決定ボタンを押す。

モニター画面の DTMF メニューが消えます。

ご注意

DTMF メニューが出ている間は、マイクが自動的にオフになります。

外部から本機にアクセスする

本機は下記のような外部アクセスが可能です。いずれの場合も、詳しい内容については、お買い上げ店にご相談ください。

ご注意

外部アクセスをご使用になる場合、使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性がありますので、管理者設定メニューの「パスワード」ページ（105 ページ）ですべてのパスワードを設定してください。

Web ブラウザを使用する

Web ブラウザから本機にアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
Web ブラウザから本機にアクセスするには、管理者設定メニューの「アクセス許可」ページで「Web アクセス」を「許可」に設定してください。（109 ページ）

◆Web 操作について詳しくは、「7 章 Web 機能」（248 ページ）をご覧ください。

Telnet を使用する

Telnet により、本機にアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
Telnet から本機にアクセスするには、管理者設定メニューの「アクセス許可」ページで「Telnet アクセス」を「許可」に設定してください。（110 ページ）

SSH を使用する

SSH により、本機にアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
SSH から本機にアクセスするには、管理者設定メニューの「アクセス許可」ページで「SSH アクセス」を「許可」に設定してください。（110 ページ）

5章
暗号化接続

機密性の高いコミュニケーションをしたい場合などに、映像や音声を暗号化して接続することができます。この接続のしかたを暗号化接続と呼びます。
この章では、暗号化接続のしかたを説明します。
本機は、ITU-T で規定された H.233、H.234、H.235 に準拠した標準の暗号化方式に対応しています。

ご注意

・暗号化接続中は、ストリーミングおよびレコーディングはできません。
・暗号化接続の最大使用帯域は、6 Mbps です。

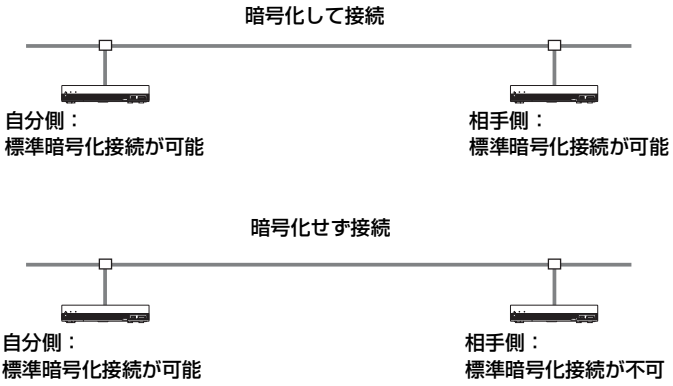
暗号化接続の準備

暗号化接続をするには、暗号化設定メニューの「暗号化モード」を設定する必要があります。

暗号化設定メニューの「暗号化モード」を「接続性優先」または「暗号化優先」にする。

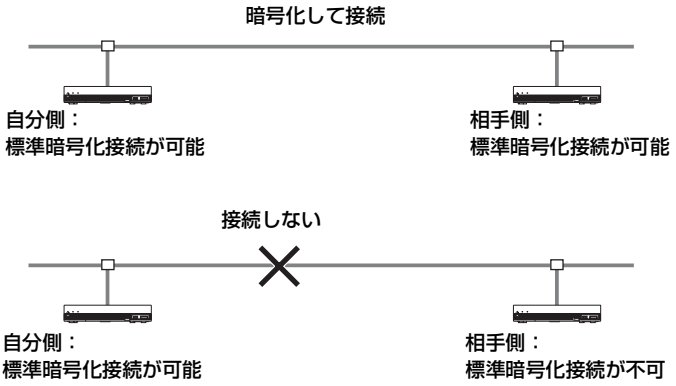
接続性優先

標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない、またはオフになっている相手とは、暗号化せずに接続します。



暗号化優先

標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。



暗号化接続を始める

通常の接続と同じ方法で、暗号化接続をする相手を呼び出します。暗号化接続中、モニター画面には、暗号化接続アイコン が表示されます。

ご注意

アイコンが表示されていないときは、送受信データは暗号化されていません。アイコンが表示されていることを確認してから接続を始めてください。

暗号化接続ができない場合は

相手を呼び出すと、以下のエラーメッセージが表示され、暗号化接続はできません。

エラーメッセージ	原因
「相手側は暗号化に対応していません。」	相手側システムが暗号化機能に対応していない。
「相手側の暗号化機能がオフになっています。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。または、相手側と暗号化通信方式の設定が違う。
「相手側の暗号化機能がオンになっています。」	相手側の暗号化機能がオンになっている。
「こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。」	自分側の「暗号化モード」が「切」になっている。
「相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。

エラーメッセージ	原因
「相手側と暗号化通信方式が異なるため会議が開始できませんでした。」	相手側と暗号化方式の設定が違う。
「SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。」	相手側と SIP で接続している。

6章 多地点接続

この章では、多地点接続を行う方法を説明します。
本機を使って多地点接続を行うには、別売の HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 を本機にインストールする必要があります。
LAN を使用する場合は、自分側を含め、最大 10 地点間で多地点接続を行うことができます。
ISDN 回線を使用する場合は、自分側を含め、最大 6 地点間で多地点接続を行うことができます。そのうち最大 5 地点までに音声電話を使うことができます。
LAN 接続と ISDN 接続が混在する多地点接続もできます。

MCU ソフトウェア使用時の制限事項

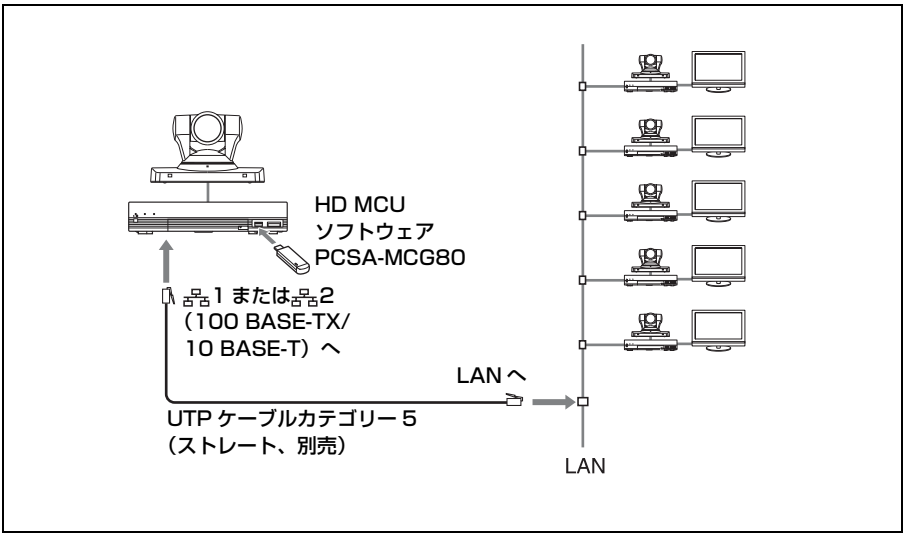
- LAN 接続による多地点接続の場合、本機では、通信モード設定メニューで「全使用帯域」（全地点合計の通信ビットレート）を設定できます。多地点接続時、1 地点あたりの通信ビットレートは全地点の合計ビットレートが「全使用帯域」を超えないように自動調整されるため、実際の通信ビットレートがその地点用に設定した値にならない場合があります。
- ISDN 接続の多地点接続の場合、帯域は、各地点が同じチャンネル数で、合計が最大 12B チャンネルとする必要があります。
- 映像方式は、H.264、H.263+、H.261 のみの対応です。ただし、H.264 High Profile には対応していません。また、1080 モードでの接続はできません。
- 音声方式は、G.711、G.722、G.728、MPEG4 AAC のみの対応です。
- SIP 接続を含む多地点接続はできません。
- カスケード接続の親機として使用できるのは、PCS-XG80/XG80S/XA80 のみです。

・本機を親機として PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55/XL55 以外の子機と接続する場合、最大使用帯域は 4 Mbps に制限されます。
・PCS-XG55/XG55S/XA55 には、HD MCU ソフトウェアはインストールできません。

多地点接続の例

LAN 接続の場合（最大 6 地点）

・1 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムに HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）をインストールすると、最大 6 地点間の多地点接続が可能です。
・2 地点間の接続をしているときに別の地点から呼び出しがあった場合、自動的に多地点接続へと移行します。

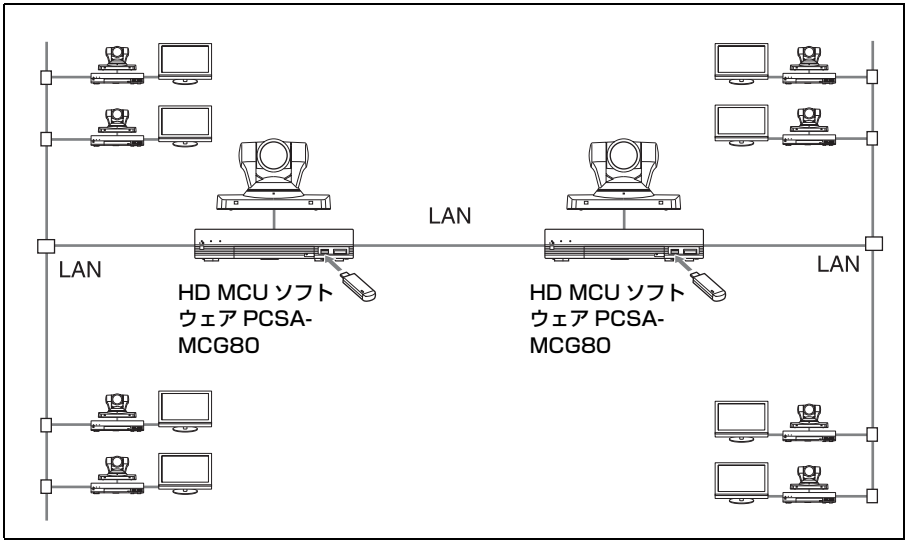


ご注意

多地点接続を行う場合、HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールしたコミュニケーションシステムだけが親機として使えます。
接続の形態により、複数のコミュニケーションシステムを親機として利用したい場合には、その個数だけ HD MCU ソフトウェアが必要です。

LAN カスケード接続の場合（最大 10 地点）

HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 を 2 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムにインストールすることにより、親機を 2 台とするカスケード接続ができます。各親機に 4 台ずつの子端末を接続して、最大 10 地点間の多地点接続が可能です。

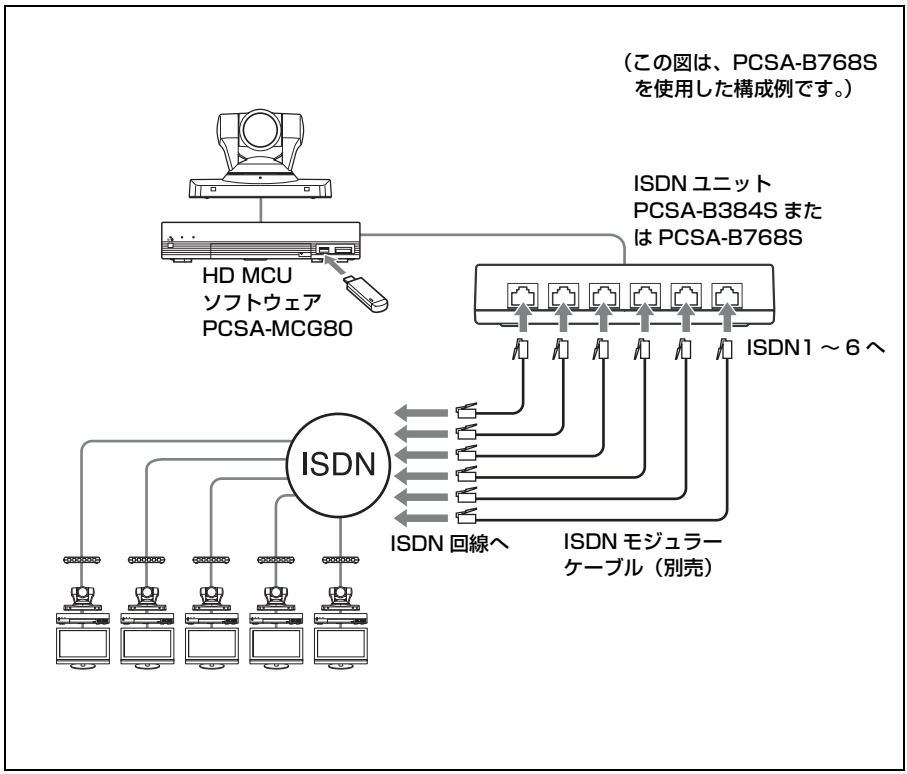


ご注意

- HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 を 3 台以上のコミュニケーションシステムにインストールしても、カスケード接続はできません。
- カスケード接続の場合、通信中の放送モードは「音声検出」モードになります。分割モード、分割位置固定モードで表示することはできません。
- 相手側の親機として使用できるのは、PCS-XG80/XG80S/XA80 のみです。

ISDN 接続の場合

1 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムに HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）をインストールすると、ISDN ユニット PCSA-B384S を介して最大 4 地点、PCSA-B768S を介して最大 6 地点間の多地点接続が可能です。



ISDN の使用回線数と接続地点数について

多地点接続の 1 地点目の接続に使用する ISDN 回線のチャンネル数は、通信モード設定メニューの「ISDN：モード」ページ、「ISDN 使用帯域」で設定できます。(81 ページ)

ただし、親機からの発信操作によって接続する地点数が増えた場合は、既に接続されている地点との接続回線の一部が切断され、新たに接続した地点との接続に使用されます。たとえば、ISDN 回線を 6 本接続しているとき（12B チャンネルまでの使用が可能なとき）、1 地点目のみと接続している場合は 12B チャンネルで接続されますが、2

地点目と接続した際には 1 地点目、2 地点目とも 6B チャンネルでの接続に切り替わります。
なお、接続している複数の地点のうち、ある 1 地点との接続を切断した場合でも、残りの地点との接続に使用される回線数が増加することはありません。

ご注意

相手から呼び出された場合、相手側で設定したチャンネル数が本機で設定したチャンネル数より小さい場合は、相手側の設定が優先されます。

音声電話の接続について

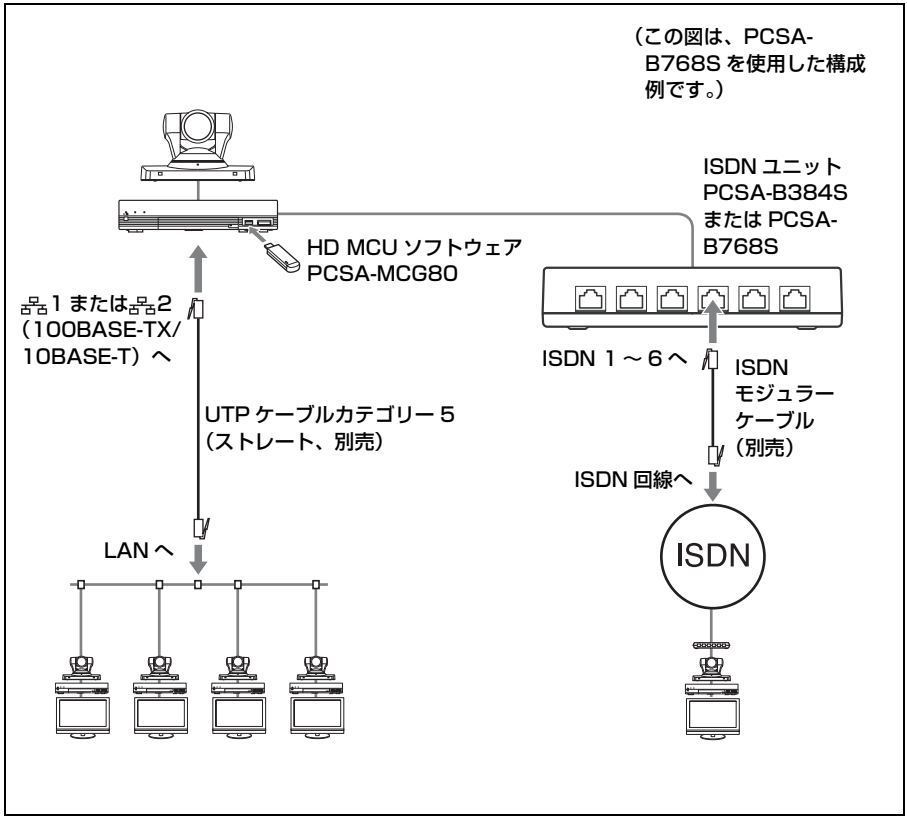
ISDN 接続の場合、最大 5 地点までに音声電話を接続できます。
音声電話は 1B (64K) 接続となります。

ご注意

- ISDN 接続の場合、2 台以上のコミュニケーションシステムに HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールしても、カスケード接続はできません。
- 多地点接続を行う場合、HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールしたコミュニケーションシステムだけが親機として使えます。接続の形態により、複数のコミュニケーションシステムを親機として利用したい場合には、その個数だけ HD MCU ソフトウェアが必要です。

LAN と ISDN 混在の場合

1 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムに HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールすると、LAN 接続と ISDN 接続が混在した多地点接続が可能です。

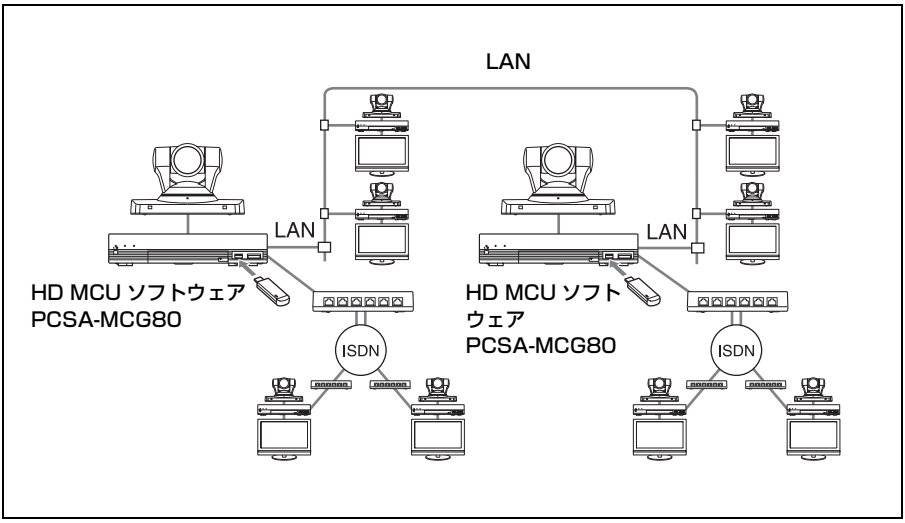


ご注意

上記の図は LAN 接続 4 台、ISDN 接続 1 台の例です。混在させる LAN 接続と ISDN 接続の機器の台数に制限はありません。

LAN カスケードと ISDN 混在の場合

2 台の HD ビジュアルコミュニケーションシステムに HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 をインストールすることにより、親機を 2 台とするカスケード接続ができます。各親機に 4 台ずつの子端末を接続して、最大 10 地点間の LAN 接続と ISDN 接続が混在した多地点接続が可能です。



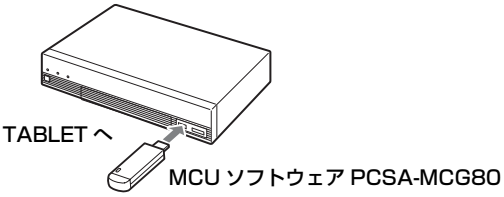
ご注意

- カスケード接続する 2 台のコミュニケーションシステム間は、必ず LAN 接続してください。ISDN によるカスケード接続はできません。
- カスケード接続の場合、通信中の放送モードは「音声検出」モードになります。「分割」モード、分割位置固定モードで表示することはできません。
- 相手側の親機として使用できるのは、PCS-XG80/XG80S/XA80 のみです。

MCU ソフトウェアをインストールする

1 システム本体の電源を切る。

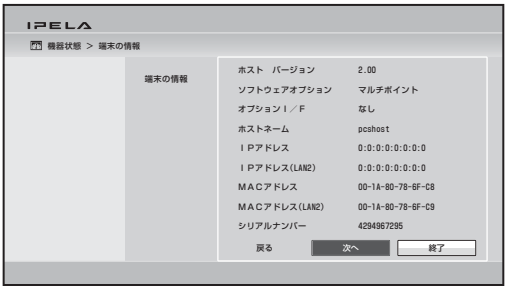
2 HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80 の Key Module を TABLET 端子に差し込む。



3 システム本体の I/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。
HD MCU ソフトウェアがシステムにインストールされます。

MCU ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには

機器状態メニューの「端末の情報」ページ、「ソフトウェアオプション」にインストールされたソフトウェアが表示されます。



◆詳しくは、「端末の情報」（116 ページ）をご覧ください。

多地点接続の設定をする

多地点接続の設定をする

1 多地点設定メニューで「マルチポイントモード」を「自動」にし、各項目を設定する。

◆[放送モード]、「画面分割」については、「画面制御を行う」(237 ページ) をご覧ください。

2 通信モード設定メニューの各項目を設定する。

◆詳しい設定のしかたは「通信モード設定メニュー」(79 ページ) をご覧ください。

多地点接続の相手をマルチポイント接続リストに登録する

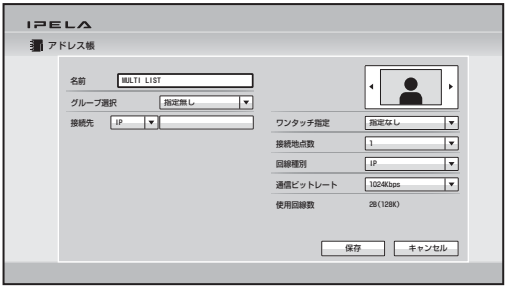
多地点接続の相手をすべて登録したマルチポイント接続リストをアドレス帳に作成しておくと、相手に一括してダイヤルできるので便利です。

新たに相手を入力してマルチポイント接続リストを作成したり、すでにアドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定することもできます。

新たにマルチポイント接続リストを登録するには

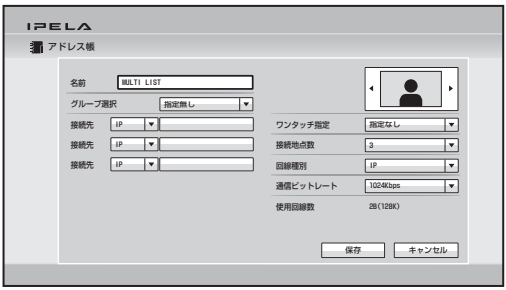
アドレス帳への登録のしかたは、基本的には 2 地点間の接続の相手の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（147 ページ）をご覧ください。

1 アドレス帳で「新規登録」を選んでリスト編集メニューを表示し、名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。



2 「接続地点数」を選び、接続したい地点数を選ぶ。

選んだ数だけ「接続先」の欄が表示されます。



3 アドレス帳に表示する回線種別アイコンまたは静止画を選ぶ。

マルチポイント接続リストのアイコンとして「 Multipoint」が準備されています。

4 マルチポイント接続リストに登録したい相手の回線情報を「接続先」に設定する。

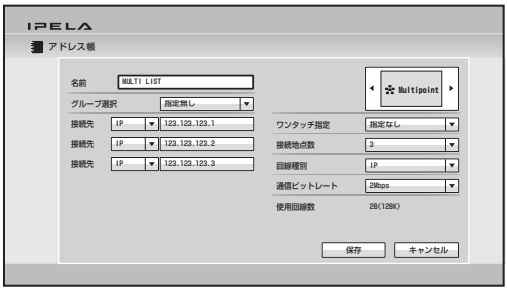
左端のドロップダウンリストから接続に使用する回線を選択し、入力欄に相手の番号を入力します。

LAN 接続の場合：ドロップダウンリストで「IP」（品1 端子使用時）を選び、IP アドレスを入力します。

ISDN 接続の場合：ドロップダウンリストで「ISDN」を選び、回線番号を入力します。

音声電話の場合：ドロップダウンリストで「TEL」を選び、電話番号を入力します。（例：0390123456)

多地点接続を行いたい相手をすべて入力します。



5 その他の項目も設定する。

◆詳しい設定のしかたは、「新しい相手を登録する」（147 ページ）の手順 3 をご覧ください。

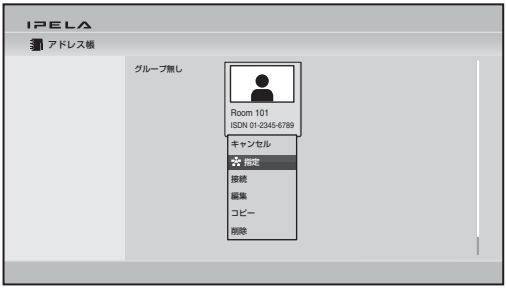
6 「保存」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。

これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

アドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定するには

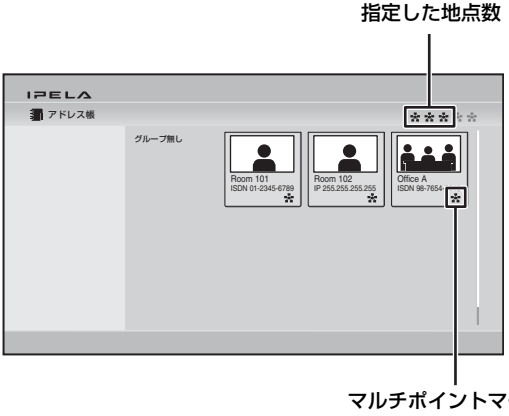
1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでアドレス帳の中から多地点接続の相手として指定したい相手を選ぶ。

2 リモコンの * ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓/←/→ ボタンで「 指定」を選んで決定ボタンを押す。



選んだ相手のリスト欄の右下に（マルチポイント）マークが表示され、多地点接続の相手に指定されます。

同じ手順で 5 地点までに マークをつけることができます。メニュー上部に マークをつけた相手の数だけ マークが濃く表示されます。



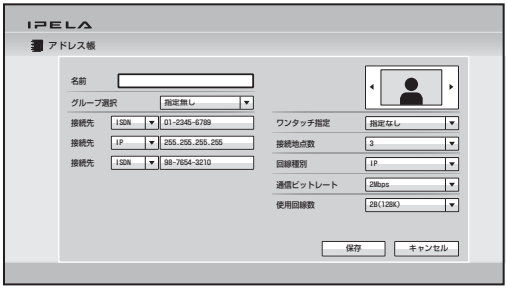
ヒント

マークを消すには、リモコンの * ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓/←/→ ボタンで「 解除」を選んで決定ボタンを押します。

3 マークをつけた相手の 1 つを選び、リモコンの決定ボタンを押す。

4 ↑/↓/←/→ ボタンを押してサブメニューから「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。番号欄には ✣ マークをつけた相手の IP アドレスまたは電話番号がすべて入力されています。



5 名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。

6 「保存」を選び、決定ボタンを押す。

これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

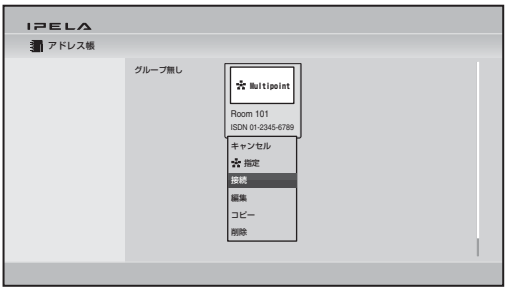
多地点接続を始める

相手を呼び出す

マルチポイント接続リストに登録している相手を呼び出す

1 アドレス帳に登録してあるマルチポイント接続リストを選ぶ。

2 リモコンの接続（ ）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓/←/→ ボタンで「接続」を選んで決定ボタンを押す。



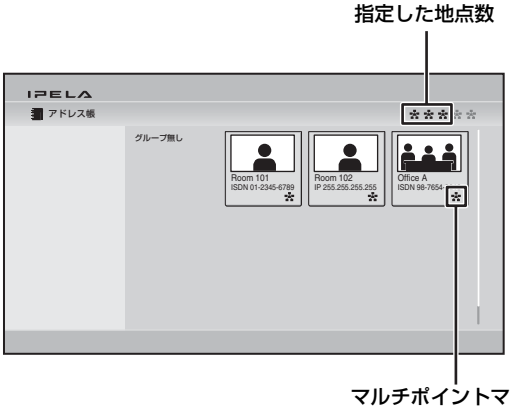
マルチポイント接続リストに登録された相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。
すべての相手とつながると「接続しました」と表示され、相手の映像がモニター画面に表示されます。

アドレス帳から多地点接続の相手を選択して呼び出す

1 アドレス帳で多地点接続を行いたい相手を選ぶ。

2 リモコンの * ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓/←/→ ボタンで「 指定」を選んで決定ボタンを押す。

選んだ相手のリスト欄の右下に ✣（マルチポイント）マークが表示され、多地点接続の相手に指定されます。
同じ手順で 5 地点までに ✣ マークをつけることができます。メニュー上部に ✣ マークをつけた相手の数だけ ✣ マークが濃く表示されます。



ヒント

✣ マークを消すには、リモコンの ✱ ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓/←/→ ボタンで「 ✣ 解除」を選んで決定ボタンを押します。

3 ✣ マークをつけた相手の 1 つを選ぶ。

4 リモコンの接続（ ）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「接続」を選んで決定ボタンを押す。

✣ マークをつけた相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。

すべての相手とつながると「接続しました」と表示され、相手の映像がモニター画面に表示されます。

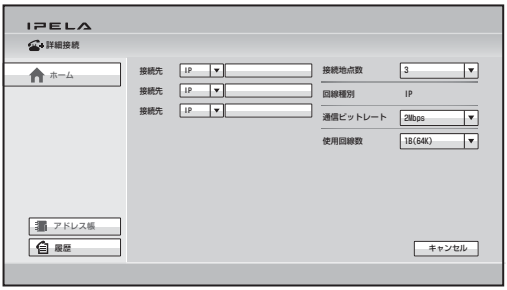
アドレス帳に登録していない相手を呼び出す

登録していない相手の呼び出しかたは、基本的には 2 地点間の接続の場合と同じです。詳しくは、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（140 ページ）をご覧ください。

1 ホームメニューで「詳細接続」を選ぶ、またはリモコンの接続（ ）ボタンを押して詳細接続メニューを表示する。

2 「接続地点数」を選び、接続したい地点数を選ぶ。

選んだ数だけ「接続先」の欄が表示されます。



3 相手の回線情報を「接続先」に設定する。

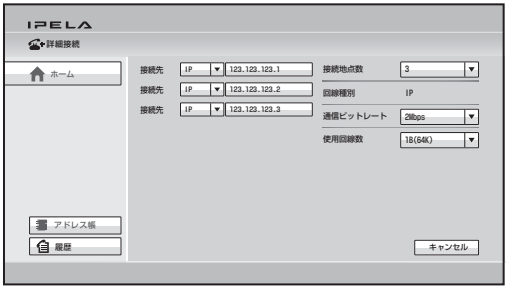
左端のドロップダウンリストから接続に使用する回線を選択し、入力欄に相手の番号を入力します。

LAN 接続の場合：ドロップダウンリストで「IP」（1 端子使用時）を選び、IP アドレスを入力します。

ISDN 接続の場合：ドロップダウンリストで「ISDN」を選び、回線番号を入力します。

音声電話の場合：ドロップダウンリストで「TEL」を選び、電話番号を入力します。（例：0390123456)

多地点接続を行いたい相手をすべて入力します。



◆詳しい設定のしかたは、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（140 ページ）の手順 3 をご覧ください。

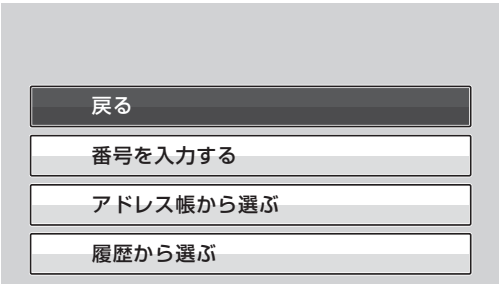
4 「接続」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。またはリモコンの接続（☎）ボタンを押す。

手順 3 で入力した相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示されます。

すべての相手とつながると「接続しました」と表示され、相手の映像がモニター画面に表示されます。

2 地点目以降の相手を個別に呼び出すには

すでにある 1 地点と通信を始めた後、リモコンの接続（☎）ボタンを押すと、メニューが表示されます。



相手の登録状態にあわせて、「自分側から接続を始める」（131 ページ）のいずれかの方法で相手を選び、接続してください。通信開始後にリモコンの接続（☎）ボタンを押すと、再び上記のメニューが表示され、次の相手を選ぶことができます。

ヒント

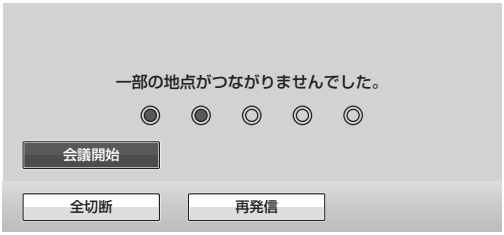
・ホーム画面設定メニューで「ダイレクトダイヤル」や「ワンタッチダイヤル」を「入」に設定してあるとき、上記のメニューの「戻る」を選ぶと、

画面にダイレクトダイヤル用の入力欄やワンタッチダイヤルボタンが表示されます。

・通信中にリモコンの#ボタンを押すと、アドレス帳が表示されます。登録されている相手を呼び出すのに便利です。

マルチポイント接続で一部の地点がつながらなかった場合

以下のような画面が表示され、接続に成功した地点の数だけ、●印が濃く表示されます。希望の操作を選んでください。



会議開始：接続に成功した相手とのコミュニケーションを開始します。
全切断：すべての接続を終了し、ホームメニューへ戻ります。
再発信：接続に失敗した地点への発信処理を行います。

ISDN による多地点接続時のご注意

ISDN による多地点接続の際、親機からの発信操作によって接続する地点数が増えた場合は、既に接続されている地点との接続回線の一部が切断され、新たに接続した地点との接続に使用されます。たとえば、ISDN 回線を 6 本接続しているとき（12B チャンネルまでの使用が可能なとき）、1 地点目のみと接続している場合は 12B チャンネルで接続されますが、2 地点目と接続した際には 1 地点目、2 地点目とも 6B チャンネルでの接続に切り替わります。

なお、接続している複数の地点のうち、ある 1 地点との接続を切断した場合でも、残りの地点との接続に使用される回線数が増加することはありません。

相手から呼び出しを受ける

2 地点間の接続の操作と同じです。

◆詳しくは、「相手から呼び出される」（144 ページ）をご覧ください。

画面制御を行う

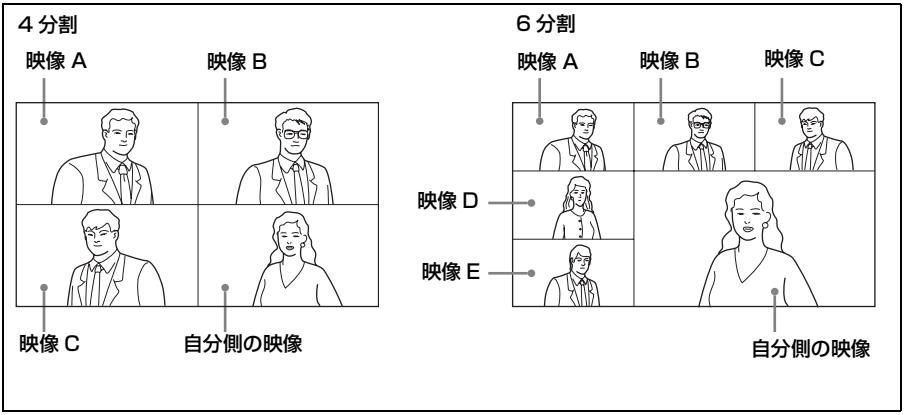
多地点接続中に自分側から下記のような操作が可能になります。

放送モードの種類

放送モードには「分割」モードと「音声検出」モード、分割位置固定モード、放送選択モードがあります。
「分割」モードと「音声検出」モードは多地点設定メニューの「放送モード」であらかじめ設定できます。
分割位置固定モード、放送選択モードは、通信中、レイアウトメニューから切り換えることができます。

「分割」モード

接続している端末の映像と自分側の映像が、分割されてモニター画面に表示されます。
端末の数に関わりなく常に6分割される「6分割固定」と端末の数により自動的に4分割や6分割になる「自動分割」を多地点設定メニューの「画面分割」で設定できます。「自動分割」では、接続端末数が2か3のときは4分割になり、接続端末数が4か5のときは6分割になります。
映像A～C（またはA～E）には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



ご注意

・6 分割の「分割」モードのときは、音声が一番大きい端末を検出し、右下の位置に表示します。検出された端末の映像が表示されていた位置には、自分側の映像が表示されます。
・通信中に「分割」モードから「音声検出」モードに切り換えて特定の地点をフルスクリーンに表示すると、あとで「分割」モードに戻したとき、映像 A ～ E の位置が変わります。
・端末数が 1 の場合は、設定にかかわらず、全画面表示になります。
・放送者が固定されている 6 分割の「分割」モードのときは、常に放送者を右下の位置に表示します。
・「分割」モードでは接続している端末のカメラをコントロールすることはできません。

「音声検出」モード

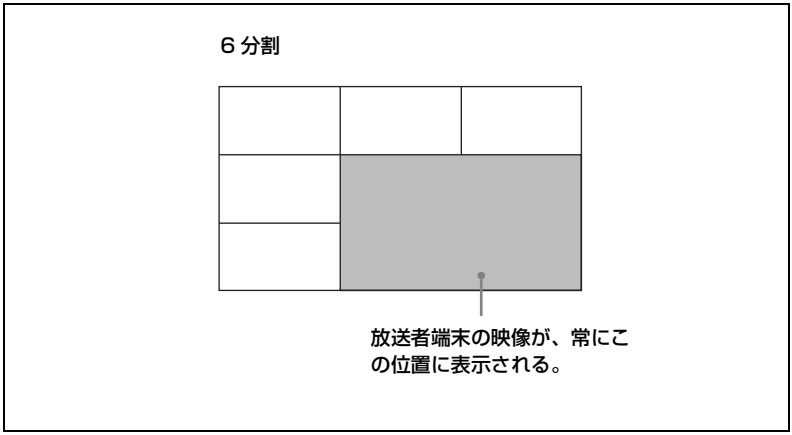
音声が一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。音声検出モードのときは、モニター画面に V.A. インジケーターが表示されます。また、放送中の端末を表す、A、B、C などアルファベットのついたインジケーター（A など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、モニター画面に が表示されます。

ご注意

音声検出モード時に、H.264、720p（1280 × 720 画素）の映像方式で送信したい場合は、多地点設定メニューの「放送モード」で「音声検出（720P）」を選択してください。ただし、「音声検出（720P）」は ISDN 接続や SIP 接続には使用できません。また、IP 接続の場合でも、H.264 映像方式に対応していない相手端末とは接続できません。

分割位置固定モード

分割モードと同様に、接続している端末の映像と自分側の映像が分割されてモニター画面に表示されます。さらに、6 分割の右下の画面に表示される端末を放送者として固定できます。固定画面以外の分割画面には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



放送選択モード

端末を選択し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。モニター画面に放送中の端末を表す、A、B、C などアルファベットのついたインジケーター（など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、モニター画面にが表示されます。

放送モードと画面表示

それぞれの放送モードを選択したときの画面表示は次のようになります。また、接続の状態によっては選択できないモードもあります。下記の表で、画面表示のない接続では選択できません。

接続の状態				カスケード接続でない場合	カスケード接続の場合
接続図				LAN 接続（219 ページ） ISDN 接続（221 ページ） LAN & ISDN 接続（223 ページ）	LAN カスケード接続（220 ページ） LAN カスケードと ISDN 接続（224 ページ）
最大地点数				6	10
放送モード	通信前の設定	自動分割モード	端末数が 2、3 のとき	4 分割	−
			端末数が 4、5 のとき	6 分割	−
		6 分割固定モード		6 分割固定	−
	通信中の設定	分割位置固定モード	端末数が 2、3 のとき	−	−
			端末数が 4、5 のとき	6 分割	−
		音声検出モード		フルスクリーン	フルスクリーン
		放送選択モード		フルスクリーン	−

ご注意

カスケード接続の場合は、「音声検出」モードのみをサポートします。

通信中に放送モードを切り換える

接続を始めるときは多地点設定メニューの「放送モード」と「画面分割」で設定したモードになっています。通信中に以下のように放送モードを切り換えることができます。

ご注意

多地点設定メニューの「放送モード」が「音声検出（720P）」に設定されている場合は、レイアウトメニューに「放送モード」が表示されないため、通信中に放送モードを切り換えることができません。通信を始める前に放送モードを設定してください。

1 リモコンのレイアウトボタンを押す。

レイアウトメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「放送モード」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「放送モード」から切り換えたいモードを選び、決定ボタンを押す。

分割：分割モードを選ぶとき

分割（A を固定）：分割位置固定モードで、1 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（B を固定）：分割位置固定モードで、2 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（C を固定）：分割位置固定モードで、3 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（D を固定）：分割位置固定モードで、4 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（E を固定）：分割位置固定モードで、5 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（自分を固定）：分割位置固定モードで、自分側の映像の位置を固定するとき

音声検出：音声検出モードを選ぶとき

自分を放送：放送選択モードで、自分側の映像を放送するとき

A を放送：放送選択モードで、1 番目に接続した端末の映像を放送するとき

B を放送：放送選択モードで、2 番目に接続した端末の映像を放送するとき

C を放送：放送選択モードで、3 番目に接続した端末の映像を放送するとき

D を放送：放送選択モードで、4 番目に接続した端末の映像を放送するとき

E を放送：放送選択モードで、5 番目に接続した端末の映像を放送するとき

「音声検出」モードのときに自分側の映像を確認するには

「音声検出」モードのときは、自分側の映像を自分側のモニター画面にのみ表示することができます。他の端末は「音声検出」モードの状態になっています。

1 リモコンのレイアウトボタンを押す。

モニター画面下部のガイダンス欄に「F1：相手と自分の画面を切り換える」と表示されます。

2 リモコンの F1 ボタンを押す。

自分側の映像が自分側のモニター画面に表示されます。

「音声検出」モードに戻るには

リモコンの F1 ボタンをもう一度押します。

他の端末から送信要求を受ける

接続されている端末から「自分を放送」を受信すると、その端末の映像が他の端末に自動的にフルスクリーンで放送されます。接続されている端末から「放送終了」を受信すると、元のモードに戻ります。

ご注意

すでに他の端末から「自分を放送」を受信しているときは、上記の動作を行いません。

多地点接続を終了する

1 リモコンの切断（☎）ボタンを押す。

下記のメニューが表示されます。

A ～ E（または A ～ C）は、端末が接続されたときの順番です。一般設定メニューの「メニュー画面」ページで「端末名表示」を「一定時間表示」または「常時表示」に設定していると、画面に端末名が表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで切断する端末を選び、決定ボタンを押す。

A を切断：1 番目に接続した端末を切断するとき
B を切断：2 番目に接続した端末を切断するとき
C を切断：3 番目に接続した端末を切断するとき
D を切断：4 番目に接続した端末を切断するとき
E を切断：5 番目に接続した端末を切断するとき
全切断：すべての端末を切断するとき

選択した端末の接続が切れます。
すべての端末を切断する場合は、リモコンの切断（☎）ボタンを押しても切断されます。

切断を中止するときは

手順 2 で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

二次端末の取り扱い

本機で設定している能力に満たない端末が接続された場合には、その端末を二次端末と呼びます。
本機と二次端末間の通信は以下のようになります。
・音声の送 / 受信を行う。
・二次端末からの映像を受信する。
・二次端末への映像の送信は行わない。

◆二次端末について詳しくは「用語解説」（298 ページ）をご覧ください。

音声電話が接続されたとき

音声電話が接続されても、ビジュアルコミュニケーション端末の音声モードには影響がありません。
また、音声電話がコミュニケーションを終了してもビジュアルコミュニケーション端末に影響はありません。

ISDN の非制限網（64 K ネットワーク）での接続のとき、制限網（56 K ネットワーク）との混在が発生したとき

制限網へ自動的に移行します。移行できない端末は二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

音声モードが違う端末が接続され、映像ビットレートが違っているとき

映像ビットレートの低い端末に音声モードを合わせます。音声モードを合わせられない端末があると、この端末を二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

マルチポイントの属性表

番号	属性	H.320MCU の値	H.323MCU の値
1	単体のマルチポイントに接続可能な最大端末数	5（自分も含めると 6）	5（自分も含めると 6）
2	単体のマルチポイントでサポート可能な並行開催（独立）の最大接続数	1	1
3	他のマルチポイントに接続可能なポートの最大数	0	1
4.1	各ポートにおける網インターフェース	BRI	LAN
4.2	制約網能力	Restrict_Required	−
5	各ポートで利用可能な転送レート	1B、2B、4B、6B（BRI）	全地点合計の最大ビットレートに制限あり
6	音声プロセッサー	あり	あり
6.1	ミクスト / 切替 「沈黙」ポートの雑音 / エコー抑制	ミクスト なし	ミクスト なし
6.2	各ポートでの音声アルゴリズム	G.711、G.728、G.722、MPEG4 AAC（モノラルのみ）	G.711、G.728、G.722、MPEG4 AAC（モノラルのみ）
7	映像プロセッサー（動画）	あり	あり
7.1	切替 / ミクスト	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御
7.2	各ポートでの映像アルゴリズム	H.261、H.263、H.264	H.261、H.263、H.264
8	データプロセッサー	あり	あり
8.1	データ同報送信機能、LSD データ同報送信機能、HSD	あり なし	− −
8.2	MLP プロセッサー	あり	−
9	暗号化	サポートする	サポートする

番号	属性	H.320MCU の値	H.323MCU の値
10	選択された通信モード—SCM の選択方法	ユーザーによる設定： 回線レート（1B/2B/4B/6B 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722/MPEG4 AAC） 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261 固定 / H.261、H.263 と H.264 の自動判定） 制限網・非制限網の切り替え（制限網固定 / 自動）	ユーザーによる設定： 回線レート（全地点合計の最大ビットレートに制限あり） 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722/MPEG4 AAC) 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261 固定 / H.261、H.263 と H.264 の自動判定）
11	二次端末の取り扱い	音声の送 / 受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送 / 受信のみ。	音声の送 / 受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送 / 受信のみ。
12	着信設定規定	予約発 / 着信機能なし	予約発 / 着信機能なし
13	制御能力	−	−
13.1	端末の番号付け BAS を使用する簡易議事制御	なし なし	あり なし
13.2	MLP 機能（T.120）	なし	なし
13.3	H.224（シンプレックスデータ）	あり	あり
14	カスケーディング	なし	あり
14.1	固定レート（「シンプル」）	なし	なし
14.2	マスター / スレーブ	なし	あり
15	端末識別	なし	あり
16	MBE 能力	なし	−

7章
Web機能

この章は、PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 上で動作する Web 機能をまとめたものです。
Web 機能とは、PC 上の Web ブラウザ(Internet Explorer)から PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 にアクセスし、PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 のコントロール、設定変更を行う機能です。

Internet Explorer は Microsoft 社の製品です。バージョン 5.0 以上(6.0 を推奨)を使用してください。

Web ページへのアクセス方法

Web ブラウザのアドレス欄に PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 に設定されている IP アドレスを入力します。

例　IPv4 アドレスの場合
http://xxx.xxx.xxx.xxx/
（xxx.xxx.xxx.xxx は IPv4 アドレスを示す）

例　IPv6 アドレスの場合
http://[xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx]/
（xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx は IPv6 アドレスを示す）

ご注意

ネットワークセグメント外部の Proxy が設定されている時は、PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 の LAN 設定のゲートウェイアドレスを指定する必要があります。もしくは、Web ブラウザの Proxy 設定で NoProxy に指定してください。

認証ページの入力方法

Web ページにアクセスすると以下のような認証ページが表示されます。

ユーザー名入力欄からアクセスに必要なユーザー名を選び、パスワード入力欄にパスワードを入力し、OK ボタンをクリックします。
パスワードは、“＊”で表示されます。
ユーザー名、パスワードを正しく入力すると、Home メニュー画面が表示されます。
誤ったユーザー名、パスワードを入力すると、再度ユーザー名、パスワードをきいてきます。
３回誤った入力を行うと、エラーメッセージが画面に表示されます。

ユーザー名入力欄では下記のユーザー名を選ぶことができます。それぞれのパスワードを入力してください。

[remote]

管理者設定のリモートアクセス・パスワードを入力します。
Phonebook、Setup の内容確認を行うことができます。

[address]

管理者設定のアドレス帳変更パスワードを入力します。Phonebook の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認を行うことができます。

[sonypcs]

管理者設定の管理者用パスワードを入力します。Phonebook の内容

確認と変更・新規登録、Setup の内容確認と変更を行うことができます。

[streaming]

ストリーミング配信している端末のストリーミング・パスワードを入力します。Streaming でその端末の様子を受信し、閲覧できます。

[setting]

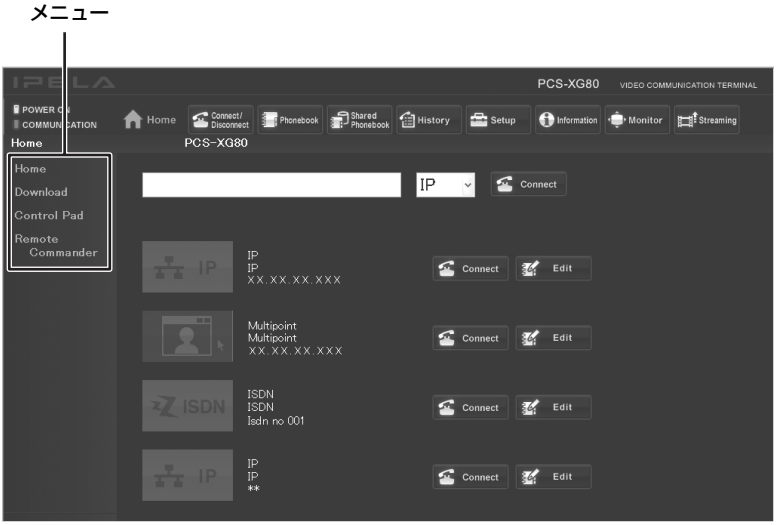
管理者設定の設定保存パスワードを入力します。
Phonebook の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認と管理者設定以外の Setup 変更を行うことができます。

ご注意

- パスワードが登録されていない時は、パスワード入力欄を空白で OK ボタンをクリックします。
- 管理者用パスワード、アドレス帳変更パスワード、設定保存パスワード、リモートアクセス・パスワード、ストリーミング・パスワードは管理者設定メニューのパスワードページで登録します。
- Web ページにアクセスしパスワードを入力すると、Web ブラウザ自体を終了するまでその認証は有効です。つまり Web ページを閉じても Web ブラウザを終了しなければ、再度 Web ページにアクセスしたときに、認証なしでアクセスできます。
- 使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性があります。セキュリティの面からすべてのパスワードを設定することを強く推奨します。管理者設定メニューの「パスワード」ページ（105 ページ）ですべてのパスワードを設定してください。

メニューの選択

各画面の左側に表示されるメニューをクリックすると、それぞれのメニュー画面が表示されます。



[Home]

相手の回線種別を選択し、番号入力欄にアドレスを入力して発信できます。また、この機器についての情報がアイコンで表示されます。

[Download]

各種ログをダウンロードできます。

[Control Pad]

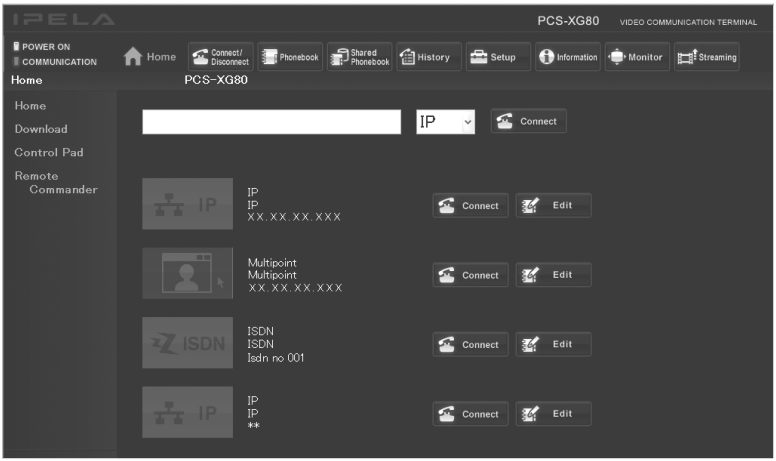
制御卓が画面に表示され、各種操作ができます。

[Remote Commander]

システムに付属のリモートコマンダー（PCS-RF1）の画像が表示され、同様の操作ができます。

Home メニューの使いかた

左側のメニューの［Home］をクリックすると表示されます。また、認証ページで正しいパスワードを入力すると表示されます。

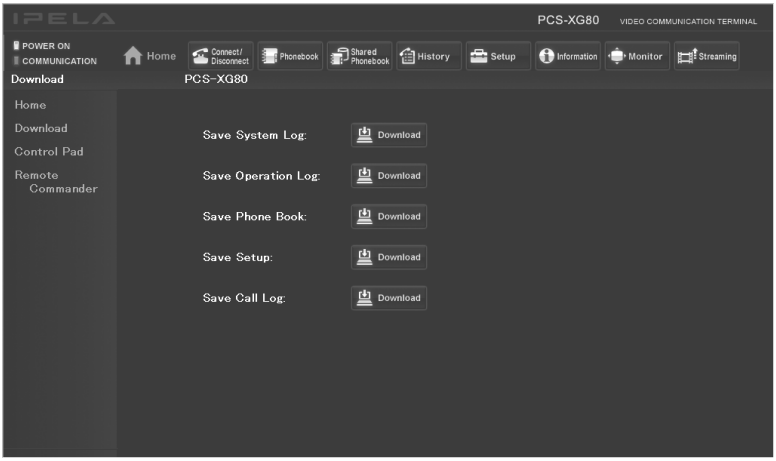


番号を入力して発信するには

① 回線種別（IP、ISDN、SIP）を選ぶ。
② 番号入力欄に相手の回線番号またはアドレスを入力する。
③［Connect］ボタンをクリックする。

Download メニューの使いかた

左側のメニューの［Download］をクリックすると表示されます。各種 Log ファイルが表示できます。



表示したいログファイルを選び、［Download］ボタンをクリックすると別画面でログファイルが確認できます。

Remote Commander メニューの使いかた

左側のメニューの[Remote Commander]をクリックするとリモートコマンダーの画像が表示されます。

それぞれのボタンをクリックすることにより、実際のリモコン（PCS-RF1）と同様にカメラコントロール、ダイヤルなどの操作を行うことができます。

機能ボタンの選択

各画面上部に表示される機能ボタンをクリックすることで、それぞれのページを表示します。

[Connect/Disconnect]

ダイレクトダイヤル発信と切断を行うことができます。

[Phonebook]

アドレス帳の一覧表示を行うことができます。
アドレス帳から発信を行うことができます。
アドレス帳の新規登録、内容確認、編集を行うことができます。

プライベートアドレス帳の場合は、Phonebook ボタンが Private Phonebook ボタンに変わります。

[Shared Phonebook]

共有アドレス帳が使用できます。

[History]

発信、着信、不在着信履歴を表示できます。
表示した履歴から発信することができます。
不要になった履歴を削除できます。

[Setup]

Setup の内容確認と変更を行うことができます。

[Information]

端末の情報、周辺機器の状態、通信モードの状態を確認することができます。
また、ネットワーク導通確認や“メモリースティック”にあるレコーディングデータファイルを表示することもできます。

[Monitor]

本機の映像をモニターすることができます。

ご注意

管理者設定メニューの「アクセス許可」ページで「Web モニター」が「切」になっていると、映像のモニターはできません。

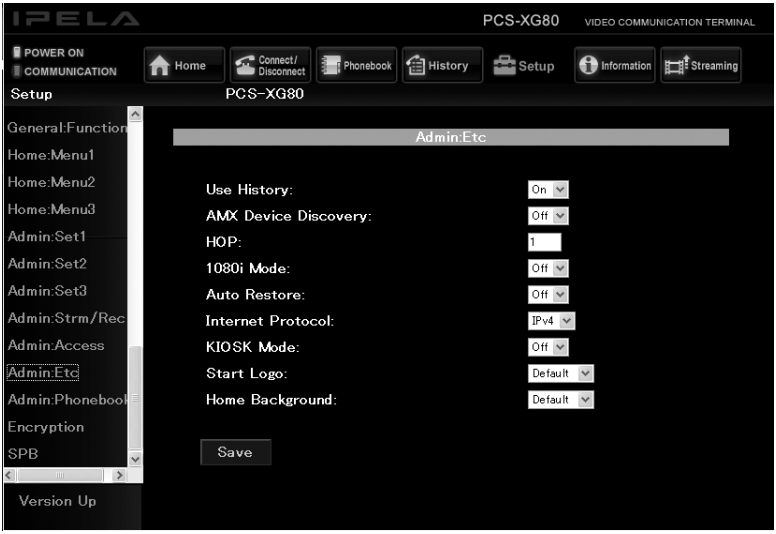
[Streaming]

ストリーミング配信されているコミュニケーションを閲覧することができます。

ご注意

- コミュニケーションを閲覧するには、QuickTime のバージョン 6.0 以上が必要です。
- 管理者設定メニューの「ストリーミング / レコーディング」ページで「ストリーミング」が「禁止」になっているときは、コミュニケーションの閲覧はできません。また、「ストリーミング / レコーディング」ページの「ビデオ」が「切」になっているときは、音声だけが配信され、映像の閲覧はできません。

KIOSK Mode の設定方法



ホームの背景画面、および起動中ロゴが選択できます。

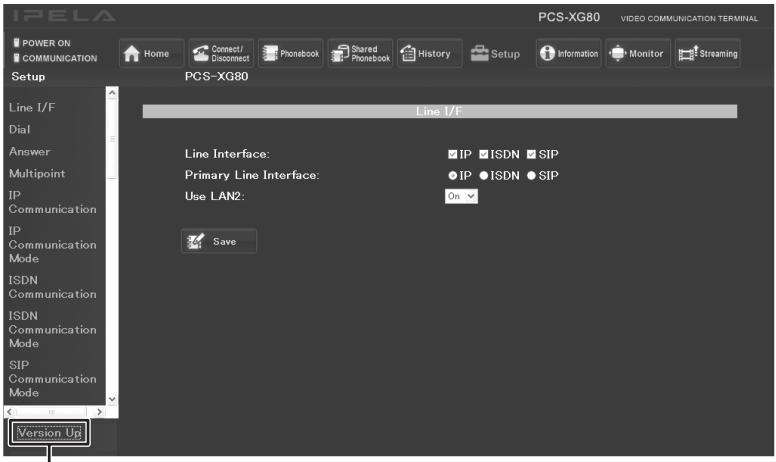
ご注意

- KIOSK Mode の設定は、Web 機能からのみ設定および変更が可能です。
- KIOSK Mode の設定について詳しくは、本機の販売会社へご確認ください。

① 画面上部の Setup をクリックする。
② 左側に表示される Admin:Etc をクリックする。
Admin:Etc 画面が表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ設定変更ができます。）
③ KIOSK Mode を On にする。
④ Save ボタンをクリックする。
SAVE 完了後、ページが再表示されます。

Version Up ページの使いかた

画面上部の［Setup］をクリックすると、左下に［Version Up］が表示されます。
［Version Up］をクリックすると Version Up ページが表示されます。

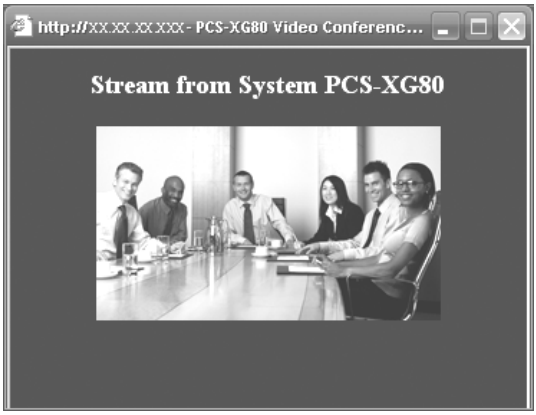


Version Up

［参照 ...］をクリックして、バージョンアップを行いたいソフトウェアを選び、［Upload］ボタンをクリックします。
アップロードが完了すると、メッセージが表示され、バージョンアップが開始されます。バージョンアップが完了すると、システムが再起動します。再起動が完了するまでは本機の電源を切らないでください。
［参照 ...］でアドレス帳や設定ファイルを選択すると、アドレス帳や設定をアップロードすることができます。

Streaming ページの使いかた

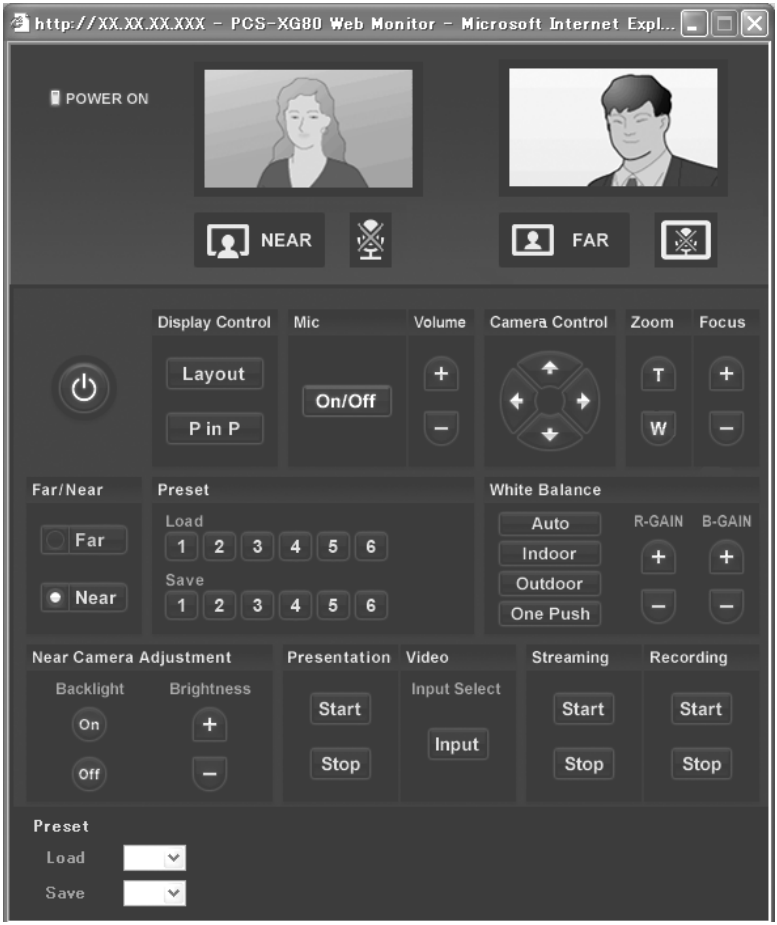
① 認証画面でユーザー名に“streaming”を、パスワードに受信したいコミュニケーションをストリーミング配信している端末のストリーミング・パスワードを入力します。
② 機能ボタンの［Streaming］をクリックすると QuickTime が起動し、コミュニケーションを閲覧することができます。



ご注意

・コミュニケーションを閲覧するには、QuickTime のバージョン 6.0 以上が必要です。コンピューターにインストールされていない場合は、下記のホームページからダウンロードしてください。
http://www.apple.com/quicktime/download/
・管理者設定メニューの「ストリーミング / レコーディング」ページで「ストリーミング」が「禁止」になっているときは、コミュニケーションの閲覧はできません。また、「ストリーミング / レコーディング」ページの「ビデオ」が「切」になっているときは、音声だけが配信され、映像の閲覧はできません。
・ストリーミング受信は、Web でのアクセス制限により、10 端末程度で同時に利用できます。ただし、同時に利用できる端末数は、ご使用のシステムの環境によって異なります。

Monitor ページの使いかた



機能ボタンの [Monitor] をクリックすると Monitor ページが別ウィンドウで表示され、本機の映像をモニターできます。

ご注意

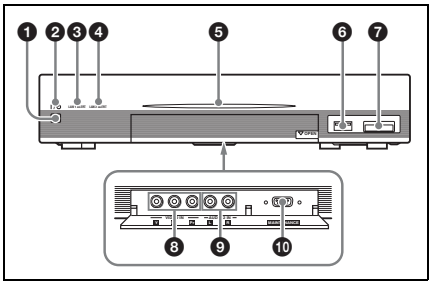
管理者設定メニューの「アクセス許可」ページで「Web モニター」が「切」になっているとき、および暗号化通信中は、映像のモニターはできません。

付録

各部の名称と働き

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S/XG55S

前面



❶ I/⏻（電源）スイッチ

システムの電源を入 / 切します。

❷ I/⏻（電源）ランプ

電源スイッチをオンにすると緑色で点滅し、その後点灯します。システムがスタンバイ状態になるとオレンジ色で点灯します。

❸ LAN 1 ALERT（LAN 1 警告）ランプ

裏面の品 1 端子を使って LAN に接続している場合、通信中にパケットエラー（ロス）やリンクエラーが起こると黄色で点灯します。

ご注意

PCS-XG55S では、LAN ALERT ランプになります。

❹ LAN 2 ALERT （LAN 2 警告）ランプ（PCS-XG80S のみ）

裏面の品 2 端子を使って LAN に接続している場合、通信中にパケットエラー（ロス）やリンクエラーが起こると黄色で点灯します。

ON LINE（オンライン）ランプ（PCS-XG55S のみ）

発信または着信中は青色で点滅し、通信中は青色で点灯します。

❺ コミュニケーションステータスランプ（PCS-XG80S のみ）

システムの起動時、数秒間、白色で点灯後、消灯します。

発信または着信中は点滅し、通信中は点灯します。

❻ TABLET（タブレット）端子

アノテーション用のペンタブレット（別売）やソフトウェアインストール用の Key Module を接続します。

ご注意

PCS-XG55S では、OPTION 端子になります。

❼ メモリースティックスロット

“メモリースティック”（別売）を挿入します。

“メモリースティック デュオ”も使用可能です。

❽ VIDEO IN YPbPr（コンポーネント入力）端子（ピンジャック）

別売のカメラや映像機器のコンポーネント信号（YPbPr）出力端子と接続します。

❾ AUDIO 2 IN（音声入力 2）L/R 端子（ピンジャック）

別売のカメラやオーディオ機器の音声出力端子と接続します。

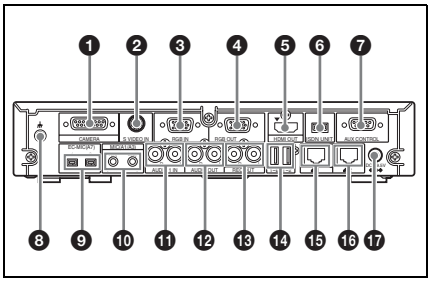
ご注意

PCS-XG55S では、AUDIO IN 端子になります。

❿ MAINTENANCE（メンテナンス）端子（D-sub 9 ピン）

サービス用です。

後面



❶ CAMERA（カメラ）端子

HD カメラユニット PCSA-CXG80 の TERMINAL 端子と接続します。

❷ S VIDEO IN（S ビデオ入力）端子（ミニ DIN7 ピン）（PCS-XG80S のみ）

別売の 2 台目のカメラや映像機器の S 映像出力端子と接続します。

❸ RGB IN（RGB 入力）端子（D-sub 15 ピン）

コンピューターなどの RGB 出力端子と接続します。

❹ RGB OUT（RGB 出力）端子（D-sub 15 ピン）

別売のプロジェクターやディスプレイ機器の RGB 入力端子と接続します。

❺ HDMI OUT（HDMI 出力）端子

HDMI 入力端子付きのモニター用テレビと接続します。

❻ ISDN UNIT（ISDN ユニット）端子

別売の ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S の TERMINAL 端子と接続します。

❼ AUX CONTROL（補助制御）端子（D-sub 9 ピン）

サービス用です。

❽ ⏚（アース）端子

アース線を接続します。

❾ EC-MIC（A7）1/2（エコーキャンセリングマイク）端子（PCS-XG80S のみ）

別売のエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 を接続します。

❿ MIC（A1/A3）（マイク 1（R）/2（L））端子（ミニジャック）

マイクロホン PCS-A1（PCS-XG80/XG55 に付属）や PCSA-A3（別売）を接続します。マイクにはシステム本体から電源が供給されます。

⓫ AUDIO 1 IN（音声入力 1）L/R 端子（ピンジャック）（PCS-XG80S のみ）

別売の VTR やオーディオ機器の音声出力端子と接続します。

⑫ AUDIO OUT（音声出力）L/R 端子（ピンジャック）

モニター用テレビの音声入力端子と接続します。

⑬ REC OUT（録音出力）L/R 端子（ピンジャック）

議事録として音声を録音するときに使用します。この端子からは、自分側と相手側の音声がミックスして出力されます。

⑭ EXT 1/2（外部機器接続 1/2）端子（PCS-XG80S のみ）

本バージョンでは使用しません。

⑮ 品 1（LAN1）端子（100BASE-TX/10BASE-T、8 ピンモジュラー）

LAN または SIP を介して接続するときに使用します。カテゴリー 5 のケーブルを使ってハブまたは SIP サーバーなどに接続します。

ご注意

PCS-XG55S では、品（LAN）端子になります。

⑯ 品 2（LAN2）端子（100BASE-TX/10BASE-T、8 ピンモジュラー）（PCS-XG80S のみ）

LAN を介して接続するときに使用します。カテゴリー 5 のケーブルを使ってハブなどに接続します。

⑰ DC 19.5V ジャック

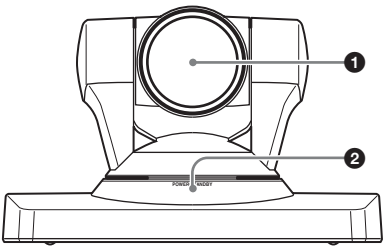
付属の AC アダプターを接続します。

HD カメラユニット PCSA-CXG80（PCS-XG80/XG55 に付属）

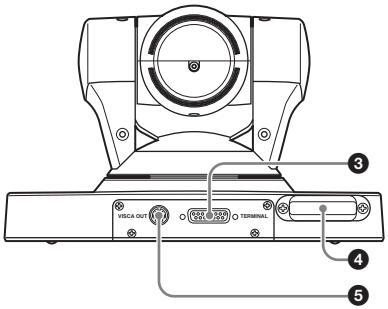
ご注意

本カメラユニットは、PCS-XG80S/XG55S には付属されていません。

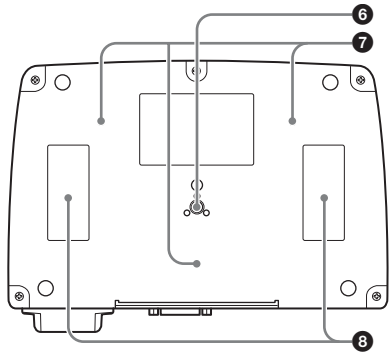
前面



後面



底面



❶ レンズ

光学 10 倍ズームレンズです。

❷ POWER/STANDBY（電源／スタンバイ）ランプ

システム本体の電源を入れると、緑色に点灯します。また、システムがスタンバイまたは電源オフの状態になると、オレンジ色に点灯します。

❸ TERMINAL（ターミナル）端子

システム本体の CAMERA 端子と接続します。

❹ RF（無線）リモコン受信部

付属の RF リモコンをカメラにペアリングするとき、この受信部に向けて操作します。

❺ VISCA OUT（VISCA 出力）端子

VISCA 通信に使います。システム本体に 2 台目のカメラを接続するとき、2 台目のカメラの VISCA IN 端子と接続します。

❻ 三脚取り付け用ネジ穴

三脚を取り付ける場合に使用します。

◆ネジの規格については、「カメラユニット PCSA-CXG80 を三脚に取り付ける」（43 ページ）をご覧ください。

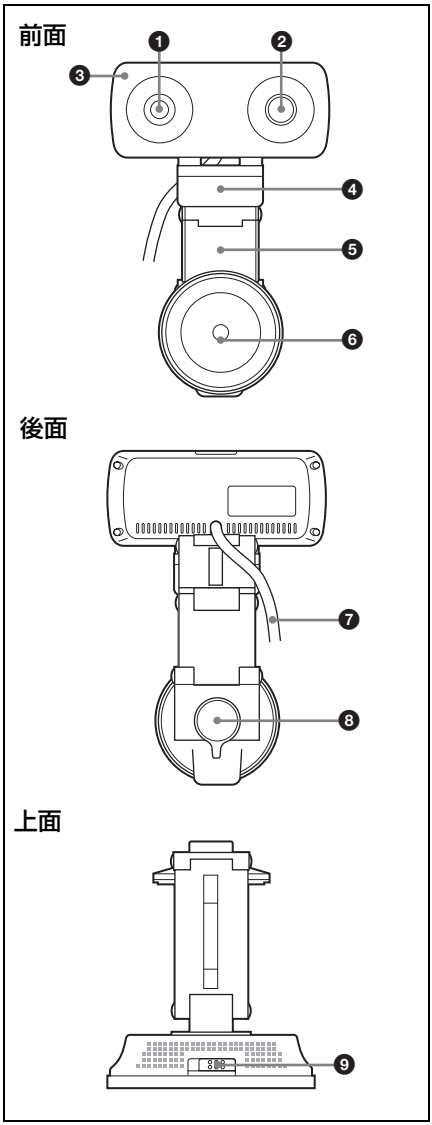
❼ 取り付け用ネジ穴

カメラを金具などに安全に固定する場合にこのネジ穴を使用します。

❽ 固定用テープ貼り付け位置

付属の固定用テープを使用する場合はここに貼り付けます。

HD カメラユニット PCSA-CXA55（PCS-XA80/XA55 に付属）



❶ レンズ

デジタル3倍ズームレンズです。

❷ マイク

カメラユニットに内蔵のモノラルマイクです。

❸ タリーランプ

会議中に、カメラの映像が相手側に送信されているときに点灯します。

❹ チルトベース

モニター用テレビの上部に乗せて、カメラユニットを支えます。

❺ リンクアーム

下部についている吸盤を、お使いのモニター用テレビの背面にぴったりと合わせるように動かします。

❻ 吸盤

モニター用テレビの背面に固定します。

モニター用テレビ背面には、付属のシールを貼っておきます。

❼ 接続ケーブル

HD ビジュアルコミュニケーションシステムの CAMERA 端子に接続します。

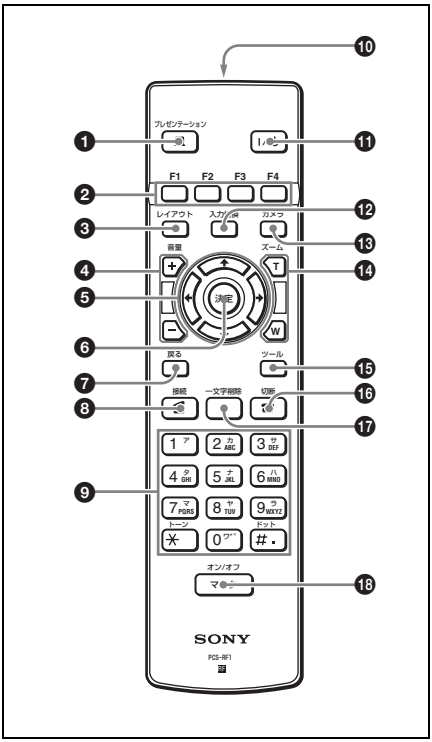
❽ 吸盤レバー

中央を強く押しながらレバーを回して、吸盤でカメラユニットを装着します。取り外すときもレバーを回します。

❾ レンズカバー開閉レバー

レンズを隠すカバーを開閉します。

RF リモコン PCS-RF1（付属）



リモコンのボタンを押したときのビープ音の大きさを、メニューで設定することができます。また音が出ないようにすることもできます。

◆詳しくは、音声設定メニューの「ビープ音」(87 ページ）をご覧ください。

❶ プレゼンテーションボタン

プレゼンテーションデータを送信 / 停止します。

❷ F1 ～ F4（ファンクション）ボタン

状況によってさまざまな機能のボタンとして使用します。

各ボタンの機能は、メニュー画面下にガイダンスとして表示されます。

❸ レイアウトボタン

レイアウトメニューを表示します。画面表示パターンを切り換えます。

❹ 音量（＋ / －）ボタン

相手から送られてくる音声の音量を調整します。

＋：音量が大きくなります。

－：音量が小さくなります。

❺ ↑/↓/←/→（矢印）ボタン

メニューを選んだり、項目を設定するのに使います。

❻ 決定ボタン

選んだメニューや設定した内容を確定して次の手順に進みます。

❼ 戻るボタン

ひとつ前の手順に戻ります。

❽ 接続（☎）ボタン

相手と接続するときに使用します。

❾ 数字（0 ～ 9、＃、＊）ボタン

回線番号などの数字や名前などを入力するときに使用します。

❿ 電池入れ（後面）

単 3 形乾電池を 2 本入れます。

⓫ I / ⏻（電源）ボタン

システム本体の電源が入っているときは、押すとスタンバイ状態になります。スタンバイ状態のときは、押すと電源が入ります。

⓬ 入力切換ボタン

ビデオ入力メニューを表示します。モニターに表示する映像入力を切り換えます。

⓭ カメラボタン

カメラメニューを表示します。カメラのアングルや、画像の明るさなどの調整を行います。

⓮ ズーム（T/W）ボタン

カメラのズームを操作します。

T：画像が大きくなります。

W：画像が小さくなります。

⓯ ツールボタン

ツールメニューを表示するときに押します。

⓰ 切断（☎）ボタン

相手との回線を切断するとき使用します。

⓱ 一文字削除ボタン

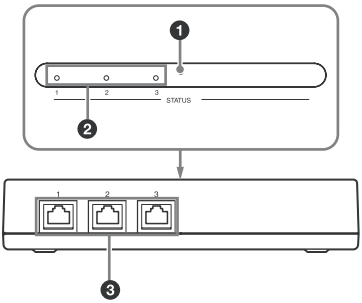
最後に入力した文字を削除します。

⓲ マイクオン / オフボタン

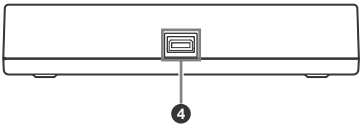
自分側からの音声を相手に送るのを中断するときに押します。再び音声を相手に送るときは、もう一度押します。

ISDN ユニット PCSA-B384S（別売）

前面・上面



後面



❶ POWER ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 3 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

❸ ISDN 1 ～ 3 端子（8 ピンモジュラー）

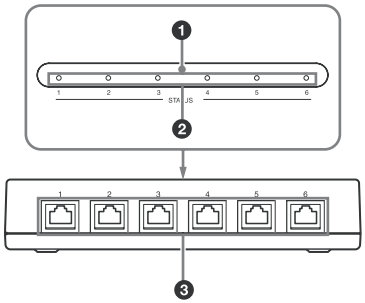
ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

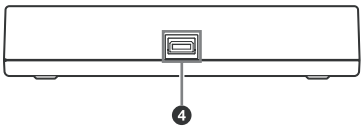
ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、システム本体の ISDN UNIT 端子と接続します。

ISDN ユニット PCSA-B768S（別売）

前面・上面



後面



❶ POWER ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 6 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

❸ ISDN 1 ～ 6 端子（8 ピンモジュラー）

ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

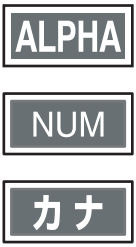
❹ TERMINAL（ターミナル）端子

ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、システム本体の ISDN UNIT 端子と接続します。

インジケーター一覧

機能の使用状況によって、モニター用テレビの画面に以下のアイコンが表示されます。

*のインジケーターは、PCS-XG55/XG55S/XA55 では表示されません。

インジケーター	名称	説明
	自分カメラコントロール	自分側のカメラをコントロール中
	相手カメラコントロール	相手側のカメラをコントロール中
	マイクオフ（自分）	通信中、非通信中ともに自分側のマイクがオフの場合
	マイクオフ（相手）	通信中、非通信中ともに相手側のマイクがオフの場合
	ボリューム	相手から送られてくる音声の音量を調節中
	音量レベル（ステレオ）	ステレオ音声入力レベル
	音量レベル（モノラル）	モノラル音声の入力レベル
	文字入力モード	文字入力モード
	LAN 状態（LAN1）	1 端子（PCS-XG55/XG55S では 端子）経由、IPv4（インターネットプロトコル IPv4）で LAN ケーブル接続中
*	LAN 状態（LAN2）	2 端子経由、IPv4 で LAN ケーブル接続中

インジケーター	名称	説明
	LAN 状態（LAN1、IPv6）	品1 端子（PCS-XG55/XG55S では品端子）経由、IPv6 で LAN ケーブル接続中
	ISDN 状態	ISDN ポートの使用状況
	オーディオ入力	選択されている音声入力（MIC（A1/A3）端子からの入力の例）
	ビデオ入力	選択されている映像入力（RGB IN 端子からの入力の例）
*	1080	1080 モード使用中
	音声電話	音声のみのコミュニケーション中
	メモリースティック	“メモリースティック”挿入中
	プリセットロード	カメラのプリセット登録 (1 ～ 6) を呼び出し
	プレゼンテーション（送信中）	プレゼンテーション実行中（相手へ送信中）
	プレゼンテーション（受信中）	相手からのプレゼンテーションを受信中
	ストリーミング	ストリーミング配信中
	レコーディング	レコーディング中
	タブレット	ペンタブレット接続中

インジケーター	名称	説明
	ドローイング（自分）	自分側に描画権あり
	ドローイング（相手）	相手側に描画権あり
	ポインター（自分）	自分側のポインター
	ポインター（相手）	相手側のポインター
	暗号化	暗号化接続中
	パケットロス	パケットロスが発生中
	音声検出中	多地点接続時、放送モードで「音声検出」モードを使用中
	放送中（自分）	多地点接続で自分側の映像を放送中
	放送中（A ～ E）	多地点接続で 1 番目（～ 5 番目）に接続した端末 A（～ E）の映像を放送中

メッセージ一覧

システムを操作中、モニター用テレビの画面にメッセージが現れたら、下記の表で確認してください。

エラーコード付きメッセージ

メッセージ	
回線を完全につなぐことができません （下記の理由コードとメッセージが表示されます。）	
0	理由なし　もう一度ダイヤルしなおしてください。
1	該当番号なし　相手側の電話番号を確認してください。
2	回線渋滞。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
3	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
16	正常切断　（通常の回線切断です）
17	通話中。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
18、19	相手側応答なし。相手側 TV 会議装置が接続されているかどうかを確認してください。
20	加入者不在。相手側の電話番号を確認してください。
21	通信拒否。相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
22	相手側番号変更。相手側の電話番号を確認してください。
26	接続復旧要求。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
27	相手側故障中。相手側 TV 会議装置の動作を確認してください。
28	無効な番号。相手側の電話番号を確認してください。
31、41 ～ 43、47	回線不通。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
33、34	回線が混雑しています。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
44	回線がビジーです。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
50	未契約　相手側回線の契約内容を確認してください。
57、58	伝達能力不許可　［制御網］の設定を確認してください。
70	能力制限　［制御網］を［56K］に設定してダイヤルしてください。
88	端末属性不一致。相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
91、95 ～ 102、111	手順誤り　システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
128	H.221 同期取得失敗。システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
131	基板不一致　オプションの回線 I/F ボードを確認してください。

メッセージ	
132	無効 SPID：SPID が正しく設定されていません。
134	物理的同期取得失敗　ISDN ケーブルの接続を確認してください。
144、145	相手側端末がボンディング接続未対応の可能性があります。
177	LAN 接続タイムアウト。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
178	LAN 接続拒否。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
179	DNS エラー。
180	自分にはダイヤルできません。
181	ゲートキーパーエラー。
192	PPPoE のサーバー認証に失敗しました。PPPoE ユーザ名と PPPoE パスワードを確認してください。
195	DHCP で IP アドレスを取得中です。
196	DNS アドレスを設定するか、IP アドレスで発信してください。
202、203、204	H.245 エラー
205	発信するユーザー名、もしくはユーザー番号が正しいか確認してください。
207	相手端末がゲートキーパーへ登録されていない可能性があります。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。
209 ～ 212	ゲートキーパーが応答しません。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。もしくは相手の IP アドレスで発信してください。
201、217	相手を呼び出しましたが、応答がありません。
218	ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていません。正しく設定してください。1B で接続されました。
219	相手端末の ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。1B で接続されました。
230、231	PPPoE の認証に失敗しています。PPPoE の設定を確認のうえ、もう一度ダイヤルしてください。
232	DNS サーバーにアクセスできませんでした。PPPoE の DNS 設定を確認してください。
233	DNS での名前解決ができません。IP アドレスで発信してください。
234	同じアドレスに発信できません。
235	回線数が異なるため、2 次端末として扱われます。
236	カメラ制御 OFF のため、2 次端末として扱われます。
237	回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。

メッセージ	
238	こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。
239	相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。
240	相手側と暗号化通信方式が異なるため会議が開始できませんでした。
241	SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。
242	ISDN 接続を含んだ独自方式の暗号化会議はできません。
243	指定された回線種別では、現在の通信モードでの接続はできません。
244	相手からのパケットが来なくなったため切断しました。

故障かな？

システムが正しく動作しないときは、故障とお考えになる前に以下の項目を確認してください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源スイッチがオンになっていない。	I/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れてください。（49 ページ）
	リモコンの電池が消耗している。	新しい乾電池と交換してください。（44 ページ）
リモコンが働かない	システム本体とリモコンが隔離されている。	リモコンをカメラとペアリングしてください。（46 ページ）
	ペアリングができていない。	リモコンをシステム本体、またはカメラとペアリングしてください。（46 ページ）
音声が聞こえない・小さい。	本機の音量が小さすぎる、または最小になっている。	リモコンの音量ボタンを押して音量を調節してください。（53 ページ）
	モニター用テレビの音量が小さすぎる、または最小になっている。	モニター用テレビのリモコンの音量ボタンを押して音量を調節してください。
	相手のマイクがオフになっている。	相手に、音声が聞こえないことを伝え、マイクをオンにするよう依頼してください。
	音声入力が正しく選択されていない。	・音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「入力選択（MIC 系）」、「入力選択（AUX 系）」を正しく設定してください。（84 ページ） ・音声設定メニューの「基本設定 1」ページで「音声入力」を正しく設定してください。（83 ページ）
	マイクまたは入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。（193、196、204 ページ）
映像がぼやける。	フォーカスを手動で調節しているとき、フォーカスが合っていない。	フォーカスを調整してください。（170 ページ）

症状	原因	対策
映像がぼやける。	オートフォーカスにしてあるとき、背景が明るすぎたり、明暗がはっきりしすぎている、または参加者の衣服や背景が横じまなど細かい模様になっている。	マニュアルフォーカスに切り換え、調節してください。(170 ページ)
映像が映らない。	映像信号入力用外部機器の電源が入っていない。	電源を入れてください。
	入力が正しく選ばれていない。	入力を正しく切り換えてください。(171 ページ)
	入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。(204 ページ)
	ボイスミーティングを行っている。	故障ではありません。
	カメラの動きをさえぎった。	システム本体の電源を入れ直してください。
相手とつながらない。	違う番号にダイヤルした。	入力した番号をよく確かめてください。
	回線種別の選択がまちがっている。(ダイレクトダイヤルのとき)	「3 章　基本的な接続」の「直接、相手の番号を入力して呼び出す（ダイレクトダイヤル)」(134 ページ）を参照して正しく選択してください
	アドレス帳の登録内容がまちがっている。	「アドレス帳に相手を登録する」(147 ページ）を参照して正しく登録してください。
	システム設定の設定内容がまちがっている。	「2 章　登録と設定－管理者用」の「システムを設定する」を参照して正しく設定してください。(72 ページ)
	IP アドレス、ネットワークマスクの設定がまちがっている。(LAN 通信のとき)	ネットワーク 担当者などに問い合わせて、正しく設定してください。(92 ページ)

症状	原因	対策
相手とつながらない。	LAN ケーブルを 2 端子に接続している。	通信回線設定メニューで「LAN2 を使用する」を［入］に設定してください。（76 ページ） 2 端子経由では本機の機能が制限されます。SIP 接続やゲートキーパー、SNMP の使用、Web アクセス、Telnet アクセスは 2 端子経由ではできません。
	LAN または ISDN の接続ケーブルが抜けている。	正しく接続してください。（39、40、42 ページ）
	LAN または ISDN の接続ケーブルの接続端子をまちがえている。	正しく接続してください。（39、40、42 ページ）
	LAN または ISDN の接続ケーブルが断線している。	ケーブルを交換してください。
	ISDN 専用のケーブルを LAN 用に使っている。（LAN 通信のとき）	ISDN で使えても LAN には使えないケーブルがあります。LAN 用のケーブルを使ってください。
	LAN または ISDN の接続にタイプ（クロスまたはストレート）の違う接続ケーブルを使っている。	正しいケーブルに交換してください。
	DSU の電源が入っていない。（ISDN 通信のとき）	DSU の電源を入れてください。
	通信中に ISDN 接続ケーブルを抜いたり、電源を切るなど通常の手順によらないで通信を終了すると、しばらくつながらなくなることがある。（ISDN 通信のとき）	電源を切り、数分待ってから使ってください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	LAN ケーブルの抜き差しや電源の入り切りを繰り返していると、しばらく使えなくなることがある。（LAN 通信のとき）	電源を切り、数分待ってから使ってください。
	LAN の一時的な障害（LAN 通信のとき）	一時的な障害がおさまってから使ってください。
	ご使用の LAN 環境ではシステムのパケットを通せない。（LAN 通信のとき）	ネットワーク担当者に相談して、コミュニケーションシステムのパケットを通せるように LAN 環境を整えてください。
	相手端末の電源が入っていない。	相手端末の電源を入れてもらってください。
	相手端末がスタンバイ（スリープ）状態から着信可能になるまでに時間がかかる。	相手端末をスタンバイ（スリープ）状態から復帰させてもらってください。
	相手端末が他の端末と通信中である。	相手端末が通信を終えてからダイヤルし直してください。
	相手端末が設定変更などの操作中で、着信を許可しない。	相手端末に着信を受け付けてもらってください。
	相手端末が自動着信になっていない。	相手端末の設定を自動着信に変更する、または、相手端末に手動で着信を受け付けてもらってください。
	相手端末の ISDN 回線番号が設定されていない。（ボンディング接続のとき）	相手端末の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定してもらってください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	相手端末の使用している複数の ISDN 回線番号の、下から 8 桁目以上の番号が共通になっていない。（ボンディング接続で、相手端末が PCS-1600 など旧機種のとき。）	ボンディングを使用しないで接続する、または下から 8 桁目以上の番号が共通になっている ISDN 回線番号を使用してください。
	相手端末側に問題がある。	他の端末にダイヤルして確かめてください。
	画面にメッセージが表示される。	「メッセージ一覧」をご覧ください。（273 ページ）
“メモリースティック”に静止画やアドレス帳を保存できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除してください。（295 ページ）
	“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	他の“メモリースティック”に保存してください。

仕様

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55

本機は ITU-T 勧告 H.320 と H.323 に準拠しています。

動画

動作帯域　64 Kbps ～ 10 Mbps（標準、LAN による接続）（PCS-XG55/XG55S/XA55 は最大 4 Mbps）
56 Kbps ～ 768 Kbps（PCSA-B768S 取り付け時、ISDN による接続）
56 Kbps ～ 384 Kbps（PCSA-B384S 取り付け時、ISDN による接続）

コーディング方式
H.261/H.263/H.263+/H.263++/H.264
MPEG4 Simple Profile（SIP 接続のみ）

画素　CIF：352 ピクセル× 288 ライン
QCIF：176 ピクセル× 144 ライン
4CIF：704 ピクセル× 576 ライン
WCIF（W288p）：512 ピクセル× 288 ライン
W432p：768 ピクセル× 432 ライン
W4CIF：1024 ピクセル× 576 ライン
720p：1280 ピクセル× 720 ライン
1080i/p：1920 ピクセル× 1080 ライン（PCS-XG80/XG80S のみ）

音声

周波数帯域　22 kHz（MPEG4 AAC）
14 kHz（MPEG4 AAC）
7 kHz（G.722 ITU-T 勧告準拠）
3.4 kHz（G.711/G.728 ITU-T 勧告準拠）

伝送レート　56 Kbps、64 Kbps（G.711 ITU-T 勧告準拠）
48 Kbps、56 Kbps、64 Kbps（G.722　ITU-T 勧告準拠）
64 Kbps、96 Kbps（MPEG4 AAC）（LAN による接続）
16 Kbps（G.728　ITU-T 勧告準拠）
48 Kbps（MPEG4 AAC）（ISDN による接続）

ネットワーク

多重分離化　映像信号、音声信号、データを多重分離化

フレームフォーマット
H.221（ITU-T 勧告準拠）

回線　LAN（標準）、64 Kbps ～ 10 Mbps（PCS-XG55/XG55S/XA55 は最大 4 Mbps）
ISDN（BRI）、6 回線接続可能（PCSA-B768S 取り付け時）、3 回線接続可能（PCSA-B384S 取り付け時）

データ伝送レート
LSD 1.2 Kbps、4.8 Kbps、6.4 Kbps
MLP 6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps
HMLP 62.4 Kbps、64 Kbps、128 Kbps
サポート LAN プロトコル
HTTP
Telnet
RTP/RTCP
TCP/UDP
SNMP

リモートコントロール

相手カメラコントロール
H.281（ITU-T 勧告準拠）

その他

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	5 A
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	−20 ℃～ + 60 ℃
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	282 × 56 × 244 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず / 脚含む）
質量	約 2.2 kg（PCS-XG80/XG80S/XA80） 約 2 kg（PCS-XG55/XG55S/XA55）
付属品	リモコン PCS-RF1（1） リモコン用単 3 形乾電池（2） HDMI ケーブル（3 m）（1） AC アダプター（1） 電源コード（1） CD-ROM（1） ご使用になる前に（1） 設置ガイド（1） 簡単接続操作ガイド / リモコン操作ガイド（1）（PCS-XG80/XG80S/XA80 のみ） B&P ワランティブックレット（1） Important Notice Regarding Software（1） 保証書（1） ユーザー登録シート（1）（日本国内のみ）

リモコン PCS-RF1（PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/XA80/XA55 に付属）

信号方式	IEEE802.15.4 に準拠
制御	DC 3 V 単 3 形乾電池 2 本使用

AC アダプター VGP-AC19V45

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、1.6 A ～ 0.7 A
出力	DC 19.5 V、6.2 A
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	−20 ℃～ + 60 ℃
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	140 × 63 × 30.5 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず）
質量	約 400 g

AC アダプター VGP-AC19V15

電源　AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、1.6 A ～ 0.7 A
出力　DC 19.5 V、6.2 A
動作温度　5 ℃～ 35 ℃
動作湿度　20%～ 80%
保存温度　−20 ℃～ +60 ℃
保存湿度　20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法　155 × 67 × 36.5 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず）
質量　約 550 g

HD カメラユニット PCSA-CXG80（PCS-XG80/XG55 に付属）

映像信号　1080i/59.94、1080i/50
同期方式　内部同期方式
映像素子　6 mm（1/3 型）、CMOS
有効画素数：約 200 万画素
レンズ　光学 10 倍（デジタル 40 倍）
f = 3.4 ～ 33.9 mm、F1.8 ～ F2.1
水平画角 8°（TELE 端）～ 70°（WIDE 端）
最至近撮影距離
100 mm（WIDE 端）
最低被写体照度
15 ルクス（F1.8）/50 IRE にて
パン・チルト機能
水平± 100°
最大速度：300° / 秒
垂直± 25°
最大速度：125 ° / 秒
入力電圧　DC 19.5 V
消費電流　最大 1 A
動作温度　5 ～ 35 ℃
保存温度　−20 ℃～ +60 ℃
最大外形寸法
240 × 152 × 173 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（脚を含む）
質量　約 2 kg
設置角度　水平に対して± 15° 以内
付属品　カメラケーブル（3 m）（1）
固定テープ（2）
取扱説明書（1）
B&P ワランティブックレット（1）
保証書（1）

HD カメラユニット PCSA-CXA55（PCS-XA80/XA55 に付属）

映像信号　720p/30
同期方式　内部同期方式
映像素子　5.7 mm（1/3.2 型）、CMOS
約 800 万画素
レンズ　f = 2.94 mm（35 mm 換算で 22 mm）F2.8
水平画角 80.1°
垂直画角 62.7°
最至近撮影距離
80 mm（WIDE 端）
パン・チルト
水平± 20° 、垂直± 20° 、手動
入力電圧　DC 19.5 V
消費電力　4 W 以下
動作温度　5 ℃ ～ 35 ℃
保存温度　−20 ℃ ～ +60 ℃

最大外形寸法
116 × 50 × 225 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量　約 500 g
付属品　吸盤用シール （1）
取扱説明書 (1)

マイクロホン PCS-A1（PCS-XG80 に 2 個 / PCS-XG55 に 1 個付属）

周波数帯域　13 kHz
指向特性　無指向性
外形寸法　74 × 16 × 93 mm
（幅 / 高さ / 奥行き）
質量　約 170 g
電源　プラグインパワータイプ
ケーブル長　8 m

マイクロホン PCSA-A3（別売）

周波数帯域　13 kHz
指向特性　単一指向性
外形寸法　68 × 16 × 96 mm
（幅 / 高さ / 奥行き）
質量　約 200 g
電源　プラグインパワータイプ
ケーブル長　8 m

マイクロホン PCSA-A7P4（別売）

外形寸法　64 × 26 × 102 mm
（幅 / 高さ / 奥行き）（脚含む）
質量　約 130 g

電源電圧　DC 12 V　システム本体、または付属 AC アダプターより給電
消費電力　2.5 W 以下（1 台あたり）
動作温度　5 ℃～ 35 ℃
動作湿度　20%～ 80%
保存温度　−20 ℃～ +60 ℃
保存湿度　20%～ 80%
（結露しないこと）
付属品　マイクロホン PCSA-A7（4）
マイクケーブル（8 m）(2)
マイクケーブル（1.5 m）(4)
AC アダプター MPA-AC1（1）
電源コード（日、米、欧）
（各 1）
コードアダプター（1）
DC コード（1）
取扱説明書（1）
B&P ワランティブックレット
（1）
保証書（1）

ISDN ユニット PCSA-B384S（別売）

電源電圧　DC 19.5 V
消費電流　0.3 A
動作温度　5 ℃～ 35 ℃
動作湿度　20%～ 80%
保存温度　−20 ℃～ +60 ℃
保存湿度　20%～ 80%
（結露しないこと）
外形寸法　166 × 34 × 128 mm
（幅 / 高さ / 奥行き）
（突起部含まず / 脚含む）
質量　約 400 g
付属品　インターフェースケーブル
（5 m）(1)
取扱説明書（1）

B&P ワランティブックレット（1）

ISDN ユニット PCSA-B768S（別売）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.5 A
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	−20 ℃～ +60 ℃
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	166 × 34 × 128 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず / 脚含む）
質量	約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1）

HD MCU ソフトウェア PCSA-MCG80（別売）

外形寸法	72.5 × 11 × 20 mm （幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 10 g
付属品	シリアル番号シール（1） 取扱説明書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

MPEG-4 Visual エンコーダ／デコーダ製品の販売・頒布

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号 (以下、MPEG 4 VIDEO といいます) にエンコードすること。

(ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ (HTTP://WWW.MPEGLA.COM) をご参照下さい。

MPEG LA は、(i) MPEG-4 Visual ビデオ情報を記録した媒体（PACKAGEDMEDIA）を製造し、販売する行為、(ii) MPEG-4 Visual ビデオ情報を何らかの方法（オンラインビデオ配信サービス、インターネット放送、TV 放送など）で配信・放送する行為について、ライセンスを提供しています。
その他の使用方法につきましても、MPEG LA からのライセンス取得が必要な場合があります。
詳しくは、MPEG LA にお問い合わせください。
MPEG LA. L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ：http://www.mpegla.com

MPEG-4 AVC (3-1) エンコーダ／デコーダ製品の販売・頒布

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC 規格に合致したビデオ信号 (以下、AVC VIDEO といいます) にエンコードすること。

(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページをご参照下さい。

RGB 入出力仕様

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S/XG55S RGB OUT 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH（kHz）	垂直同期周波数 fV（Hz）	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	H- 負、V- 負
1280 × 1024	SXGA VESA 60 Hz	63.981	60.02	H- 正、V- 正
1280 × 768	WXGA VESA 60 Hz	47.776	59.870	H- 負、V- 正

HD ビジュアルコミュニケーションシステム PCS-XG80S/XG55S RGB IN 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH（kHz）	垂直同期周波数 fV（Hz）	同期信号極性
640 × 480	VGA mode 3	31.469	59.94	H- 負、V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	H- 負、V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	H- 負、V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	H- 負、V- 負
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	H- 正、V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	H- 正、V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	H- 正、V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	H- 正、V- 正
	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	H- 正、V- 正
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	H- 負、V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	H- 負、V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	H- 正、V- 正
	XGA VESA 85 Hz	68.677	84.997	H- 正、V- 正
1280 × 1024	SXGA VESA 60 Hz	63.981	60.02	H- 正、V- 正

VIDEO IN（YPbPr）入力仕様

画素数	備考 (SMPTE-274M)	水平同期周波数 fH (kHz)	垂直同期周波数 fV (Hz)
1920 × 1080	1920 × 1080/59.94/1:1	67.43	59.94
1920 × 1080	1920 × 1080/50/1:1	56.25	50

端子のピン配列

100BASE-TX/10BASE-T 端子

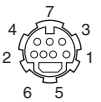
モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	TPOPTX +	送信 +
2	TPONTX −	送信 −
3	TPIPRX +	受信 +
4	NC	—
5	NC	—
6	TPINRX −	受信 −
7	NC	—
8	NC	—

ISDN UNIT 端子

ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック +
4	DCLK −	クロック −
5	DR+	受信データ +
6	DR −	受信データ −
7	FS+	フレーム同期 +
8	FS −	フレーム同期 −
9	DX+	送信データ +
10	DX −	送信データ −
11	RX	シリアル受信データ
12	TX	シリアル送信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

S VIDEO IN 端子（PCS-XG80S のみ）

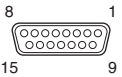


ミニ DIN7 ピン端子

ピン番号	信号名	意味
1	Y.GND	輝度信号用接地
2	C.GND	色信号用接地
3	Y	輝度信号
4	C	色信号
5	COMP.GND	コンポジット信号用接地
6	COMP.GND	コンポジット信号用接地
7	COMP	コンポジット信号

本機では、S 映像入力のみ使用可能です。

CAMERA 端子



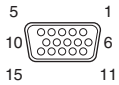
D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	Y	輝度信号
2	Y.GND	輝度信号用接地

ピン番号	信号名	意味
3	Pb	色差信号（B − Y）
4	Pb.GND	色差信号（B − Y）用接地
5	Pr	色差信号（R − Y）
6	Pr.GND	色差信号（R − Y）用接地
7	TXD	未使用
8	RXD	未使用
9	19.5V	19.5V
10	LVDS-RXD+	多重化受信信号（+）
11	LVDS-RXD −	多重化受信信号（−）
12	SIRCS	未使用
13	LVDS-TXD+	多重化送信信号（+）
14	LVDS-TXD −	多重化送信信号（−）
15	GND	接地

上記は、カメラユニット PCSA-CXG80/CXA55 を接続する場合のピン配列です。

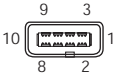
RGB OUT/IN 端子



MINI D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	RED	R（赤）
2	GREEN	G（緑）
3	BLUE	B（青）
4	NC	—
5	GND	接地
6	RED. GND	R（赤）信号用接地
7	GREEN. GND	G（緑）信号用接地
8	BLUE. GND	B（青）信号用接地
9	NC	—
10	SYNC. GND	同期信号用接地
11	NC	—
12	NC	—
13	HSYNC	水平同期
14	VSYNC	垂直同期
15	NC	—

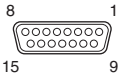
EC-MIC（A7）1、2 端子 (PCS-XG80S のみ)



ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	TXD +	送信データ +
3	TXD −	送信データ −
4	NC	—
5	NC	—
6	MICDET	マイク検出
7	GND	接地
8	RXD +	受信データ +
9	RXD −	受信データ −
10	+ 12V	電源 + 12V

別売機器の端子のピン配列

TERMINAL 端子（PCSA-CXG80/CXA55）



D-sub 15 ピン端子（PCSA-CXG80：凹 / PCSA-CXA55：凸）

ピン番号	信号名	意味
1	Y-OUT	輝度信号
2	Y.GND	輝度信号用接地
3	Pb-OUT	色差信号（B − Y）
4	Pb-GND	色差信号（B − Y）用接地
5	Pr-CAM	色差信号（R − Y）
6	Pr-GND	色差信号（R − Y）用接地
7	—	未使用
8	—	未使用
9	+19.5V	+19.5V
10	LVDS-TXD+	多重化送信信号（+）
11	LVDS-TXD −	多重化送信信号（−）
12	—	未使用
13	LVDS-RXD+	多重化受信信号（+）
14	LVDS-RXD −	多重化受信信号（−）
15	GND	接地

ISDN1 ～ 3 端子（PCSA-B384S）
ISDN 1 ～ 6 端子（PCSA-B768S）

モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	NC	—
2	NC	—
3	TA	送信 +
4	RA	受信 +
5	RB	受信 −
6	TB	送信 −
7	NC	—
8	NC	—

TERMINAL 端子（PCSA-B384S/PCSA-B768S）

ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック +
4	DCLK −	クロック −
5	DR+	送信データ +
6	DR −	送信データ −
7	FS+	フレーム同期 +
8	FS −	フレーム同期 −
9	DX+	受信データ +

ピン番号	信号名	意味
10	DX −	受信データ −
11	TX	シリアル送信データ
12	RX	シリアル受信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

PCS-XG80/XG80S/XG55/XG55S/ XA80/XA55 使用ポート一覧

対向接続時

機能	ポート番号	タイプ
RAS	1719	UDP
ゲートキーパー Discovery	224.0.1.41：1718	UDP マルチキャスト
Q.931（発信）	2253-2263	TCP
Q.931（着信）	1720	TCP
H.245	2253-2263	TCP
オーディオ RTP	49152-49159	UDP
オーディオ RTCP	49152-49159	UDP
ビデオ RTP	49152-49159	UDP
ビデオ RTCP	49152-49159	UDP
FECC RTP	49152-49159	UDP
FECC RTCP	49152-49159	UDP
2nd ビデオ RTP	49152-49159	UDP
2nd ビデオ RTCP	49152-49159	UDP
SIP	5060	UDP/TCP
自動帯域検出	51234-51235	UDP/TCP

多地点接続時

<table>
<tr><th>機能</th><th>ポート番号
（1 地点目）</th><th>ポート番号
（2 ～ 5 地点目）</th><th>タイプ</th></tr>
<tr><td>RAS</td><td colspan="2">1719</td><td>UDP</td></tr>
<tr><td>ゲートキーパー Discovery</td><td colspan="2">224.0.1.41：1718</td><td>UDP マルチキャスト</td></tr>
<tr><td>Q.931（発信）</td><td colspan="2">2253-2263</td><td>TCP</td></tr>
<tr><td>Q.931（着信）</td><td colspan="2">1720</td><td>TCP</td></tr>
<tr><td>H.245</td><td colspan="2">2253-2263</td><td>TCP</td></tr>
<tr><td>オーディオ RTP</td><td rowspan="8">49152-49159</td><td rowspan="8">2 地点目：49172 ～ 49179
3 地点目：49192 ～ 49199
4 地点目：49212 ～ 49219
5 地点目：49232 ～ 49239</td><td rowspan="8">UDP</td></tr>
<tr><td>オーディオ RTCP</td></tr>
<tr><td>ビデオ RTP</td></tr>
<tr><td>ビデオ RTCP</td></tr>
<tr><td>FECC RTP</td></tr>
<tr><td>FECC RTCP</td></tr>
<tr><td>2nd ビデオ RTP</td></tr>
<tr><td>2nd ビデオ RTCP</td></tr>
<tr><td>SIP</td><td colspan="2">5060</td><td>UDP/TCP</td></tr>
<tr><td>自動帯域検出</td><td colspan="2">51234-51235</td><td>UDP/TCP</td></tr>
</table>

ご注意

RTCP の設定可能範囲は、49152 ～ 65535 です。

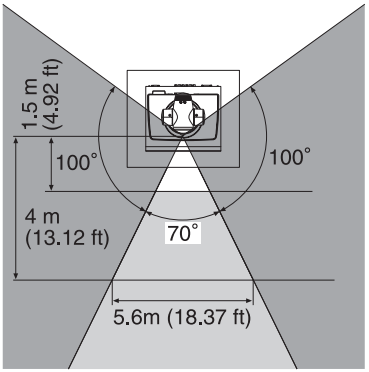
ミーティングスペースのレイアウト

カメラに映し出される範囲

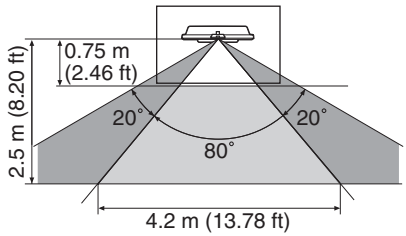
図の ■ で示した部分が、カメラが最大にズームアウトして正面を捉えているときに映し出される範囲です。カメラのアングルを調節することにより写すことのできる範囲は ■ で示してあります。数値はおおよその目安です。レイアウトの参考にしてください。

上から見た図（ズームアウト最大時の、左右方向の範囲）

HD カメラユニット PCSA-CXG80 の場合

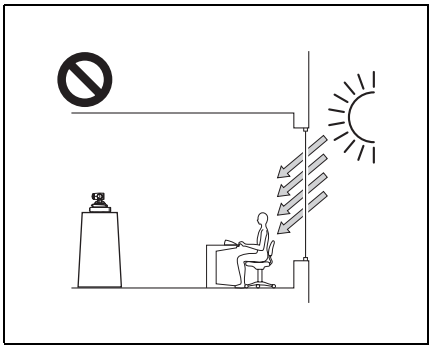


HD カメラユニット PCSA-CXA55 の場合



照明について

外から光が入る窓の正面にカメラを設置しないでください。カメラの写りが悪くなります。どうしてもカメラの正面に窓がくる場合は、厚手のカーテンなどで窓を覆ってください。



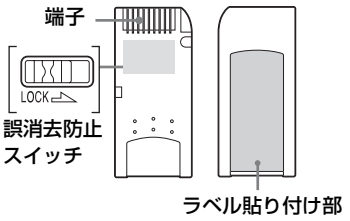
ミーティング参加者に光が当たり、モニター用テレビの画面に直接光が当たらないように照明器具の位置や明るさを調節してください。
参加者の顔の明るさは 300 ルクス以上が目安です。

“メモリースティック”についてのご注意

本機では、“メモリースティック PRO”および“メモリースティック PRO デュオ”をご使用ください。

“メモリースティック”使用上のご注意

・誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができません。



誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

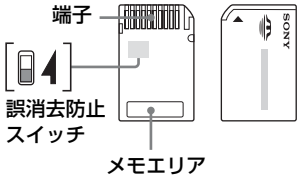
・データの読み込み中、書き込み中には「メモリースティック」を取り出さないでください。
・以下の場合、データが破壊されることがあります。
—読み込み中、書き込み中に「メモリースティック」を取り出したり、本機の電源を切った場合
—静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
・大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
・ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
・ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
・持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
・端子部には手や金属で触れないでください。
・強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
・分解したり、改造したりしないでください。
・水に濡らさないでください。
・以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
—高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
—直射日光のあたる場所
—湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

データについて

・“メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると、データの記録や編集、消去ができなくなります。本機のデータを「メモリースティック」へ移動やコピーをしたり、「メモリースティック」内のデータを消去する場合は、「LOCK」をはずしてください。
・大切なデータは、パソコンなどを使って他の「メモリースティック」やハードディスクにコピーし、保存（バックアップ）しておくことをおすすめします。

“メモリースティック　デュオ”使用上のご注意

・「メモリースティック　デュオ」の誤消去防止スイッチを動かすときは、先の細いもので動かしてください。
・「メモリースティック　デュオ」のメモエリアに書きこむときは、あまり強い圧力をかけないでください。



本機で使用できるファイル形式

以下の形式で“メモリースティック”に保存されているファイルのみ使用できます。

・JPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮した画像ファイル（DCF 準拠）。ファイル拡張子は「.jpg」です。

Memory Stick（メモリースティック）、Memory Stick Duo（メモリースティック デュオ）、Memory Stick PRO（メモリースティック PRO）、Memory Stick PRO Duo（メモリースティック PRO デュオ）、および はソニー株式会社の商標です。

CMOS 特有の現象

撮影画面に出る下記の現象は、CMOS（Complementary Metal Oxide Semiconductor）特有の現象で、故障ではありません。

白点

CMOS 撮像素子は非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。
これは CMOS 撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。

また、下記の場合、白点が見えやすくなります。
・高温の環境で使用するとき
・ゲイン（感度）を上げたとき

本機においては、システムの電源を切り、再び電源を入れることで現象が改善することがあります。

折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

保証書とアフターサービス

保証書

・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？」（276 ページ）をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店にお問い合わせください。

用語解説

エコーキャンセラー

音声の伝送時に発生するエコーを消去し、違和感なく聞こえるようにする装置。

基本インターフェース（BRI）

ITU-T で規定された標準的なインターフェース。2B + D のインターフェース構造になります。

ゲートキーパー

ネットワーク上での H.323 ビジュアルコミュニケーションのアクセスをコントロールする装置。ゾーン管理や許可制限、帯域制限、エイリアスなどの機能を使用することができる。

コーデック

CODer-DECoder の略。音声や映像のアナログ信号をデジタル信号に変換、圧縮するコーダーと、圧縮されたデジタル信号を元のアナログ信号に戻すデコーダーが一体になった装置。

サブアドレス

ISDN にはバス配線で複数の機器を接続することができます。これらの機器の回線番号は同一になるので、同一回線にバス接続された機器にそれぞれ違うサブアドレスを付けて区別します。

自動帯域検出

通信開始前にネットワーク帯域幅などを測定します。この測定値を QoS 機能に用いることによって、通信開始時から最適な QoS 制御が可能となります。

ストリーミング

音声データや映像データをインターネットなどのネットワーク経由で視聴する際に、データをダウンロードしながら再生する技術。

二次端末

多地点接続を行う際には、すべての地点のビジュアルコミュニケーションシステムの映像方式や音声方式、伝送レートなどが同一でなければ、通常は接続できません *1。多地点接続を行うとき、共通の方式で接続できる地点の端末を一次端末と言います。一方、共通の方式で接続できないため、機能を制限して接続する地点の端末のことを二次端末と言います。機能の制限方法は、多地点コミュニケーションシステムの「二次端末の取り扱い」に依存します。たとえば、共通の方式に移行できない地点のコミュニケーションシステムには映像を送信しませんが、音声通話を可能にして接続します。この場合、映像を見ることのできない端末を二次端末と言います *2。また音声電話で多地点接続に加わるとき、音声しか接続できませんので、この場合の音声電話端末も二次端末と呼びます。様々な接続の場合の二次端末の取り扱いについては、「二次端末の取り扱い」（245ページ）をご覧ください。

*1 NTSC と PAL の違いは許されます。

*2 このとき二次端末には映像を送信しませんが、二次端末からの映像は受信できる場合があります。

フレームレート

1 秒間にエンコード / デコードできるフレーム数。

ホップ数

相手にたどりつくまでに経由するルーターの数。

ボンディング *

複数の ISDN 回線を使用してコミュニケーションシステムを接続できるようにする方法（Inverse Multiplexing）の１つです。最初の１つの ISDN 回線番号にダイヤルするだけで他の残りの回線も接続できます。２つ目以降の ISDN 回線番号は、コミュニケーションシステム同士のやりとりで発信側に知らせ、接続します。ボンディングで接続するには、両方のコミュニケーションシステムがボンディング機能を持っていなければなりません。また着信側コミュニケーションシステムの ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定しておく必要があります。ボンディングで接続するときコミュニケーションシステム同士がやりとりして知らせるのは着信側の ISDN 回線番号なので、発信側の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号は設定していなくても接続できます。

* BONDING（Bandwidth on Demand Interoperability Group）は THE BONDING CONSORTIUM の登録商標です。

リップシンク

コミュニケーションシステムで、発言者の唇の動きと音声とを同期させるために音声を遅延させて同期させること。

ARC

Adaptive Rate Control の略。ネットワーク輻輳時に、Video のビットレートを自動的に下げるための技術。

ARQ

Automatic Repeat Request の略。パケットロスが起こった場合に、再送してエラー訂正をするための技術。

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）

動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク内の IP アドレスを管理します。

DNS（Domain Name System）

ドメインネームシステムを規定します。

FEC

Forward Error Correction の略。送信元に再送要求を行うことなく、エラー訂正をするための技術。

G.711

ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 64kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。56kbps で伝送する場合もあります。

G.722

ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。7 kHz 帯域の音声を 48 kbps、56 kbps、または 64 kbps のデジタル信号に変換します。

G.728

ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 16 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

H.221

オーディオビジュアル情報の個々のフレームをデジタルチャネルに多重化するためのフレーミングに関する勧告。

H.239

ITU-T で勧告化されたデュアルビデオ機能（プレゼンテーションモード）対応の規格。カメラ映像とコンピューターのデータを同時に送受信できます。

H.261

p × 64 としても知られており、異なるメーカーのビデオコーデックがお互いに通信するためのビデオコーディングアルゴリズム、ピクチャーフォーマットおよびエラー訂正技法を記述した標準。

H.263

H.261 を基本として、より低いビットレートの回線で通信するためのビデオコーディングアルゴリズムです。

H.263+

H263 を基本として、画質、エラー耐性の向上などを目的とする Annex I ～ T（I,J,K,...,T）を追加した映像符号化方式。通常、H.263/H.263+ の Annex のいくつかを用いたプロファイルと呼ばれる組み合わせで用いられます。

H.264

2003 年 5 月に ITU-T で標準化されたビデオコーディングアルゴリズムです。低いビットレートでも高画質を実現でき、H.263 と比べて約半分のビットレートで同等の画質を実現することが可能です。ISO では MPEG-4 Part10

Advanced Video Coding（AVC）としても標準化されています。

H.320

互いに異なるコミュニケーションシステムがお互いに通信するための標準。

H.323

QoS 非保証 LAN 上で通信可能なコミュニケーションシステムの標準。

HD

High Definition（ハイディフィニション）の略。テレビなどにおける高解像度（高精細・高画質）のこと。1080i、1080p、720p がこれに相当する。

HMLP

→ MLP を参照。

I-Mux

Inverse Multiplexer の略。384 Kbps での伝送を ISDN の 6B に分けて伝送することを可能にします。

ISDN

Integrated Services Digital Network の略。電話のみならずデータ、画像、ファックスなどの異なるサービスの情報をデジタル信号によって統一し、標準化したインターフェースを介して総合的なサービスを提供するネットワーク。

ITU-T

International Telecommunication Union, Telecommunications. の略。

MCU（マルチポイント）

Multipoint Control Unit の略。マルチポイント機能を持った端末と接続すると、多地点間通信が可能になります。

MLP

コミュニケーションシステム間で映像音声の通信をしているとき、同時にデータ通信を行うことができます。このデータを通すための手順に、MLP や HMLP があります。NetMeeting などのデータを通すのに使います。HMLP は、MLP より高速のデータ伝送レートをもつデータ通信手順です。

NTSC

National TV Standards Committee の略。日本やアメリカなどで利用されているテレビの信号方式。NTSC と PAL には互換性がありません。

PAL

Phase Alternation Line の略。ヨーロッパや中国で利用されているテレビの信号方式。NTSC と PAL には互換性がありません。

QoS

Quality of Service（サービスの品質）の略。ネットワーク上で、ある特定の通信のための帯域を予約し、一定の通信速度を保証する技術。

SIP

Session Initiation Protocol の略。インターネット電話、インスタントメッセージなどに使われる通話制御プロトコルです。

SNMP

Simple Network Management Protocol の略。管理ステーションと管理対象システムの間での管理情報の交換プロトコルです。これにより、ソニー製コミュニケーションシステムの監視が可能になります。

TOS（Type of Service）

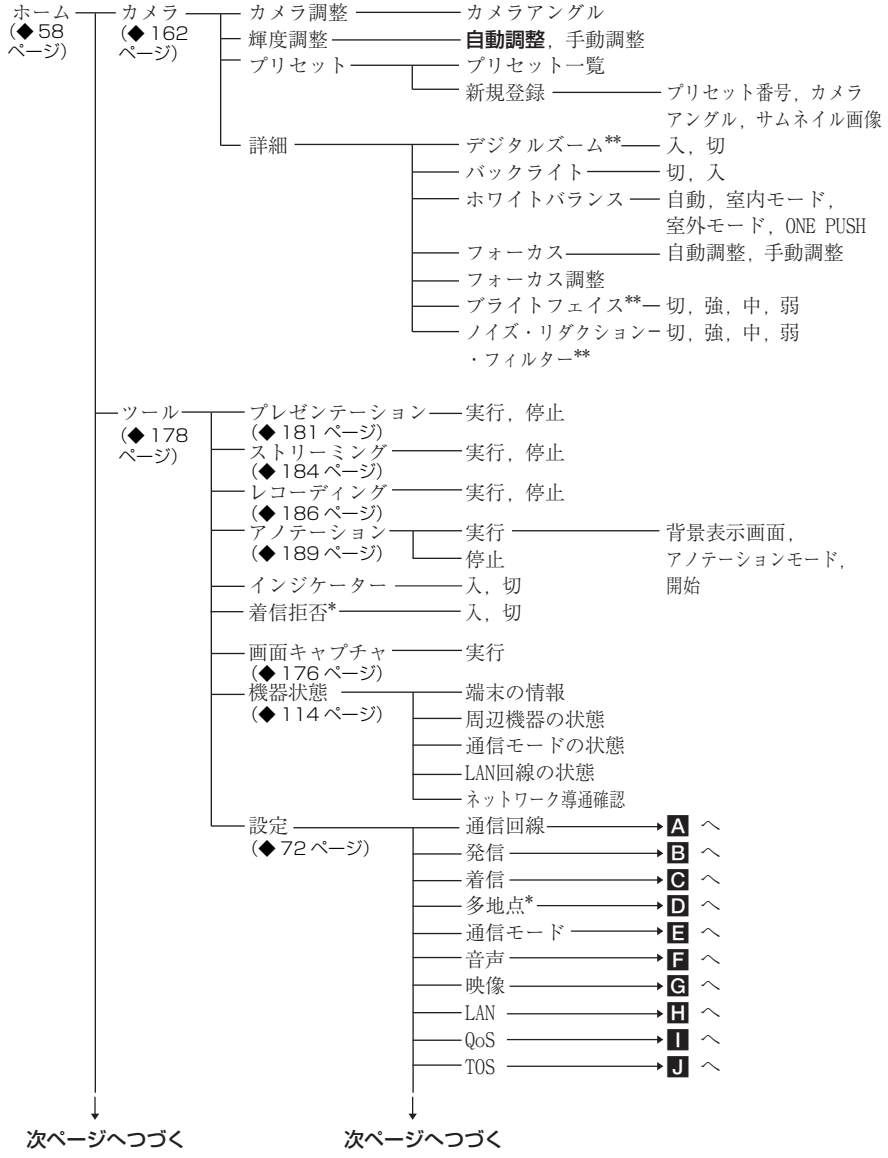
IP ヘッダ内の TOS フィールド。サービスタイプに情報を組み込むことにより、パケットの優先順位などを、通信機器が適切に判断できるようになります。
また、サービスの種類（遅延や容量）によって経路を変更することなども可能になります。

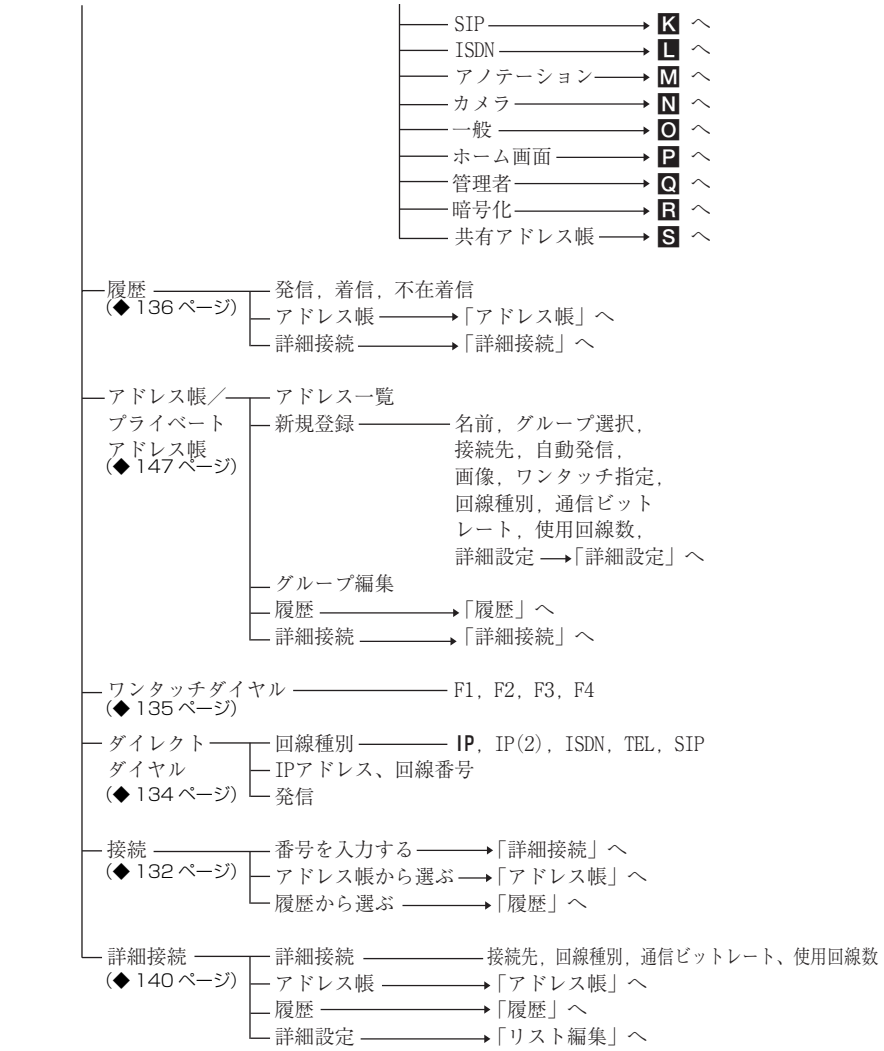
YPbPr

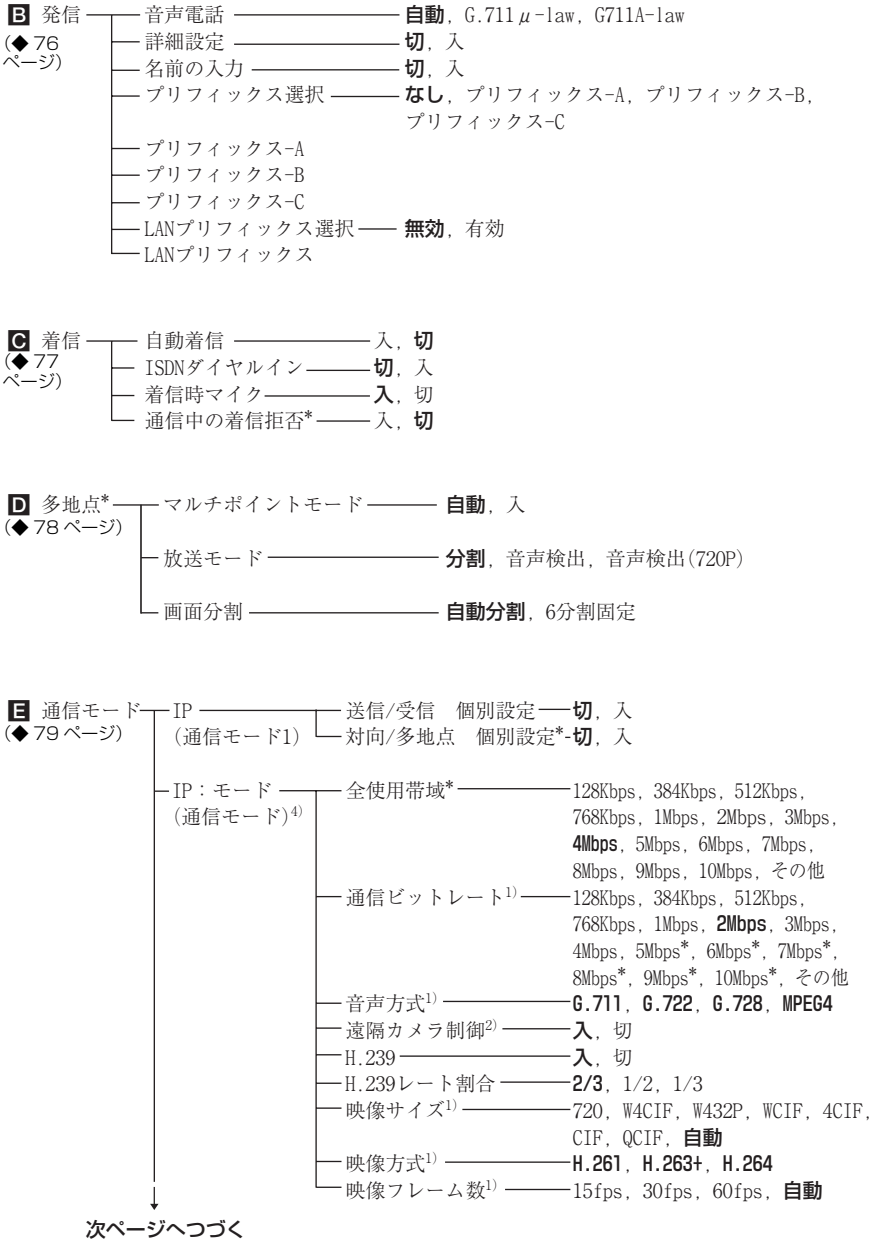
Y、Pb、Pr の 3 本の信号線を使うコンポーネント映像信号。

メニューの構成

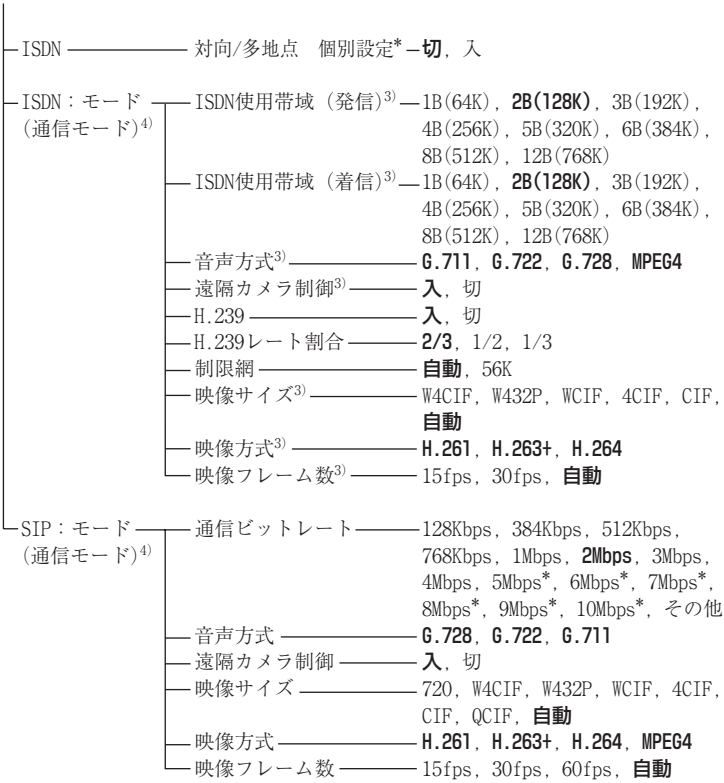
本機のメニューは次のように構成されています。詳しい内容は、( ) 内のページをご覧ください。太字は初期設定です。
*のメニュー、設定項目および選択肢は、PCS-XG55/XG55S/XA55 では表示されません。
** のメニュー、設定項目および選択肢は、PCS-XA80/XA55 では表示されません。



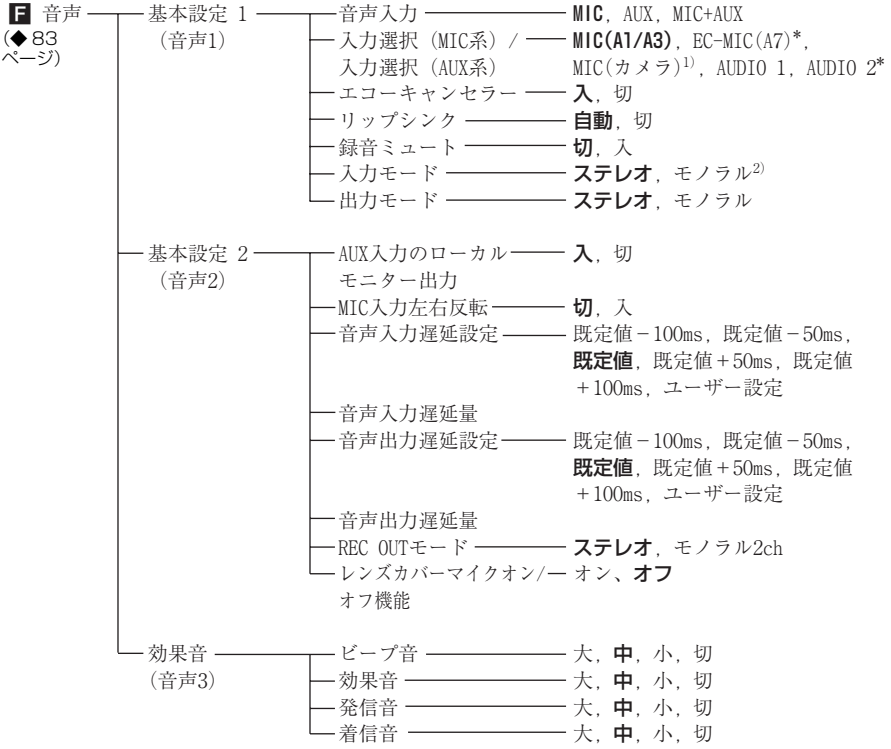

SIP → K へ
ISDN → L へ
アノテーション → M へ
カメラ → N へ
一般 → O へ
ホーム画面 → P へ
管理者 → Q へ
暗号化 → R へ
共有アドレス帳 → S へ
履歴 (◆ 136 ページ)
発信，着信，不在着信
アドレス帳 →「アドレス帳」へ
詳細接続 →「詳細接続」へ
アドレス帳／プライベートアドレス帳 (◆ 147 ページ)
アドレス一覧
新規登録
名前，グループ選択，接続先，自動発信，画像，ワンタッチ指定，回線種別，通信ビットレート，使用回線数，詳細設定 →「詳細設定」へ
グループ編集
履歴 →「履歴」へ
詳細接続 →「詳細接続」へ
ワンタッチダイヤル (◆ 135 ページ)
F1，F2，F3，F4
ダイレクトダイヤル (◆ 134 ページ)
回線種別
IP，IP(2)，ISDN，TEL，SIP
IPアドレス、回線番号
発信
接続 (◆ 132 ページ)
番号を入力する →「詳細接続」へ
アドレス帳から選ぶ →「アドレス帳」へ
履歴から選ぶ →「履歴」へ
詳細接続 (◆ 140 ページ)
詳細接続
接続先，回線種別，通信ビットレート、使用回線数
アドレス帳 →「アドレス帳」へ
履歴 →「履歴」へ
詳細設定 →「リスト編集」へ
A 通信回線 (◆ 76 ページ)
通信回線
IP，ISDN，SIP
主に使用する回線
IP，ISDN，SIP
LAN2を使用する*
切，入


B 発信
(◆76ページ)
音声電話 — 自動, G.711μ-law, G711A-law
詳細設定 — 切, 入
名前の入力 — 切, 入
プリフィックス選択 — なし, プリフィックス-A, プリフィックス-B, プリフィックス-C
プリフィックス-A
プリフィックス-B
プリフィックス-C
LANプリフィックス選択 — 無効, 有効
LANプリフィックス
C 着信
(◆77ページ)
自動着信 — 入, 切
ISDNダイヤルイン — 切, 入
着信時マイク — 入, 切
通信中の着信拒否* — 入, 切
D 多地点*
(◆78ページ)
マルチポイントモード — 自動, 入
放送モード — 分割, 音声検出, 音声検出(720P)
画面分割 — 自動分割, 6分割固定
E 通信モード
(◆79ページ)
IP (通信モード1)
送信/受信 個別設定 — 切, 入
対向/多地点 個別設定* — 切, 入
IP:モード (通信モード)4)
全使用帯域* — 128Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, 1Mbps, 2Mbps, 3Mbps, 4Mbps, 5Mbps, 6Mbps, 7Mbps, 8Mbps, 9Mbps, 10Mbps, その他
通信ビットレート1) — 128Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, 1Mbps, 2Mbps, 3Mbps, 4Mbps, 5Mbps*, 6Mbps*, 7Mbps*, 8Mbps*, 9Mbps*, 10Mbps*, その他
音声方式1) — G.711, G.722, G.728, MPEG4
遠隔カメラ制御2) — 入, 切
H.239 — 入, 切
H.239レート割合 — 2/3, 1/2, 1/3
映像サイズ1) — 720, W4CIF, W432P, WCIF, 4CIF, CIF, QCIF, 自動
映像方式1) — H.261, H.263+, H.264
映像フレーム数1) — 15fps, 30fps, 60fps, 自動

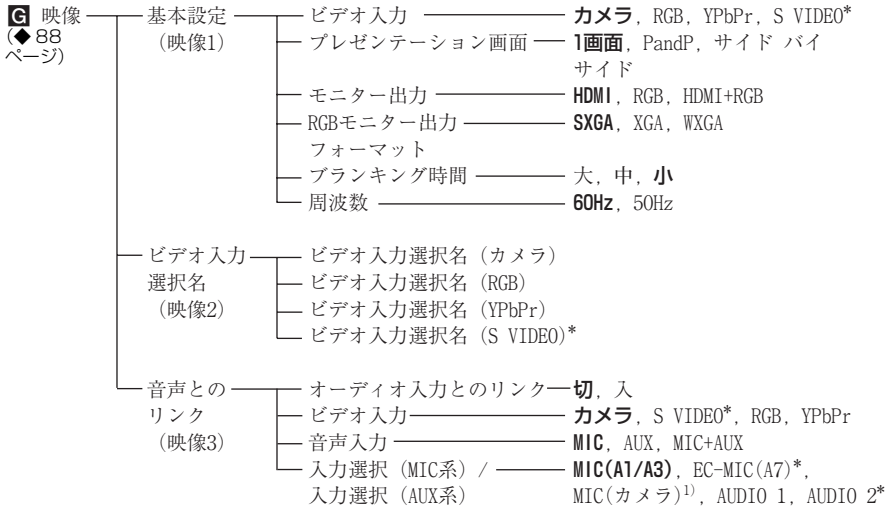
次ページへつづく



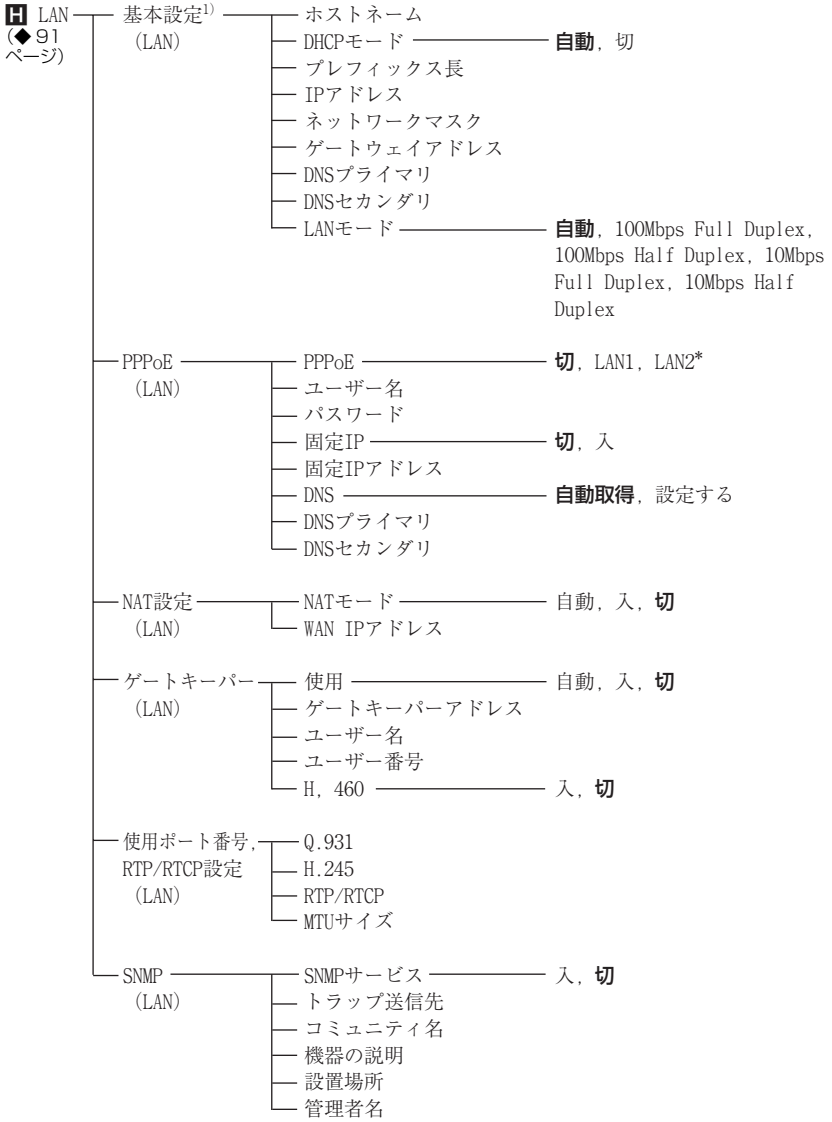
1) 「IP」ページの「送信／受信　個別設定」や「対向／多地点　個別設定」が「入」のときは、送信、受信、対向、多地点のそれぞれに設定できます。
2) 「IP」ページの「対向／多地点　個別設定」が「入」のときは、対向、多地点のそれぞれに設定できます。
3) 「ISDN」ページの「対向／多地点　個別設定」が「入」のときは、対向、多地点のそれぞれに設定できます。
4) 「通信モード2」ページ以降のページ数は、「送信/受信 個別設定」や「対向／多地点　個別設定」の「入」「切」によって変わります。



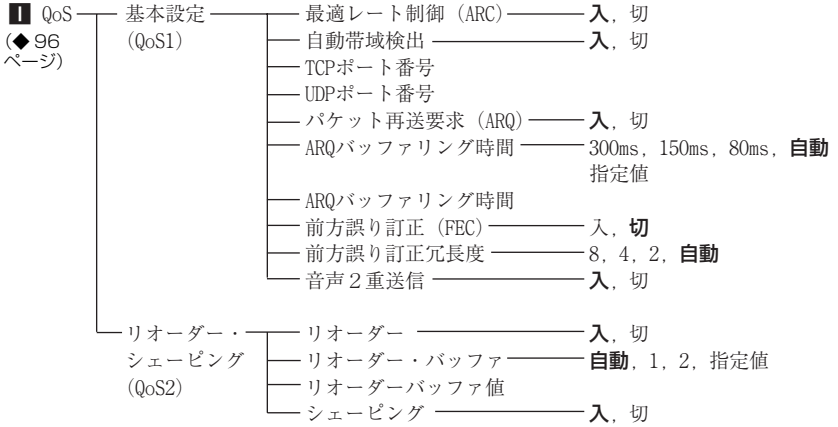
1) PCS-XA80/XA55 でのみ表示されます。
2) PCS-XG55/XG55S/XA55 の初期設定は、「モノラル」です。

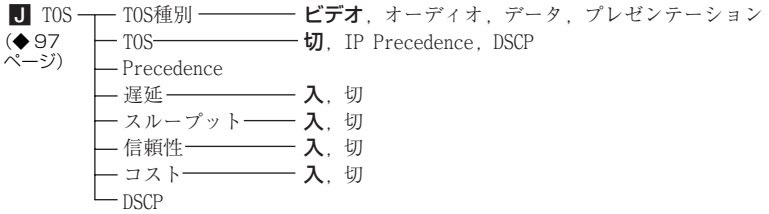


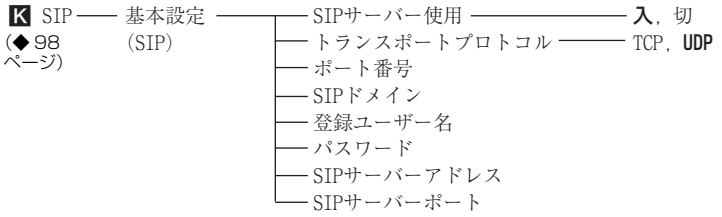
1) PCS-XA80/XA55 でのみ表示されます。

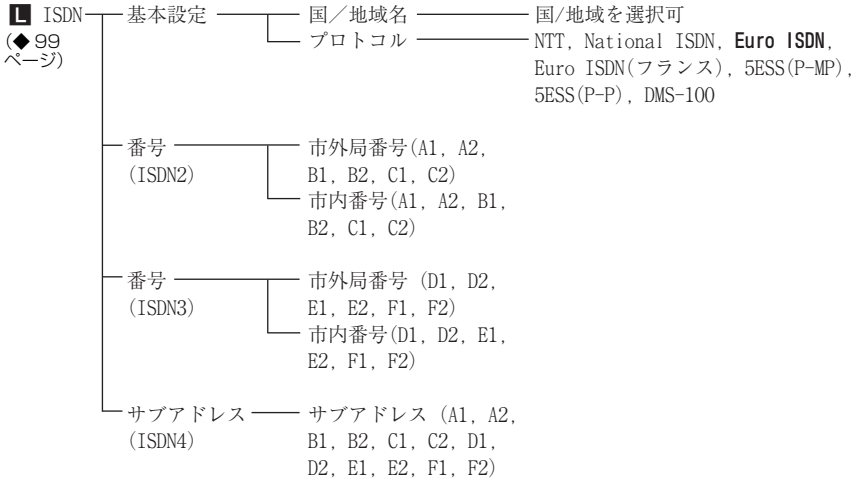


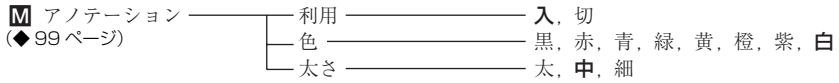
1) 通信回線設定メニューの「LAN2を使用する」が「入」のときは、LAN1、LAN2のそれぞれに「基本設定」ページが表示され、設定できます。

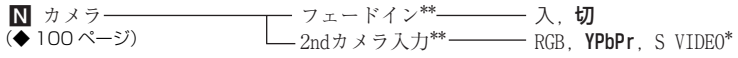

I QoS
(◆96 ページ)
基本設定 (QoS1)
最適レート制御（ARC）
入，切
自動帯域検出
入，切
TCPポート番号
UDPポート番号
パケット再送要求（ARQ）
入，切
ARQバッファリング時間
300ms，150ms，80ms，自動
指定値
ARQバッファリング時間
前方誤り訂正（FEC）
入，切
前方誤り訂正冗長度
8，4，2，自動
音声２重送信
入，切
リオーダー・シェーピング (QoS2)
リオーダー
入，切
リオーダー・バッファ
自動，1，2，指定値
リオーダーバッファ値
シェーピング
入，切

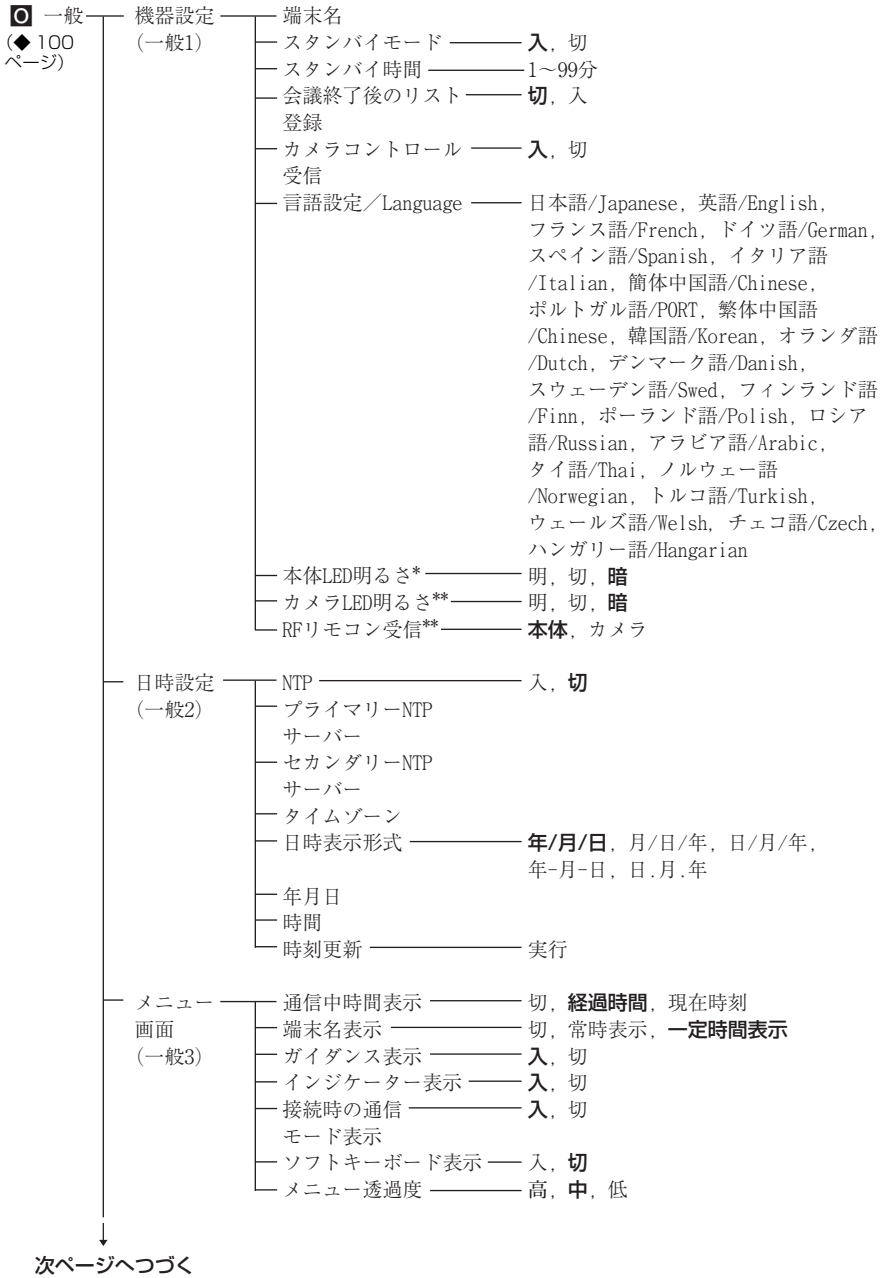

J TOS
(◆97 ページ)
TOS種別
ビデオ，オーディオ，データ，プレゼンテーション
TOS
切，IP Precedence，DSCP
Precedence
遅延
入，切
スループット
入，切
信頼性
入，切
コスト
入，切
DSCP

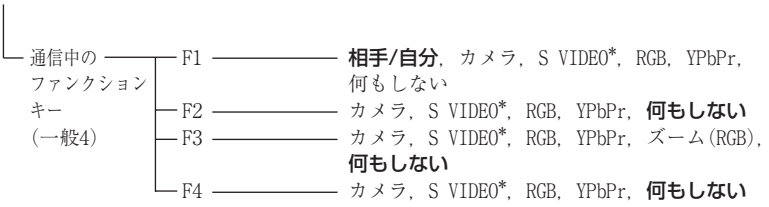

K SIP
(◆98 ページ)
基本設定 (SIP)
SIPサーバー使用
入，切
トランスポートプロトコル
TCP，UDP
ポート番号
SIPドメイン
登録ユーザー名
パスワード
SIPサーバーアドレス
SIPサーバーポート

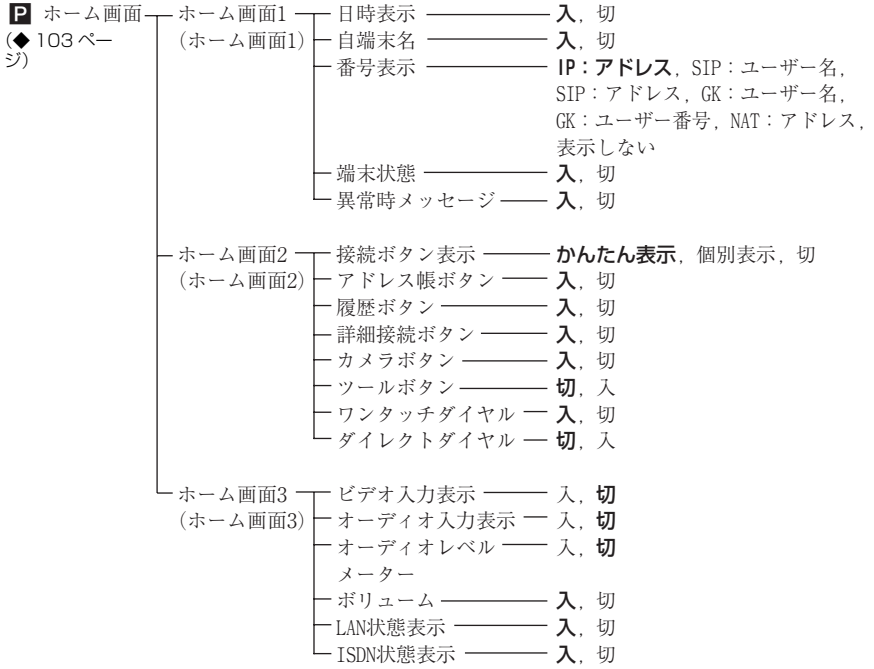

L ISDN
(◆99 ページ)
基本設定
国／地域名
国/地域を選択可
プロトコル
NTT, National ISDN, Euro ISDN, Euro ISDN(フランス), 5ESS(P-MP), 5ESS(P-P), DMS-100
番号 (ISDN2)
市外局番号(A1, A2, B1, B2, C1, C2)
市内番号(A1, A2, B1, B2, C1, C2)
番号 (ISDN3)
市外局番号 (D1, D2, E1, E2, F1, F2)
市内番号(D1, D2, E1, E2, F1, F2)
サブアドレス (ISDN4)
サブアドレス (A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2, E1, E2, F1, F2)

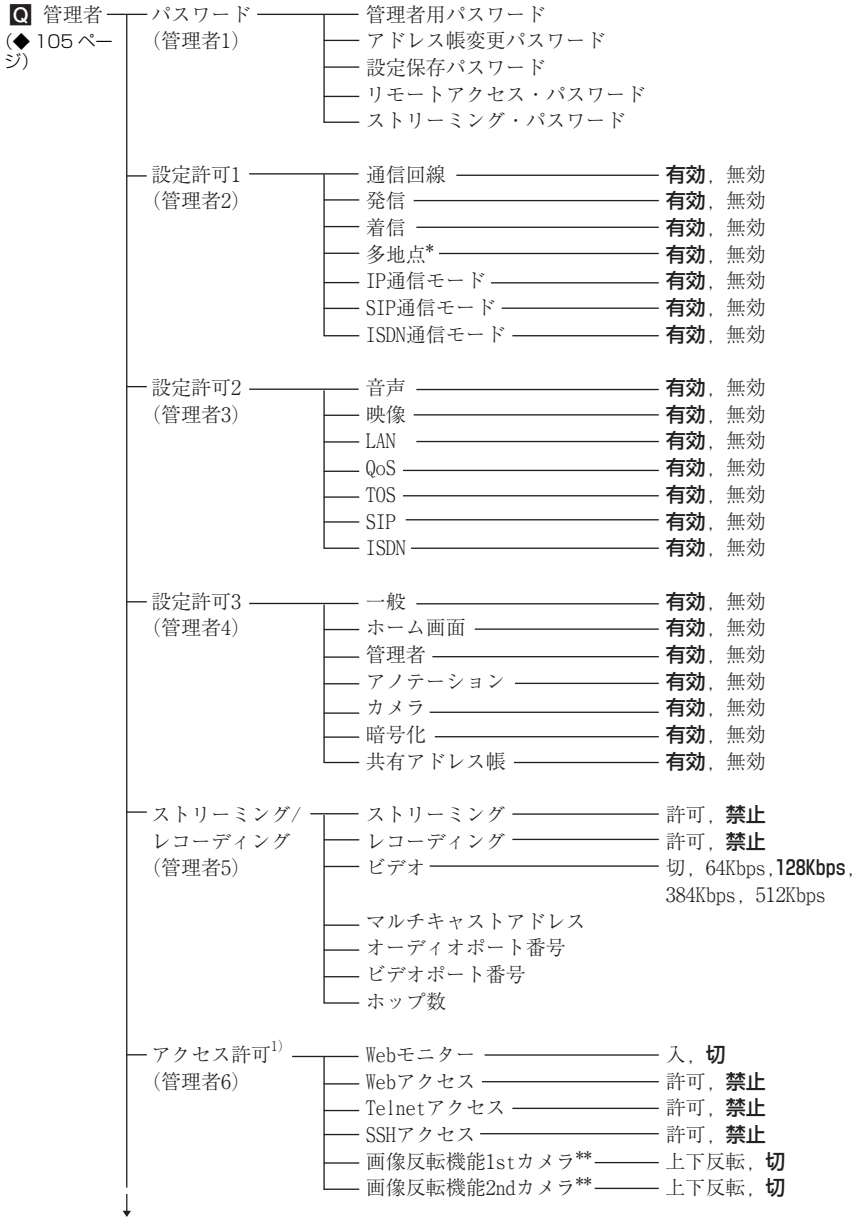

M アノテーション
(◆99 ページ)
利用
入, 切
色
黒, 赤, 青, 緑, 黄, 橙, 紫, 白
太さ
太, 中, 細


N カメラ
(◆100 ページ)
フェードイン**
入, 切
2ndカメラ入力**
RGB, YPbPr, S VIDEO*


一般
(◆100ページ)
機器設定
(一般1)
端末名
スタンバイモード
入，切
スタンバイ時間
1～99分
会議終了後のリスト登録
切，入
カメラコントロール受信
入，切
言語設定／Language
日本語/Japanese，英語/English，フランス語/French，ドイツ語/German，スペイン語/Spanish，イタリア語/Italian，簡体中国語/Chinese，ポルトガル語/PORT，繁体中国語/Chinese，韓国語/Korean，オランダ語/Dutch，デンマーク語/Danish，スウェーデン語/Swed，フィンランド語/Finn，ポーランド語/Polish，ロシア語/Russian，アラビア語/Arabic，タイ語/Thai，ノルウェー語/Norwegian，トルコ語/Turkish，ウェールズ語/Welsh，チェコ語/Czech，ハンガリー語/Hangarian
本体LED明るさ*
明，切，暗
カメラLED明るさ**
明，切，暗
RFリモコン受信**
本体，カメラ
日時設定
(一般2)
NTP
入，切
プライマリーNTPサーバー
セカンダリーNTPサーバー
タイムゾーン
日時表示形式
年/月/日，月/日/年，日/月/年，年-月-日，日.月.年
年月日
時間
時刻更新
実行
メニュー画面
(一般3)
通信中時間表示
切，経過時間，現在時刻
端末名表示
切，常時表示，一定時間表示
ガイダンス表示
入，切
インジケーター表示
入，切
接続時の通信モード表示
入，切
ソフトキーボード表示
入，切
メニュー透過度
高，中，低
次ページへつづく

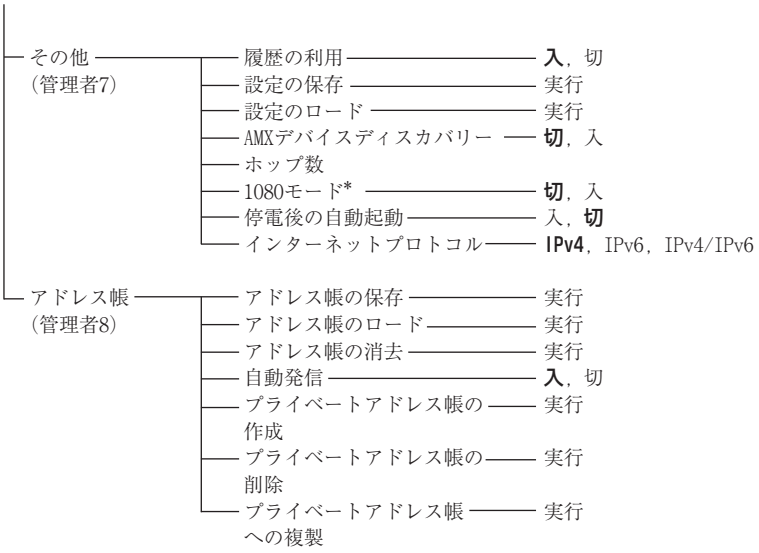

通信中の
ファンクション
キー
(一般4)
F1
相手/自分, カメラ, S VIDEO*, RGB, YPbPr,
何もしない
F2
カメラ, S VIDEO*, RGB, YPbPr, 何もしない
F3
カメラ, S VIDEO*, RGB, YPbPr, ズーム(RGB),
何もしない
F4
カメラ, S VIDEO*, RGB, YPbPr, 何もしない


P ホーム画面
(◆ 103 ページ)
ホーム画面1
(ホーム画面1)
日時表示
入, 切
自端末名
入, 切
番号表示
IP:アドレス, SIP:ユーザー名,
SIP:アドレス, GK:ユーザー名,
GK:ユーザー番号, NAT:アドレス,
表示しない
端末状態
入, 切
異常時メッセージ
入, 切
ホーム画面2
(ホーム画面2)
接続ボタン表示
かんたん表示, 個別表示, 切
アドレス帳ボタン
入, 切
履歴ボタン
入, 切
詳細接続ボタン
入, 切
カメラボタン
入, 切
ツールボタン
切, 入
ワンタッチダイヤル
入, 切
ダイレクトダイヤル
切, 入
ホーム画面3
(ホーム画面3)
ビデオ入力表示
入, 切
オーディオ入力表示
入, 切
オーディオレベル
メーター
入, 切
ボリューム
入, 切
LAN状態表示
入, 切
ISDN状態表示
入, 切



次ページへつづく

1) 「アクセス許可」ページは、「インターネットプロトコル」が「IPv4」のときのみ表示され、設定できます。



R 暗号化 — 暗号化モード — 切, 接続性優先, 暗号化優先
(◆ 112 ページ)

S 共有アドレス帳 — SPBモード — 入, 切
(◆ 113 ページ)
SPBサーバ・アドレス
SPBサーバ・パスワード

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/